



The Intelligent Surveillance Solution

NVR/DVR/Hybrid NDVR ユーザーマニュアル

Ver. 6.4.0.9

目次

目次	1
インストール	7
ドキュメント	8
サーバーアプリケーションインストール	9
クライアントアプリケーションインストール	12
フェイルオーバーエージェントインストール	14
リモートデスクトップツール	19
DVR ドライバインストール	21
スマートフォンクライアントのインストール	23
クイックスタート	24
メインコンソールの起動	24
IP カメラライセンスをアクティベートする	24
IP カメラのインストール	24
IP カメラを追加する	25
I/O ボックス	26
スケジュール設定	27
スマートガードの設定	28
録画とスマートガードを開始する	29
再生	29
1. メインコンソール	30
1.1 ユーザーインターフェースの概要	31
1.2 2 PTZ Camera Control	34
1.2.1 追加プリセット/プリセットへ移動	34
1.2.2 Zoom	34
1.2.3 Focus	34
1.2.4 パトロール	34
1.3 スクリーンメニュー	35
1.3.1 カメラ設定	35
1.3.2 トーク機能	35
1.3.3 デジタル PTZ	35
1.3.4 魚眼レンズ設定	35
1.3.5 接続/接続中断	35
1.3.6 ストリームプロファイル	35
1.3.7 カメラ選択	35
1.3.8 カメラ削除	35
1.3.9 固定アスペクト比	35
1.3.10 インスタント再生	35
1.3.11 スナップショット	36
1.3.12 手動録画	36
1.3.13 全画面	36
1.3.14 PT 制御	36
1.4 ライブ表示	37
1.5 インスタント再生	37
1.5.1 インスタント再生ウィンドウ	37
1.5.2 インスタント再生の操作	38
2. 再生	40
2.1 ユーザインタフェース概要	41
2.2 録画データを見る / 時間検索ダイアログ	43
2.2.1 時間検索ダイアログ	43
2.2.2 録画表示画面	43
2.2.3 日付及び範囲	43
2.2.4 ビデオプレビュー	43
2.2.5 イベントタイプ	44
2.2.6 タイムテーブル	44

2.2.7 録画データの取り出し	44
2.3 サーチモード	45
2.3.1 異常イベント - 動体検知	45
2.3.2 異常イベント - 不審物	45
2.3.3 異常イベント - 消失物	46
2.3.4 異常イベント ピント外れ / カメラ遮断検知	46
2.4 画像処理	46
2.4.1 一般設定	46
2.4.2 フィルター設定	46
2.5 ビデオの保存	46
2.6 イメージ保存	47
2.7 印刷	48
2.8 バックアップ	48
2.9 ログビューワ	49
2.9.1 システムログ	49
2.9.2 ログのエクスポートとバックアップ	50
2.9.3 異常イベント	50
2.9.4 カウンティングツール	51
2.9.5 カウンティングツール(ダイアグラム)	51
2.9.6 メタデータログ	52
2.9.7 エクスポートとバックアップのログ	52
2.9.8 エクスポート	53
2.10 設定	53
2.11 遠隔操作サーバ	54
2.11.1 リモート再生サイトの追加	54
2.11.2 リモート再生サイトへのアクセス	55
2.12 録画の切り替え	55
3. スケジュール	56
3.1 デイリー / ウィークリーモード	57
3.1.1 プリセットモードの読み込み	57
3.1.2 新しいスケジュールの手動設定	58
3.1.3 スケジュールのコピー	58
3.1.4 休日/カスタム設定	58
3.2 スケジュール設定の調節	59
3.3 エンコーディング オプション	60
3.3.1 プリレコード/ ポストレコード	60
3.3.2 録画モード	61
4. ガード	62
4.1 イベント	63
4.1.1 カメライベントの割り当て	63
4.1.2 カメライベント - 基本設定	64
4.1.3 カメライベント - シグナルロスト	65
4.1.4 カメライベント - 動作検知	65
4.1.5 カメライベント - 動作検知 (デバイス)	66
4.1.6 カメライベント - 不審物検知	67
4.1.7 カメライベント - 遺失検知	67
4.1.8 カメライベント - ピント外れ	68
4.1.9 カメライベント - カメラ閉塞検知	69
4.1.10 メタデータイベント - メタデータイベント割り当て	69
4.1.11 デジタル入力/出力イベント	70
4.1.12 システムイベント - システムイベントの割り当て	70
4.1.13 システムイベント - HDD 容量不足	71
4.1.14 システムイベント - システム温度異常	71
4.1.15 システムイベント - リソースが削除されました	71
4.1.16 システムイベント - ネットワーク高負荷	71

4.2 アクション	72
4.2.1 アクション - アクションの割り当て	72
4.2.2 A アクションタイプ - 画面表示	72
4.2.3 アクションタイプ - 音声を鳴らす	73
4.2.4 アクションタイプ - メール送信	73
4.2.5 アクションタイプ - 電話通告	73
4.2.6 アクションタイプ - PTZ プリセット移動	74
4.2.7 アクションタイプ - デジタル入出力	74
4.2.8 アクションタイプ - SMS	75
4.2.9 アクションタイプ - 中央サーバー	75
4.2.10 アクションタイプ - FTP	75
4.2.11 アクションタイプ - E-Map	75
4.2.12 Action Type - プッシュ通知	76
4.3 高度な設定	77
5. 一般設定	78
5.1 システム設定 - 一般設定	79
5.1.1 起動	79
5.1.2 ステータス表示	80
5.1.3 その他	80
5.1.4 音声プレビュー	80
5.1.5 自動再起動	82
5.2 設定 - カメラ	83
5.2.1 カメラの追加	83
5.2.2 IP カメラ/ビデオサーバ設定ウィンドウ	83
5.2.3 カメラ設定	84
5.3 I/O デバイス	87
5.4 設定 - PTZ 設定	88
5.5 設定 - ホットライン	90
5.6 設定 - アドレスブック	90
5.7 設定 - モニター表示	91
5.8 設定 - ジョイスティック	91
5.9 Strage Setting	93
5.10 ユーザーアカウント設定	98
5.11 自動バックアップ設定	101
5.12 カウントのレポート設定	102
5.13 ライセンスマネージャー	103
5.14 設定の保存/読み込み	104
5.15 映像分析 - カウントツール	105
5.16 映像分析 - プライバシーマスク	106
5.17 メタデータアプリケーション	106
5.18 ネットワークサービス	107
5.18.1 ライブストリーミングサーバ	107
5.18.2 リモートプレイバックサーバ	109
5.18.3 3GPP サービス	110
5.18.4 リモートデスクトップ	111
5.18.5 中央管理サービス	112
5.18.6 プッシュ通知	113
5.19 ヘルプ	113
5.20 Mainconsole について	113
5.21 ビデオソース	114
6. E-MAP	115
6.1 編集モード	116
6.1.1 E-Map の追加/編集/削除	116
6.1.2 デバイスインジケータの追加/回転/削除	117
6.2 オペレーションモード	117
6.2.1 Device and Map 階層リスト	117

6.2.2 E-Map 画像	118
6.2.3 Information および Preview 画面	118
6.3 レイアウト調整	118
7. ログビューワ	119
7.1 システムログ	120
7.2 ログのエクスポートとバックアップ	120
7.3 異常イベント	121
7.4 カウンティングツール	121
7.5 カウンティングツール(ダイアグラム)	122
7.6 メタデータログ	122
7.7 エクスポート	123
8. バックアップ	124
8.1 録画ファイルのバックアップ	125
8.2 録画情報の削除	127
9. REMOTE LIVE VIEWER	128
9.1 セットアップパネル	129
9.1.1 一般設定	129
9.1.2 サーバ設定	129
9.1.3 グループ設定	130
9.1.4 カメラ設定	130
9.1.5 OSD 設定	131
9.1.6 メタデータ設定	132
9.1.7 モニタ表示設定	132
9.1.8 通告設定	133
9.1.9 ジョイスティック設定	134
9.2 2 サーバ/グループ/カメラリスト	135
9.2.1 ログイン/ログアウトサーバ	135
9.2.2 接続/接続中断	135
9.2.3 Multiple Views	135
9.3 3 PTZ 制御	136
9.3.1 Preset/ Go	136
9.3.2 ズーム	136
9.3.3 フォーカス	136
9.3.4 パトロール	136
9.4 スクリーンメニュー	136
9.4.1 Enable Move / Area Zoom	136
9.4.2 Enable Talk	136
9.4.3 音声有効	136
9.4.4 デジタル PTZ を有効	136
9.4.5 ImmerVision レンズ設定	136
9.4.6 Generic Dewarp 設定	137
9.4.7 固定アスペクト比	137
9.4.8 ストリームプロファイル	137
9.4.9 インスタント再生	137
9.4.10 カメラコピー	137
9.4.11 スナップショット	138
9.4.12 全画面	138
9.5 メニュー開始	138
9.5.1 モニタオープン	138
9.5.2 E-Map	138
9.5.3 I/O Control	138
9.6 6 Playback	138
9.6.1 Remote Playback サーバー追加	138
9.6.2 Remote Playback サーバーアクセス	138

10. WEB VIEW	139
10.1 サーバ IP	139
10.2 Remote Live Viewer	139
10.3 Remote Playback	139
10.4 Download Client Pack	139
11. ユーティリティ	140
11.1 認証 (Verification Tool)	140
11.1.1 認証ツール(Verification Tool)の実行	140
11.1.2 認証ツール(Vrification Tool)の概要	140
11.1.3 認証画像/映像	141
11.2 ライセンス管理ツール(License Management Tool)	141
11.2.1 ライセンス管理ツールの実行	142
11.2.2 ライセンス管理ツールの概要	142
11.2.3 ライセンスのアクティベート	143
11.2.4 ライセンスの転送	144
11.3 リソースレポート(Resource Management Tool)	146
11.3.1 リソースレポートの実行	146
11.3.2 リソースレポートの概要	146
11.3.3 システムリソース	146
11.3.4 インスタントダイアグラム	146
11.3.5 アドバンスドリソースレポート	147
11.4 ストリーム使用量パネル	149
11.5 DB Tool	150
11.5.1 データベースの修復	150
11.5.2 一般設定のエクスポート	152
12. フェイルオーバーエージェント(Failover Agent)	154
12.1. サービス	155
12.2. フェイルオーバーライセンスのアクティベート	155
12.3. フェイルオーバーエージェントの開始と停止	155
12.4. フェイルオーバーサービスの有効と無効	156
12.5. フェイルオーバーエージェントを開く	156
12.6. フェイルオーバーエージェントの状態確認	157
12.7. バージョン情報の表示	157
12.8. 一般設定	157
12.8.1. スタートアップ(Startup)	158
12.8.2. パスワード	158
12.8.3. ログファイル	158
12.8.4. ストレージ	159
12.8.5. 自動リサイクル	159
12.9. サーバの設定	160
12.9.1. サーバの設定	160
12.9.2. サーバ設定の変更	161
12.9.3. 録画サーバの削除	161
12.9.4. サーバリスト	161
12.10 リモートライブビューワーとリモートプレイバック	163
12.10.1 リモートライブビューワー	163
12.10.2 リモートプレイバック	163
13. オンガード(OnGuard)	164
13.1. オンガード OnGuard)の使い方	165
13.2. オンガード(OnGuard)を開く	165
13.3. オンガード(OnGuard)の終了	166
13.4. バージョン情報	166
13.5. 接続状態の確認	166
13.6. ログファイル	167
13.7. フェイルオーバーエージェントサービス	169
13.8. フェイルオーバーエージェントとオンガードのシナリオ	171

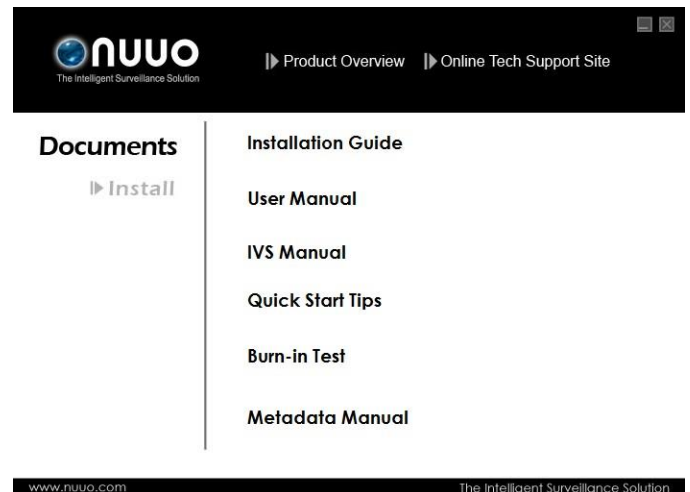
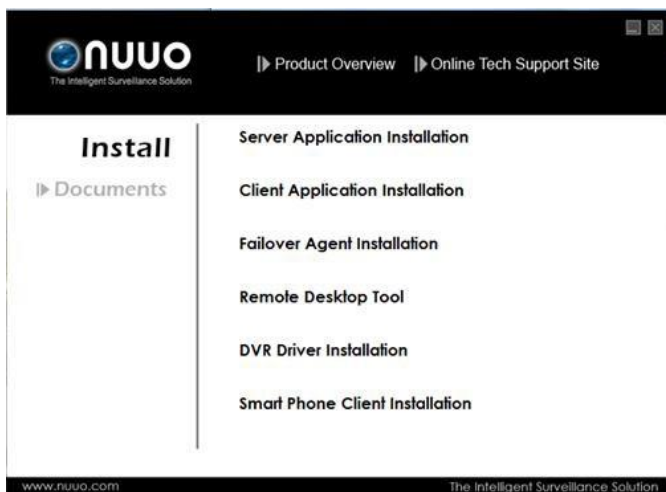
付録 A - Smart Phone Client	172
1.1 スマートフォンクライアントのインストール.....	172
1.2 スマートフォンのクライアントの実行	172
1.2.1 メインコンソールの設定	172
1.2.2 実行とログイン	173
1.3 スマートフォンクライアントの概要	173
1.3.1 ライブビュー	173
1.3.2 I/O コントロール.....	174
1.3.3 システム情報.....	175
付録 B - iPhone Browser	176
1.1 サーバの一般設定	176
1.2 サーバへ接続	176
1.3 ライブ表示	176
1.4 PTZ のコントロール	176
付録 C - Remote Desktop Tool.....	177
付録 D - IP ブリッジ.....	178

インストール

インストール CD は、システムを完全に実行するために必要なすべてのソフトウェアが含まれています。CD を挿入すると以下のウィンドウが自動で開きます：



[インストール]をクリックするとすぐにシステムのインストールを開始します。[ドキュメント]をクリックするとユーザーマニュアルやその他のガイドの一覧を開きます。



複数の PC にインストールする場合、それぞれの PC に対して、適切なソフトウェアをインストールして下さい：

インストール

- **サーバーアプリケーション:** NVR/DVR/ハイブリッド NDVR のすべての機能。メインコンソール、再生、リモートライブビューア、バックアップと検証ツールです。
- **クライアントアプリケーション:** NVR/DVR/ハイブリッド NDVR のリモート機能。再生、リモートライブビューア、バックアップと検証ツールです。
- **フェイルオーバーエージェント:** 機器の不具合が発生したときにメインコンソールを守るための冗長システムです。
- **リモートデスクトップツール:** 遠隔でメインコンソールにアクセスし設定をするツールです。
- **DVR ドライバ:** DVR カードデバイスを自動的に検索しインストールするツールです。
- **スマートフォンクライアント:** スマートフォンデバイス (Windows Mobile) のクライアントアプリケーションです。

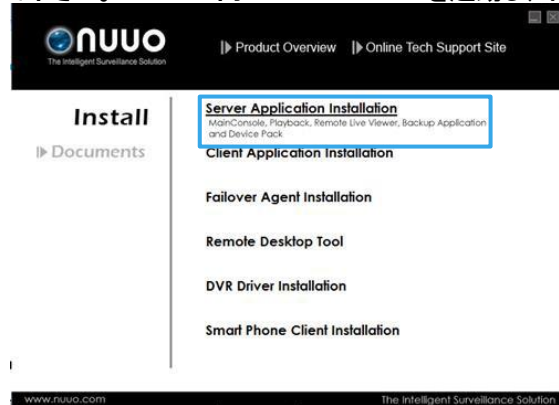
ドキュメント

- クリックすると、インストールガイド、ユーザーマニュアル、IVS マニュアル、クイックスタートのヒントや、バーンインテストとメタデータマニュアル等、詳細な情報が表示されます。

次のセクションは、インテリジェント監視システムの各ソフトウェアのインストールについて説明します。

サーバーアプリケーションインストール

Step 1: インストール用 CD を入れて下さい。CD-ROM 内の”autorun.exe”を起動し、インストール作業を始めます。



Step 2: “Server Application Installation”をクリックします。

Step 3: 画面に4つ“System Setup Tool”が表示されます。適合するソフトウェアを選択し、“Next”をクリックして下さい。.

- IP Surveillance System/Trial System
- MPEG-4 Hybrid System
- H.264 Hybrid System
- Full D1H.264 Hybrid System

Note: SetupTool は自動的に DVR カードの種類を検索し最適なソフトウェア選択を表示します。.

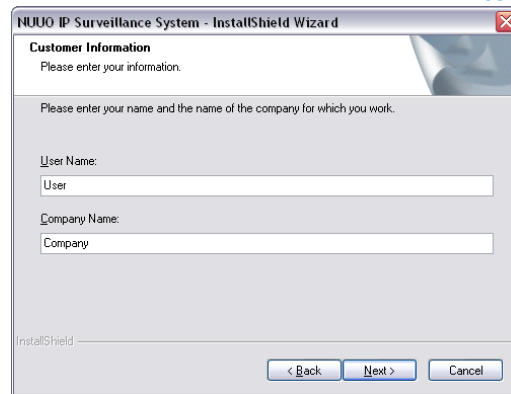
Step 4: “Next”をクリックして続けます。



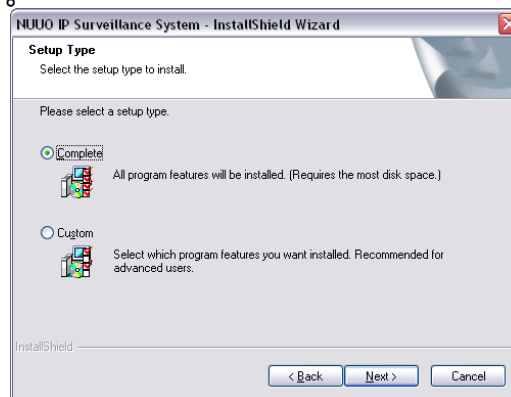
Step 5: “I accept the terms of the license agreement”.(著作権に同意する)にチェックを入れ、“NEXT”をクリックします。.



Step 6: ユーザー名、所属している会社名を入力して“NEXT”をクリックします。



Step 7: セットアップの種類を選択します。



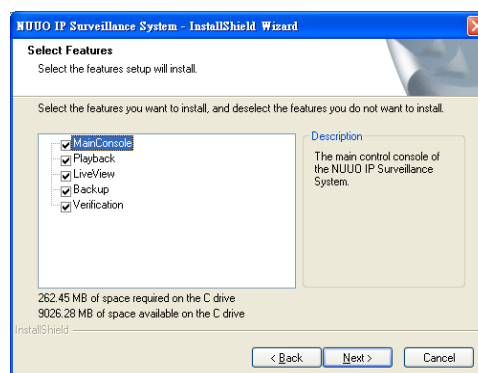
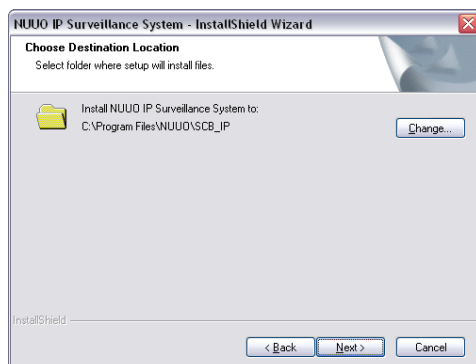
COMPLETE SETUP TYPE

すべてのプログラムを初期設定ディレクトリにインストールします。
“Complete”(すべてのプログラムをインストール)にチェックを入れてください。
 [できるだけ大きいディスク容量を確保してください。]

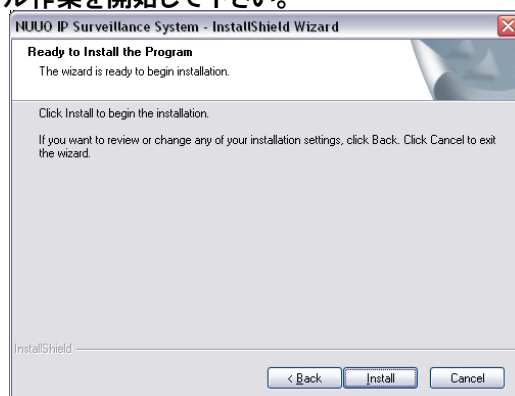
CUSTOM SETUP TYPE

任意のディレクトリにシステムをインストールします。インストールしたいプログラムを選び、カスタマイズできます。
 [上級ユーザーにお勧めします]

”Custom”にチェックを入れ”Next”をクリックして下さい。
 任意のディレクトリを選択して下さい。“Change”をクリックしてディレクトリを変更することができます。
 セットアップで、インストールするプログラムを選んでください。選択が完了したら”NEXT”をクリックして下さい。



Step 8: “Install”をクリックしてインストール作業を開始して下さい。



Step 9: “Enable Update Notification Function”にチェックを入れると、ソフトウェアのアップデートがある際に、自動的に通知されます。これは、システムを最新に保つ機能です。また、アップデートは将来のシステムの改善のためにご使用中のシステムから情報を収集します。

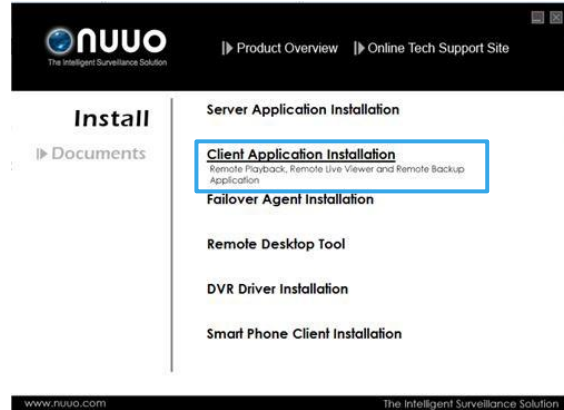


Step 10: “Finish” ボタンを押して、インストール作業を終了してください。



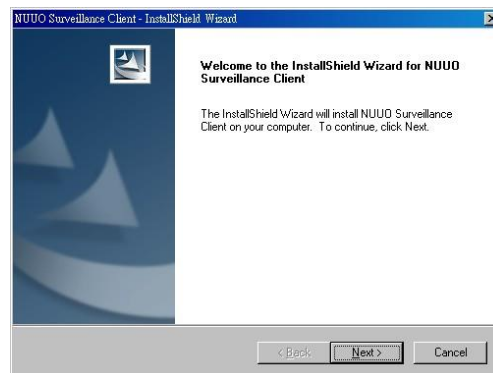
クライアントアプリケーションのインストール

Step 1: インストール用 CD を入れてください。“autorun.exe”を起動し、インストール作業が始まります。

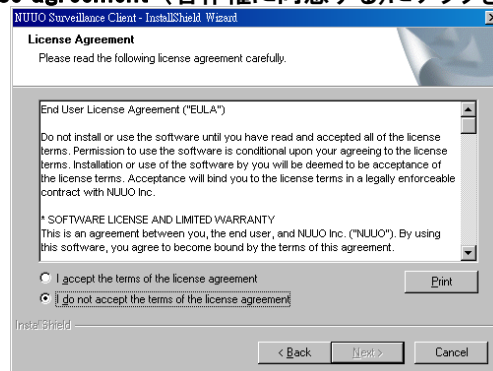


Step 2: “Client Application Installation”をクリックして下さい。

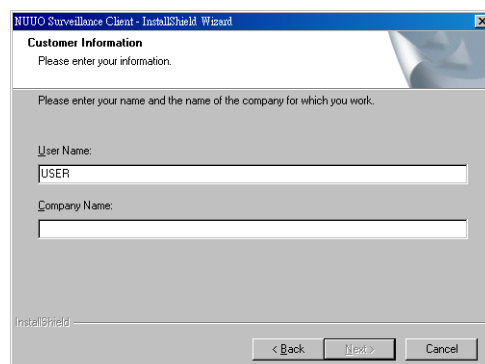
Step 3: “Next” をクリックして続けます。



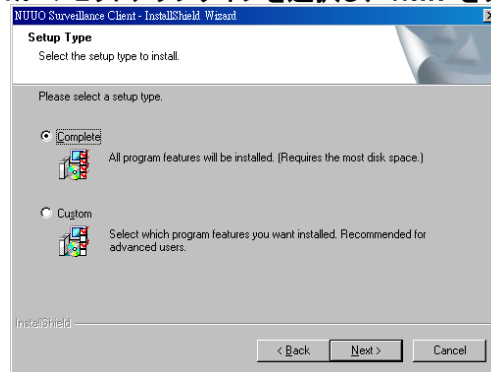
Step 4: “I accept the terms of the license agreement”(著作権に同意する)にチェックを入れてください。



Step 5: ユーザーの情報を入力して“Next”をクリックしてください。



Step 6: "Complete"か"Custom"のいずれかのセットアップタイプを選択し、"Next"をクリックします。



COMPLETE SETUP TYPE

すべてのプログラムを初期設定ディレクトリにインストールします。

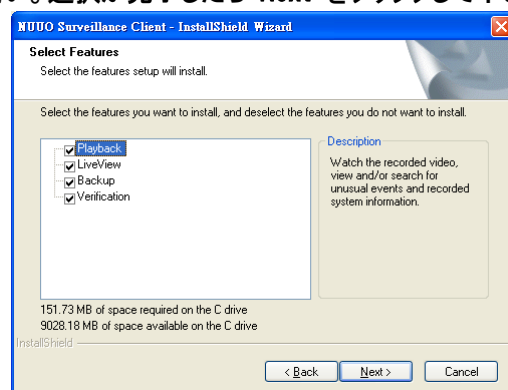
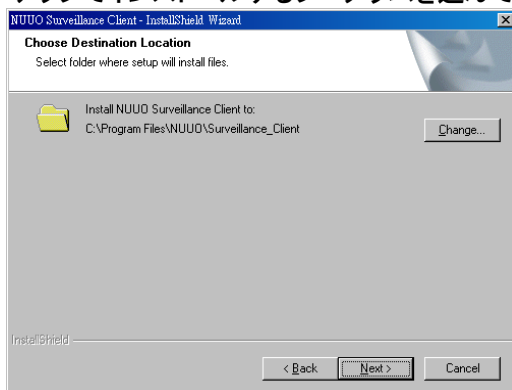
“Complete”にチェックを入れ、“Next”をクリックしてください。[できるだけ大きいディスク容量を確保してください。]

CUSTOM SETUP TYPE

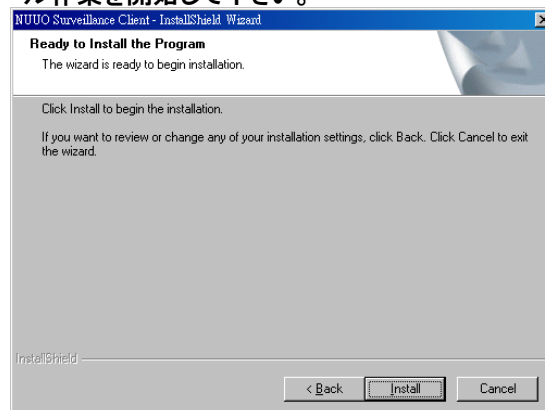
任意のディレクトリにシステムをインストールします。インストールしたいプログラムを選び、カスタマイズできます。[上級ユーザーにお勧めします。]

“Custom”にチェックを入れ、“Next”をクリックして下さい。

任意のディレクトリを選択して下さい。“Change”をクリックしてディレクトリを変更することができます。セットアップでインストールするプログラムを選んでください。選択が完了したら“Next”をクリックして下さい。



Step 7: "Install"をクリックしてインストール作業を開始して下さい。



Step 8: "Finish" ボタンを押して、インストール作業を終了してください。

フェイルオーバー・エージェントのインストール

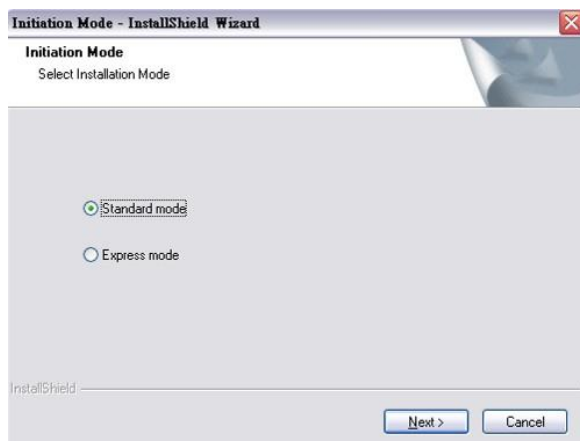
Step 1: インストール用 CD を入れて下さい。CD-ROM 内の“autorun.exe”を起動し、インストール作業を始めます。



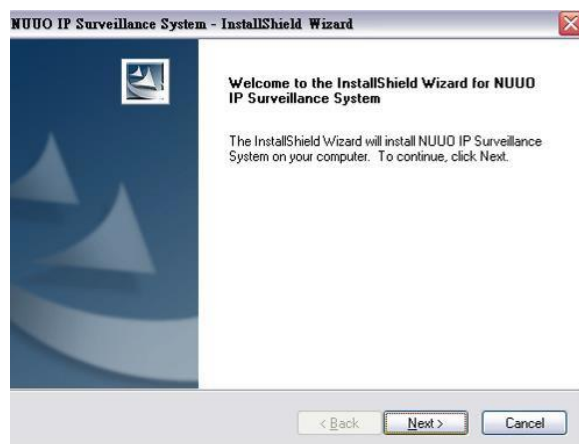
Step 2: “Failover Agent Installation” を選択し、クリックしてください。

Step 3: InstallShield Wizard ダイアログボックスで使用する言語を選択し、“Next”をクリックして下さい。

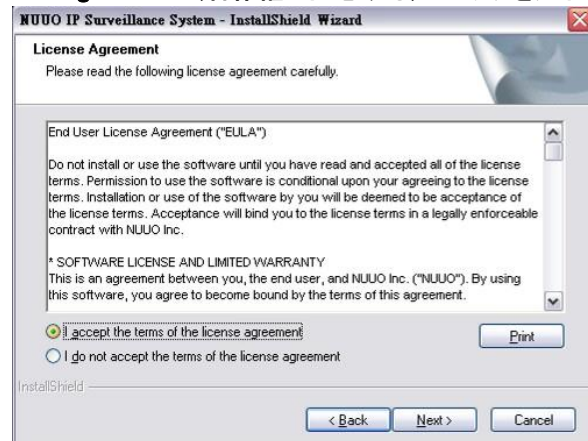
Step 4: “Initiation Mode”ウィンドウにはオプションで 2 つのインストールモードがあります。いずれかを選択し、サーバパッケージのインストールシールドを起動するために”Next”をクリックします。



Step 5: InstallShield Wizard ダイアログボックスの画面で” Next”をクリックして続けます。



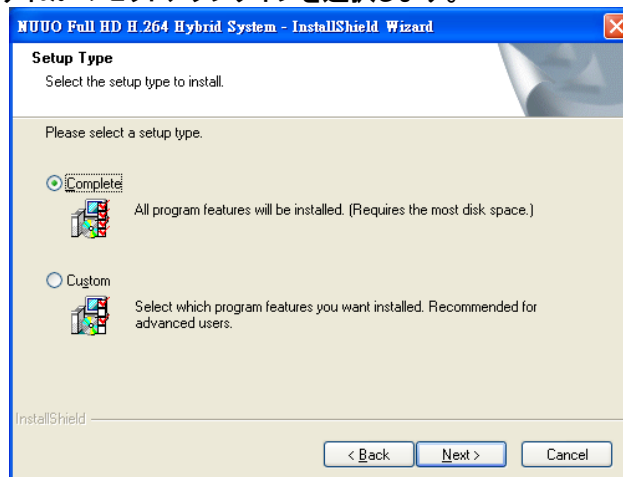
Step 6: “I accept the terms of the license agreement”(著作権に同意する)にチェックを入れて”Next”をクリックします。



Step 7: ユーザー名、所属している会社名を入力して”Next”をクリックしてください。



Step 8: ”Complete”か”Custom”のいずれかのセットアップタイプを選択します。



COMPLETE SETUP TYPE

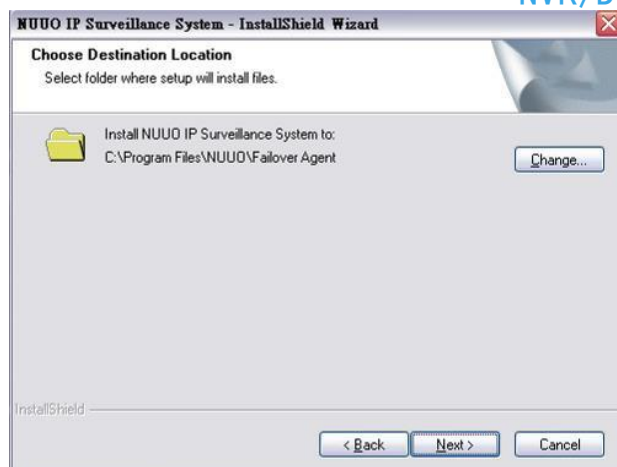
すべてのプログラムを初期設定ディレクトリにインストールします。

- “Complete”にチェックを入れ、”Next”をクリックしてください。[できるだけ大きいディスク容量を確保してください。]

CUSTOM SETUP TYPE

任意のディレクトリにシステムをインストールします。インストールしたいプログラムを選び、カスタマイズできます。[上級ユーザーにお勧めします。]

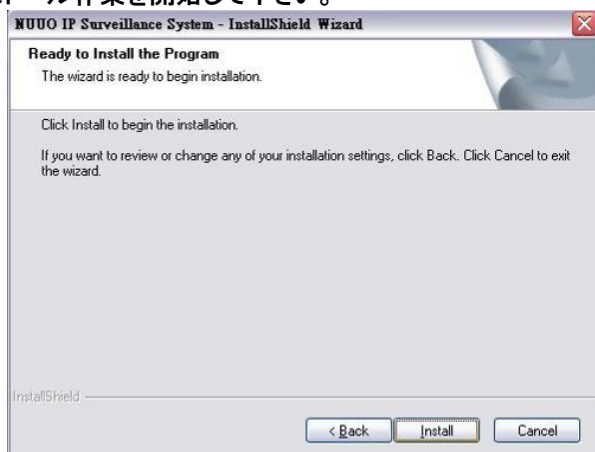
- ”Custom”にチェックを入れ”Next”をクリックして下さい。
- セットアップがファイルをインストールするフォルダを任意に指定します。インストールディレクトリを変更するには”Change”をクリックします。



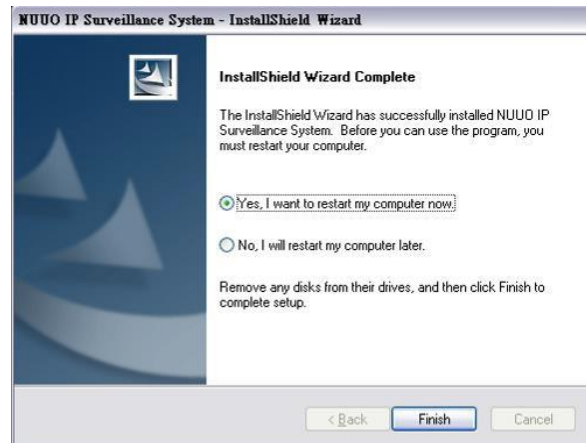
- セットアップでインストールするプログラムを選びます。確認後に”NEXT“をクリックして下さい。



Step 9: “Install”をクリックしてインストール作業を開始して下さい。



Step 10: “Finish” をクリックして、インストール作業を終了してください。



Step 11: フェイルオーバー・エージェントを実行します。



Step 12: エディット ボックスにパスワードを入力し、確認のため再度パスワードを入力します。“はい”を押します。これでフェイルオーバー・エージェントのサービスが使用可能となります。

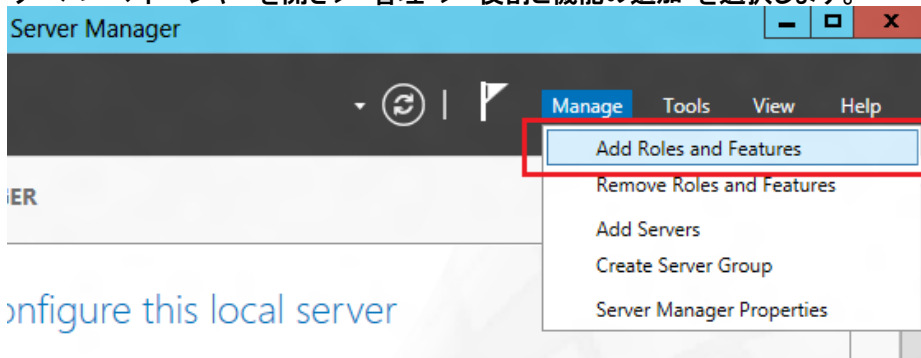


Note: Windows8 をご使用の際は、始めにメインコンソールを起動する前にメトロ機能を無効にしてください。手順については以下のアドレスを参照してください: <http://www.youtube.com/watch?v=xERxpbwBt0U>

Note: Windows Server2012 をご使用の際は、初めにメインコンソールを起動する前にデスクトップエクスペリエンスを有効にしてください。手順については、以下を参照してください:
<http://social.technet.microsoft.com/wiki/contents/articles/10531.windows-server-8-beta-how-to-enable-desktop-experience-feature-en-us.aspx>

Windows Server8 のベータ版でデスクトップエクスペリエンス機能は、ユーザーインターフェイスとインフラストラクチャ機能に属しています。デスクトップエクスペリエンス機能をインストールするためには、次の手順を実行します。:

サーバーマネージャーを開き>“管理”>“役割と機能の追加”を選択します。



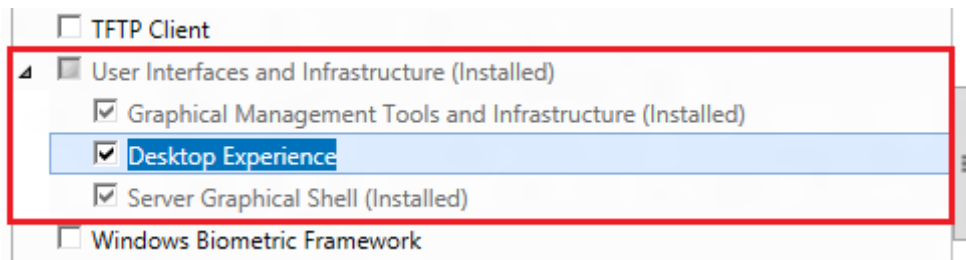
機能をインストールする前に、開始ページにアクセスすることで、事前に情報を参照できます。このページは、Windows Server8 を学び始めたユーザーのために非常に便利です。役割や機能を追加して、次回からはこのページを表示しないようにするには、“デフォルトでこのページをスキップする”を選択します。

”インストールの種類の選択”ページでは、2 つのオプションがあります。

1. 役割ベースまたは機能ベースのインストール: このオプションでは、単独のサーバで役割や機能を追加したいときに、Windows Server 2008 で利用できる同じものを使用します。
2. リモートデスクトップサービスのシナリオベースインストール: このオプションでは、中央ロケーションから RD セッションホストサーバーの一般的な設定、インストールして管理することができます。

目的のサーバーを選択するページでは、サーバープールの下のサーバープールを選択します。フレキシブルサーバプラットフォームでは、役割や機能を展開したときに目的サーバーとして仮想ハードディスクを選択することができます。

”サーバーの役割の選択”ページをスキップします。”機能の選択”ページでは、ユーザーインターフェイスとインフラの機能を選択することができます。必要なコンポーネントまたは “Ink and Handwriting Services” や “Media Foundation” サービスをインストールするように求められます。”機能の追加”をクリックします。



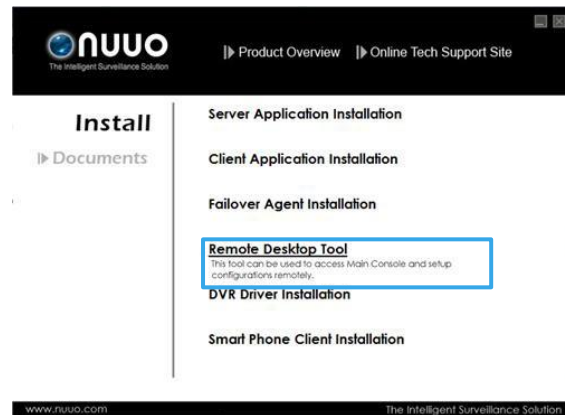
”インストールオプションの確認”ページで、必要に応じて”自動的にサーバを再起動”を選択します。完全にインストールした後は、コンピュータを再起動する必要があります。

PowerShell を使用して機能を追加する方法もあります: ”機能の追加” > ”機能” > ”デスクトップエクスペリエンス”を選択します。

リモートデスクトップツール

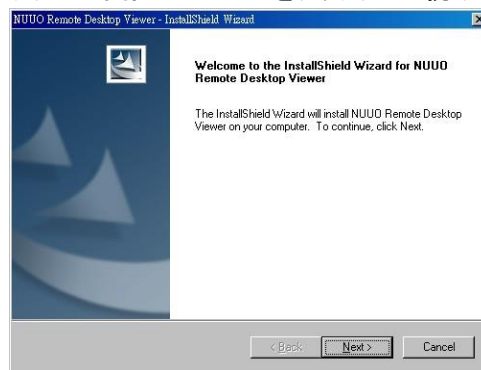
ユーザーはリモートデスクトップツールを利用し、遠隔でメインコンソールのアクセスと設定を変更することができます。

Step 1: インストール用 CD を入れて下さい。CD-ROM 内の“autorun.exe”を起動し、インストール作業を始めます。

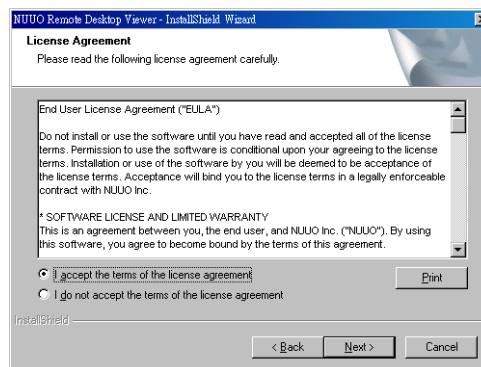


Step 2: “Remote Desktop Tool”を選択しクリックしてください。

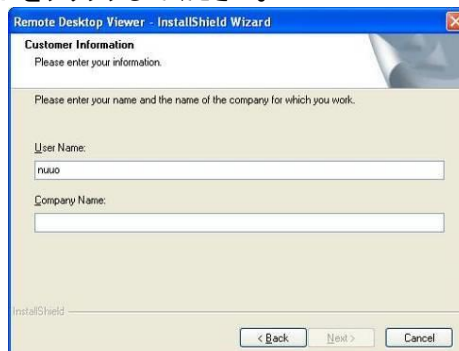
Step 3: InstallShield Wizard ダイアログボックスの画面で”Next”をクリックして続けます。



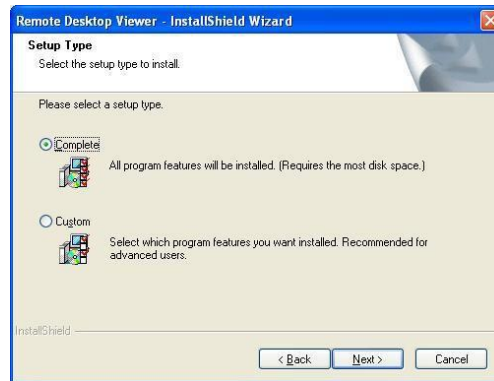
Step 4: “I accept the terms of the license agreement”(著作権に同意する)にチェックを入れて”Next”をクリックします。



Step 5: ユーザーの情報を入力して”Next”をクリックしてください。



Step 6: “Complete”か“Custom”のいずれかのセットアップタイプを選択します。



COMPLETE SETUP TYPE

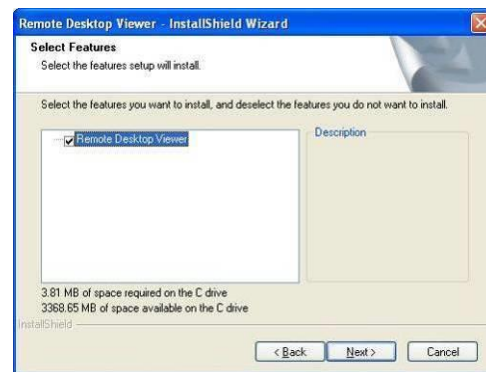
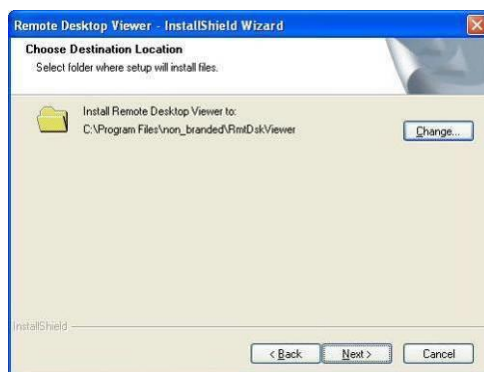
すべてのプログラムを初期設定ディレクトリにインストールします。

- “Complete”にチェックを入れ、“Next”をクリックしてください。[できるだけ大きいディスク容量を確保してください。]

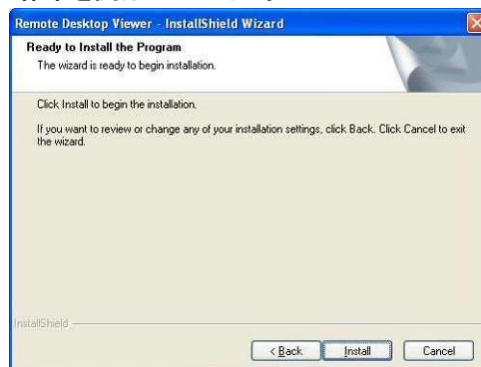
CUSTOM SETUP TYPE

任意のディレクトリにシステムをインストールします。インストールしたいプログラムを選び、カスタマイズできます。
[上級ユーザーにお勧めします。]

- “Custom”にチェックを入れ“Next”をクリックして下さい。
- セットアップがファイルをインストールするフォルダを任意に指定します。インストールディレクトリを変更するには“Change”をクリックします。“Custom”にチェックを入れ“Next”をクリックして下さい。



Step 7: “Install”をクリックしてインストール作業を開始して下さい。

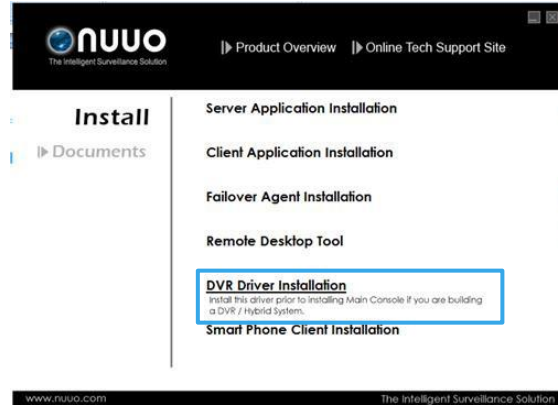


Step 8: “Finish” をクリックして、インストール作業を終了してください。

DVR ドライバインストール

ドライバインストールツールは自動的にインストールされたキャプチャカードのモデルを検出し、対応したドライバーをインストールします。

Step 1: インストール用 CD を入れて下さい。CD-ROM 内の“autorun.exe”を起動し、インストール作業を始めます。

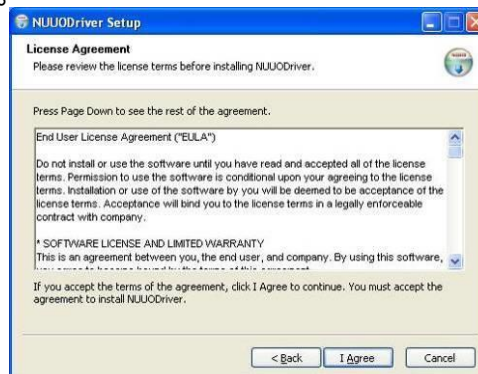


Step 2: “DVR Driver Installation”を選択し、クリックして下さい

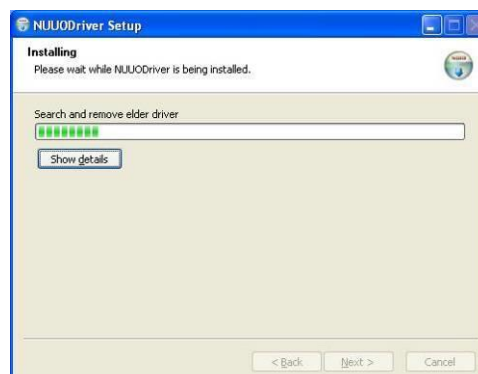
Step 3: Driver Setup ダイアログボックスの画面で、“Next”をクリックして下さい。



Step 4: “I Agree”をクリックして続けます。



Step 5: ドライバがインストールされます。



Step 6: “Finish” をクリックして、インストール作業を終了してください。その後すぐにシステムを再起動するか、後でシステムを再起動するかを選択して下さい。

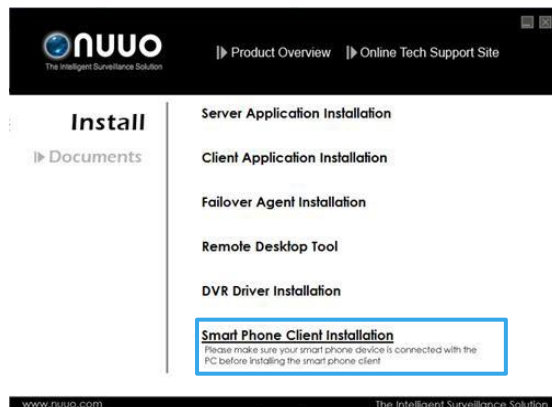


スマートフォンクライアントのインストール

Step 1: Windows Mobile スマートフォンを PC に接続して下さい。

Step 2: インストール用 CD を入れて下さい。“Smart Phone Client Installation”を選択し、クリックすると自動でインストールが始まります。

Note : PC に Microsoft® ActiveSync ソフトウェアがインストールされていない場合、“Can not find ActiveSync. Please reinstall ActiveSync and then run this installation again.”のメッセージがポップアップします。ActiveSync をインストールしてからスマートフォンクライアントインストールを再実行して下さい。



Step 3: WindowsMobile スマートフォンにクライアントアプリケーションが全部インストールされたことを確認して下さい。

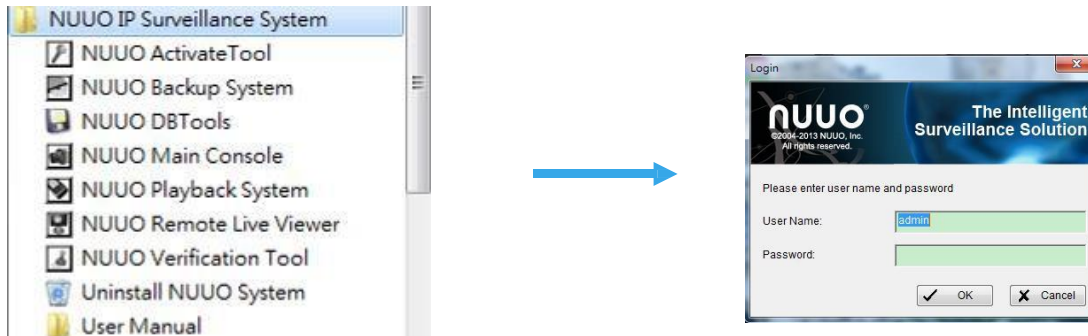


クイックスタート

メインコンソールの起動

Step 1: スタート>全てのプログラム>“IP Surveillance System”>“ Mainconsole”を開き、メインコンソールを起動します。

Step 2: エディットボックスに任意のパスワードを入力し、“はい”をクリックします。



IP カメラライセンスをアクティベートする

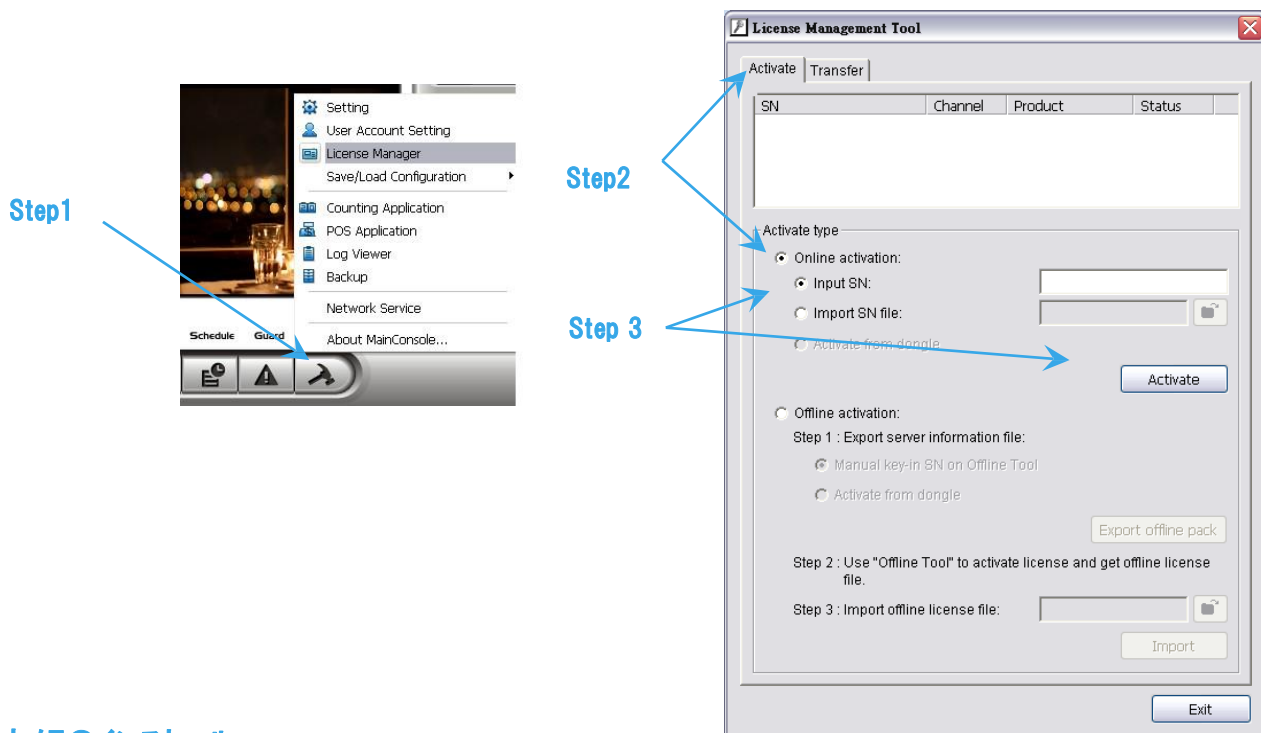
Step 1: メインコンソールの一般設定から“ライセンスマネージャ”を開きます。

Step 2: “アクティベート”タブを選択し、“オンライン起動する”にチェックを入れて下さい。

Step 3: SN(ライセンスキー)、SN ファイルを入力、またはダングルを挿入してランセンスをアクティベートして下さい。

Step 4: ソフトウェアライセンスが正常にアクティベートされたら、メインコンソールを再起動します。

Note: 高度な設定には、11.ユーティリティのライセンス管理ツールの項をご参照ください。



IP カメラのインストール

Step 1: IP カメラメーカーから提供された取扱説明書に従い、IP カメラをセットアップしてください。

Step 2: Internet Explorer を介して本機にアクセスできることを確認します。

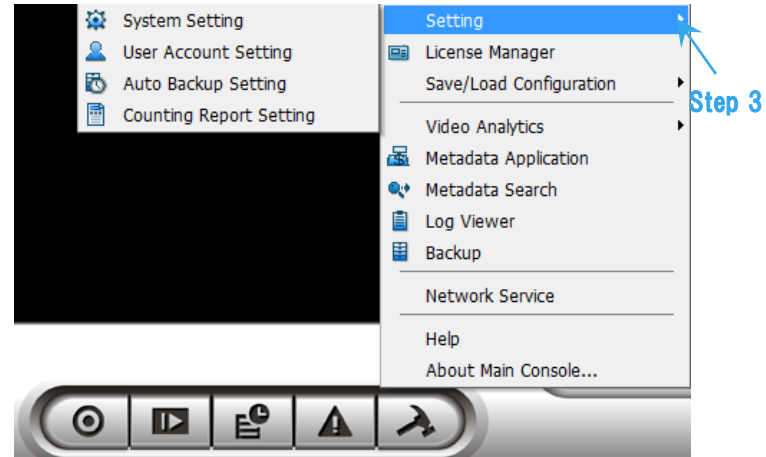
Step 3: 以下の手順でシステムに IP カメラを追加します。

IP カメラを追加する

Step 1: メインコンソールを起動します。

Step 2: ユーザー名とパスワードを入力し、システムにログインしてください。

Step 3: メインコンソール上で、“一般設定”>“設定”>“システム設定”の順に進みます。



Step 4: “カメラ”タブを選択します。

Note: IP カメラが UPnP 対応であれば、Step 5.もしくは Step 8 に進んでください。

Step 5: ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)内の IP カメラを検出するには”新しい IP カメラを検索”をクリックします。

Note: この検索機能は UPnP 対応のカメラのみに対応しています。

Step 6: 使用可能な IP カメラから一つを選択し、ユーザー名とパスワードを入力します。

Step 7: ”はい” ボタンをクリックすると、カメラの登録が完了します。

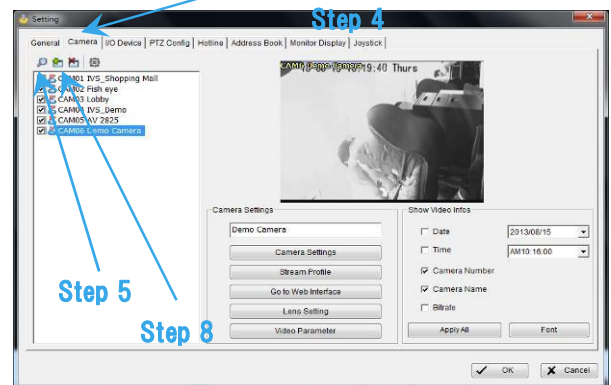
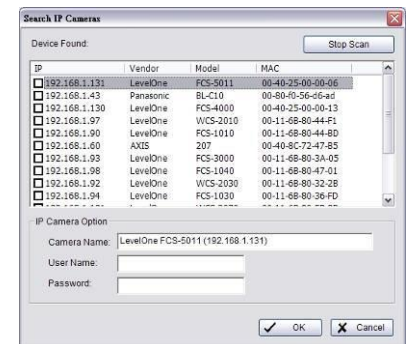
Step 8: “加える” ボタンをクリックし、IP カメラを追加します。

Step 9: IP アドレスまたはドメイン名(DNS オプションにチェック)、ポート番号、ユーザー名、およびパスワードを入力します。

Step 10: “自動検知”ボタンをクリックします。

Step 11: ”はい”をクリックすると、カメラが追加されます。

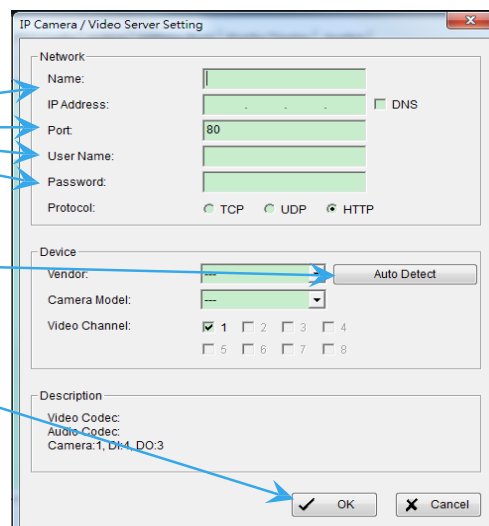
Step 12: ”はい”をクリックすると、設定パネルが終了します。



Step 9

Step 10

Step 11



Step 12

I/O ボックス

メインコンソールでは、USB(SCB-C08)、イーサネット(SCB-C31A)ボックスコンバータとオールインワン SCB-A08 IO ボックスをサポートしています。

SCB-C08 USB I/O ボックス:

Step 1: メインコンソールを起動します。

Step 2: ユーザー名とパスワードを入力し、システムにログインしてください。

Step 3: メインコンソール上で、“一般設定”から、“設定”>“システム設定”の順に進み、設定パネルを開きます。

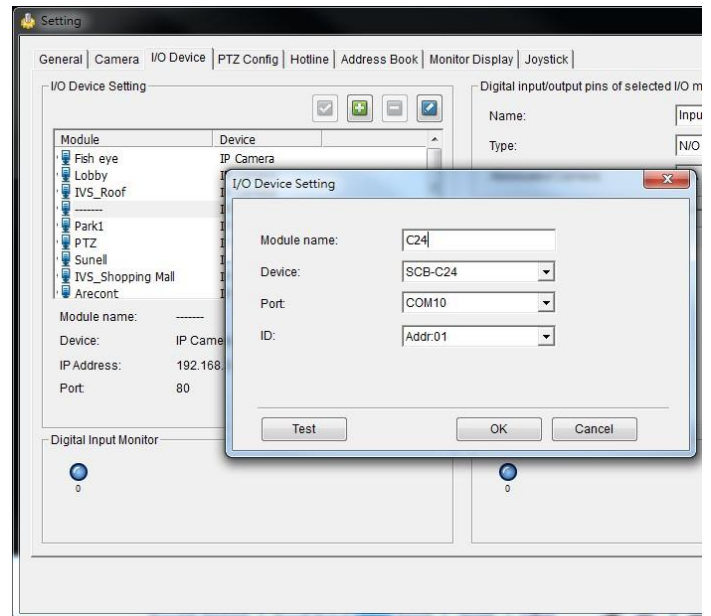
Step 4: “I/O Device”タブを開きます。

Step 5: USB(SCB-C08)I/ O コンバーターデバイスを選択しモジュール名を入力します。:
SCB-C24、SCB-C26 または SCB-C28

Step 6: COM ポート番号と ID を選択します。

Note: COM ポートおよび ID 情報は、SCB-C08 の設定ツールを使用する必要があります。I/ O ボックスコンバータを初めてセットアップする場合は、メインコンソールを閉じてください。

Step 7: “はい”を選択し、メインコンソールに戻ります。



SCB-C31A イーサネット I/O ボックス:

Step 1: メインコンソールを起動します。

Step 2: ユーザー名とパスワードを入力し、システムにログインしてください。

Step 3: メインコンソール上で、“一般設定”から、“設定”>“システム設定”の順に進み、設定パネルを開きます。

Step 4: “I/O Device”タブを開きます。

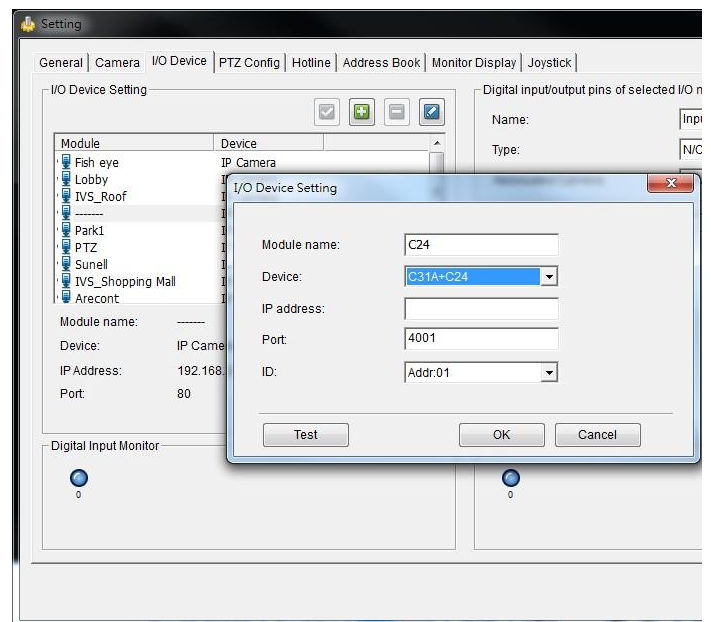
Step 5: イーサネット(SCB-C31A)I/ O コンバーターデバイスを選択し、モジュール名を入力します。:
C31A+C24, C31A+C26 または C31A+C28

Step 6: C31A の IP アドレスを入力します。

Step 7: IP ポート番号を入力し、ID を選択してください。

Note: ポートおよび ID 情報は、SCB-C31A の設定ツールを使用する必要があります。初めて I/ O ボックスコンバータをセットアップする場合は、メインコンソールを閉じてください。

Step 8: “はい”を選択し、メインコンソールに戻ります。



SCB-A08 オールインワン IO ボックス:

Step 1: メインコンソールを起動します。

Step 2: ユーザー名とパスワードを入力し、システムにログインしてください。

Step 3: メインコンソール上で、“一般設定”から、“設定”>“システム設定”の順に進み、設定パネルを開きます。

Step 4: “I/O Device”タブを開きます。

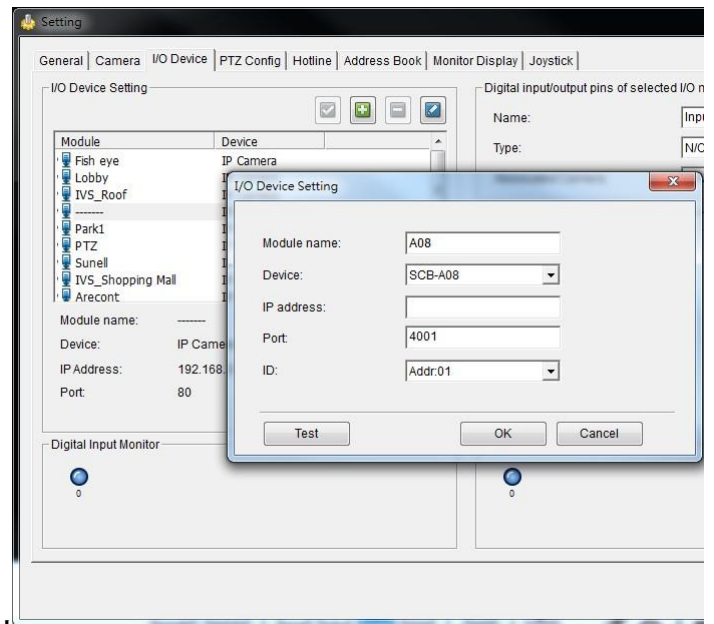
Step 5: オールインワン(SCB-A08)I/ O コンバーターデバイスを選択し、モジュール名を入力します。

Step 6: SCB-A08 の IP アドレスを入力します。

Step 7: IP ポート番号を入力し、ID を選択してください。

Note: ポートおよび ID 情報は、SCB-A08 の設定ツールを使用する必要があります。初めて I/ O ボックスコンバータをセットアップする場合は、メインコンソールを閉じてください。

Step 8: “はい”を選択し、メインコンソールに戻ります。



スケジュール設定

Step 1: メインコンソールを起動します。

Step 2: ユーザー名とパスワードを入力します。

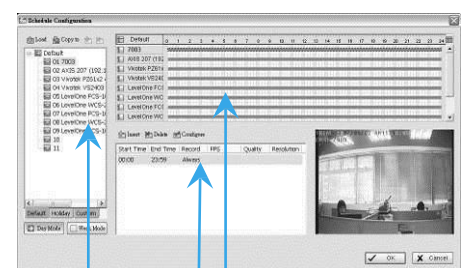
Step 3: スケジュール設定のボタンをクリックします。

Step 4: カメラが設定されている場合、初期設定によって常時録画されるように設定されています。

Step 5: カメラを選択し、スケジュールの“設定”をクリックするか、いずれかのスケジュールバーをダブルクリックして録画モードを修正します。

Step 6: “はい”をクリックすると録画スケジュールを使用します。

Step 7: “はい”を選択し、メインコンソールに戻ります。



Step 4 Step 5

スマートガードの設定

Step 1: メインコンソールを起動します。

Step 2: ユーザー名とパスワードを入力し、システムにログインしてください。

Step 3: “スマートガード設定”をクリックします。

Step 4: カメラを選択して “Insert Event” をクリックします。

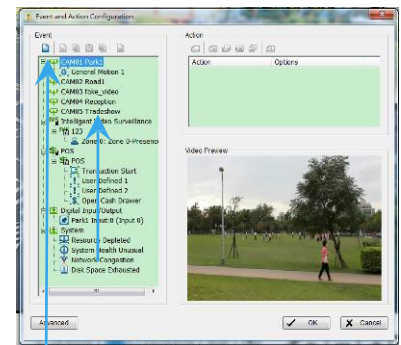
Step 5: 今回は一般動体検知を例とします。”一般動体検知”を選択し、”はい”ボタンをクリックしてください。

Step 6: ”アラームイベント設定”パネルで、検知エリア、感度、間隔を選択して、”はい”ボタンをクリックしてください。

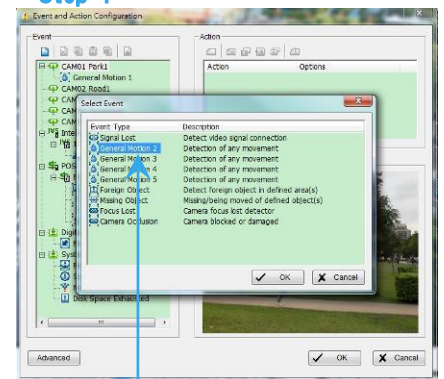
Step 7: ”はい”を選択し、メインコンソールに戻ります。



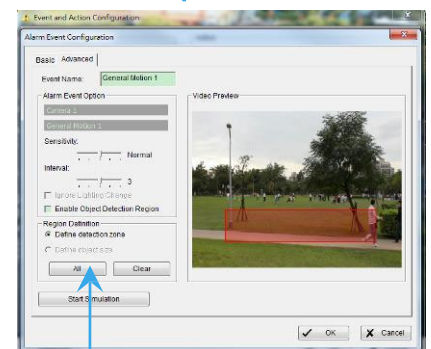
Step 3



Step 4



Step 5



Step 6

録画とスマートガードを開始する

Step 1: メインコンソールを起動します。

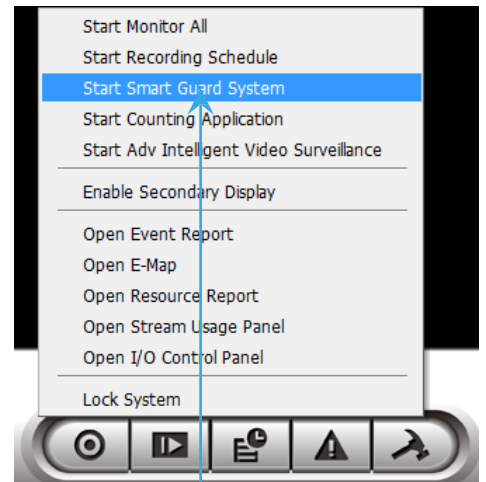
Step 2: ユーザー名とパスワードを入力し、システムにログインしてください。

Step 3: “メニュー開始”をクリックしてください。

Step 4: “録画設定起動”と“スマートガードシステムを起動” をクリックすると、それぞれの機能が開始されます。



Step 3



Step 4

再生

Step 1: メインコンソールを起動します。

Step 2: ユーザー名とパスワードを入力し、システムにログインしてください。

Step 3: “再生を実行”をクリックしてください。

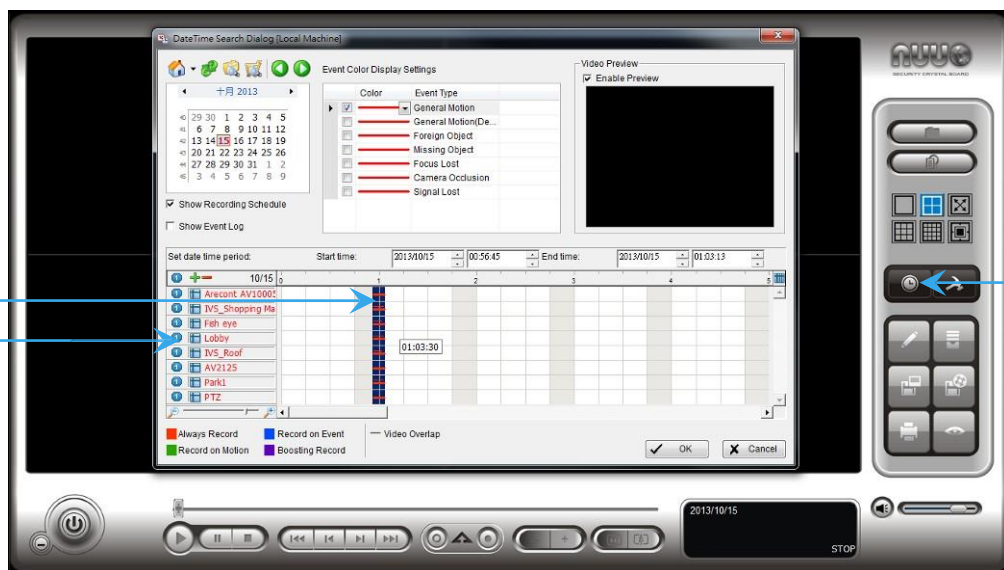
Step 4: 再生ウィンドウが開きます。“時間検索ダイアログ”アイコンをクリックしてください。

Step 5: タイムテーブルで、録画ファイルはカラーバーで表示されています。カレンダーから特定の日を選択し、マウスでドラッグして カラーバーをハイライトにし、再生する部分を選んでください。:同時に複数のチャンネルを選択して再生することもできます。

Step 6: 以上の操作で録画映像の再生が開始されます。



Step 3



Step 5

デュアルプレイバックオプション

Step 4

※デュアルプレイバック: カメラに対して二重の録画データを持っている場合、カメラ名の数値ボタンをクリックすることで、スケジュール（太線）と利用可能な録画（細線）の2つの録画データを切り替えることができます。

1. メインコンソール



このソフトの主な操作機能を説明します。起動から録画スケジュール、スマート監視システムのセットアップ、及び環境設定について説明します。

1.1 ユーザーインターフェイスの概要



終了:

監視システム操作停止、現在のユーザーのログアウト。

最小化:

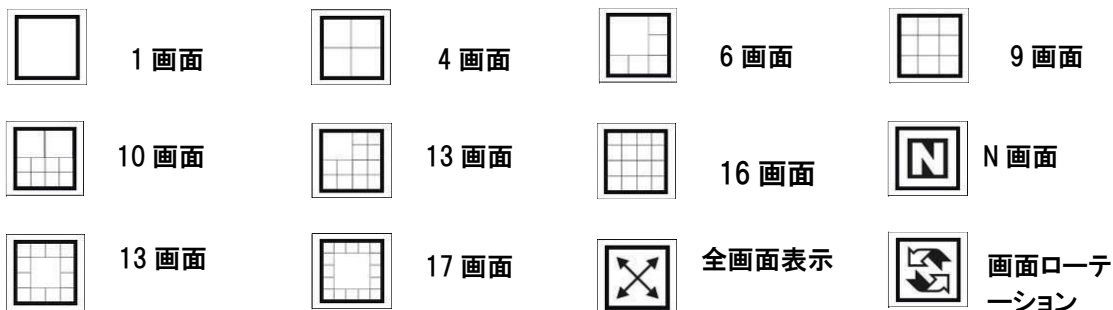
メインコンソールウィンドウを最小化します。

画面分割:

お好みのレイアウトアイコンをクリックすると、サブ画面表示配置を選択することができます。

一画面に切り替えるなら、一画面アイコンをダブルクリックします。

画面上でもう一度ダブルクリックすると、元の分割画面に戻ります。



右記解像度のモニターでのみ使用可能(1440x900, 1680x1050, 1920x1080, 1920x1200):



クリスタルボール

システムの作動状況を示します。(灰色-休止、青-録画中、赤-イベント検索中)クリスタルボールが赤なら、クリックしてイベントレポートを開き、検索をキャンセルしてください。

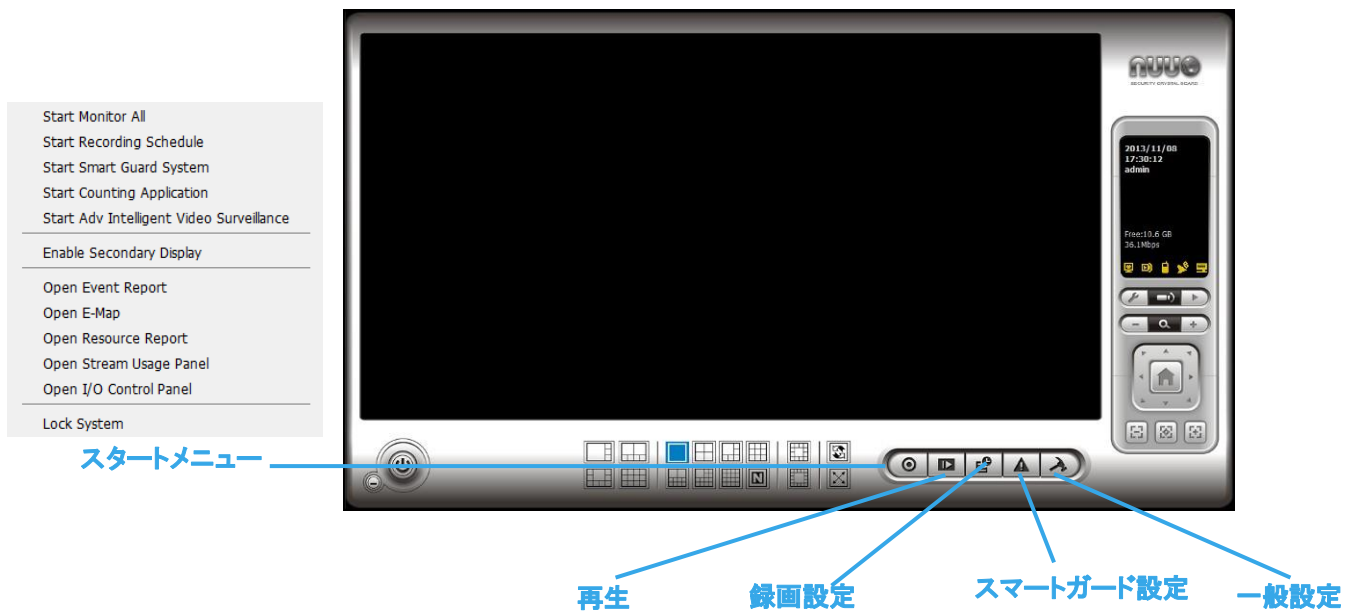
情報画面

日付、時間、空き HD スペース、CPU 温度、IP カメラビットレート、そして CPU 温度やファンスピード、システムリソース、ネットワーク状況などのカスタマイズされたテキストを表示します。

5 つのネットワークサービスのアイコンはサービスがオン/オフされているかを示します。

	LiveView	Playback	3GPP	Desktop	CMS
Start					
Stop					

注表示された情報をカスタマイズしたい場合、システム設定>一般設定>一般>ステータス表示>詳細設定の順に進んでください。



スタートメニュー:

スタートメニューをクリックすると機能を無効化(有効化)するためのメニューが開きます。録画スケジュール・スマートガード・カウントアプリケーション・IVS・モニタリングなどのすべての機能を一度に無効化(有効化)することができます。

スタートメニューにはオプションとして 2nd ディスプレイの有効化(無効化)やイベントレポート・E-MAP・リソースレポート・ストリーム使用量パネル・I/O コントロールパネルを開いたりシステムにロックをかけることも可能です。

注意:

1. モニター機能を起動する場合、システムはその時点での画面状況を正常と捉えるため、例えば疑わしい物品を捜索したい場合、保護されるべき物体が開始ボタンをクリックするときと同じ場所にあることを確認してください。
2. 録画スケジュール、スマートガード、カウンティングツールをメインコンソールと同時に自動的に起動するために、システム設定→設定→一般設定の順で自動起動の機能を設定して下さい。
3. 第二モニターディスプレイを起動する場合、メインコンソールはシステム終了する時点の設定を記憶します。(イベントレポート、E マップ画面、リソースレポート、I/O コントロールパネル)

再生:

再生ボタンをクリックし再生コンソール画面に進みます。録画、録画検知、保存データのイメージ調節、ビデオ、写真、プリントイメージ保存、ログ情報、イベント録画、録画環境設定など行うことができます。

録画設定:

録画時間を設定し、録画環境設定を行うことができます。

スマートガード設定:

顧客が監視したいイベントタイプを追加・編集します。各イベントに対応した設定を行います。

一般設定:

ドロップダウンメニューから選択し、一般設定を修正します。システム設定を保存ロードします。ユーザーアカウントを設定します。ライセンスマネージャを開始します。カウンティングツールと POS を開始します。ログビューワにアクセスし、ファイルをバックアップし、ネットワークを設定します。

注意:

ユーザーアカウントとライセンスマネージャの設定は ADMIN 権限でログインしたユーザーしかできません。

**1.2 PTZ Camera Control**

PTZ カメラの動きを操作します。PTZ 操作に対応するカメラであれば、移動、ズームパトロール、フォーカス調整、カメラポイント設定をすることができます。

1.2.1 追加プリセット/プリセットへ移動

カメラの視界をお好みに調節します。設定アイコンをクリックし、プレゼントポイント 01 として現在の視界を設定します。カメラの視界をもう一度調節し、プリセットポイント 02 として設定します。この操作を繰り返し、すべてのカメラポイントを設定してください。またプリセットポイント 01, プリセットポイント 02, プリセットポイント 03 等の替わりにお好きな名前を入力することも可能です。

注意:

詳細設定については、システム設定>設定>PTZ 設定の順で進んでください。

1.2.2 Zoom

+、- をクリックすると、ズームイン、ズームアウトをすることができます。

1.2.3 Focus

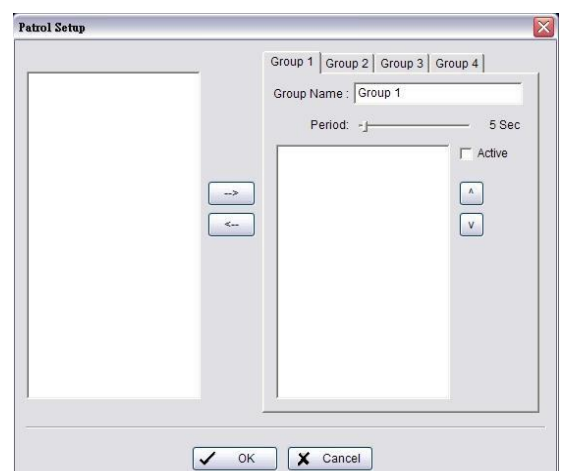
カメラのフォーカスを選択することができます。フォーカス Near  をクリックするとよりカメラに近い位置にフォーカスを合わせることができます。フォーカス Far  をクリックするとよりカメラに遠い位置にフォーカスを合わせることができます。オートフォーカス  をクリックすると自動でフォーカスを合わせることができます。

1.2.4 パトロール

追加プリセット>パトロール設定に進むとパトロールの設定画面が表示されます。左側のウィンドウからグループに登録したいカメラを選択してください。右側のウィンドウにパトロールする順番に並べ時間を設定します。必要に応じてグループ名を変更できます。設定が完了しましたら、“アクティブ”にチェックを付けて“OK”をクリックしてください。

注意:

パトロールグループを 4 つまで設定できます。プリセットへ移動>パトロール開始をクリックするとパトロールが開始されます。



1.3 スクリーンメニュー

カメラ設定を調整したい場合、そのカメラ画面を右クリックするとスクリーンメニューが表示されます。

1.3.1 カメラ設定

カメラの一般設定画面を表示します。

1.3.2 トーク機能

双方向音声対応のカメラを使用すると、トーク機能を利用することができます。

1.3.3 デジタル PTZ

デジタル PTZ 機能を有効にすると、カメラの PTZ 機能を使用することができます。マウスホイールを使用するか+や-をクリックするとズームが機能します。四角形にドラッグすることでそのエリアを拡大することができます。

点滅している四角形は拡大されているエリアで比率も表示されます。

1.3.4 魚眼レンズ設定

オリジナル・PTZ mode・Quad mode・Perimeter mode からレンズモードを選択します。PTZ mode・Quad mode・Perimeter mode を選択すると、デジタル PTZ 機能が有効になります。

1.3.5 接続/接続中断

カメラの接続状態を変更することができます。

1.3.6 ストリームプロファイル

プロファイル設定ごとに異なるビデオ品質を選択することができます。

1.3.7 カメラ選択

スクリーンに表示をさせるカメラを選択します。

注意:

1. カメラ選択画面の右に表示されるカメラリストから選択します。
2. 分割表示の場合は分割されたエリアごとに表示するカメラを選択することができます。

1.3.8 カメラ削除

表示されているカメラを削除することができます。

注意:

1. カメラ選択のリストからも削除されます。
2. 分割表示の場合は他のエリアのリストからも削除されます。

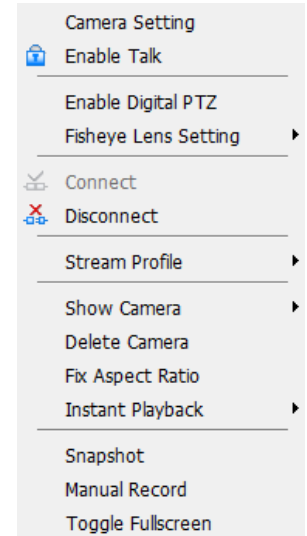
1.3.9 固定アスペクト比

固定アスペクト比を選択すると、カメラのオリジナルアスペクトを表示します。固定アスペクトを無効にすると、アスペクト比が 4:3 になり画面にフィットします。

1.3.10 インスタント再生

再生期間を選択するとインスタント再生のウィンドウが開きます。

詳細は 1.5 インスタント再生のセクションを参照してください。



1.3.11 スナップショット

スナップショット機能を選択すると、特定のビデオイメージをすばやく捉えることができます。イメージをクリップボードにコピーしたり保存することができます。また、OSD にチェックを入れると日付や時刻、カメラ番号や名前を表示します。メタデータにチェックを入れるとメタデータテキストを表示します。デジタル PTZ 機能が有効になっている場合、選択されている領域かフルサイズかを選択できます。

1.3.12 手動録画

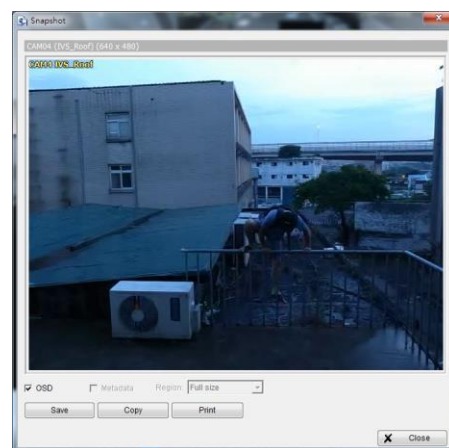
手動録画を選択すると録画が開始されます。

1.3.13 全画面

全画面を選択すると全画面表示になります。
ESC キーを押すと通常画面に戻ります。

1.3.14 PT 制御

PT 機能に対応しているカメラを使用することで、PT 制御有効をクリックすると画面をクリックするだけで PT 制御が可能になります。この機能をキャンセルする場合は PT 制御無効をクリックしてください。



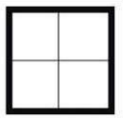
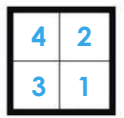
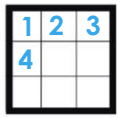
1.4 ライブ表示

ライブ表示では、単一チャンネル画面と分割画面を変更することができます。各画面分割は、同一の表示リストを共有しますが、ディスプレイ表示順序独自に持っています。例えば、カメラの表示/複製/削除機能を使用してカメラのリストを編集する場合、同じリストは、すべての異なる画面分割で使用できるようになります。

注意: このカメラリストウィンドウは、一般設定からの”モニタ表示”タブでも利用可能です。2つのモニタは、2つの独立したリストを持つことができます。

アクション	現在の分割	他の分割
カメラを追加 (カメラ1を追加)		 add to first free channel
カメラをコピー (カメラ2をコピー)		 add to first free channel
カメラを削除 (カメラ2を削除)		 remove cam 2" and keep channel free

カメラ画面を別のチャンネルに移動しても、カメラの表示順序はオリジナルの分割と一致します。

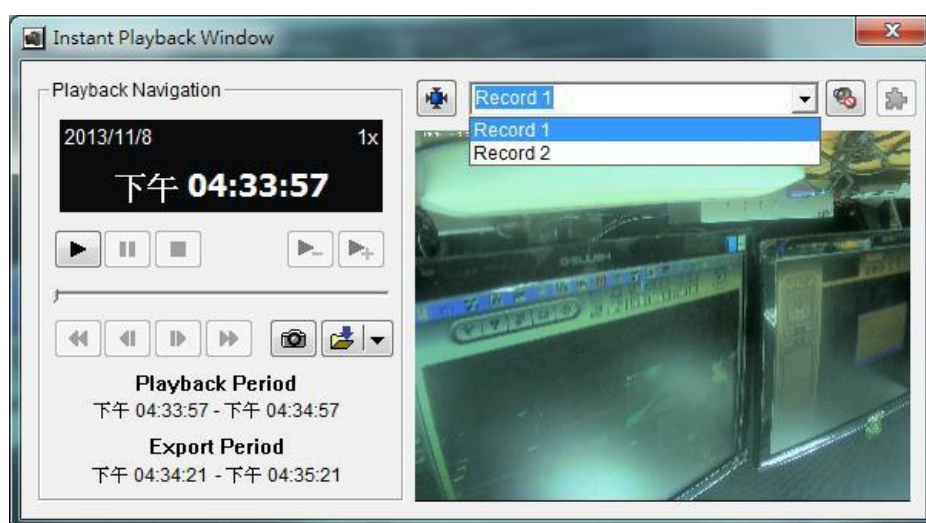
オリジナル	アクション	現在の分割	他の分割
	カメラ1をカメラ4に移動します。		 カメラの順序は変わりません

カメラ画面を右クリックすると、メニューが表示されます。メニューからカメラ設定を変更することができます。

1.5 インスタント再生

インスタント再生機能にて、任意のチャンネルの最後の数分を再生することができます。カメラ画面を選択し、右クリックメニューのインスタント再生を選択します。

1.5.1 インスタント再生ウィンドウ



情報表示: 再生する日付と時刻が表示されます。

再生期間: 再生期間が表示されます。再生可能な期間は、30秒/1分/3分/5分/10分/15分/30分から選択します。または任意の秒数に設定可能です。

録画選択: デュアル録画の場合、録画 1/録画 2 をドロップダウンから選択できます。

輸出期間: エクスポートする録画期間を表示しています。デフォルトは再生期間が設定されています。

ツール:  オリジナル解像度ボタン: ビデオの解像度をオリジナルの解像度で表示します。

 音声ボタン: 音声の ON/OFF を切り替えます。

 メタデータボタン: メタデータ表示の有効/無効を切り替えます。

1.5.2 インスタント再生の操作

インスタント再生ウィンドウを使用すると、録画したビデオの再生、スナップショットイメージとビデオのエクスポートを行うことができます。

録画映像の再生:

ビデオ再生時の操作については、タイムラインをクリックするか下記の制御ボタンを操作します。:



- 再生 / 一時停止 / 停止



- スローモーション / 再生速度アップ



- 巻き戻し [frame by frame] / 早送り



- 前 / 次のビデオを再生

スナップショット取得:

スナップショットボタン  を押すと、スナップショットが表示され任意の場所に保存するか、またはクリップボードにコピーすることができます。

録画ビデオのエクスポート:

エクスポートする期間を選択してエクスポートボタン  を選択し、エクスポートしたいビデオのオプションをセットアップします。

デフォルトのエクスポートビデオの範囲は、再生時に指定した時間範囲です。書き出し範囲を変更するには、開始/終了時刻を選択し、ボタンのドロップダウンリスト  からイン/アウトキューをクリックします。エクスポート範囲は、ウィンドウの左下隅に表示されます。

エクスポート形式は次のとおりです:

- ASF - 最も効率のよいフォーマットです。[推奨]
- AVI (Microsoft Video1) - Windows XP の Windows Media Player がサポートしています。記録された映像よりも品質が落ちる場合があります。
- AVI (Original Format) - エクスポートの処理が早く、品質の良い映像が出力できますが、再生には VLC プレーヤーが必要です。(Windows Media Player では、追加の ffdshow のコーデックをインストールしてください)。

注意:

- The restrictions of AVI format.
 - a. AVI ファイルの最大のサイズは 1.8 ギガバイトに制限されます。
 - b. ビデオの再生時に、フレームレートのバラツキが生じ、早いまたは遅い再生をすることがあります。

- 選択されたビデオシーケンスは、複数の画像解像度(CIF、2CIF、4CIF など)や複数のビデオフォーマット(MPEG-4、M-JPEG、H.264)を使用している場合は、個別のファイルが作成され、エクスポートされたビデオシーケンスは、解像度ごとに別ファイルに保存されます。

2. 再生



録画した映像を再生できます、または異常イベントや、録画システム情報を検知します。

2.1 ユーザーインターフェース概要:



最小化: Playback console を最小化します。

終了: Playback console を終了します。

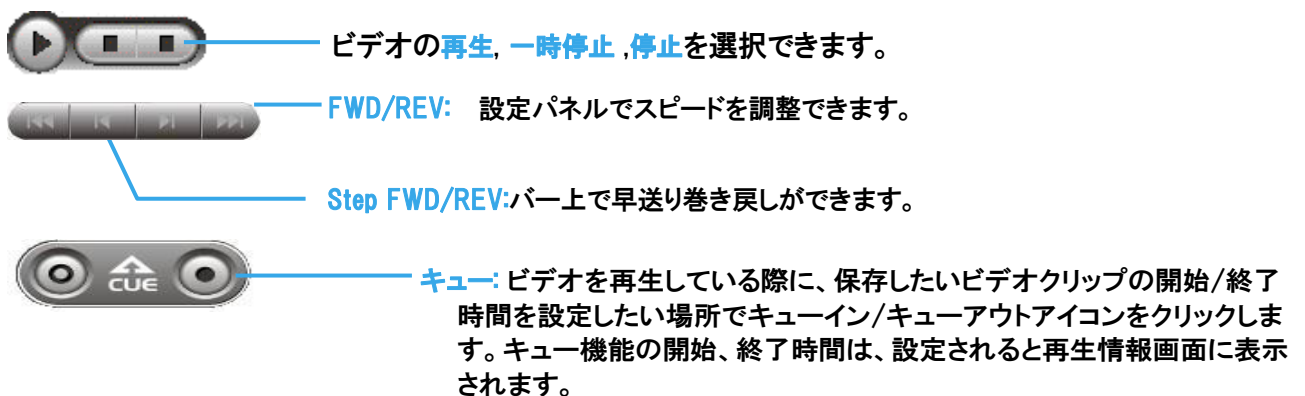
スクロールバー: 再生中のビデオの進捗を示します。再生したい場所を選択してください。

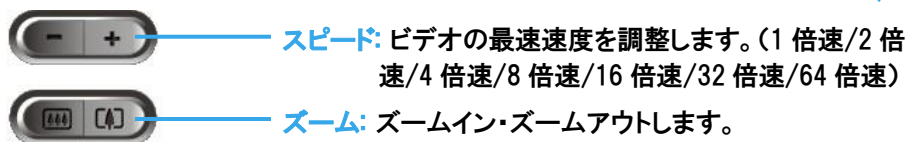
情報画面: ビデオの日付、時間、ビデオ進捗、キュー開始、停止時間、スピードを表示します。

オーディオ音量コントロール: 音量を調整します。

画面分割: お好みのレイアウトアイコンをクリックすると、画面が分割されます。特定のカメラ 1 台のみ画面を表示したいときは、その特定のカメラの画面をダブルクリックします。再度ダブルクリックすると元の分割画面に戻ります。

コントロール





画面メニュー:

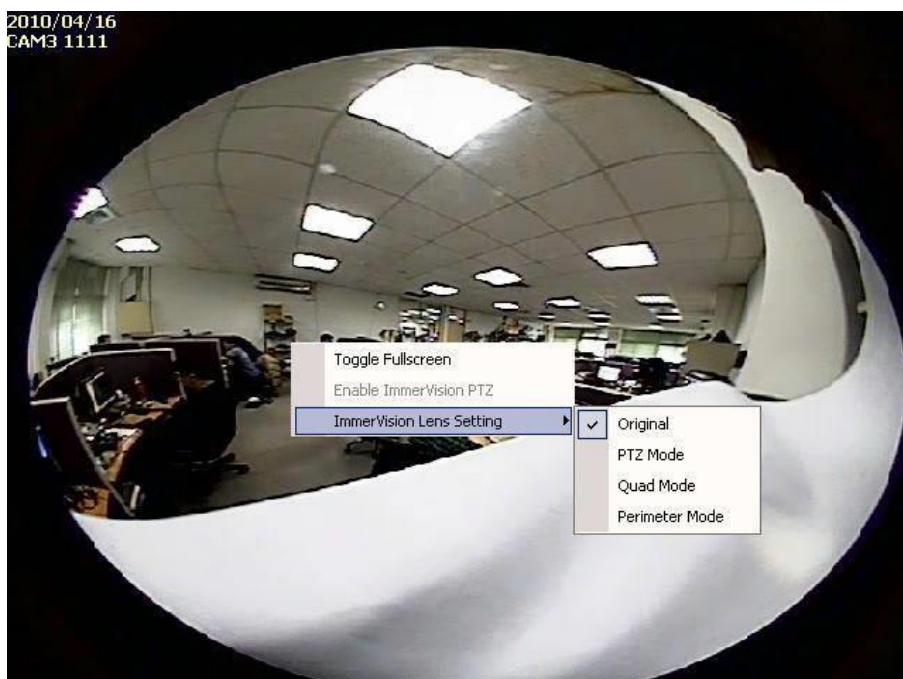
全画面: 全画面にしたいカメラの上で選択します。 "Esc キー" または、右クリックから元のビュー画面に戻ります。

ImmerVision PTZ を有効にする: 有効にする事で PTZ カメラの調整ができます。
(デバイスに依存します)

フィッシュ PTZ を有効にする: PTZ カメラの調整ができます。

ImmerVision レンズ設定: レンズのモードを選択できます。オリジナル/PTZ モード/クアッドモード/ Perimeter mode が選択できます(デバイスに依存します)

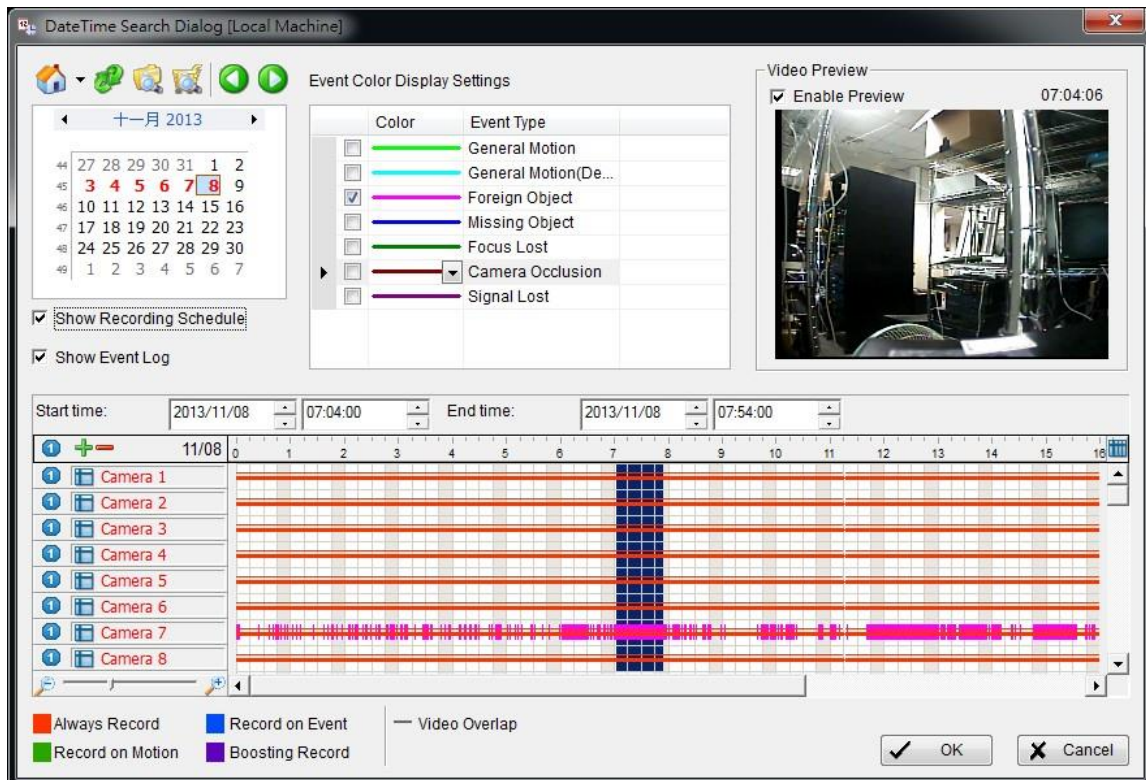
魚眼レンズの設定: オリジナル/PTZ モード/クアッドモード/ Perimeter mode が選択できます



2.2 録画データを見る / 時間検索ダイアログ

日時検索ダイアログボタンをクリックします。  日時検索ダイアログにアクセスし、再生したい録画データを取り出します。

2.2.1 時間検索ダイアログ



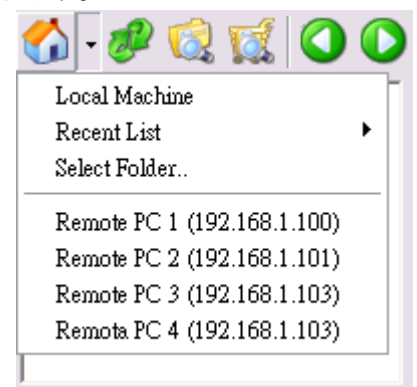
2.2.2 録画表示画面

使用可能なビデオクリップの情報を表示します。カレンダー又は操作リスト内に示されます。
録画表示画面の修正についての詳細は、52 ページを見てください。

-  リモートサーバサイト: ローカルマシンもしくは、リモート再生サーバを設定してください。【フォルダを選択】を選択すると録画した映像データフォルダ直接にアクセスすることができます。【最近のリスト】を選択しますと、最近アクセスした録画データフォルダにアクセスする事もできます。

注意: “フォルダを選択”機能を使用するには、メインコンソールのパスワードが求められます。

-  更新: クリックすると録画表示画面を更新できます。  ログビューア: ログビューアにアクセス。
-  メタデータ検索ツールにアクセス。  前の日: 以前の日付の録画データにアクセスできます。
-  次の日: 次の日付の録画データにアクセスできます。



2.2.3 日付及び範囲

見たいビデオ期間を示している再生・停止ポイントを選んでください。

2.2.4 ビデオプレビュー

プレビュー有効にチェックを入れて、選択したビデオを見ます。

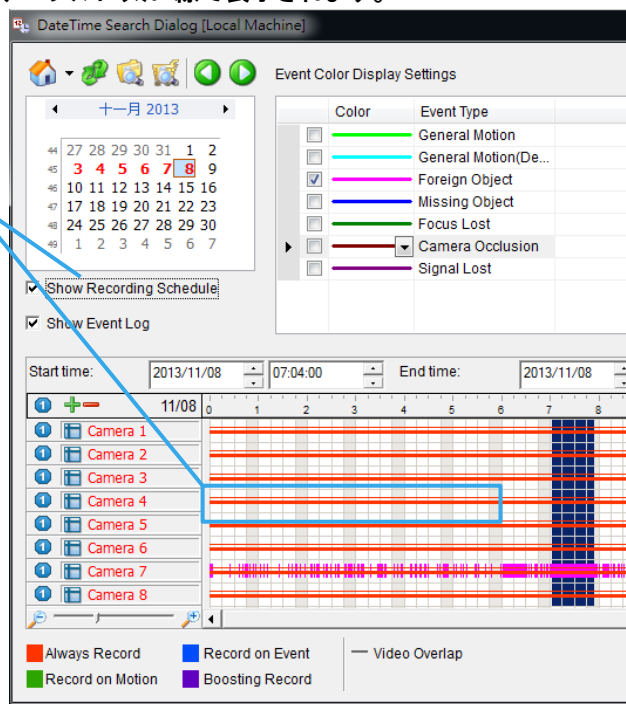
2.2.5 イベントタイプ

6つのタイプがあります。詳細は Chapter4 をご確認ください。イベントを選択するのに便利なイベント色分けの設定ができます。

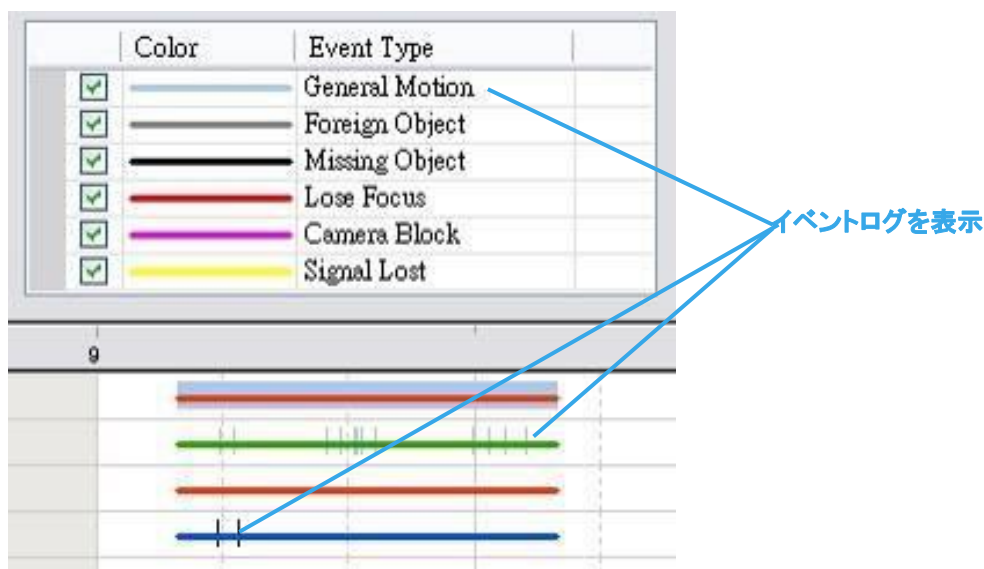
2.2.6 タイムテーブル

- + このアイコンでチャンネルを選択できます。 - このアイコンを使えばチャンネルを非選択状態にできます。
- 最後に  スクロールバーでタイムテーブルのスケールを調節することができます。
- 録画データはタイムテーブル上に細い線で表示されます。”録画スケジュールを示す”にチェックを入れると設定されている録画スケジュールがタイムテーブルに太い線で表示されます。

録画スケジュールを表示します。



- 【イベントログを表示します】を選択すると、以下の図のようにイベント検出の記録が表示されます。



2.2.7 録画データの取り出し

Step1: 日付時間パネルの左側にある録画表示画面から取り出したい録画データを選択できます。赤/緑/青ラインがそれぞれ録画ビデオ利用可能かどうか示しています。

注意: 録画表示画面はカレンダーまたは操作リストに示されています。録画表示画面の設定は再生画面から設定ボタンを押してください。

Step2: イベントタイプを区別するためにカラーラインを使用しています。ビデオクリップを選択するのに役立ちます。

Step3: 見たいビデオの時間帯部分をクリックし、そのままドラッグして必要な部分選択しハイライト表示にしてください。もしくは再生期間ウィンドウを使用して再生開始と終了時間を選択できます。また左下の+ボタンを使用して、タイムテーブルのサイズを調整できます。

Step4: "プレビューを有効"にチェックを入れると、選択したビデオを見ることができます。

Step 5: カメラ名を選択し、再生したいカメラを増やしたり、減らすことが可能です。

Step6: 設定が終了しましたら、"OK"をクリックしてください。

2.3 サーチモード

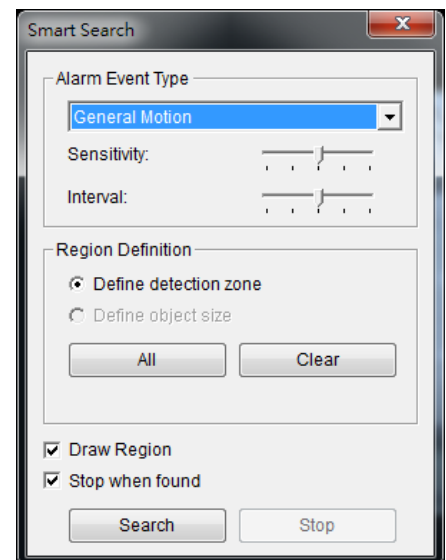
検索モードアイコンをクリックし  インテリジェント検索ツールを開いてください。

* NBR Lite ライセンスではこの機能は使用できません。

- **スマート検索:** 検索モードアイコンをクリックし、スマート検索画面を開いてください。ここから異常イベントを設定し録画期間中に起こった異常イベントを検知することができます。
- **5種類の異常イベント:** 5種類の異常イベントがあります。"一般動体検知" "不審物" "消失物" "焦点ボケ" "カメラ遮断検知"の5種類です。

2.3.1 異常イベント - 動体検知

- **動体検知:** 設定されたすべてのエリアの動きを検知します。
- **検知エリアの設定:** 左クリックしそのままドラッグで検知ゾーンを設定してください。繰り返し作業を行えば複数の検知ゾーンを設定できます。
- **感度:** スライダーを動かして感度を調整します。右方向に動かすと感度レベルが上がり、わずかな動きにも検知しやすくなります。左方向に動かすと感度レベルが下がります。
注意: 例えば風で木が揺れるだけで警告音が発生する場合は、警告音の誤作動が頻発しない為にも感度を下げる事をおすすめします。
- **間隔:** 右方向にスライダーを動かくと間隔が長くなり動作が長く続いたときのみ警告音が発生します。左方向にスライダーを動かすと間隔が短くなります。
- **検知時に停止する:** 検索ゾーンで動きを検知しビデオを停止したい場合はチェックを入れてください。チェックを入れない場合は検知に停止せずすべてのイベントを検出する為に再生は続きます。
結果は結果ボックスに表示されます。リスト内のイベントをクリックするとその時間にジャンプします。



2.3.2 異常イベント - 不審物

- **不審物:** 不審物が検知されたとき警告音が発せられます。
- **検知エリアの設定:** 左クリックしそのままドラッグで検知ゾーンを設定してください。検知ゾーン内に追加された物体を検知します。
- **検出サイズ:** クリック&ドラッグで不審物の大きさを設定します。

- **感度:** スライド操作で感度を調整します。右方向に動かすと感度が上がり左方向に動かすと感度が下がります。
 - **間隔:** 右方向に動かすと、インターバル期間が長くなり、より長い間物体がエリアから動かされた際に警告音がなります。左方向に動かすとインターバル期間が短くなります。
- 注意:** 警告音が誤作動しないためにも、適切な感度調整をお勧めします。歩行者などによって警告音が反応しないようにインターバルを下げる事をお勧めします。

2.3.3 異常イベント - 消失物

- **消失物:** 画面上の設定エリアから選択された対象物が動かされた場合警告音を発します。
- **検知エリアの設定:** 左クリックしそのままドラッグで検知ゾーンを設定してください。繰り返し作業を行えば複数の検知ゾーンを設定できます。
- **感度:** スライド操作で感度を調整します。右方向に動かすと感度が上がり左方向に動かすと感度が下がります。
- **間隔:** 右方向に動かすと、インターバル期間が長くなり、より長い間物体がエリアから動かされた際に警告音がなります。左方向に動かすとインターバル期間が短くなります。

2.3.4 異常イベント ピント外れ / カメラ遮断検知

- **ピント外れ:** カメラが焦点を失った時検出します。
- **カメラ遮断検知:** カメラが何らかの原因で遮断された場合に検出します。

2.4 画像処理

このアイコン  をクリックし設定を行って下さい。

2.4.1 一般設定

現在使用中のチャンネルを適用するなら“アクティブチャンネルに適用”を、すべてのチャンネルに適用するなら“全チャンネルに適用”をチェック入れてください。

2.4.2 フィルター設定

- **鮮明度:** 高視度(ガンマ)を調整し画像の鮮明度を調整してください。
- **シャープ:** スライダーを右方向に動かすと画質度が上がり、左方向に動かすと画質度が下がります。
- **輝度:** 右方向に動かすと画像が明るくなります。
- **コントラスト:** 右方向に動かすと画像が明るくなります。
- **グレースケール:** 白黒モードで画面表示したい時に使用します。

2.5 ビデオの保存

Step1: ビデオクリップとして保存したいカメラの表示画面をクリックしてください。

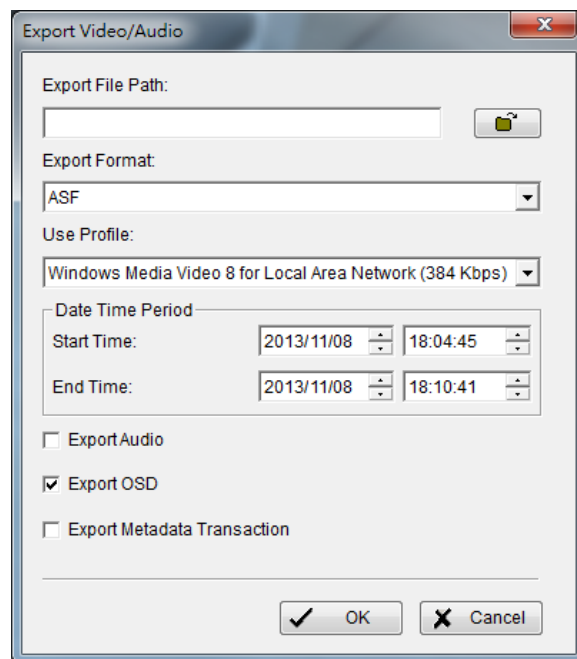
Step2: 情報画面にある“キューイン”/“キューアウト”を設定します。



Step3: ビデオ保存アイコンをクリック  フォルダを選択します。ファイル名を入力し OK をクリックします。音声と映像、もしくは映像のみ転送することもできます。

Step4: ASF 形式か AVI 形式かフォーマットを選択しビデオを保存してください (ASF フォーマット推奨)

- ASF - AVI 形式より効率的です。
[推奨フォーマット]
- AVI (Microsoft Video 1) - Windows Vista&XP の Windows Media Player がサポートしています。トランスコード処理により記録された映像よりも画質が落ちる場合もあります。
- AVI (Original Format) - F 高品質のビデオを高速でエクスポートします。このファイルを再生できるのは VLC Player のみです。Windows Media Player のために ffdshow のコーデックをインストールしてください。



注意:

- AVI フォーマットの制限:
 - a. AVI ファイルの最大サイズは4GB です。
 - b. フレームレートの変動が生じたビデオは早くなったり遅くなったりします。
- 複数の解像度 (CIF/2CIF/4FIT 等) や複数のビデオフォーマット (MPEG-4/M-JPEG/H.264) を使用している場合、解像度を変更されるたびに個別のエクスポートファイルを作成します。

Step5: 映像のみエクスポートすることも可能ですが、音声/OSD/メタデータも併せてエクスポートすることができます。

Step 6: OK をクリックすると保存が開始されます。

2.6 イメージ保存

Step1: 画像を保存したいカメラ画面をクリックしてください。

Step 2: 画像保存ボタン  をクリックし、欲しい画像を保存します。一時停止や早送り巻き戻しを使用し保存したい画像を探してください。

Step 3: オプションとメタデータオプションを選択すると、日付時間・カメラ番号・カメラ名・メタデータを同時に保存する事ができます。デジタル PTZ 機能を有効にすれば全画面か選択された画面だけのイメージの保存が可能です。



Step4: クリップボードにコピーか保存を選択してください。保存する場合はフォルダを選択し、フォーマットイメージ(BPM or JPEG)を選択してください。

注意: 前もって画像を保存するフォルダとフォーマットを設定してある場合は、Step4は省略できます。
(詳細は53ページを参照してください)

(詳細

2.7 印刷

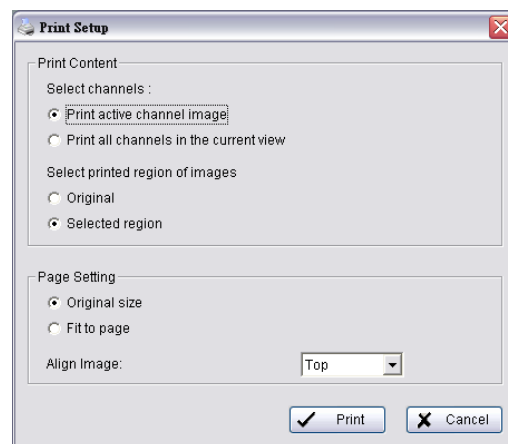
印刷ボタン  をクリックし、選択したビデオ画像を印刷します。

プリント内容:

選択したチャンネルまたは全チャンネルからの画像を印刷します。元の画像もしくはカメラ上の選択された領域を印刷します。

ページ設定:

元のサイズのまま画像を印刷するか、ページに収まるように画像を印刷するか設定できます。画像位置から上ぞろえ、中央ぞろえ、下ぞろえを選択します。



2.8 バックアップ

保存するビデオによって異なりますが、バックアップはログ情報を含めバックアップパネルから保存します。

Playback Console のすべて機能をスタートさせます。Windows 搭載の PC にバックアップファイルを入れます。リアルタイムビデオを監視しながら、同時に異なった PC でファイルをバックアップする事になります。

Step 1: “録画を開く”をクリックし、日付を選択し“バックアップ”を選択します。 

Step2: バックアップする開始時間/停止時間を調整します。

Step3: バックアップするカメラを選択します。

Step4: バックアップデータ量を計算します。

Step5: バックアップデータを保存するディレクトリを選択します(CDROM/DVD/HDD)

Step6: C バックアップしたいログにチェックを入れてください。

Step 7: OK ボタンを押すとバックアップが開始されます。

Step8: バックアップが完了した後は、Playback.bat を選択し録画データを再生します。

Step2

Step3

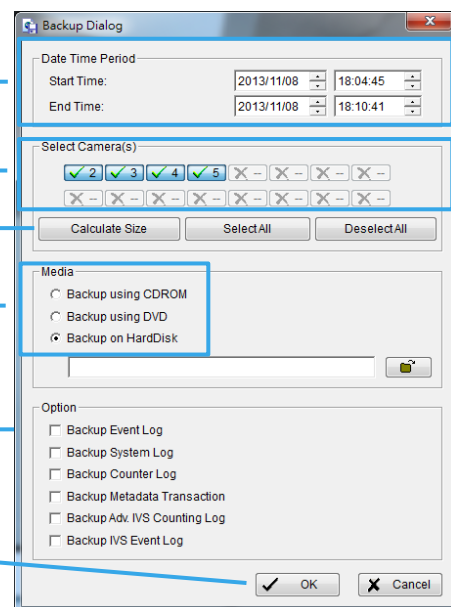
Step4

Step5

Step6

Step7

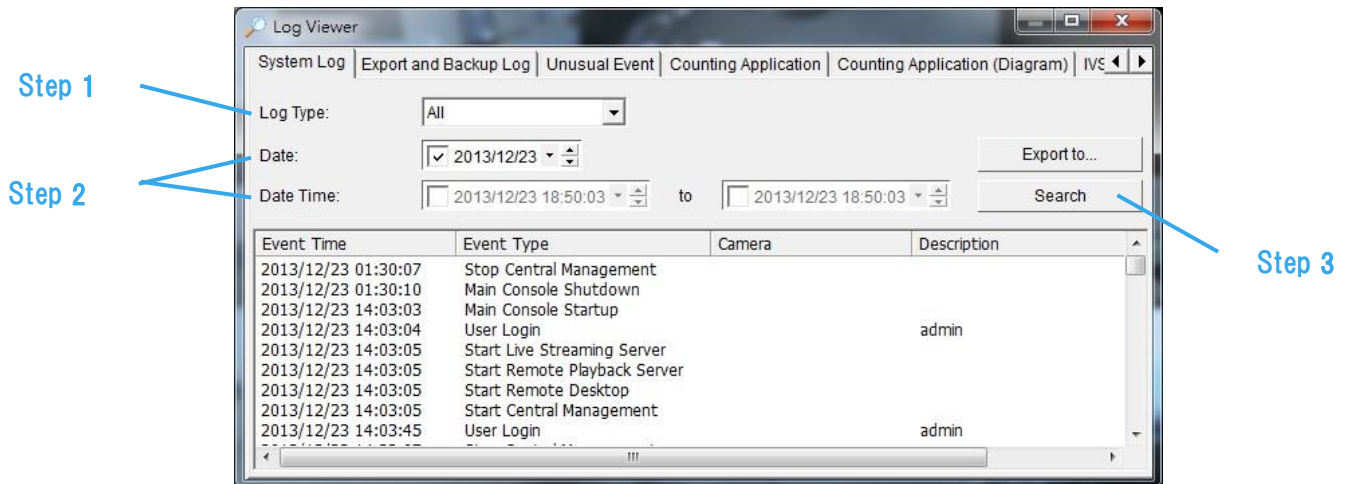
- 48 -



2.9 ログビューワ

ログビューワボタン  をクリックすると、ログビューワを起動できます。

2.9.1 システムログ



ドロップダウンメニューからログタイプを選ぶことができます。以下の 37 種類のイベントタイプがあります：

- | | |
|----------------------|-------------------------------------|
| ✓ メインコンソール起動 | ✓ リモート再生サーバー設定変更 |
| ✓ メインコンソール終了 | ✓ IP カメラ接続中断 |
| ✓ ユーザーログイン | ✓ Windows 再起動 |
| ✓ ユーザーログイン失敗 | ✓ メタデータ設定の変更 |
| ✓ スケジュール開始 | ✓ メタデータ設定の切断 |
| ✓ スケジュール終了 | ✓ E-Map 設定変更 |
| ✓ 上書き実行 | ✓ リモートデスクトップ開始 |
| ✓ チャンネル有効化 | ✓ リモートデスクトップ停止 |
| ✓ チャンネル有効化 | ✓ リモートデスクトップの設定変更 |
| ✓ スマートガード開始 | ✓ 集中管理サーバー開始 |
| ✓ スマートガード停止 | ✓ 集中管理サーバー停止 |
| ✓ スマートガード設定変更 | ✓ 集中管理サーバーの設定変更 |
| ✓ スケジュール変更 | ✓ カウントツール開始 |
| ✓ 設定変更 | ✓ カウントツール停止 |
| ✓ ライブストリーミングサーバー起動 | ✓ IP カメラ接続の回復 |
| ✓ ライブストリーミングサーバー停止 | ✓ マイクロソフト Active Directory ユーザーとの同期 |
| ✓ ライブストリーミングサーバー設定変更 | ✓ IP カメラ設定知の変更 |
| ✓ リモート再生サーバー起動 | ✓ メタデータプラグインの更新 |
| ✓ リモート再生サーバー停止 | |

Step 1: チェックしたいイベントか、もしくはすべてのイベントを、ドロップダウンメニューから選択します。

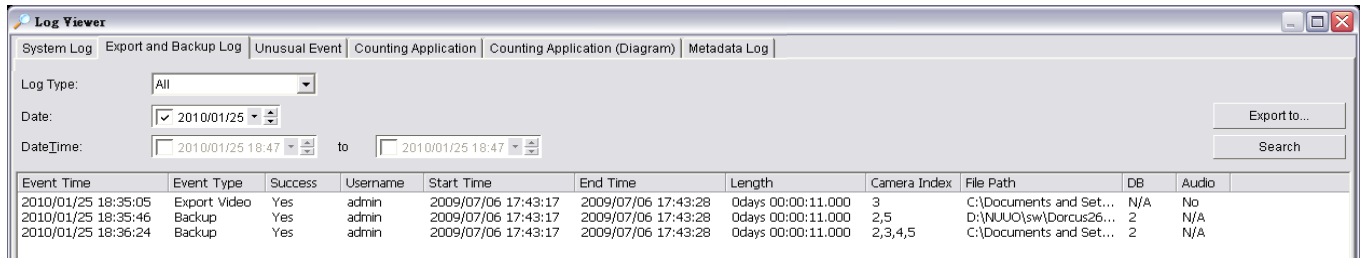
Step 2: 特定の日もしくは特定の期間内に起こったイベントを見ることができます。特定の日にあったイベントを検索するためには、「日」のボックスにチェックを入れて日付を指定してください。特定の期間にあったイベントを検索するためには、「日付時間」のボックスにチェックを入れて日付と時間を指定してください。

Step 3: “検索”ボタンをクリックしてください。

2.9.2 ログのエクスポートとバックアップ

ローカルまたはリモートユーザによって操作された、エクスポートおよびバックアップログの履歴を表示します。

Step 1: チェックしたいイベントか、もしくはすべてのイベントを、ドロップダウンメニューから選択します。

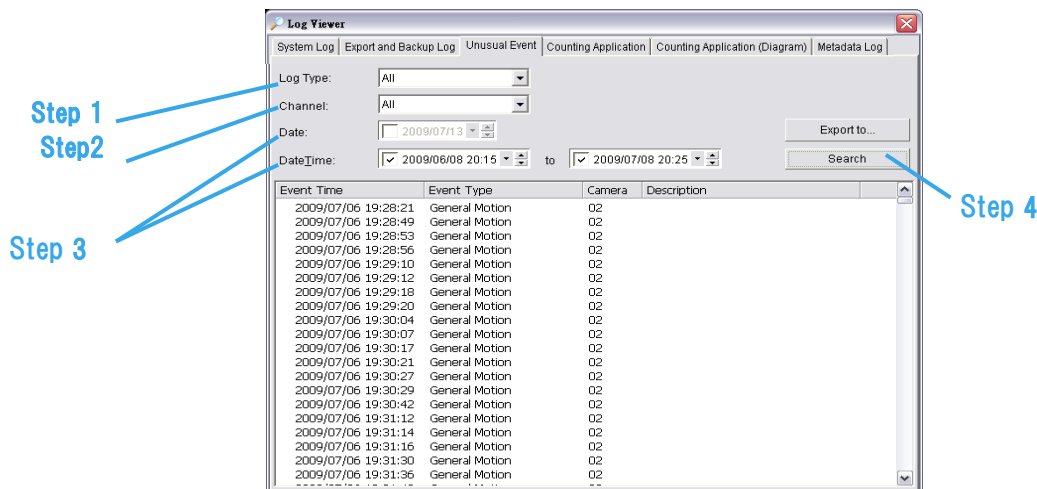


Step 2: 特定の日もしくは特定の期間内に起こったイベントを見ることができます。特定の日にあったイベントを検索するためには、“日”のボックスにチェックを入れて日付を指定してください。特定の期間にあったイベントを検索するためには、“日付時間”のボックスにチェックを入れて日付と時間を指定してください。

Step 3: “検索”ボタンをクリックしてください。

2.9.3 異常イベント

スマートガードシステムにより検出された異常イベントを表示します。



Step 1: チェックしたいイベントのタイプを選ぶか、ドロップダウンメニューから“全て”を選び、すべてのタイプのイベントを選んでください。異常イベントの種類としては次のものがあります： モーション検知、疑わしい物体の検知、遺失物検知、ピント外れ、カメラ遮断検知、シグナルロスト、HDD 容量不足、システム状態異常、デジタル入力、デバイスによるモーション検知。

Step 2: チェックしたいカメラチャンネルを選択するか、ドロップダウンメニューから“全部”を選び、有効な全チャンネルを選んでください。

Step 3: 特定の日または、指定された期間内に起こったイベントを見ることができます。

特定の日：“日”にチェックを入れ、日付を指定して下さい。

指定期間：“日付時間”にチェックを入れ、日付と時間を入力して下さい。

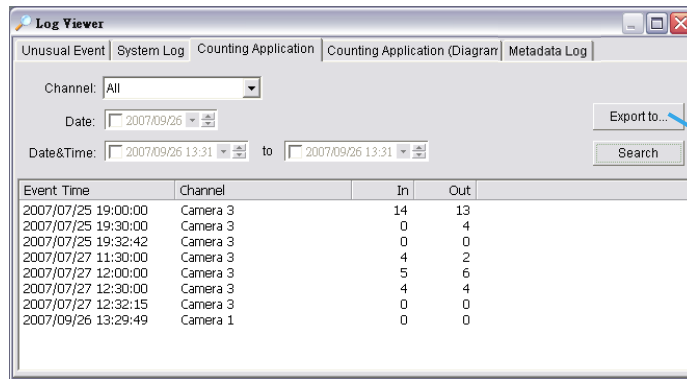
Step 4: “検索”をクリックしてください。

注記: 録画中に検索しようとしたときは、

1. ログビューワーはシステム既定の設定として、異常イベントの検索を、最後に録画を開始した日時を起点とした”日付時間”モードで検索します。
2. 各イベントが発生した次のイベント時刻に映像が記録されている場合、リンク(🔗)マークが現れます。リンクマークをクリックすると、簡易再生のためのポップアップウィンドウが表示され、録画映像が表示されます。

2.9.4 カウンティングツール

指定された期間内のカウンティングツールの履歴を表示します。



Step 1: チェックしたいチャンネルを選択するか、ドロップダウンメニューから“全て”を選びすべてのチャンネルを選択します。

Step 2: 特定の日にあったイベントまたは、特定期間内に起こったイベントを見ることができます。特定の日にあった異常イベントを検索するためには、“日”にチェックを入れて日付を指定してください。異なった2つの時間から、特定期間にあった異常イベントを検索することもできます。”日付時間”にチェックを入れ、日付と時間を入力してください。

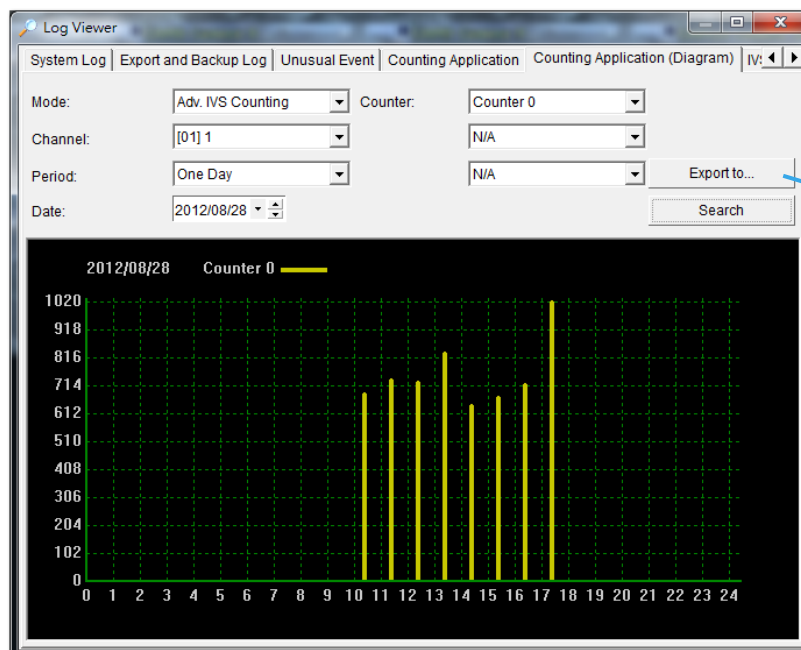
Step 3: ”検索”をクリックしてください。

Step 4: “エクスポート先...”ボタンをクリックしてください。

Step 5: ファイル名を入力して、ファイルフォーマット(.xls か .txt)を選択してください。

2.9.5 カウンティングツール(ダイアグラム)

カウンティングツールのデータをダイアグラム形式で表示します。



Step 1: チェックしたいチャンネルを選択するか、ドロップダウンメニューから“全て”を選びすべてのチャンネルを選択します。

Step 2: ドロップダウンメニューから、表示させたいダイアグラムの種類を設定します。一日、一ヶ月、一年のオプションを選択してください。

Step 3: 日付を設定し、ダイアグラムのスタート地点を決めてください。

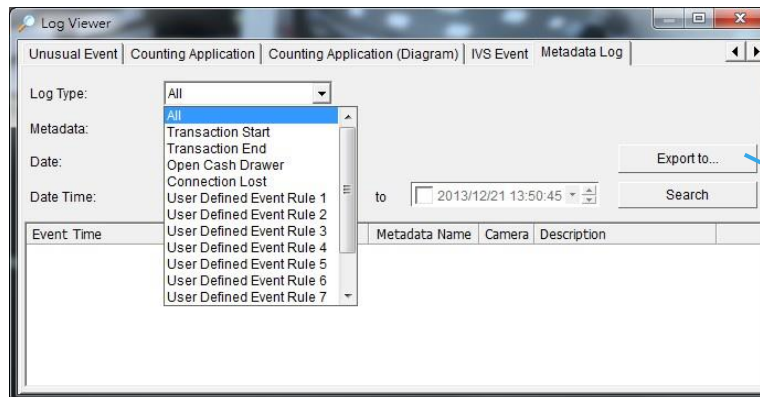
Step 4: "検索"をクリックしてください。

Step 5: "エクスポート先..."ボタンをクリックしてください。

Step 6: ファイル名を入力してください。ファイルはビットマップ(BMP)形式で保存されます。

2.9.6 メタデータログ

スマートガードシステムで検出されたメタデータのログ履歴を表示します。



Step 1: チェックしたいイベントのタイプを選択するか、ドロップダウンメニューから“全て”を選びすべてのイベントタイプを選択します。メタデータログの種類には次のものがあります: トランザクションの開始、トランザクションの停止、キャッシュレジスタオープン、接続中断、ユーザー定義イベント。詳細はメタデータプラグインのマニュアルを参照してください。

Step 2: チェックしたいカメラチャンネルを選択するか、ドロップダウンメニューから“全部”を選びすべてのチャンネルを選択します。

Step 3: 特定の日にあったイベントまたは、特定期間内に起こったイベントを見ることができます。特定の日にあった異常イベントを検索するためには、“日”にチェックを入れて日付を指定してください。異なった2つの時間から、特定期間にあった異常イベントを検索することもできます。“日付時間”のボックスにチェックを入れ、日付と時間を入力してください。

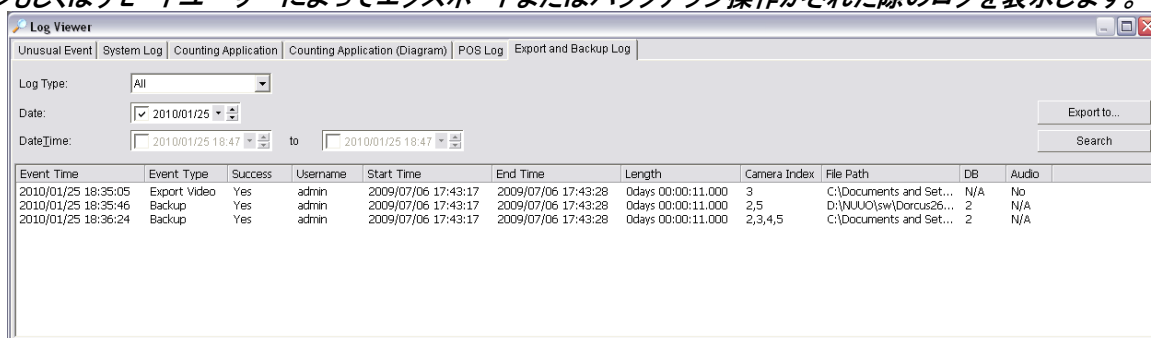
Step 4: "検索"をクリックしてください。各イベントが発生した次のイベント時刻に映像が記録されている場合、リンク (🔗) マークが現れます。リンクマークをクリックすると、簡易再生のためのポップアップウィンドウが表示され、録画映像が表示されます。

Step 5: "エクスポート先..."ボタンをクリックしてください。

Step 6: ファイル名を入力して、ファイルフォーマット(.xls か.txt)を選択して下さい。

2.9.7 エクスポートとバックアップのログ

ローカルもしくはリモートユーザーによってエクスポートまたはバックアップ操作がされた際のログを表示します。



Step 1: チェックしたいイベントのタイプを選択するか、ドロップダウンメニューから“全て”を選びすべてのイベントタイプを選択します。

Step 2: 特定の日にあったイベントまたは、特定期間内に起こったイベントを見ることができます。特定の日にあった異常イベントを検索するためには、“日”にチェックを入れて日付を指定してください。異なった2つの時間から、特定期間にあった異常イベントを検索することもできます。“日付時間”のボックスにチェックを入れ、日付と時間を入力してください。

2.9.8 エクスポート

.xls もしくは.txt フォーマットでログファイルをエクスポートすることができます。

Event Time	Event Type	Camera	Description
2013/01/28 15:38:19	Main Console Startup		
2013/01/28 15:38:40	Main Console Shutdown		
2013/01/28 15:39:58	Main Console Startup		
2013/01/28 15:40:00	User Login		admin
2013/01/28 15:40:54	Enable Channel	1	CAM1
2013/01/28 15:40:54	Enable Channel	2	CAM2
2013/01/28 15:40:54	Enable Channel	3	CAM3
2013/01/28 15:40:59	Modify Configuration		
2013/01/28 15:44:03	Start Schedule		
2013/01/28 15:49:07	Stop Schedule		

Step 1

Step 1: "エクスポート先..."ボタンをクリックしてください。

Step 2: ファイル名を入力して、ファイルフォーマット(.xls か.txt)を選択して下さい。

D1	A	B	C	D	E
1	EventTime	Event Type	Description		
2	2007/09/12 00:45:41	Main Console Startup			
3	2007/09/12 00:45:44	User Login	admin		
4	2007/09/12 01:11:10	Main Console Shutdown			
5	2007/09/12 01:27:04	Main Console Startup			
6	2007/09/12 01:27:05	User Login	admin		
7	2007/09/12 01:28:27	Main Console Shutdown			
8	2007/09/12 15:06:51	Main Console Startup			
9	2007/09/12 15:06:52	User Login	admin		
10	2007/09/12 15:07:04	Main Console Shutdown			
11	2007/09/12 15:08:28	Main Console Startup			
12	2007/09/12 15:08:40	Main Console Shutdown			
13	2007/09/12 15:08:54	Main Console Startup			
14	2007/09/12 15:09:01	Main Console Shutdown			
15	2007/09/12 15:14:11	Main Console Startup			
16	2007/09/12 15:14:12	Main Console Shutdown			
17	2007/09/12 15:14:31	Main Console Startup			
18	2007/09/12 15:15:20	Main Console Shutdown			
19	2007/09/12 19:44:15	Main Console Startup			
20	2007/09/12 19:44:58	Main Console Shutdown			
21	2007/09/12 22:51:57	Main Console Startup			
22	2007/09/12 22:51:59	Main Console Shutdown			
23	2007/09/12 22:52:14	Main Console Startup			
24	2007/09/12 22:52:18	User Login	admin		
25	2007/09/12 22:52:24	Main Console Shutdown			
26	2007/09/12 22:53:19	Main Console Startup			

.xls

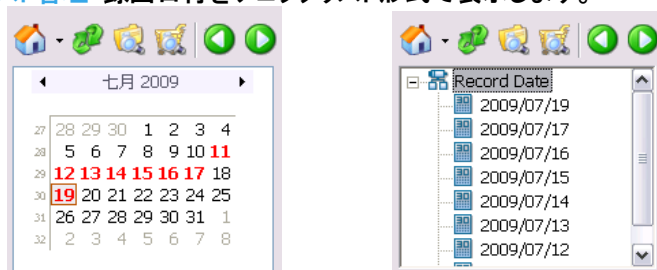
.txt

2.10 設定

一般設定ボタン をクリックし、"設定"->"システム設定"をクリックしてください。"一般設定"タブが表示されます。

"レコードディスプレイ"の設定:

- **カレンダービュー:** 録画日付をカレンダー形式で表示します。
- **リスト管理:** 録画日付をチェックリスト形式で表示します。



"再生"の設定:

- **起動してすぐ再生:** このオプションを選択すると、録画データが呼び出される毎に再生が始まるようになります。
- **動体検知時のみ録画モードのとき自動スキップ:** このオプションを選択すると、システムがモーション検知録画されたポイントまで自動的にスキップする時のための設定することができます。

- **次の間隔:** コントロールパネルの”次の間隔”をクリックしたときにスキップする期間を設定します。
- **前の間隔:** コントロールパネルの”前の間隔”をクリックしたときに、時間をさかのぼる方向にスキップする期間を設定します。

”キャプチャイメージ”の設定: どのように画像を保存するかを設定します。

- **クリップボードに保存する:** 画像はクリップボードに保存されます。画像は他のアプリケーション上で貼り付けることができます。
- **手動で画像ファイルを保存:** 画像を保存したい場所、ファイル名、フォーマットを手動で選べるようにします。
- **自動的に画像ファイルを保存:** 保存先フォルダーと画像形式を前もって設定することで、コントロールパネルの保存ボタンをクリックすると自動的に画像を保存します。

”その他”の設定

- **ビデオフレームを同期:** CPU 高負荷時に発生のある表示問題を回避するには、このオプションを選択します。

”サーバー”タブ

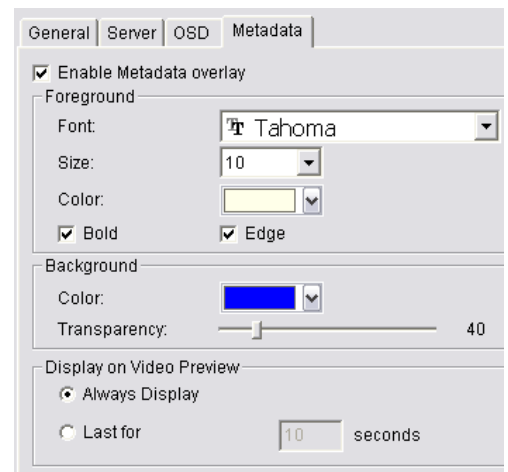
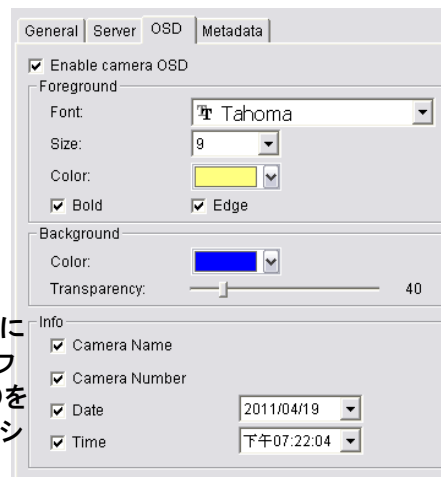
リモートプレイバックするサイトを管理します。詳しくは p.52 を参照してください。

”OSD”タブ

“カメラ OSD の有効化”にチェックをつけると、録画した映像に情報が表示されます。情報にはカメラ名、カメラ番号、日付と時刻があります。また OSD のフォント（種類、サイズ、色、文字の装飾効果）も設定できます。

”メタデータ”タブ

E”Metadata のオーバーレイを有効にする”にチェックをつけると、“フォント”セクションでフォント（種類、サイズ、色、文字の装飾効果）を設定できます。また”バックグラウンド”セクションでは背景色とその透明度が設定できます。“ビデオプレビューに表示”セクションでは表示時間（Always Display: 常に表示、もしくは継続時間の指定）が設定できます。



2.11 遠隔操作サーバ

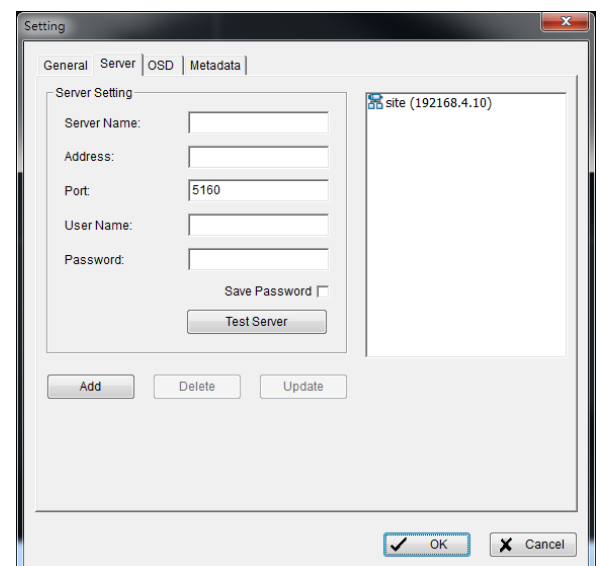
2.11.7 リモート再生サイトの追加

リモートサーバー  アイコンを押すか、“一般設定” - “設定” - “システム設定”から設定画面を開き、“サーバ”タブを選択してください。

ステップ 1: IP アドレスかドメイン名を入力します。ポート番号、ユーザー名、パスワードも入力してください。

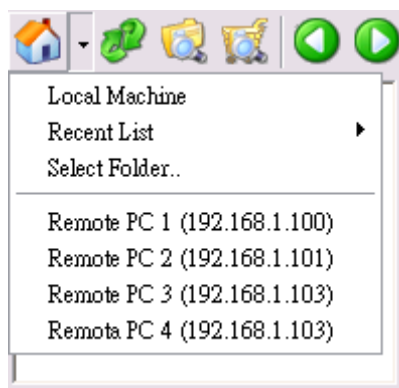
ステップ 2: “追加”をクリックし、サーバを追加します。

ステップ 3: “OK”をクリックして“設定”画面を閉じます。



2.11.8 Access Remote Playback Site リモート再生サイトへのアクセス

”日時検索ダイアログ”画面にて、画面上部の  アイコンをクリックし、リモート再生サイトへアクセスします。

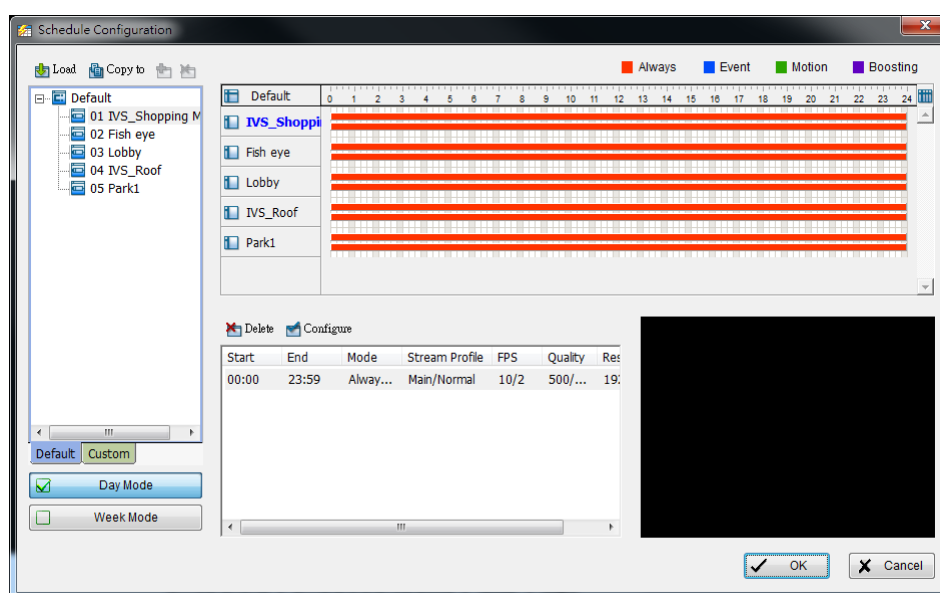


2.12 録画の切り替え

デュアル録画をサポートしていますので、右クリックメニューで表示される以下のメニューから”録画 1”もしくは”録画 2”を切り替えることができます。

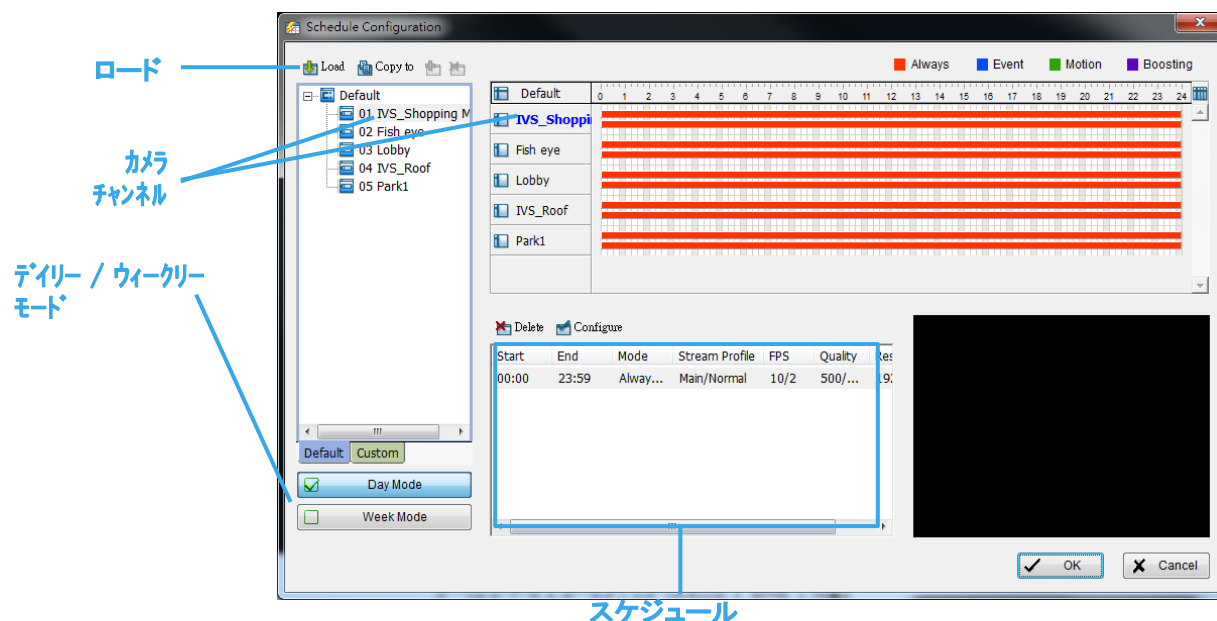


3. スケジュール



メインコンソールのスケジュールアイコンをクリックし、スケジュール環境設定パネルでビデオ録画の持続期間を設定します。

3.1 デイリー / ウィークリーモード



デイリーモード: 設定に従い、毎日同じ時刻に録画が開始、停止するようにカメラスケジュールを設定します。

ウィークリーモード: それぞれのチャンネル/カメラを週ごとに異なったスケジュールに設定します。ウィークリーモードの元で、特別な日を休日リストに追加することによってそれぞれのチャンネルがその日を日曜日モードで録画するように設定ができます。

スケジュール: 開始時刻・終了時刻、録画モード、FPS、品質及び解像度を表示します。これらの値は一般的な設定を参照しますのでご注意ください。実際のパフォーマンスはカメラとハードウェアの設定に応じて異なる場合があります。

カメラごとにスケジュールを設定するには、下記の方法があります。

1. “ロード(読み込み)” プリセットモード
2. “加える(入力)” 手動による新しいスケジュール入力
3. “コピー” スケジュールを他のカメラにコピー

3.1.1 プリセットモードの読み込み

ロードアイコン  をクリックし、ドロップダウンメニューの6つのモードから選択してください。

IP+ シリーズ (IP カメラ)

モード	フォーマット	時刻	録画モード	key frame only	Adjust video frame	プロフィール
レギュラー	M-JPEG	00:00-24:00	常時	unchecked	unchecked	メイン
	MPEG4/H.264					
オフィス	M-JPEG	08:00-20:00	常時	unchecked	unchecked	メイン
	MPEG4/H.264					
ショップ	M-JPEG	10:00-22:00	常時	unchecked	unchecked	メイン
	MPEG4/H.264					
高安全性	M-JPEG	00:00-24:00	常時	unchecked	unchecked	メイン
	MPEG4/H.264					
ディスク節約	M-JPEG	00:00-24:00	モーション	checked	10 fps	メイン
	MPEG4/H.264					
マイナー	M-JPEG	00:00-24:00	モーション	checked	5 fps	メイン
	MPEG4/H.264					

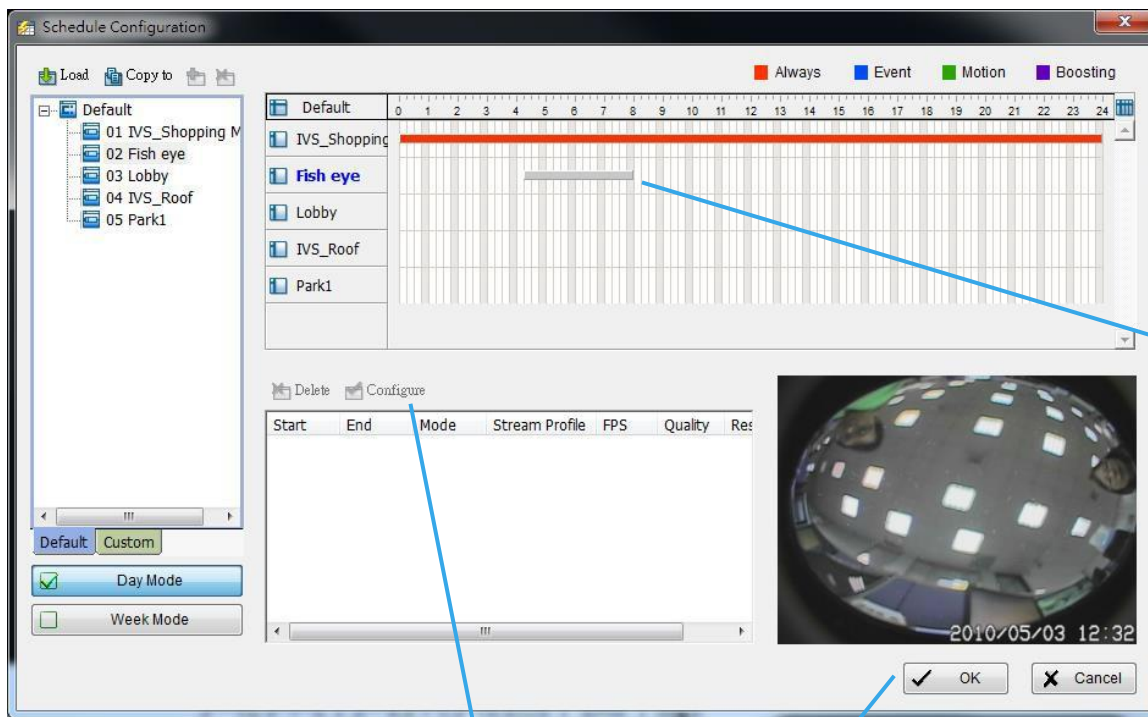
The Max indicates settings are same as camera settings in the General Setting>setting>camera>camera

SCB-6000S / 7000S / 8000HD シリーズ (アナログカメラ)

モード	フォーマット	時刻	録画モード	プロフィール
レギュラー	H.264	00:00-24:00	常時	メイン
オフィス	H.264	08:00-20:00	常時	メイン
ショップ	H.264	10:00-22:00	常時	メイン
高安全性	H.264	00:00-24:00	常時	メイン
ディスク節約	H.264	00:00-24:00	モーション	メイン
マイナー	H.264	00:00-24:00	モーション	サブ

3.1.2 新しいスケジュールの手動設定

Step 1: タイムテーブルに必要な時間を、左クリックしそのままバーに記してください。



Step 2

Step 3

Step 2: 設定アイコンをクリックするか、スケジュール情報をダブルクリックし、表示された画面上で設定変更してください。

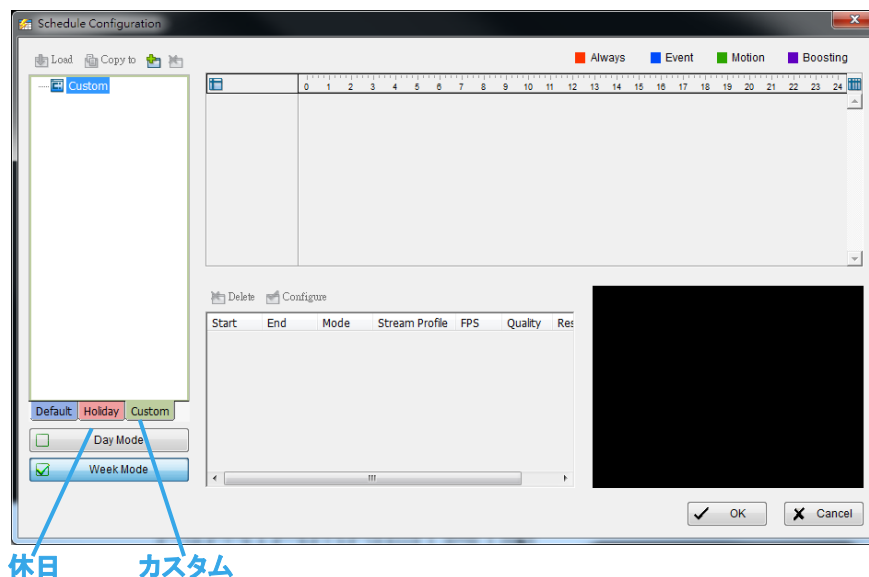
Step 3: OK ボタンをクリックします。

3.1.3 スケジュールのコピー

上記の操作を繰り返し、それぞれのチャンネル/カメラのスケジュールを設定します。もしくは、コピーボタンをクリックして一つのカメラに設定すれば、他のカメラも同じ設定となります。

3.1.4 休日/カスタム設定

ウィークリーモードでは、休日設定及びカスタム設定が可能です。カスタム設定により、特別な日を設定し別のスケジュールにすることができます。



休日: 特別な日を休日リストに追加することによってそれぞれのチャンネルが その日を日曜日モードで録画するように設定ができます。

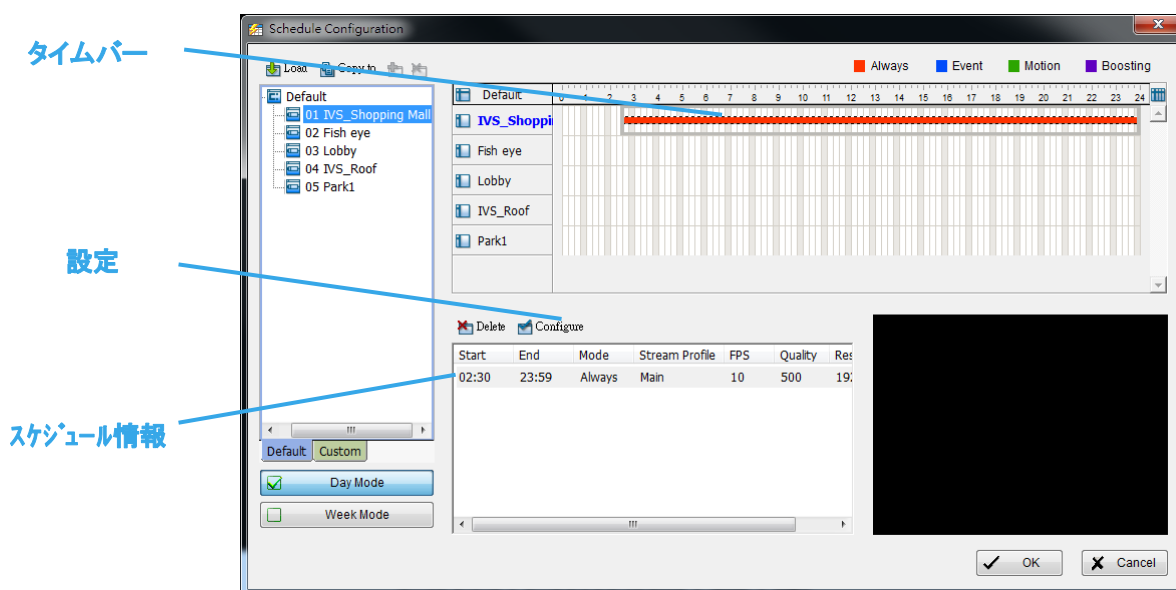
注意: デフォルトの休日設定は日曜日の設定が適用されます。

カスタム: カスタムリストに加えることによって、異なる特定のスケジュールに従って、システムが作動する日を特定することができます。

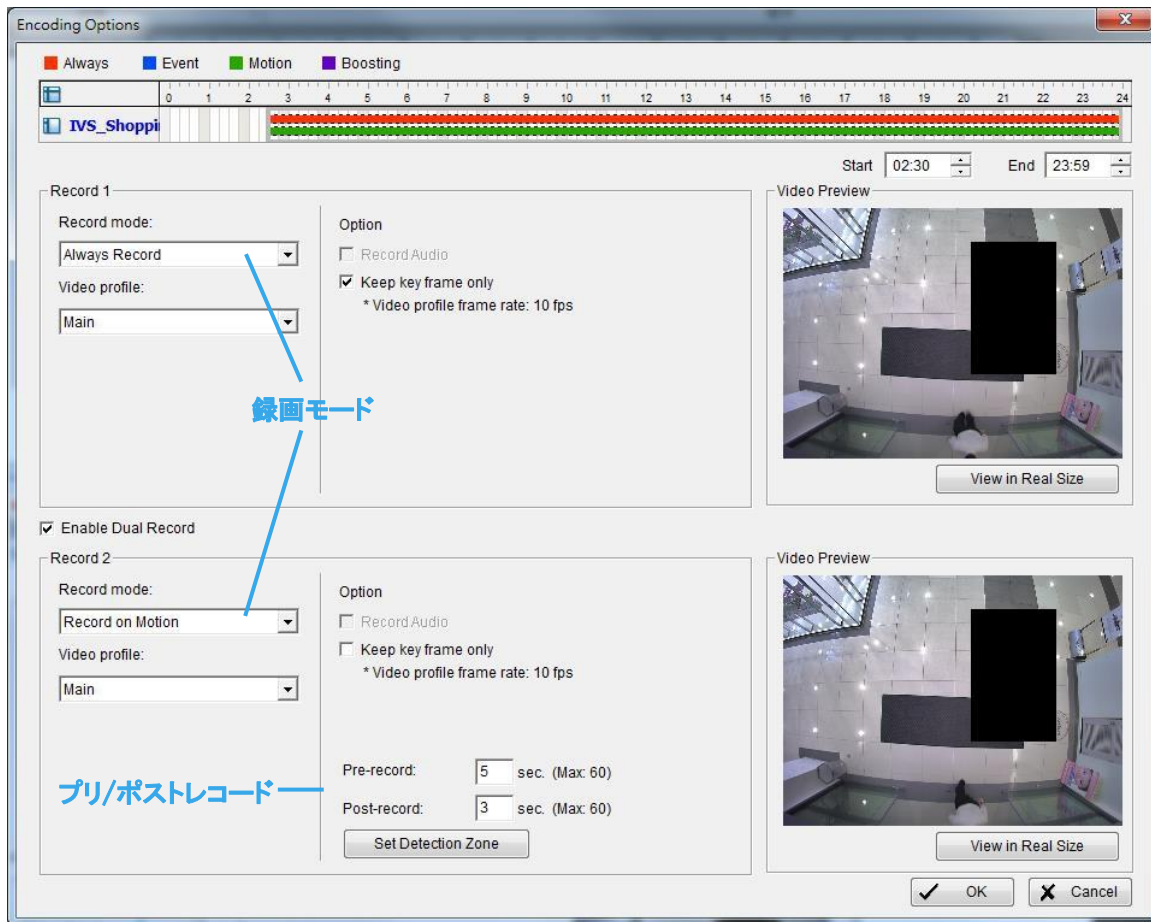
3.2 スケジュール設定の調節:

スケジュール期間を入力・読み込みした後でも、設定 を手動で変えることができます。

- ・ **オプション 1:** タイムバーのカーソルを動かし長さを調節します。またバーを横に移動させ開始時間を変更します。
- ・ **オプション 2:** 設定アイコンをクリック、またはスケジュール情報(青くハイライトしている場所)をダブルクリックし、エンコーディング オプションパネル (詳細は次のページを参照)を表示し、ご希望の設定に変えてください。



3.3 エンコーディング オプション



3.3.1 プリレコード/ ポストレコード

プリレコード、ポストレコード(録画余白)の設定をします。例えば、プリレコード時間を5秒と設定すると、イベント発生の5秒前から録画保存を開始することになります。

注意: プリレコード/ポストレコード時間は最大 60 秒です。

3.3.2 録画モード

4つの録画モードと5つのビデオプロフィールが選択できます。

常時録画:

このオプションを選ぶと、常時録画されます。

ブースティング録画:

このオプションは、通常は低いフレームレートで録画を行い、イベント発生時は高いフレームレートで録画することができます。

“イベントを選択してください”ボタンで設定画面を表示します。デバイスから任意のイベントを選択してください。選択されたイベントをトリガーとして録画を開始します。

注意: このオプションを使用するにはスマートガードを有効にする必要があります。

イベント録画:

デバイスのスマートガードイベント、デジタル入力等所定のイベントで録画を開始する場合、このオプションを選択してください。

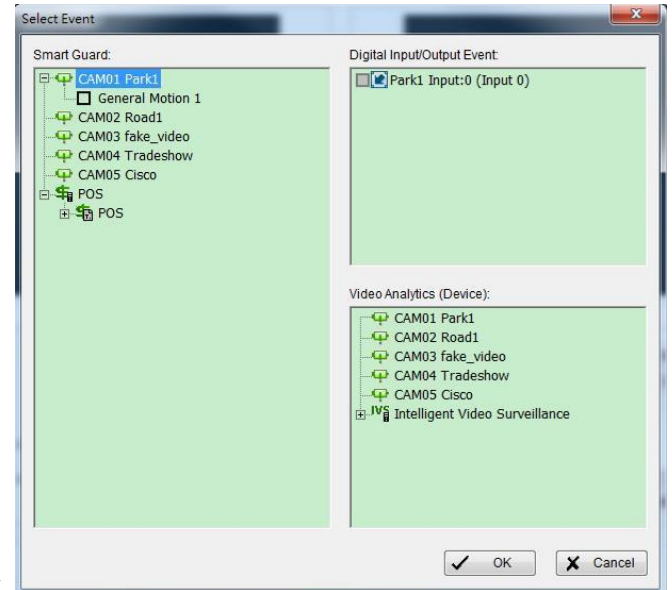
“イベントを選択してください”ボタンで設定画面を表示します。デバイスから任意のイベントを選択してください。選択されたイベントをトリガーとして録画を開始します。

注意: このオプションを使用するにはスマートガードを有効にする必要があります。

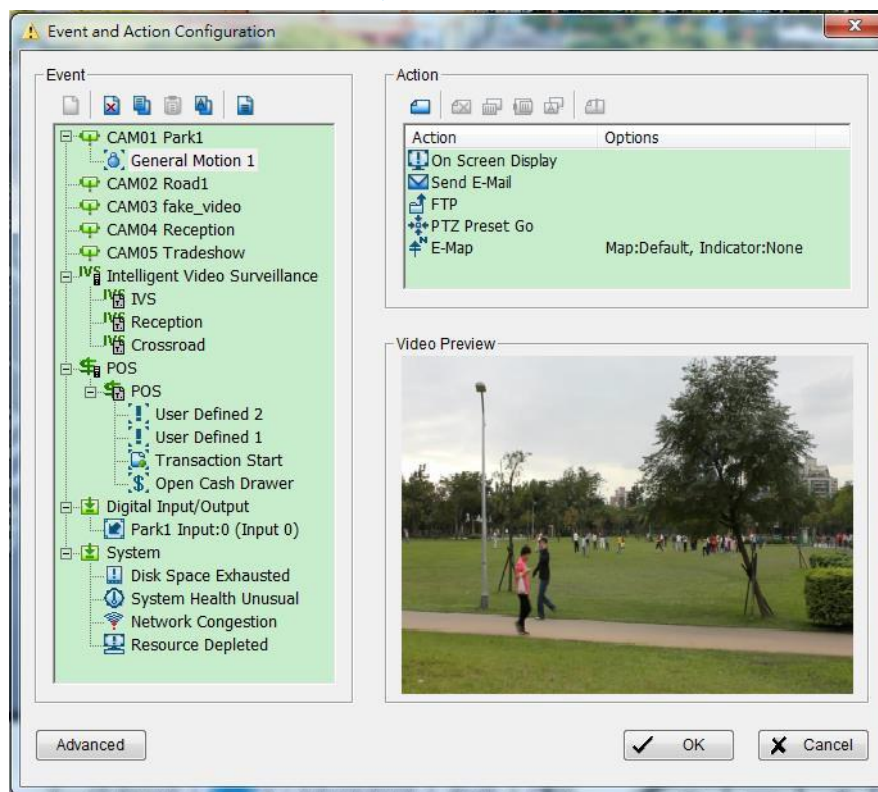
モーション録画:

このオプションを選ぶと、モーション検知されている時に録画が始まります。モーション検知するには、検知ゾーンを設定しなければなりません。左クリックし、そのまま検知ゾーンを囲ってください。繰り返し操作することで、いくつかの検知ゾーンを設定することができます。All ボタンにより、全体を検知ゾーンとして選択できます。感度とフレーム間隔を設定することもできます。

注意: 検知ゾーン数最大値:10

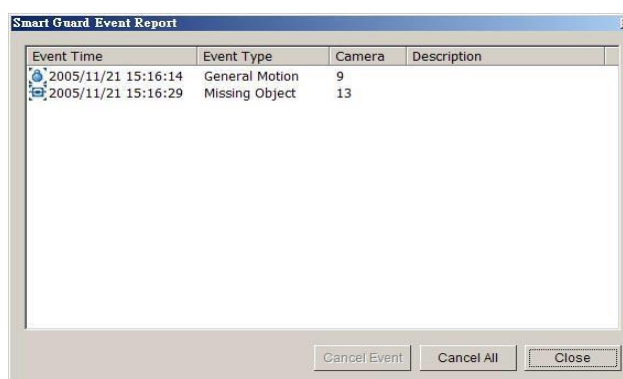


4. ガード



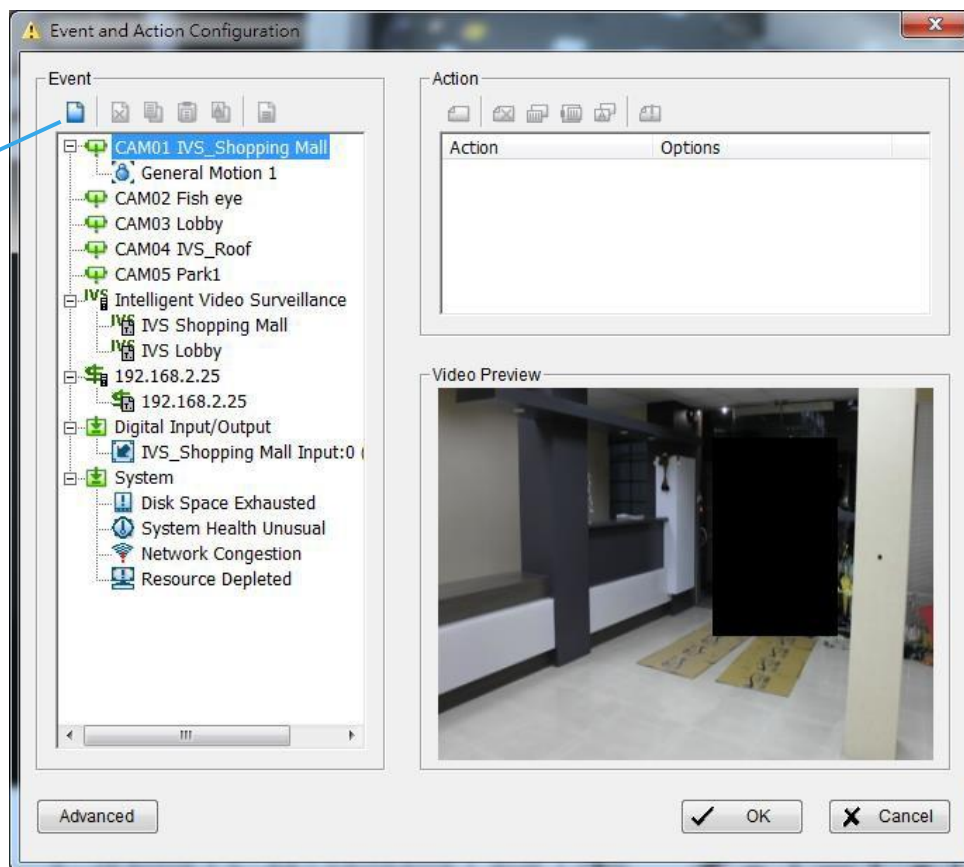
メインコンソールのガードボタンを押し、スマートガード設定画面より設定を開始します。スマートガード設定画面より、特定のイベントが検知された際、システムが動作するよう設定します。

1. **クリスタルボール:** システムの作動状況を示します。(灰色-休止、青-録画中、赤-イベント検知中)クリスタルボールが赤の場合、クリックしイベント検知をキャンセルしてください。
2. **イベントレポート:** クリスタルボールが赤になった場合、クリックしてスマートガードイベントレポートを取得してイベントを取り消します。



4.1 イベント

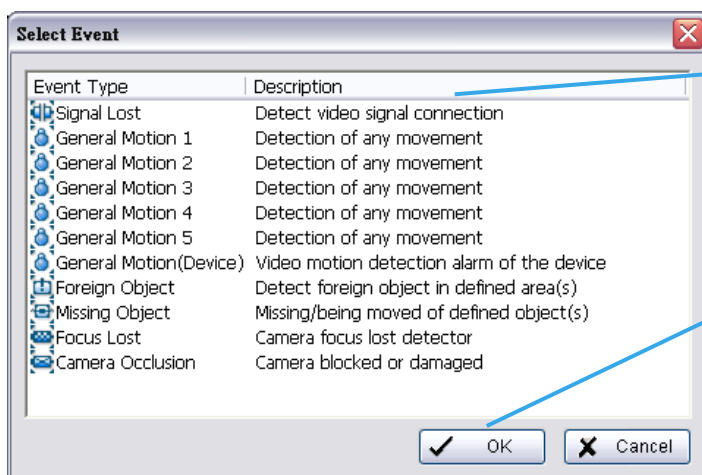
Step 1



イベントの基となるものは、カメラ（ビデオイメージ）、IVS (Intelligent Video Surveillance)、メタデータ、デジタル入力/出力 及び、システムの 5 種類あります。

4.1.1 カメライベントの割り当て

Step 1: カメラリストからチャンネルを選択し、 (イベント追加)アイコンをクリックしてください。



Step 2

Step 3

Step 2: イベントは6つのタイプがあります。(シグナルロスト、動作検知、疑わしい 物品の検知、遺失検知、ピント外れ、カメラの遮断検知)

必要なタイプを選択してください

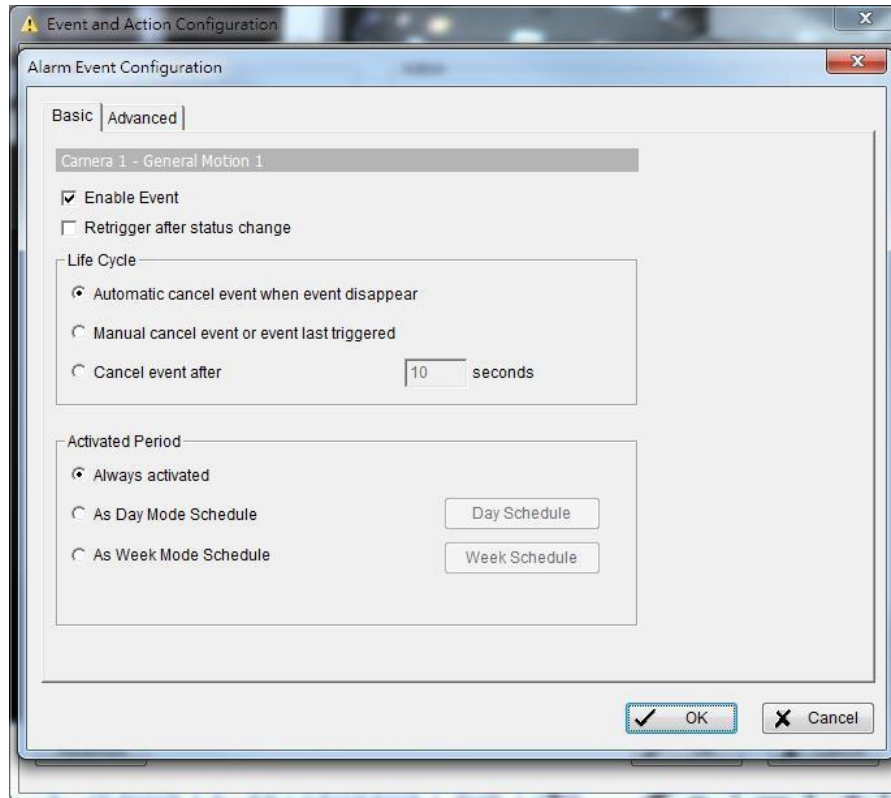
Step 3: OK ボタンをクリックしてください。

4.1.2 カメライベント - 基本設定

[シグナルロスト、動作検知、疑わしい 物品の検知、遺失検知、ピント外れ、カメラの遮断検知]

イベントを有効にする: 有効にする場合はチェックを入れてください。

ステータス変更後、リトリガーします: 有効にする場合はチェックを入れてください。[フォーカスロスト、カメラ閉塞、接続ロス、デジタル入力/出力]

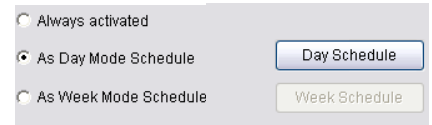


ライフサイクル:

- **イベント消去後アラームを自動的に取り消し:** 異常な状態がいったん修正、もしくは終了すると、アラーム/アクションが自動的にとまります。
- **イベント消去後アラームは手動で取り消す:** メインコンソールからキャンセルされるまでアラーム/アクションが続きます。

Note: イベントを取り消す:

- 1: <起動>→<イベントレポート>→<すべてのイベントを取り消す>
- 2: 赤いクリスタルボールをクリックしてスマートガードイベントレポートを取得してイベントを取り消します。

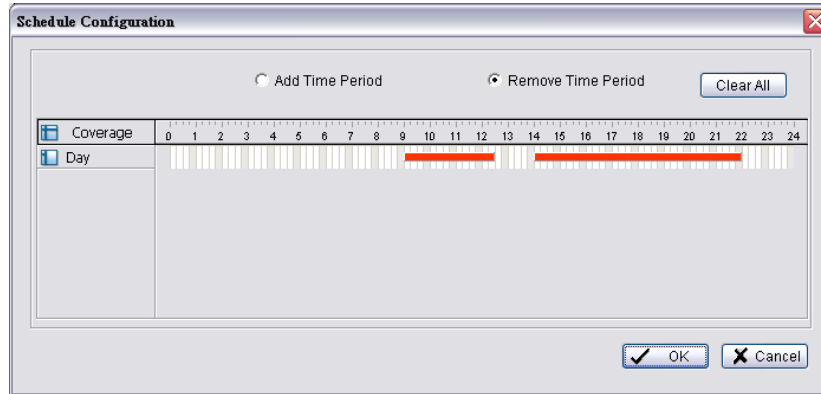


- **タイムアウトの後にイベントを取り消す:** 有効にして、特定の時間後にイベントをキャンセルするためのタイマーをセットします。

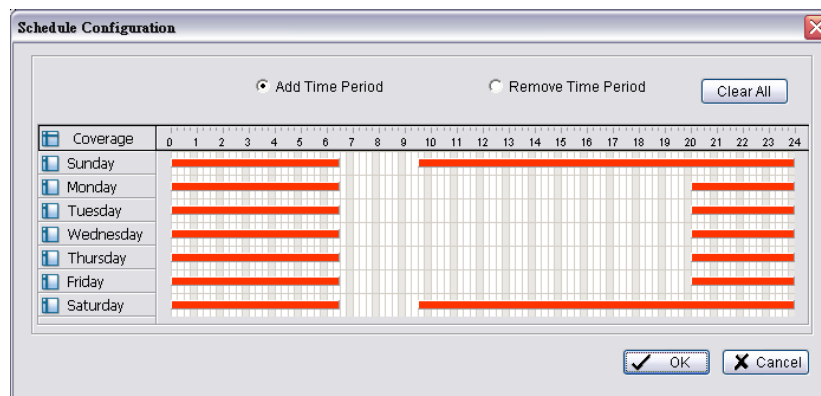
作動時間:

- **常時作動:** アラームが常時有効になります。
- **日単位のスケジュール:** アラームが作動する特定の時間をカスタマイズします。アラームが設定に従って毎日利用できるようになります。
“日単位のスケジュール”ボタンを押し、設定画面を表示します。
“時間範囲を加える”を選択し、マウスドラッグでバーを追加してください。削除する場合は“期間設定を削除”を選択し、マウスドラッグでバーを削除してください。

”クリア”ボタンで設定をクリアできます。



- 週単位のスケジュール:** 曜日ごとにアラームが作動する時間を設定します。“週単位のスケジュール”ボタンを押し、設定画面を表示します。
 “時間範囲を加える”を選択し、マウスドラッグでバーを追加してください。削除する場合は”期間設定を削除”を選択し、マウスドラッグでバーを削除してください。”クリア”ボタンで設定をクリアできます。

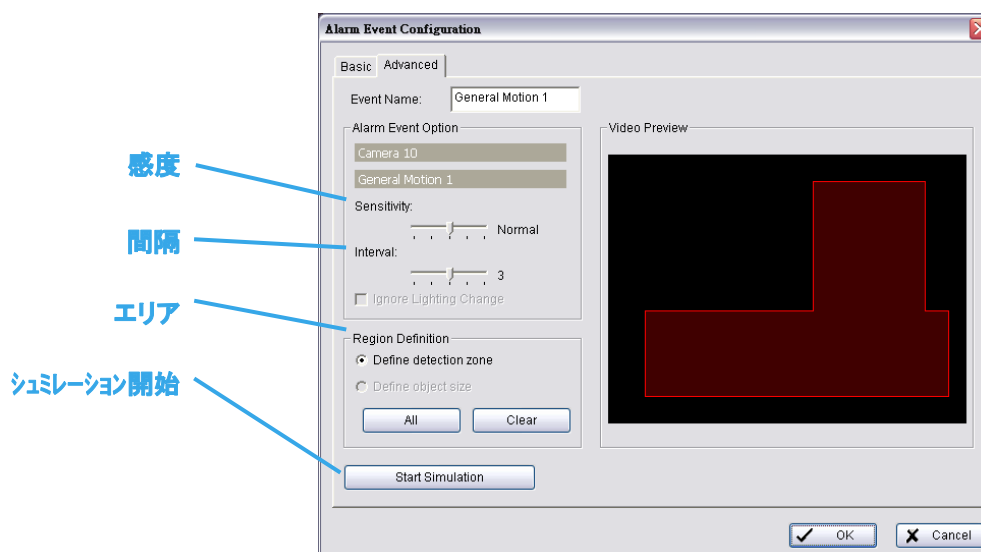


4.1.3 カメライベント - シグナルロスト

カメラの映像信号のロストを検出します。

4.1.4 カメライベント - 動作検知

定義された検出エリア内の任意の動きを検出します。



イベント名: 任意のイベント名を入力します。

アラームイベントオプション:

- **感度:** スライダーを動かして感度を調節します。右方向に動かすと感度レベルが上がり、わずかな動きでも感知し反応しやすくなります。反対に左方向に動かすと感度が下がります。誤作動が頻発しないためにも、適切な感度調節をお勧めします。例えば風で木が揺れるだけで反応するなら、感度を下げることをお勧めします。
- **間隔:** スライダーをクリックし右側に動かすと、間隔が増加し動作がより長く続いた際に反応します。左側に動かすとインターバルは短くなります。

エリア設定:

- **検知エリアの定義:** 動作検知を検知するとき、検知エリアを設定してください。左クリックし、検知したいエリアをマウスで描いてください。同じ操作を繰り返すといくつものエリアを設定できます。”すべて”ボタンを押せば全エリアを選択できます。

シュミレーション開始: シュミレーション開始ボタンを押し、プレビュー画面で検知状況を確認してください。

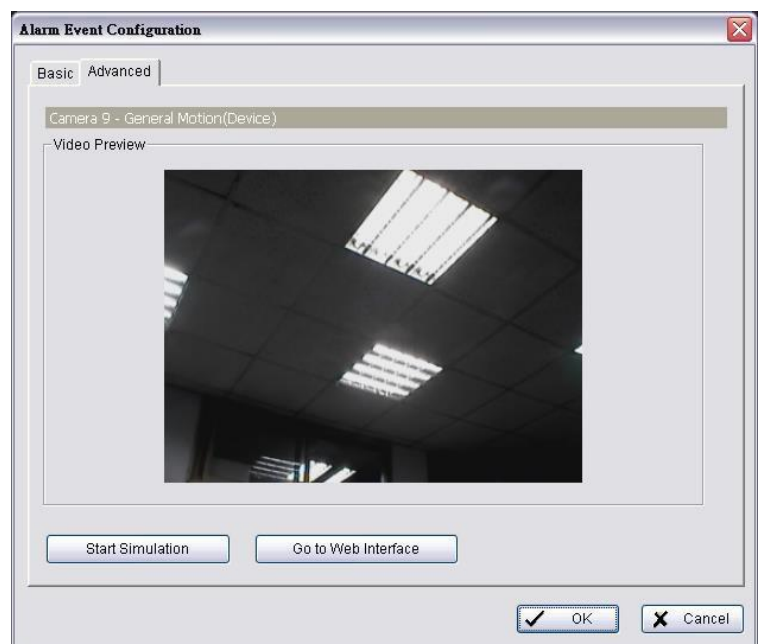
4.1.5 カメライベント - 動作検知 (デバイス)

IP カメラやビデオサーバー等デバイスのモーションを検出します。

注意: この処理は、モーション機能を持つデバイスのみ使用可能です。

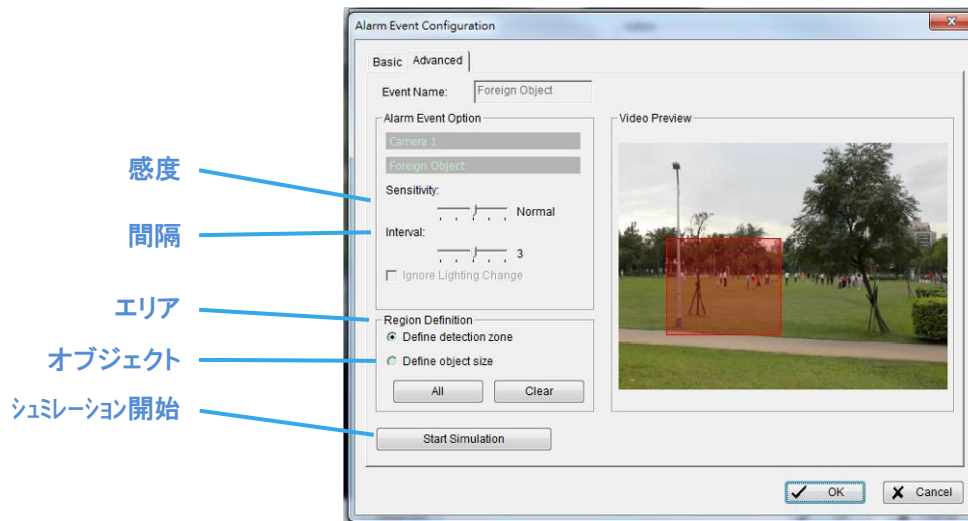
モーション機能の設定については、ご使用のデバイスのマニュアルをご参照ください。

- **シュミレーション開始**
クリックすると、プレビュー画面で検知状況を確認できます。
- **Web 設定を開く**
クリックすると、デバイスの Web ページに移動します。



4.1.6 カメライベント - 不審物検知

設定されたエリアに疑わしい物品が検知されたときにアラームが発生します。



アラームイベントオプション:

- **感度:** スライダーを動かして感度を調節します。右方向に動かすと感度レベルが上がリ、わずかな動きでも感知し反応しやすくなります。反対に左方向に動かすと感度が下がります。誤作動が頻発しないためにも、適切な感度調節をお勧めします。例えば風で木が揺れるだけで反応するのなら、感度を下げることをお勧めします。
- **間隔:** スライダーをクリックし右側に動かすと、間隔が増加し動作がより長く続いた際に反応します。左側に動かすとインターバルは短くなります。

エリア設定:

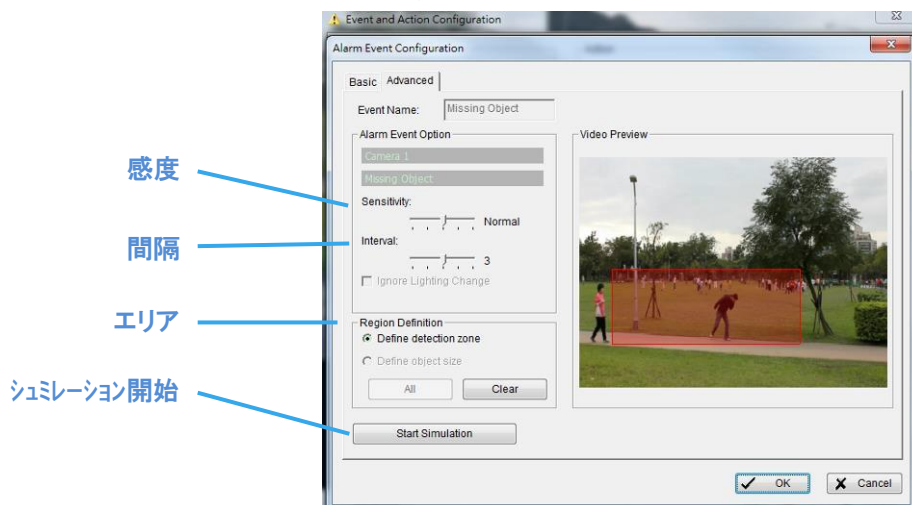
- **検知エリアの定義:** 疑わしい物品を検知する場合、検知ゾーンと検知したい物体の大きさを 特定してください。左クリックを押し、検知ゾーンをマウスで描いてください。
- **オブジェクトサイズの定義:** 検知ゾーンを設定したら、オブジェクトサイズ定義を選択してください。左クリックし、検知したい物体の大きさをマウスで描いてください。

注意: 例えば、もし誰かが鞆を置き忘れるのを防ぎたい場合、カメラが向け ているホールに鞆を置き、カメラの画面上で、鞆に合う大きさを物体 の大きさとして認識させます。それから、スマートガードをメインコンソールで起動させる 前に、鞆を取り除きます。その後モニター機能を開始すれば、システムは画面上 の状態が正常とみなします。

シミュレーション開始: シミュレーション開始ボタンを押し、プレビュー画面で機能を確認してください。

4.1.7 カメライベント - 遺失検知

設定されたスクリーンエリアから物体がなくなった場合、アラームが発生します。

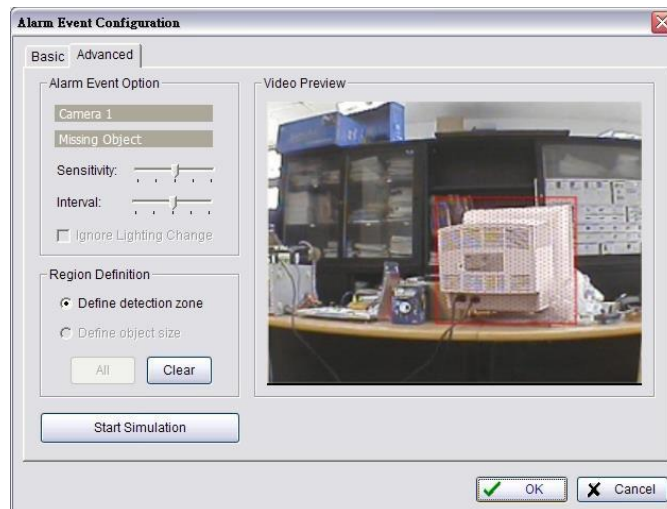


アラームイベントオプション:

- **感度:** スライダーを動かして感度を調節します。右方向に動かすと感度レベルが上がり、わずかな動きでも感知し反応しやすくなります。反対に左方向に動かすと感度が下がります。誤作動が頻発しないためにも、適切な感度調節をお勧めします。例えば風で木が揺れるだけで反応するなら、感度を下げることをお勧めします。
- **間隔:** スライダーをクリックし右側に動かすと、間隔が増加し動作がより長く続いた際に反応します。左側に動かすとインターバルは短くなります。

エリア設定:

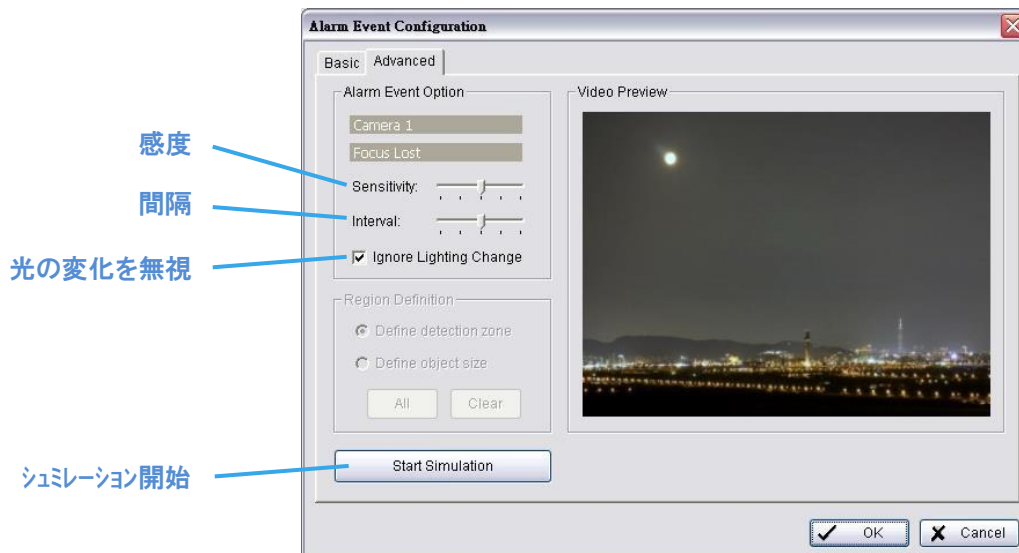
- **検知エリアの定義:** 物品を検知する場合、検知ゾーンと検知したい物体の大きさを 特定してください。左クリックを押し、検知ゾーンをマウスで描いてください。
注意: 例えば誰かが机上のコンピュータモニターを動かさないようにしたいなら、その大きさの範囲を描いてください。



シミュレーション開始: シミュレーション開始ボタンを押し、プレビュー画面で機能を確認してください。

4.1.8 カメライベント - ピント外れ

この機能は、カメラが焦点を失ったとき、画像がぼやけたときにアラームで知らせる機能です。



アラームイベントオプション:

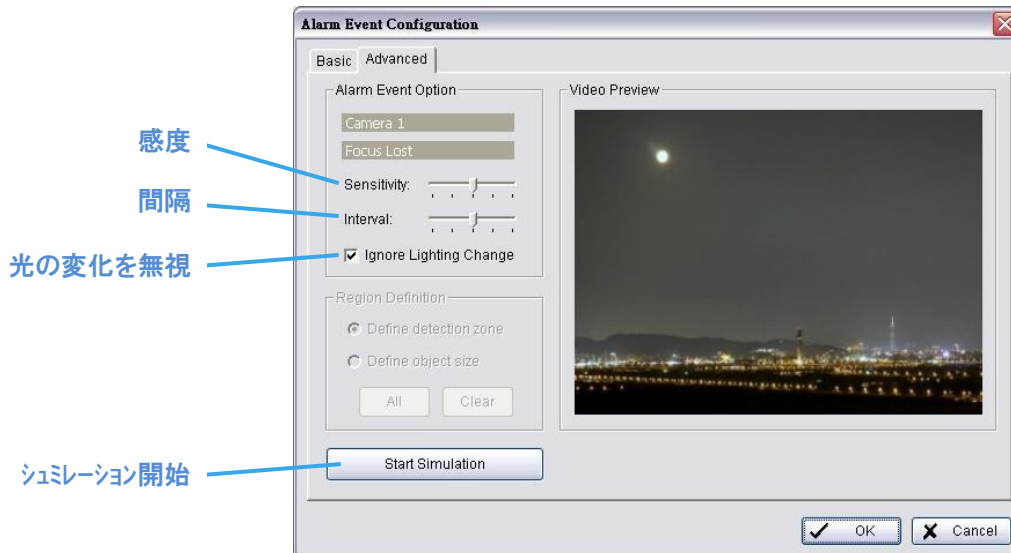
- **感度:** スライダーを動かして感度を調節します。右方向に動かすと感度レベルが上がり、わずかな動きでも感知し反応しやすくなります。反対に左方向に動かすと感度が下がります。誤作動が頻発しないためにも、適切な感度調節をお勧めします。例えば風で木が揺れるだけで反応するなら、感度を下げることをお勧めします。
- **間隔:** スライダーをクリックし右側に動かすと、間隔が増加し動作がより長く続いた際に反応します。左側に動かすとインターバルは短くなります。

- **光の変化を無視:** チェックを入れると、光の変化によるアラームの発生が無視されます。

シュミレーション開始: シュミレーション開始ボタンを押し、プレビュー画面で機能を確認してください。

4.1.9 カメライベント - カメラ閉塞検知

何らかの要因によりカメラが塞がれたときにアラームが発生します。



Alarm Event Option:

- **感度:** スライダーを動かして感度を調節します。右方向に動かすと感度レベルが上がり、わずかな動きでも感知し反応しやすくなります。反対に左方向に動かすと感度が下がります。誤作動が頻発しないためにも、適切な感度調節をお勧めします。例えば風で木が揺れるだけで反応するなら、感度を下げることをお勧めします。
- **間隔:** スライダーをクリックし右側に動かすと、間隔が増加し動作がより長く続いた際に反応します。左側に動かすとインターバルは短くなります。
- **光の変化を無視:** チェックを入れると、光の変化によるアラームの発生が無視されます。

シュミレーション開始: シュミレーション開始ボタンを押し、プレビュー画面で機能を確認してください。

4.1.10 メタデータイベント - メタデータイベント割り当て

Step 1: リストからメタデータデバイスを選択して、イベントを挿入するために  をクリックします。

注意: 最初に一般設定のメタデータアプリケーションにメタデータデバイスを挿入してください。

Step 2: 取引開始、取引終了、レジオープン、接続ロストおよびユーザー定義: イベントの 5 種類があります。イベントを選択し、[OK]をクリックします。

レジオープンイベントは POS のメタデータ・デバイスでのみ利用可能であることに注意してください。



取引開始 - 取引の開始を検出します。



取引終了 - 取引の終了を検出します。

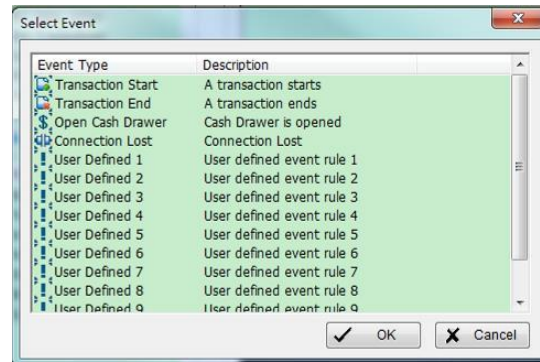


レジオープン - レジのオープンを検出します。



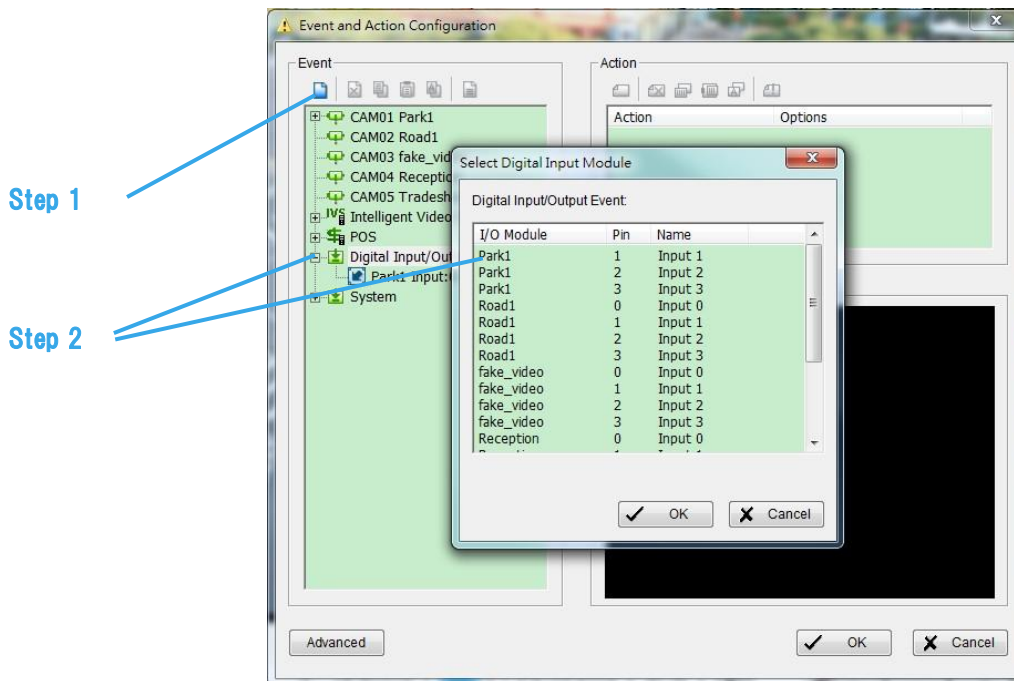
接続ロスト - メタデータデバイスとメインコンソール間の接続異常を検出します。

ユーザー定義 - ユーザによって定義された任意の状態を検出します。



Step 3: イベントの種類の設定は一般設定で行います。詳細については、メタデータプラグインのユーザーマニュアルを参照してください。

4.1.11 デジタル入力/出力イベント



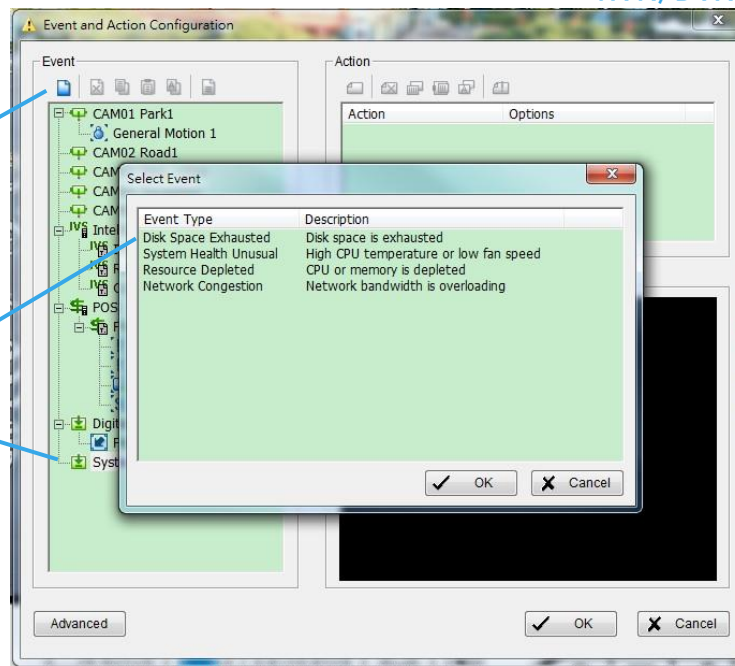
Step 1: イベントタイプリストのデジタル入力/出力をクリックし、 アイコンをクリックしてください。

Step 2: システムに接続されている入出力デバイスを選択します。

4.1.12 システムイベント - システムイベントの割り当て

Step 1

Step 2



Step 1: イベントタイプリストのシステムをクリックし、 アイコンをクリックしてください。

Step 2: 検知したいシステムイベントを選択してください。

4.1.13 システムイベント - HDD 容量不足

この機能はHDD容量が不足したときにアラームで警告する機能です。

4.1.14 システムイベント - システム温度異常

これは CPU の温度が高すぎる場合やファンスピードが低すぎる場合、アラームで知らせる機能です。

現在状況: CPU 温度、マザーボード温度、ファン回転数の状況表示

オプション: Celsius(摂氏) Fahrenheit(華氏)を選び CPU 温度、ファン速度の最大値と最小値を設定してください。

4.1.15 システムイベント - リソースが削除されました

これは CPU かメモリーのリソースが枯渇している場合、アラームで知らせる機能です。

現在状況: 現在の CPU トータル負荷とメモリーのトータル負荷を示しています。

オプション: CPU とメモリー負荷(%)の最大値を設定して下さい。

4.1.16 システムイベント - ネットワーク高負荷

これはネットワーク帯域幅が過負荷の場合、アラームで知らせる機能です。

現在状況: 現在のトータルネットワーク帯域幅及び、トータルダウンロードビットレートを示しています。

オプション: アップロードビットレート最大値とダウンロードビットレート最大値を設定して下さい。(Kbps)

System Health Unusual

Alarm Event Configuration	
Basic	Advanced
Current Status	
CPU Temperature:	0C
Motherboard Temperature:	0C
Fan Speed:	0 RPM
Power Fan Speed:	0 RPM
Options	
Temperature Format:	☒ Celsius ☐ Fahrenheit
High temperature alarm at:	70C
High Motherboard Temperature Alarm at:	70C
Low Fan Speed Alarm at:	1000 RPM
Low Power Fan Speed Alarm at:	1000 RPM
<input checked="" type="button"/> OK Cancel	

Resource Depleted

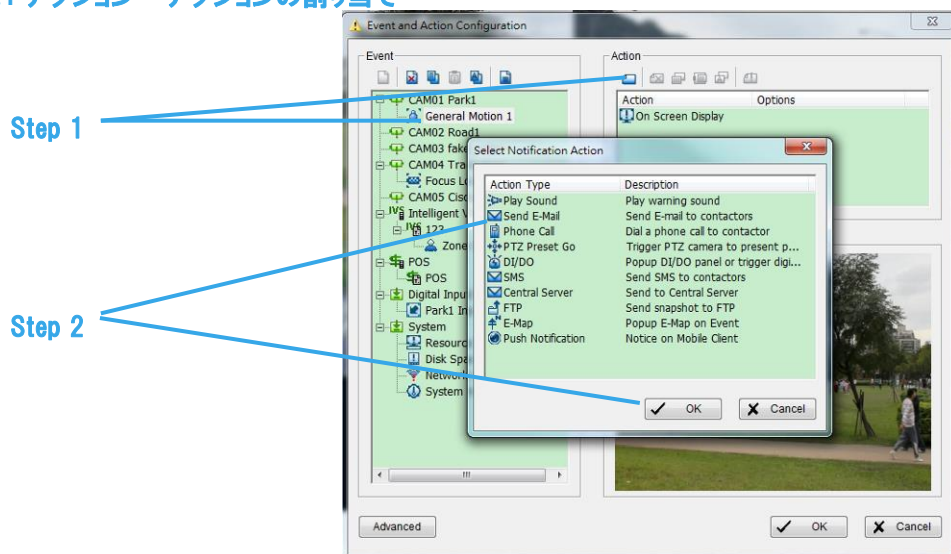
Alarm Event Configuration	
Basic	Advanced
Current Status	
Total CPU Loading	81 %
Total Memory Usage	64 %
Options	
High CPU Loading Alarm at:	70 %
High Memory Usage Alarm at:	70 %
<input checked="" type="button"/> OK Cancel	

Network Congestion

Alarm Event Configuration	
Basic	Advanced
Current Status	
Total Upload Bitrate	0 Kbps
Total Download Bitrate	0 Kbps
Options	
High Upload Bitrate Alarm at:	100 Kbps
High Download Bitrate Alarm at:	100 Kbps
<input checked="" type="button"/> OK Cancel	

4.2 アクション

4.2.1 アクション - アクションの割り当て



Step 1: イベントを選択し、 アイコンをクリックしてください。

Step 2: アクションタイプリストからご希望のアクションを選択し、OK ボタンを押して下さい。

- | | |
|----------------|------------|
| 1. 画面表示 | 6. デジタル入出力 |
| 2. 音声を鳴らす | 7. SMS |
| 3. メール発送 | 8. 中央サーバー |
| 4. 電話通告 | 9. FTP |
| 5. PTZ プリセット移動 | 10. E-Map |
| | 11. プッシュ通知 |

Step 3: 必要に応じてアクションタイプの環境設定を行ってください。

4.2.2 アクションタイプ - 画面表示

メインコンソールの画面に赤い警告ランプが光り、異常イベントが検知されたことを示します。

Step 1: 画面表示アクションを選択し、OK をクリックして下さい。

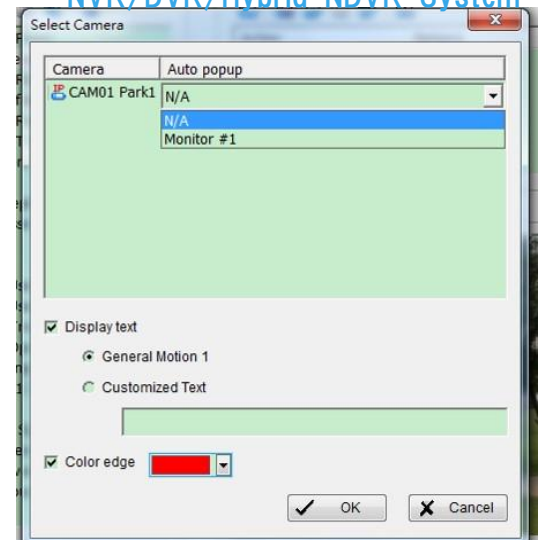
Step 2: “画面表示”インジケータを選択し、設定を行って下さい。

カメラ: 表示されるカメラを選択します。

自動ポップアップ: 表示されるモニターを選択できます。

ディスプレイテキスト: “一般動体検知”、または任意のカスタマイズテキストを入力して下さい。

カラーエッジ: イベント表示時のカラーエッジを選択できます。



4.2.3 アクションタイプ - 音声を鳴らす

音声による警告です。wave ファイル(.wav)を選択すると、イベントが検知された際、アラーム音で警告します。

Step 1: 音声を鳴らすアクションを選択し、OK をクリックして下さい。

Step 2: wave ファイル選択画面が表示されます。任意の音声を選択してください。

4.2.4 アクションタイプ - メール送信

イベントが検知された際に撮られた画像を、指定の送信先にメール発送します。

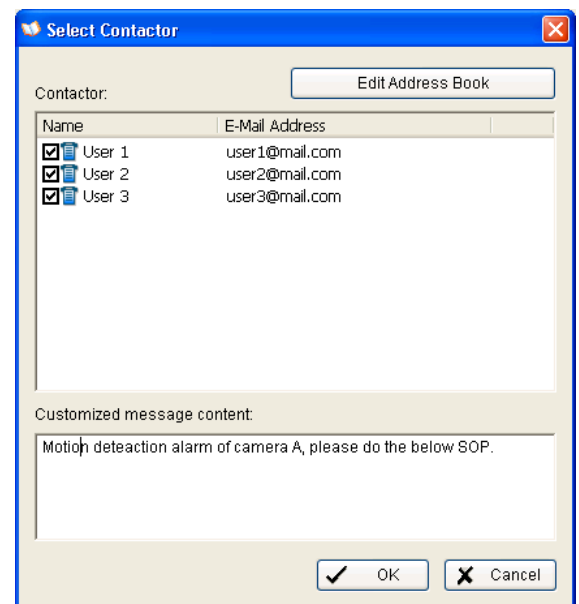
Step 1: メール発送アクションを選択し、OK をクリックして下さい。

Step 2: 連絡先選択画面が表示されます。任意の連絡先を選択し、OK をクリックして下さい。(一度に複数の連絡先を選択可能です)

アドレスブックの編集: システム設定>設定>アドレスブックで編集してください。

注意:

1. メールアカウントを登録するには、システム設定>設定>ホットラインの順に進んでください。
2. デジタル入力のイベントの場合、この警告アクションは、関連付けられたカメラのスナップショットを送信します。詳細については I/ 0 の設定を参照してください。



4.2.5 アクションタイプ - 電話通告

イベントが検知された場合、電話によってお知らせするシステムです。

Step 1: 電話通告アクションを選択し、OK をクリックして下さい。

Step 2: 連絡先選択画面がポップアップされます。任意の連絡先を選択し、OK をクリックして下さい。(一度に1つのみ連絡先を選択できます)

注意: 電話番号をシステムに登録し、電話通告をする場合、システム設定>設定>ホットラインの順に進んでください。

4.2.6 アクションタイプ - PTZ プリセット移動

イベントが検知されたとき、PTZ (パン・チルト・ズーム) カメラがプリセット点へ移動する機能です。

Step 1: PTZ プリセット移動アクションを選択し、OK をクリックして下さい。

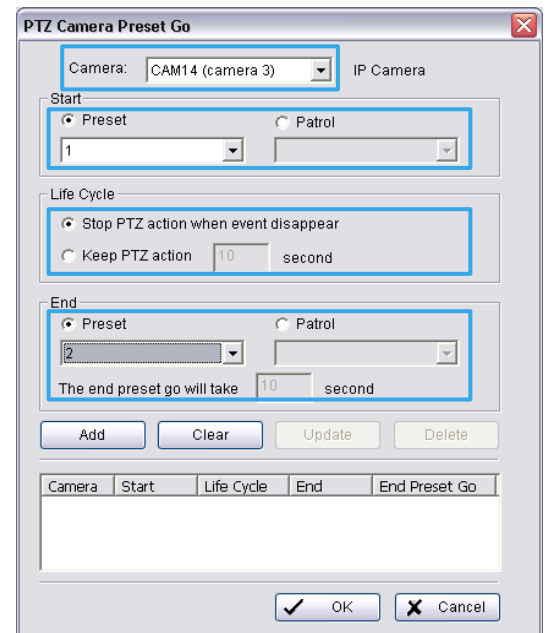
Step 2: 表示された設定画面上で PTZ カメラの動作を設定して下さい。

例:

- **カメラ 1 のアクションを設定します:**
 1. カメラ 1 を選択します。
 2. 開始及び終了のプリセットポイントを設定します。
 3. ライフサイクルを選択します。
 4. 追加ボタンを押します。
- **カメラ 2 のアクションを設定します:**
 5. カメラ 2 を選択します。
 6. 開始と終了パトロールを設定します。
 7. ライフサイクルを選択します。
 8. 追加ボタンを押します。
 9. OK をクリックし、カメラの設定を保存します。

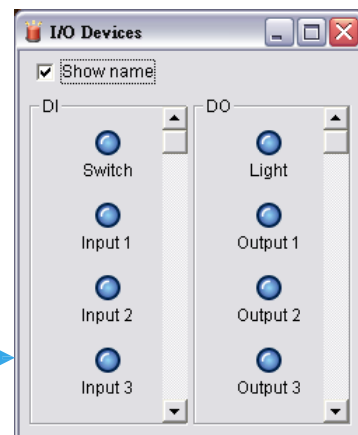
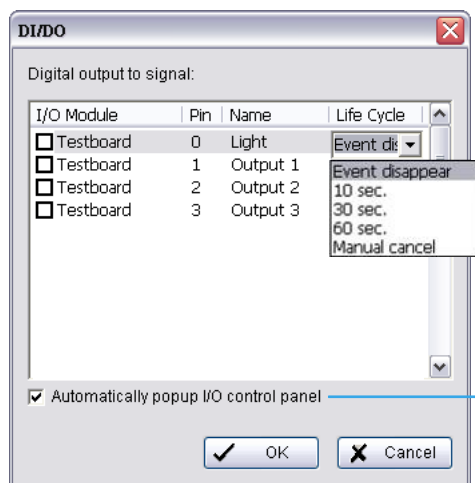
Note: この機能を使用する前に、PTZ カメラの環境を設定してください。

3.



4.2.7 アクションタイプ - デジタル入出力

パトランプやサイレンなど、警告装置を使用するときを設定します。



Step 1: デジタル入出力アクションを選択し、OK をクリックして下さい。

Step 2: 各デバイスのライフサイクルを選択します。アラーム発生後、10/30/60 秒後またはマニュアルキャンセルから選択可能です。

Step 3: “I/O コントロールパネルを 自動ポップアップします”を有効にすると、パネルを表示し I/O 装置の状態を確認することができます。

Note: システム設定>設定>I/O デバイスの順に進んで I/O デバイスを設定して下さい。

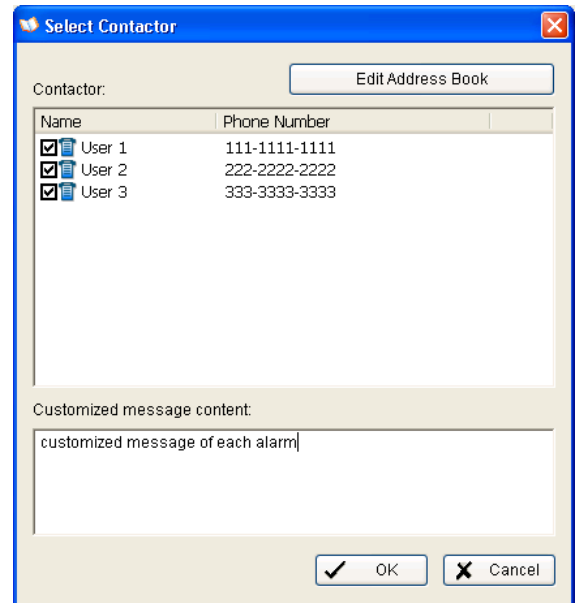
4.2.8 アクションタイプ - SMS

イベントのタイプと時間を指定アカウントに SMS を送信します。

Step 1: SMS 送信アクションを選択し、OK をクリックして下さい。

Step 2: 設定画面で任意の連絡先を選択し、OK をクリックして下さい。(一度に複数の連絡先を選択可能です)

注意: 電話番号をシステムに登録し、SMS をする場合、システム設定>設定>ホットラインの順に進んで GSM モデムを設定してください。



4.2.9 アクションタイプ - 中央サーバー

中央管理サーバーにイベントやスナップショットを送信します。

Step 1: 中央管理システムに送信アクションを選択し、OK をクリックして下さい。

注意: 詳細は NUUO 中央管理システム使用者マニュアルを見て下さい。

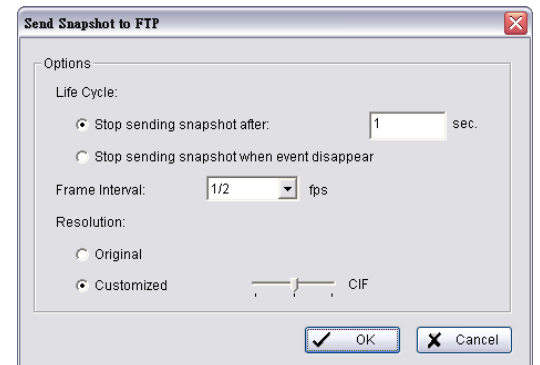
4.2.10 アクションタイプ - FTP

スナップショットを FTP サイトにアップロードする機能です。

Step 1: FTP アクションを選択し、OK をクリックして下さい。

Step 2: オプション設定

- **ライフサイクル:** 指定秒後にスナップショットの送信を停止します。
- **フレーム間隔:** スナップショットの間隔を設定します。
 - 最小値 1/60 fps (1 スナップショット/60 秒)
 - 最大値 30fps (30 スナップショット/秒)
- **解像度:** スナップショットの解像度を選択します。オリジナル解像度を使用するか、より小さい解像度を選択できます。



注意:

1. デジタル入力イベントの場合、この警告アクションは関連付けられたカメラのスナップショットを送信します。詳細については、1/0 の設定を参照してください。
2. システム設定>設定>ホットラインの順に進んで FTP サーバーを設定して下さい。

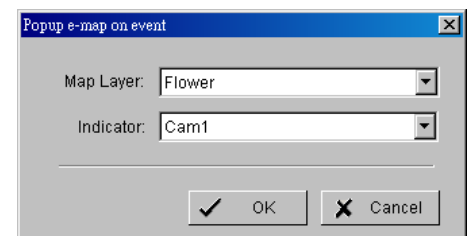
4.2.11 アクションタイプ - E-Map

イベントが検知されたとき、E-Map 画面を表示し、指定したマップレイヤーとインジケータを示す機能です。

Step 1: E-Map アクションを選択し、OK をクリックして下さい。

Step 2: ポップアップパネルで設定を行って下さい。

Step 3: マップのレイヤーとインジケータを設定し、OK をクリックして下さい。



4.2.12 Action Type - プッシュ通知

iViewer にインスタントメッセージを通知する機能です。

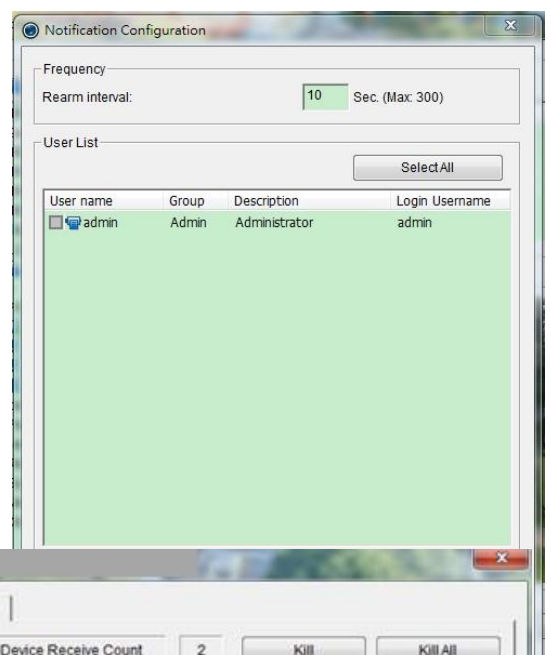
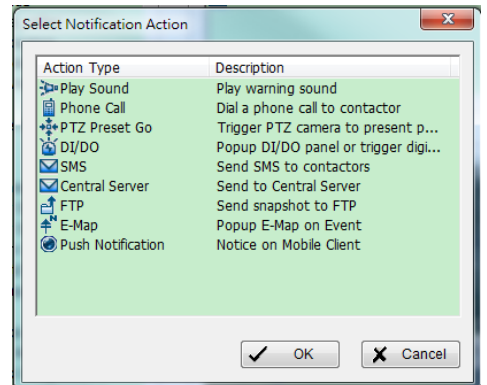
Step 1: プッシュ通知アクションを選択し、OK をクリックして下さい。

Step 2: オプション設定

- **回数—リセット間隔:** イベント通知の最小間隔を設定します。
(default:10, 最大:300)
- **ユーザーリスト:** すべてのユーザーアカウントを選択するには、「すべてを選択」をクリックします。すべてのユーザーアカウントを削除するには、「すべてを選択解除」をクリックします。
- **レシーバーリスト (overview/remove):** ユーザーアカウントの概要については、一般設定>ネットワークサービス>プッシュ通知を選択。ユーザーアカウントを削除するには「無効化」をクリックし、すべてのアカウントを削除するには「すべてを無効化」をクリックします。
 1. ユーザー名: ユーザーアカウント
 2. ID: ユーザーアカウント表示名
 3. リース期間: 期間内にログインしなかったユーザー
 4. ログインユーザー名: ログイン時のユーザーアカウント表示名
- **送信テスト:** 選択したリストに「プッシュ通知を送信する」をクリックします。

注意:

1. iViewer でログインしてください。
2. ユーザーのパスワードが変更された場合は、再度サービスを開始するために、新しいパスワードで iViewer でログインしてください。
3. 通知を受信したくない場合は、ユーザーが iViewer でこの機能をオフにすることができます。
4. ユーザーが特定のユーザーアカウントに通知を送信したくない場合は、[一般設定>ネットワークサービス]のユーザーアカウントを選択解除することができます。
5. ユーザーが 30 日間ログインしていない場合、プッシュ通知ユーザーリスト上のユーザーアカウントは自動的に削除されます。

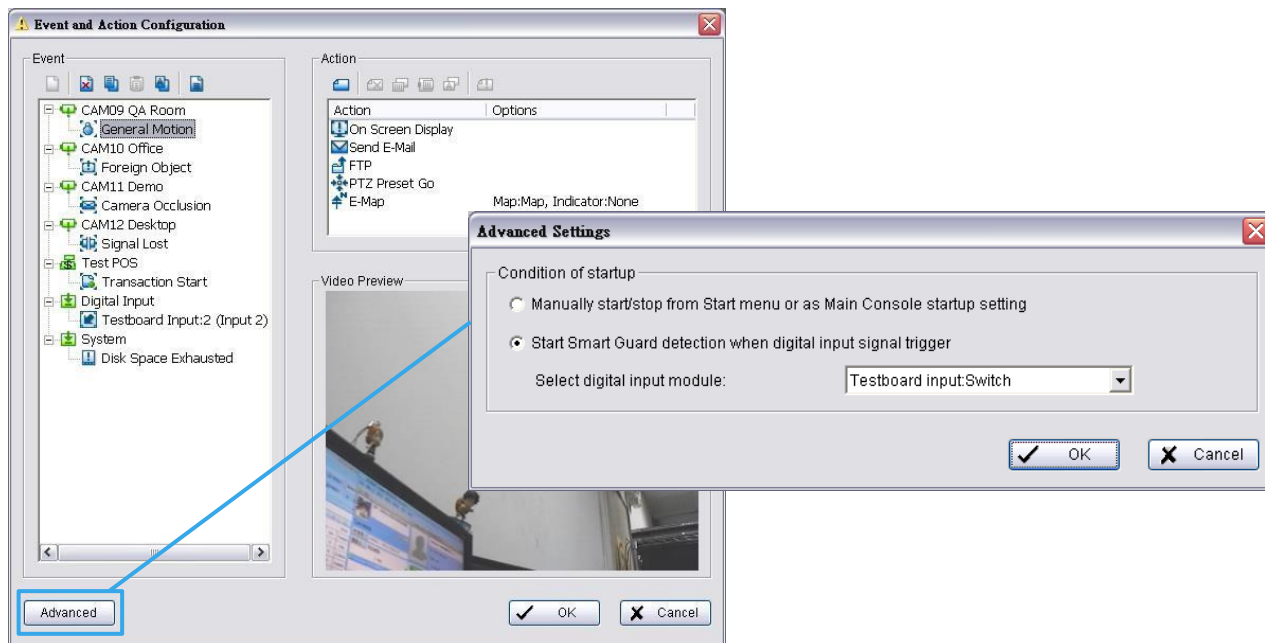


4.3 高度な設定

イベントリストの下部にある[詳細設定]ボタンをクリックします。

起動の条件 - スマートガードは以下の条件で開始することができます:

1. 手動で開始/終了またはメインコンソールの起動設定で開始する。(default)
2. デジタル入力信号が発生した時、スマートガードを起動する。



5. 一般設定



一般設定

一般設定アイコンを選択すると、ドロップダウンメニューより各種設定が可能です。

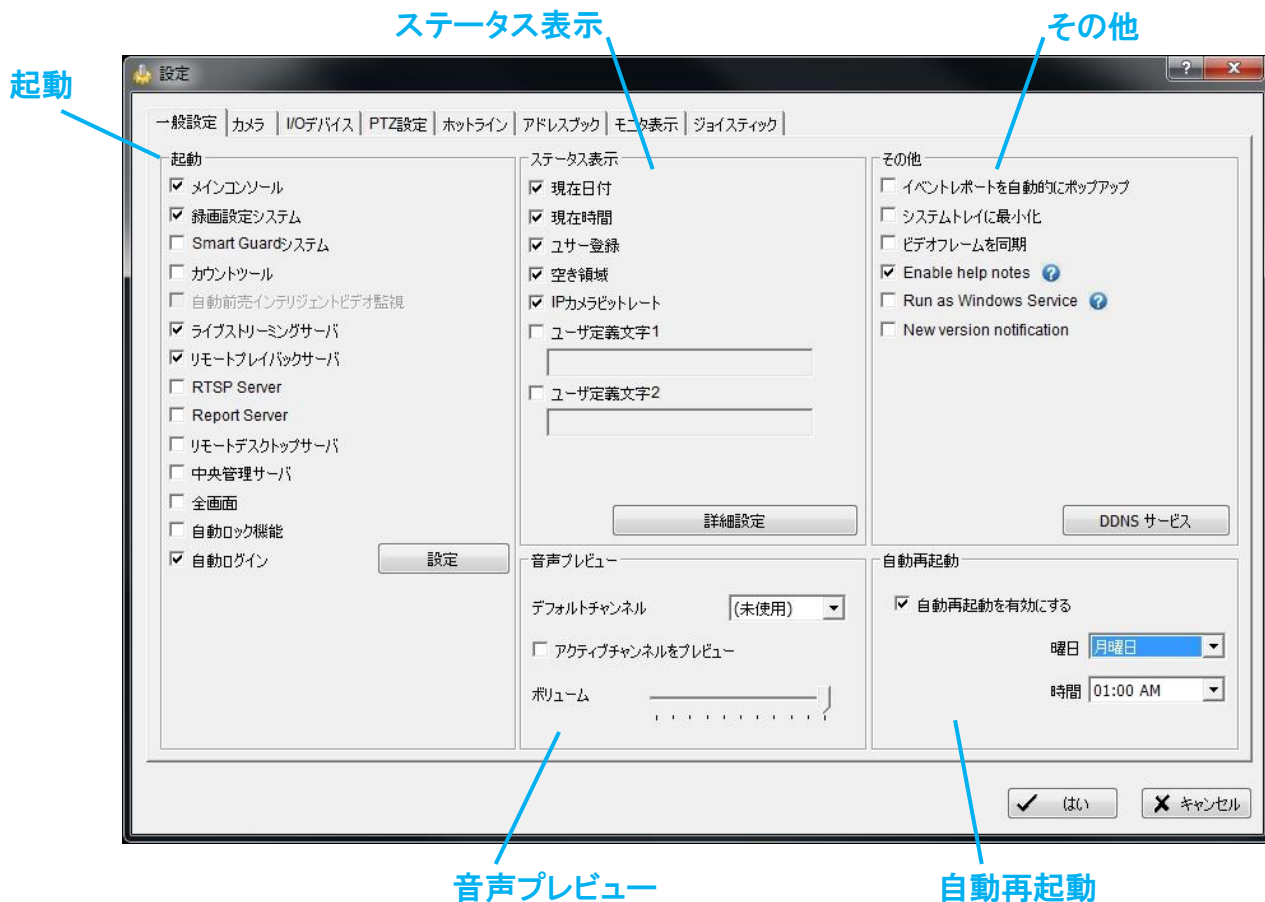
設定内容は下記のとおりです。

設定、ライセンスマネージャー、設定の保存/読み込み、映像分析、Metadata アプリケーション、Metadata で検索、ログビューアー、バックアップ、ネットワークサービス。

* 映像分析、Metadataアプリケーションを使用するには、別途専用のライセンスが必要です。

* ビデオソースの機能はMPEG-4 圧縮のカメラにのみ利用可能です。

5.1 システム設定 - 一般設定



5.1.1 起動

メインコンソールにチェックを入れると、ウィンドウ起動と同時にメインコンソールシステムが起動します。その下に続く4つのメイン機能、5つのネットワークサービス機能にチェックを入れると、メインコンソール起動時に各機能が自動的にアクティブになります。その下の機能については、全画面表示、自動ロックシステム、自動ログインが各自動的に起動します。

自動ログイン設定: 自動ログインを有効にすると、設定ボタンがアクティブになります。設定ボタンを押すと、自動ログインする際のユーザーアカウント情報（ユーザーアカウント、パスワード）の登録画面が開きます。ここでログインする情報を入力ください。ログイン後ソフトウェア画面を最小化する場合、**「ログイン後最小化」**のチェックボックスにチェックを入れてください。

5.1.2 ステータス表示

設定のチェックボックスを有効にすることでメインコンソールの情報表示ウィンドウに表示したい内容を表示することができます。



- **ステータス表示:** 現在日付、時間、ユーザー情報、空き容量、IP カメラビットレート、ユーザー定義文字 1、2 の情報表示を設定できます。
- **詳細設定:** 詳細設定ボタンをクリックします。
温度、ファン回転数、システムリソース、ネットワーク使用率、システムアップタイムで、表示したい内容を設定します。

5.1.3 その他

イベントレポートを自動的にポップアップ: イベントが検知されると、自動的にイベントレポートがポップアップされます。設定を修正する前にスマートガードシステムが停止していることを確認してください。設定変更ができない恐れがあります。

システムトレイに最小化: このオプションを有効にすると、メインコンソールを最小化する時、メインコンソールが WINDOWS タスクバーのアイコンになります。



注意: 最小化された Windows タスクバーのアイコンをクリックして再度表示するには、メインコンソールのユーザー名とパスワードの入力が必要となります。

ビデオフレームを同期: 選択すると、ビデオ画像の遅れを改善します。*CPU の負荷が高くなります。.

- **DDNS サービス:** Dynamic Domain Name Server (DDNS)機能は、インターネットの動的 IP アドレスを利用している場合に、ライブビューやウェブビューをインターネット経由で閲覧するのに有効です。

DDNS 設定を開くためにボタンをクリックします。プロバイダーのタイプを選択し、ユーザー名、パスワード、ホスト名を入力し、アップデート頻度を調節し DDNS 機能を設定します。



5.1.4 音声プレビュー

デフォルトチャンネル: デフォルトで聞きたい音声のチャンネル番号を設定することができます。

アクティブチャンネルをプレビュー: “アクティブチャンネルをプレビュー”オプションにチェックを入れると、メインコンソール上でマウスで選んだビデオチャンネルからのオーディオを聞くことができます。ビデオチャンネルが選ばれていない場合、デフォルトチャンネルが再生されます。

ボリューム: “音量バー”で音量を調節してください。



この状態ではデフォルトチャンネルの音声再生されます。



この状態では選択された左上のチャンネルの音声再生されます。

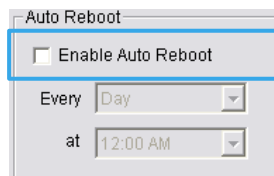
5.1.5 自動再起動

”自動再起動を有効にする”にチェックを入れると設定した時間にシステムが再起動します。

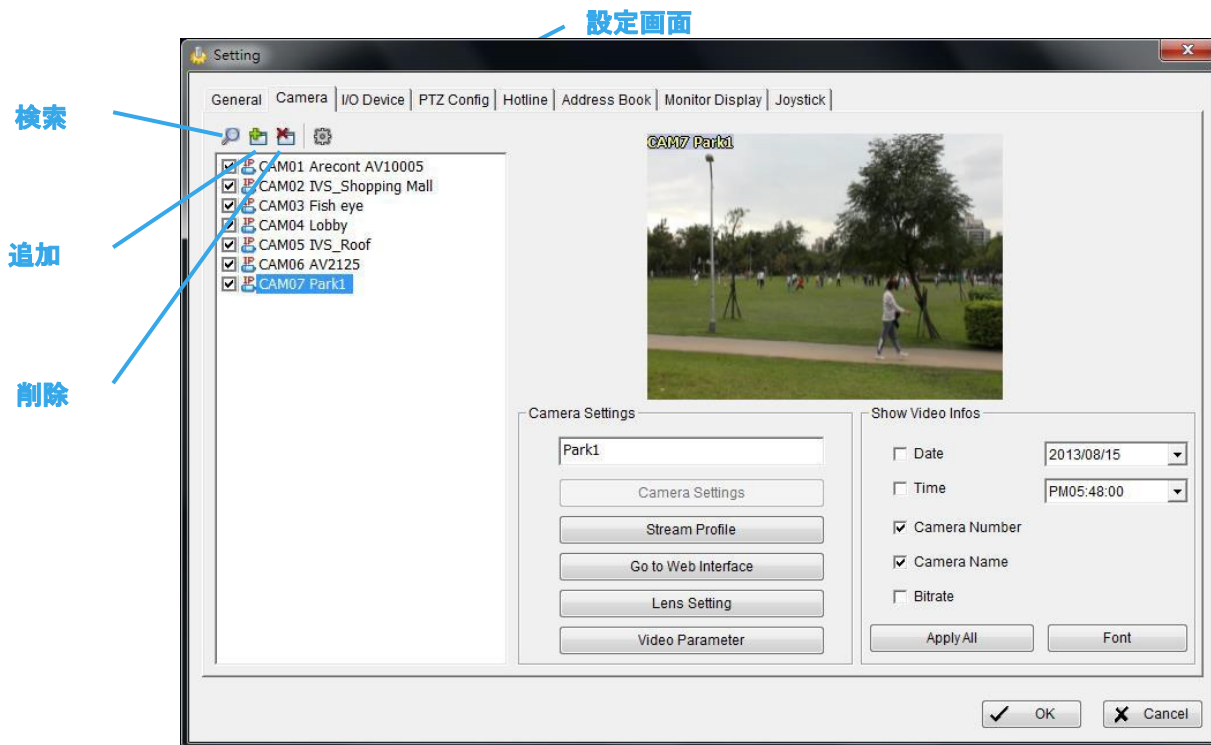
Step 1: “自動再起動を有効にする”のオプションにチェックを入れてください。

Step 2: 再起動したい時間を選択してください。

注意: PC 再起動時、Mainconsole のシステムが自動的に起動、ログインするために”起動”の設定の”メインコンソール”や”自動ログイン”を設定してください。



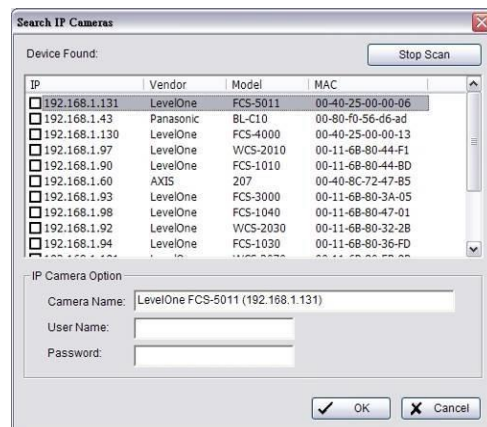
5.2 設定 - カメラ



5.2.1 カメラの追加

NUUOHybrid システム、または IP カメラライセンスを登録している場合は、設定のカメラタブ内に 4 つのボタンが表示されます。

検索: 検索ボタンを押すと、IP カメラ検索ウィンドウが表示されます。検索が自動的に開始され、任意のタイミングでスキャン停止ボタンを押すと検索を停止します。



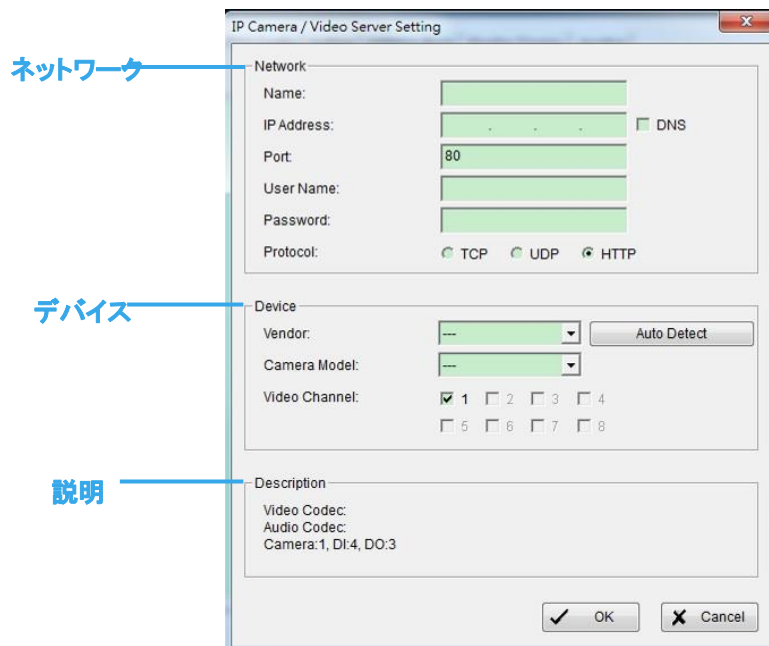
検索された IP カメラを選択し、ユーザー名、パスワードを入力し、OK ボタンを押してください。カメラが追加されます。

加える: 加えるボタンをクリックし、IP カメラ/ビデオサーバ設定ウィンドウを表示してください。設定することでカメラを登録できます。詳しくは次項を参照してください。

削除: 削除ボタンを押すと、選択した IP カメラが削除されます。”はい”ボタンを押すと、カメラの削除が確定します。

設定: 設定ボタンをクリックし、IP カメラ/ビデオサーバ設定ウィンドウを表示してください。カメラ設定内容を修正できます。詳しくは次項を参照してください。

5.2.2 IP カメラ/ビデオサーバ設定ウィンドウ

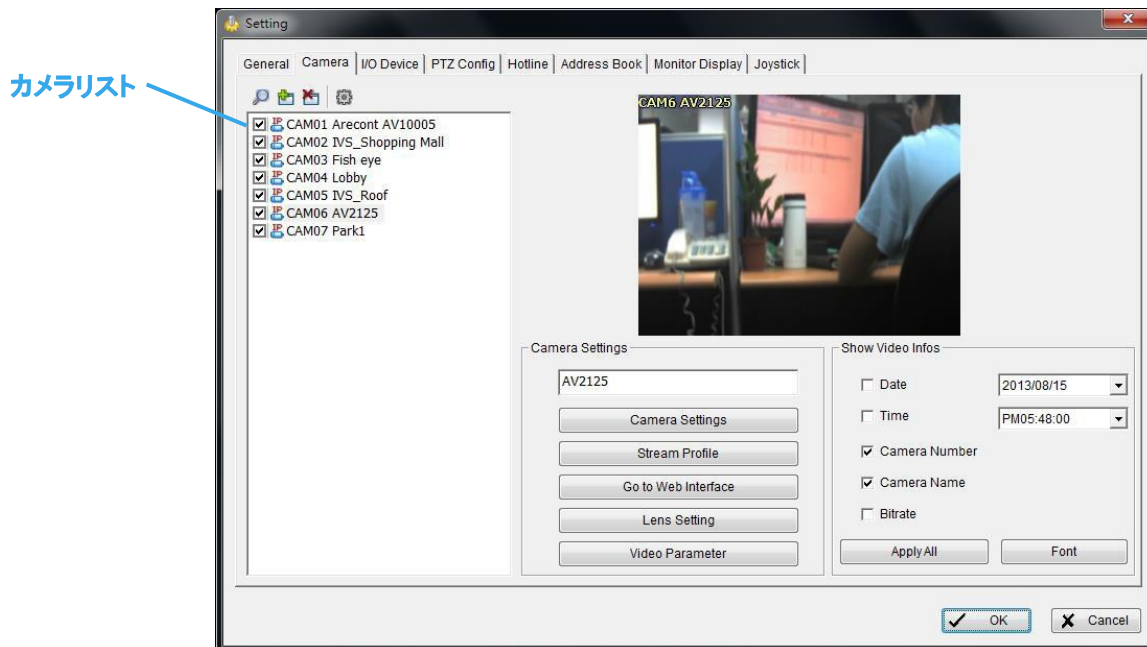


ネットワーク: カメラメーカーのマニュアルを参考にし、ネットワーク欄をすべて入力してください。(名前、IP アドレス、HTTP ポート、ユーザー名、パスワード、プロトコル) “DNS” にチェックを入れることで、IP アドレスの代わりにドメイン名を使用することもできます。

デバイス: ドロップダウンメニューから該当する IP カメラベンダー、型番を選択してください。“自動検知”をクリックすると、自動的に検出されます。

説明: IP カメラ情報が表示されます。

5.2.3 カメラ設定



カメラリスト: 登録されているカメラの一覧が表示されます。カメラ名をクリックし設定が調整できます。

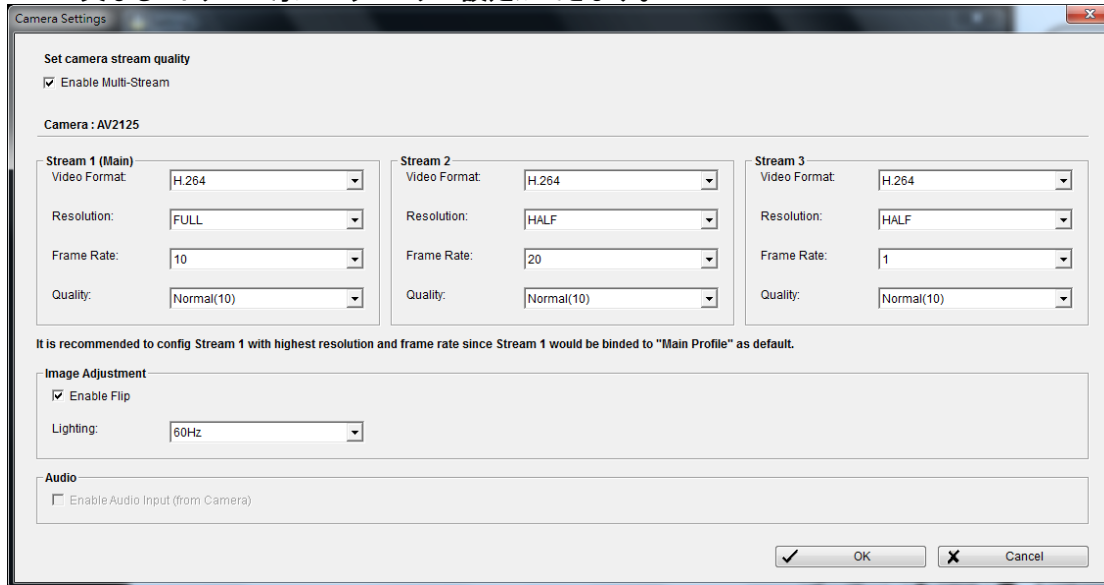
カメラ名: カメラの名前です。

カメラ設定: カメラメーカーごとの解像度やフレームレートなどのパラメーターを設定することができます。カメラがマルチストリームをサポートしている場合は、“Enable Multi-Stream”をチェックすることでマルチストリームを使用することができます。

注意: マルチストリーム機能では、解像度、FPS、ビデオフォーマットなどを異なる 3 つのストリーム毎に設定することができます。対応状況については、最新のカメラ対応リストを確認してください。

注意: マルチストリーム機能については全てのカメラがサポートしている訳ではありません。
(http://www.nuuo.com/SupportCamera.php?node_id=4#)

3 つの異なるストリーム毎にパラメーター設定ができます。



NUUO DVR カードについては、メインとサブに分けられ、下記のようにパラメーターを設定することができます。

SCB-6000S シリーズ:

メイン: D1/ PAL: 6.5fps, NTSC: 7.5fp

サブ: CIF/10 fps

SCB-7000S シリーズ:

メイン: D1/ PAL: 25fps, NTSC: 30fp

サブ: CIF/10 fps

SCB-8000HD シリーズ:

メイン: 解像度についてはカメラに依存 / PAL: 25fps, NTSC: 30fps

サブ: 解像度はメインストリームの半分 / PAL: 10fps, NTSC: 10fps

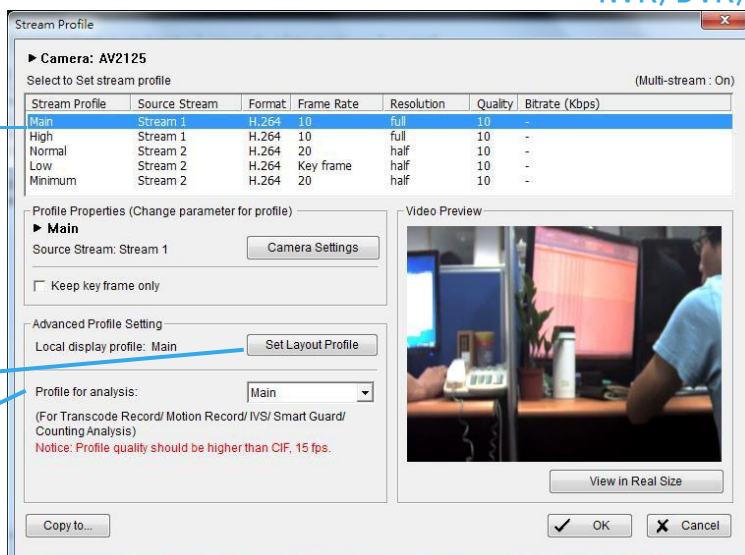
ストリーム プロフィール: ストリームプロフィールでは、あらかじめ定義しておくことでリモートライブビューにて任意の設定で描画することができます。定義は個別に可能です。設定には、解像度、フレームレート、ビットレート(kbps)、ビデオフォーマットなどがあります。

カメラがマルチストリーム機能をサポートする場合は、3 つのソースとなるストリームが自動的にストリームプロフィールにマッピングされます。また設定変更したいソースとなるストリームを変更することが可能です。

ストリームプロフィール

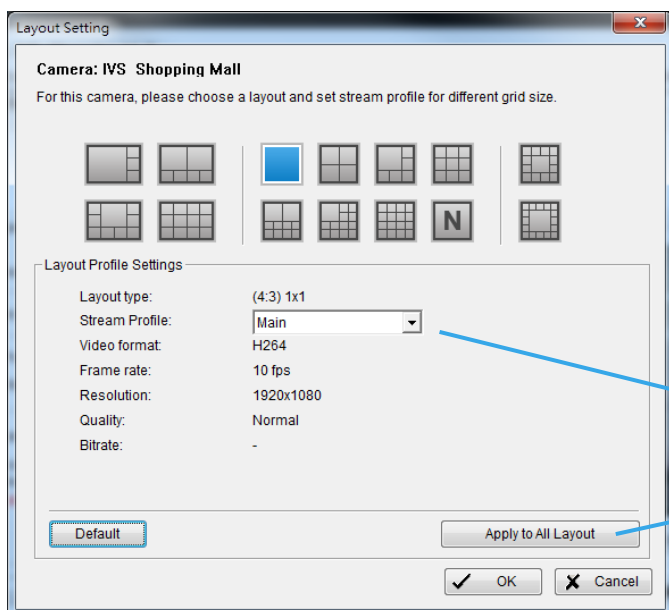
レイアウトプロフィールを設定

分析プロフィール



● 詳細プロフィール設定

ローカルディスプレイ プロフィール: この設定はローカルディスプレイに表示されているチャンネルのストリームプロフィールを設定できます。“レイアウトプロフィールを設定”ボタンをクリックし、レイアウト毎に使用する異なるストリームプロフィールを設定します。例えば、1x1 レイアウトの場合に”メイン”を選択し、5x5 レイアウトの場合に”最小”を選択します。これにより、2 種類のレイアウト上で異なる画質で描画され、CPU へのデコード負荷を効率的に抑えることが可能です。



ストリームプロフィール選択

すべてのレイアウトに適用

ストリームプロフィールの初期値は下記のとおりにセットされています。これは任意に変更が可能です。

グリッド	Profile 1(IP cam)	Profile 2 (IP cam)	Profile1 (DVR card)	Profile 2 (DVR card)
(16:9)1+3	メイン	中	メイン	サブ
(16:9)2+4	メイン	中	メイン	サブ
(16:9)1+8	メイン	中	メイン	サブ
(16:9)4×3	中		サブ	
(4:3)1×1	メイン		メイン	
(4:3)2×2	メイン		メイン	
(4:3)3×3	中		サブ	
(4:3)4×4	中		サブ	
(4:3)1+5	メイン	中	メイン	サブ
(4:3)2+8	メイン	中	メイン	サブ
(4:3)1+12	メイン	中	メイン	サブ
(4:3)N×N	最小		最小	

(HotSpot)1+12	メイン	中	メイン	サブ
(HotSpot)1+17	メイン	最小	メイン	最小

- **分析プロファイル:** イベント検出、映像解析を行うためのストリームとなります。解析のために必要な最小の解像度、FPS は CIF/15 fps となります。

- **コピー先:** 設定したカメラのストリームプロフィールを他の全てのカメラにコピーすることができます。

1. 元のストリームとストリームプロフィールが適用されます。
2. キーフレームの設定が保存されます。
3. 分析プロファイルが選択されます。

*カメラのマルチストリーム設定については、マルチストリームをサポートしているカメラにのみ対応しています。マルチストリームをサポートしていないカメラについては設定がオフになります。

Web 設定を開く: カメラ設定をするための、カメラメーカーごとの専用 Web ブラウザにアクセスします。

レンズ設定: ImmerVision Lens レンズ、ジェネリック デワープの設定ができます。チェックボックスで有効に設定し、レンズタイプ、カメラの設置位置を設定してください。

ビデオ パラメーター: 映像の輝度、コントラスト、彩度、色調を設定します。

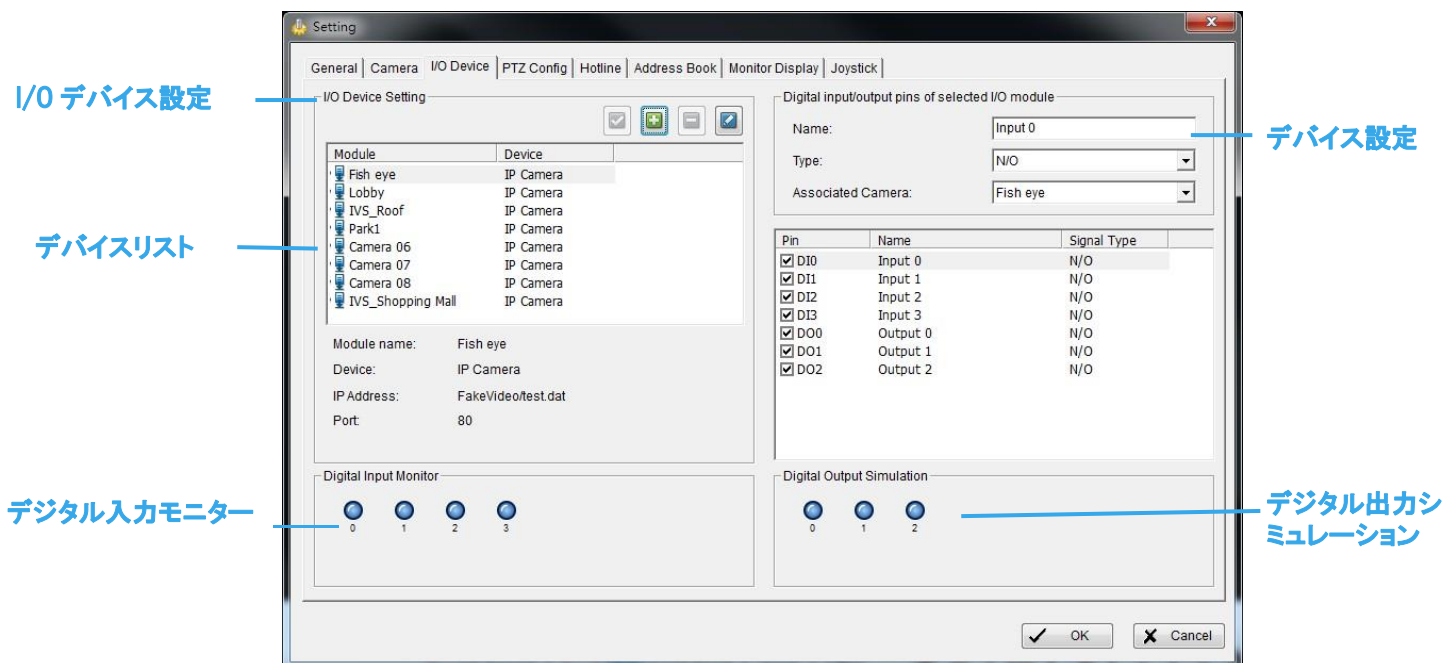
データ情報を表示: S 映像上(OSD)に表示したい情報の設定が可能です。フォントボタンでフォントの設定も可能です。

注意:

ストリームプロファイルとオプションの種類は、ストリームのソースにより異なります。

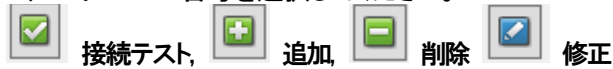
- **NVR IP+ ライセンスによるカメラ:**
5 つのプロファイルが選択できます。メイン, 高, 中, 中低, 最小 (スマートフォンクライアント用)。

5.3 I/O デバイス



I/O デバイス設定:

- **モジュール設定 Module Setting:** モジュール装置の名前を入力してください。
- **デバイス:** システムに使用するモジュールのモデルを選択してください。
- **IP アドレス:** デバイスを TCP/IP 接続する場合は、IP アドレスを入力してください。
- **ポート(TCP/IP の場合)/COM Port(USB 接続の場合):** Port 番号、または COM port 番号を入力してください。
- **ID:** デバイスの ID 番号を選択してください。



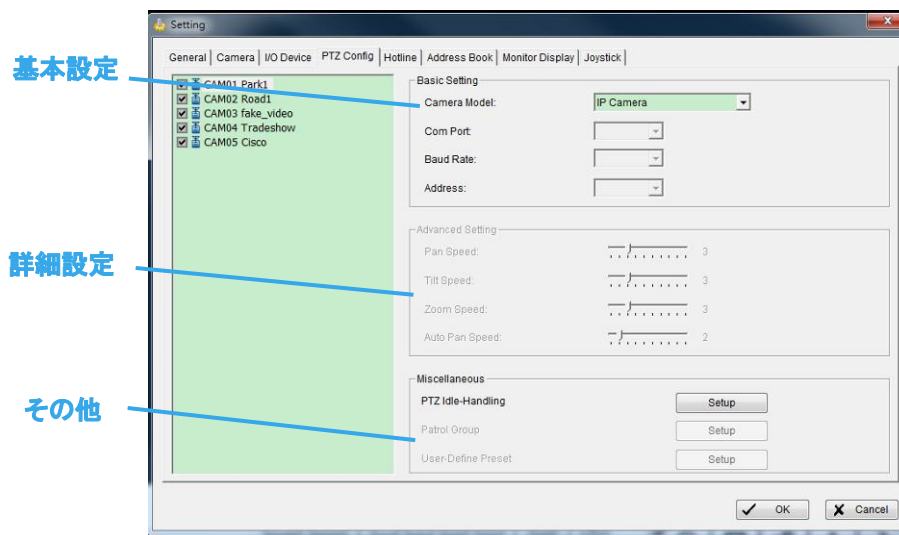
DI モニター: ドットが赤を示していれば、デバイスはオン(ついている)であることを示します。DI デバイスをオンにすることで、関連したアイコンもライトアップされます。これを使うと、正確にデバイスが接続されているか確認できます。

DO シミュレーション: デバイスがオンになると、ドットが赤くなります。アイコンをクリックすると、システムに接続しているデジタルデバイスをオンにすることができます。アウトプットデバイスが正確につながっているかテストするのに使用できます。

デバイス設定

- **名前:** デバイスの名前を入力します。(インプット、アウトプット)
- **タイプ:** ドロップダウンメニューからデバイスの種類を選んでください。
 1. N/O: ノーマルオープン.
 2. N/C: ノーマルクローズ
- **関連カメラ:** デジタルインプットイベントに対しカメラを割り当てることができます。スマートガードによる設定で、イベントトリガーごとにカメラのスナップショットを撮影することができます。IP カメラのインプットの場合は、そのカメラがデフォルトで設定されます。

5.4 設定 - PTZ 設定



カメラのマニュアルに従い、PTZ カメラの設定を正しく登録してください。一般的な PTZ カメラでは RS-485/RS-422 のインターフェースにてパソコンと接続されます。

カメラリストのボックスにチェックを入れ、PTZ カメラの PTZ コントロール機能を有効にしてください。

基本設定: 接続する PTZ カメラのカメラ型番、COM ポート、ボーレート、アドレスを選択してください。

注意: IP カメラをお使いの場合、COM ポート、ボーレート、とアドレスの設定がなくても PTZ 機能が使用できます。

詳細設定: パンスピード、チルトスピード、ズームスピード、オートパンスピードを設定します。バーをドラッグし設定を調節してください。

その他:

- **パトロール設定:** パトロールグループを設定します。詳細は”1.2.4 パトロール”項を参照ください。
- **PTZ アイドル処理:** この機能を使用すると、PTZ カメラが自動的にデフォルト位置に戻ります。

PTZ 操作を使用せずに設定した時間が経過した場合に、パトロールの開始、または任意のプリセットポジションへの移動を設定することができます。

User-Defined Preset Dialog

Configuration

Preset Name:

Preset Number:

Preset Type: ☐ Set Preset ☒ Go to Preset

Add Delete Update

ID	Name	Preset	Type
1	point 17	80	Set
2	function 1	99	Set
3	function 2	95	Go
4	function 3	65	Go

OK Cancel

Default PTZ Preset Tool

PTZ preset default setting

☒ Back to PTZ preset after idle

Time interval of idle timeout: Sec.

Back to preset point after idle:

OK Cancel

- **ユーザー定義プリセット:** アナログスピードドームカメラの特殊機能を定義し呼び出すことができます。特殊機能とは自動追跡や、カメラメニュー表示などがあります。詳細はアナログスピードドームカメラのマニュアルを参照してください。

Step1: プリセット名を登録してください。

Step2: プリセット番号を登録下さい

Step3: プリセットタイプを選択してくだ

さい。

Step4: 追加、削除、修正のいずれかのボタンを選択し、設定してください。

5.5 設定- ホットライン

異常なイベントが検知された際、様々な方法で連絡、送信ができます。E メール、FTP、GSM モデム、電話番号での、ホットラインの設定を行います。

E メール: SMTP サーバ、送信者アドレス、E メール主題、内容、SSL オプションの情報を入力してください。“テストメールを送る”ボタンをクリックすると、テストメールが送信されます。

注意: *記号の項目は入力必須項目となります。

FTP: サーバー、ポート、ログイン ID、パスワード、アップロードディレクトリの情報を入力して下さい。テストファイルをアップロードボタンをクリックすると、テストファイルをアップロードします。

注意: *記号の項目は入力必須項目となります。

電話: システムがダイアルコールするモデムを選択します。コールする電話番号を入力してください。(モデムにはボイストランジションが必要です。)

注意: 1. 音声機能つきのモデムが必要です。

2. 選択した Wave フォーマットファイルにより、電話に出た相手に警告できます。

GSM モデム: GSM モデムデバイスのポートとボーレート、ピンコードを入力して下さい。SMS メッセージを送信する間隔も設定可能です。“テスト”ボタンをクリックすると、テストメッセージが送信されます。

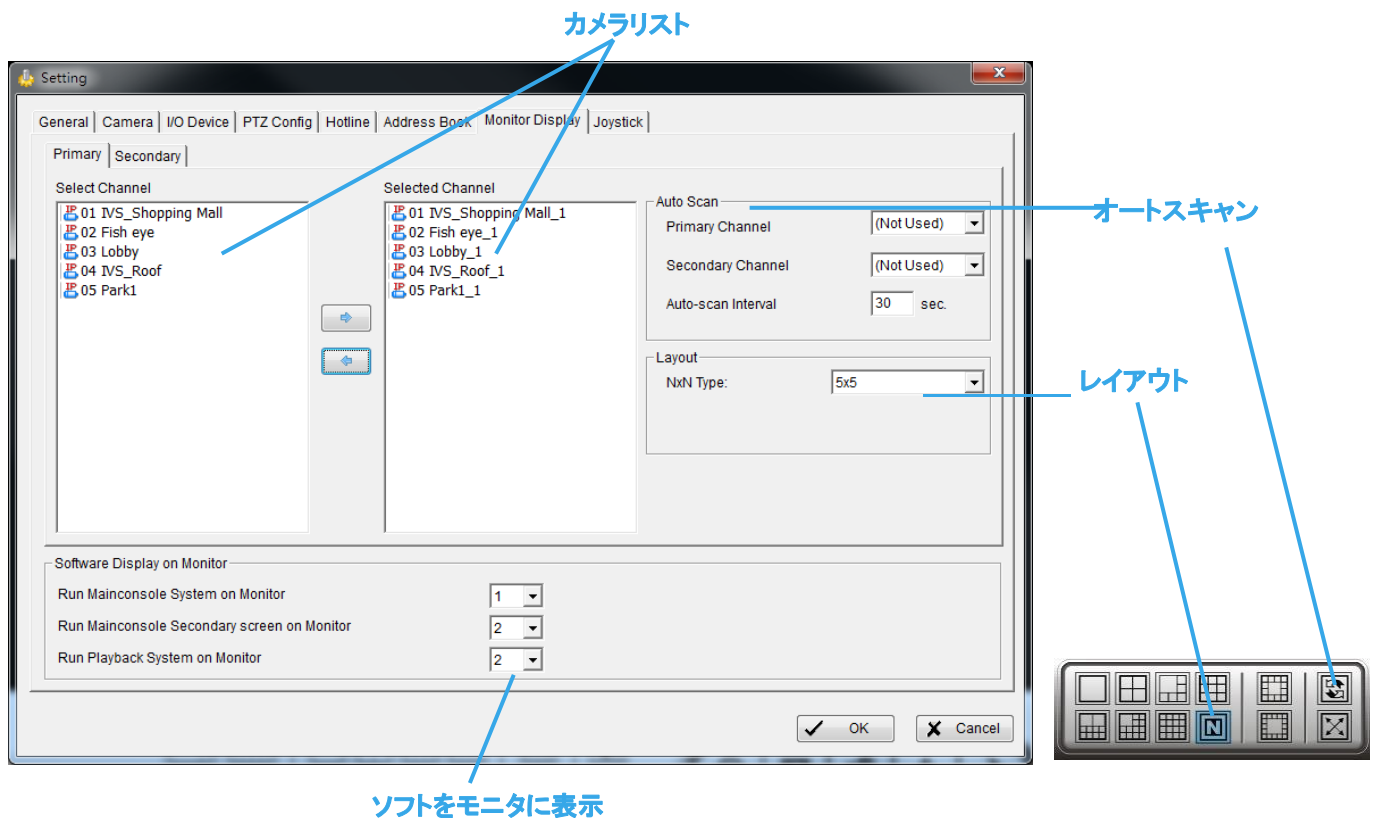
注意: 間隔を 60 分に設定した場合、送信後 60 分間の SMS メッセージは自動的に削除されます。

5.6 設定 - アドレスブック

異常イベントが検知されたときに電話、E メールを送信するアドレス帳を管理します。

User name	Phone	E-Mail	Description
Michael	5551123125	mike@hotline.com	

5.7 設定 - モニター表示



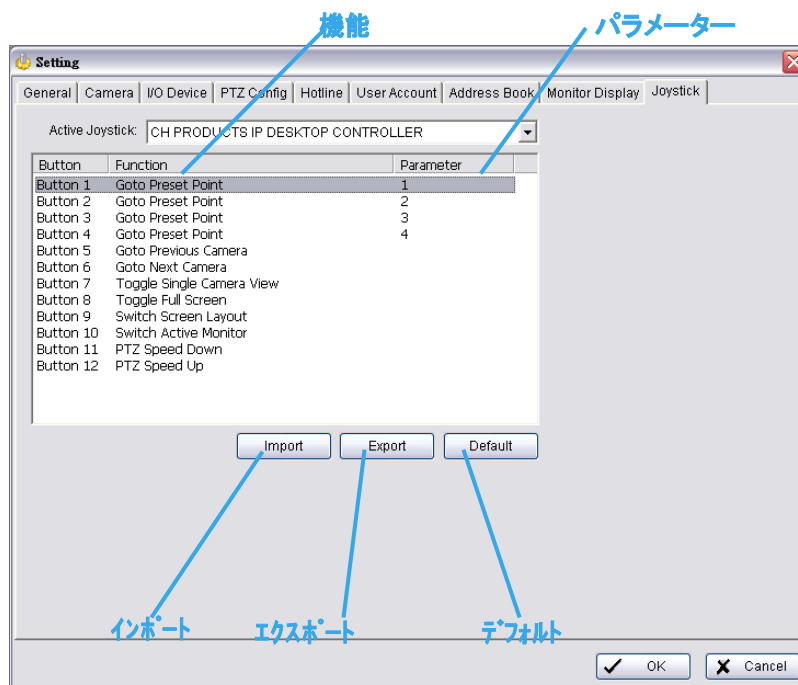
ディスプレイ表示オプション: メインコンソール、また再生映像表示を行うモニター、サブの第二モニタを選んでください。システムエラーを防ぐためにも前もってコンピューターのモニタ表示が調節してあるかを確認してください。

カメラリスト: 左側にすべてのカメラがリストされます。右側にある第一第二モニタに表示されるカメラを調節してください。モニター1 またモニター2 で選択したカメラを右側のウィンドウに移動してください。

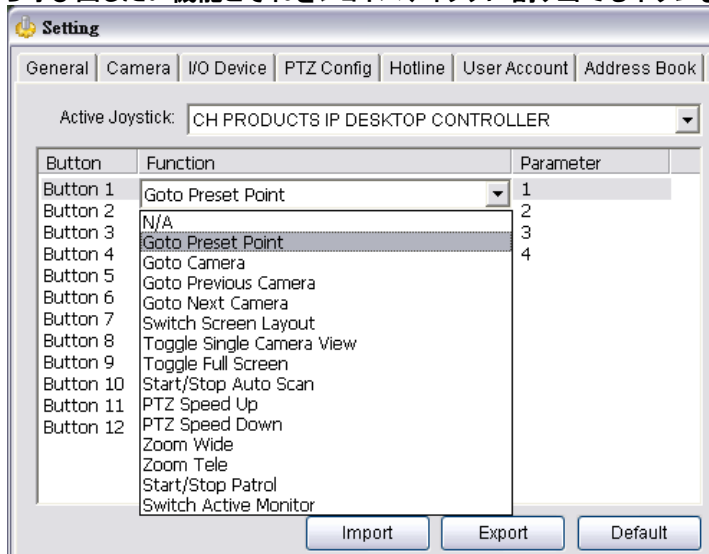
オートスキャン: オートスキャンを実行し、表示画面のチャンネル/カメラを切り替えます。例えば、16チャンネルがシステムと繋がっているのに、メインコンソール上に4つの映像しか表示されていない場合、オートスキャンを使って、切り替えて16チャンネルの映像全てを見ることができます。画面に常に写し出される第一優先チャンネルを設定し、続いて第二優先チャンネルを設定してください。

レイアウト: レイアウトで画面分割度N×Nタイプを選んでください。

5.8 設定 - ジョイスティック



機能: ドロップダウンメニューから呼び出したい機能とそれをジョイスティックに割り当てるボタンを設定して下さい。



注意: Following is a complete list of all functions:

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. N/A | 9. オートスキャンを開始/停止 |
| 2. プリセットポイントに進む | 10. PTZ スピードアップ |
| 3. カメラに移動 | 11. PTZ スピードダウン |
| 4. 前のカメラに移動 | 12. ズームアウト |
| 5. 次のカメラに移動 | 13. ズームイン |
| 6. レイアウトをスイッチ | 14. パトロール開始/停止 |
| 7. シングルカメラビューをトグル | 15. アクティブモニターをスイッチ |
| 8. 全画面にトグル | |

パラメーター: ドロップダウンメニューから機能を選択します。

デフォルト: ジョイスティックのデフォルト設定をします。

エクスポート: ジョイスティックの設定をエクスポートします。

インポート: ジョイスティックの設定をインポートします。

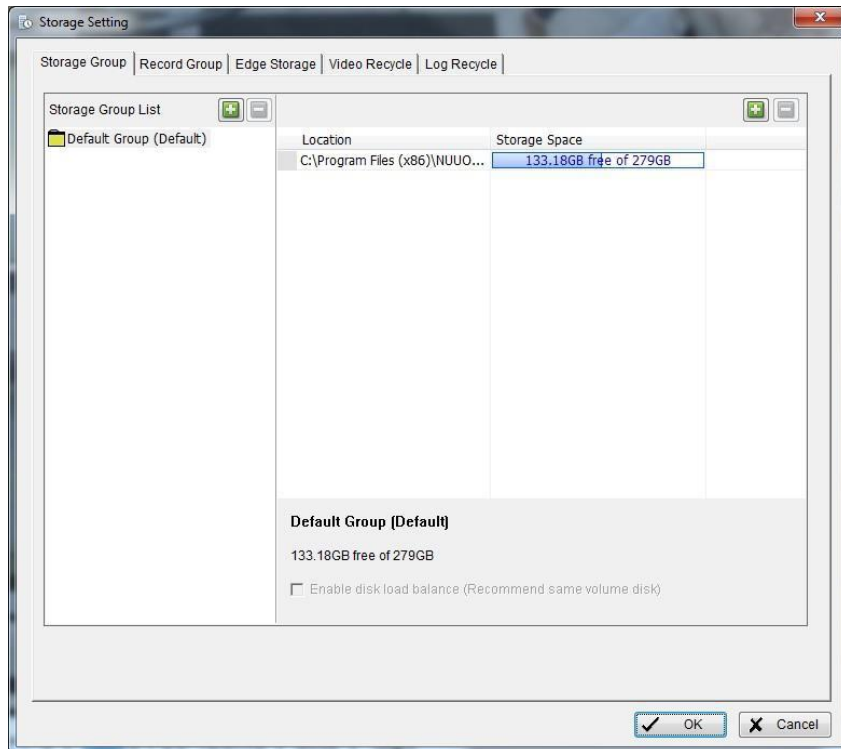
5.9 Storage Setting

ストレージ設定では、ストレージグループ、レコードグループ、エッジストレージ、ビデオリサイクル、およびログリサイクルを設定することができます。

Storage Group

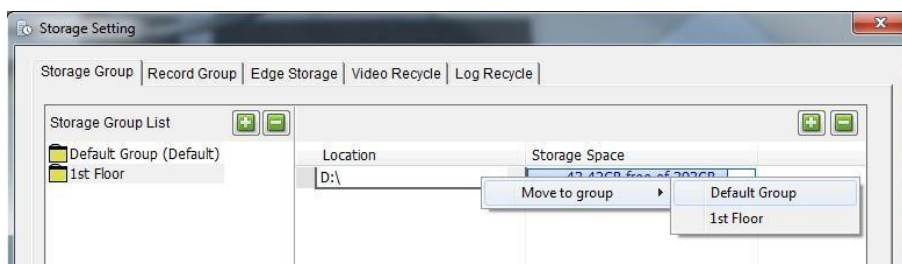
ストレージグループでは、高品質ディスクに重要な動画を記録する等、様々な目的でグループ内のディスクを設定したり、ビデオ管理の向上のために、特定のディスクへ特定のカメラの録画を整理することができます。

ストレージ空き容量が少ない際に PC の動作低下を防ぐために、システムの HDD(C:)に保存しないことをお勧めします。



左側のカラムには、すべてのストレージグループがストレージグループリストとして一覧表示されます。

1. +ボタンをクリックするとストレージグループを追加します。
-ボタンをクリックするとストレージグループを削除します。
2. 右側の列には、ストレージグループ内のディスクが一覧表示されます。保存場所を変更するには [Move to group] ボタンをクリックします。別のグループ（下記参照）に移動するにはディスクを右クリックします。グループにディスクを追加するには、右上の+ボタンをクリックします。



記録可能なドライブが複数ある場合は、「ディスク負荷バランス機能を適用（同じボリュームのディスクが推奨です）」にチェックを入れることで、均等に複数のドライブに分散書き込みを行うことができます。評価のために NUUO 設計ツールをご参照ください。

(<http://www.nuuo.com/calculator/>)

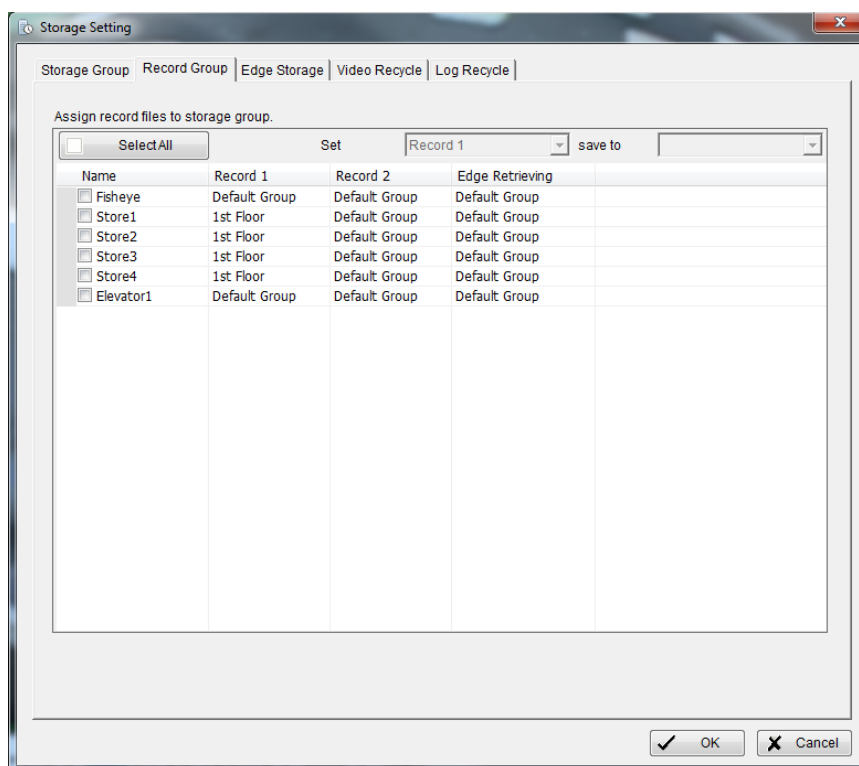
注意:

1. デフォルトグループは名前を変更することはできません、削除することはできません。

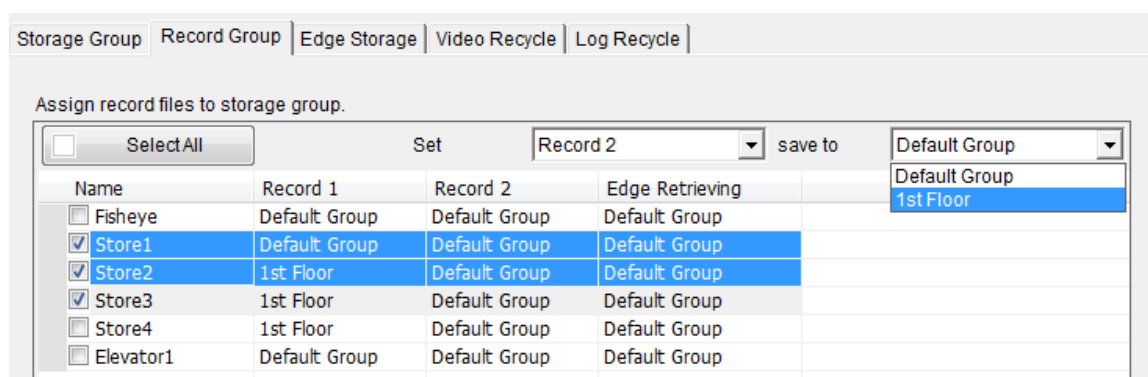
Record Group

レコードグループにカメラから各ビデオを記録する場所を割り当てることができます。アクティブになっているカメラは、ここにリストされています。

1. 目的のストレージグループに記録するビデオ（録画1、録画2、またはエッジビデオ）を個別に選択できます。



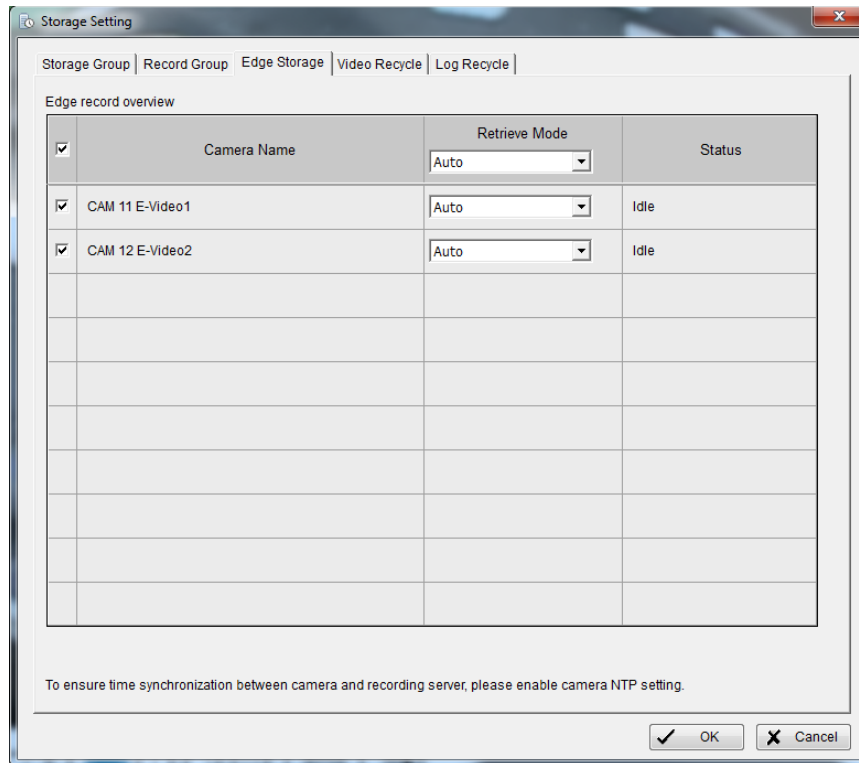
2. また、カメラを複数選択し、グループとして割り当てることができます。左のチェックボックスをクリックして目的のカメラを選択し、レコードの種類を選択したうえで、グループとして割り当てるストレージグループを選択します。



3. 一覧の全カメラをチェックするには[全てを選択]をクリックし、必要に応じてグループとして割り当てます。
4. [OK]ボタンを押して変更を確定します。

Edge Storage

エッジストレージでは、エッジレコーディングを設定することができます。予期しない切断のために Mainconsole に記録されずに失われた映像は、再接続後、エッジカメラから取得できるよう録画フェイルオーバーメカニズムとして機能します。



Mainconsole がエッジカメラから動画を取得できる条件は以下の通りです：

1. 録画スケジュールが開始されていること
2. エッジレコードの設定(デフォルトでは有効)が有効になっていること

接続またはサポートされているエッジカメラは自動的にページに表示されます。エッジレコードをサポートしていないカメラは接続されていても表示されません。

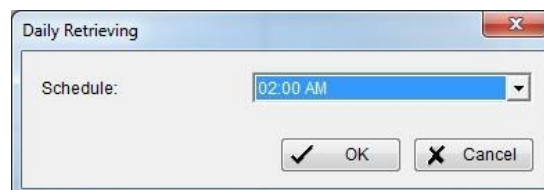
エッジストレージのセットアップ

カメラ名 カメラ設定で登録されたカメラ番号とカメラ名が一覧表示されます。

Retrieve Mode

「自動的」を選択した場合、再接続がシステムによって検出された場合に、自動で失われた録画映像を検索します。

「毎日」を選択した場合、映像の取得をスムーズに行うために全体の帯域幅が低い時間帯、例えば午前 2 時など、映像取得を開始する時間を任意に設定することができます。



状態 ステータスインジケータとその説明は以下の通りです。

- **取得中...**：ロストした映像をカメラから取得しています
- **アイドル**：ロストした映像が無い場合。
- **Waiting**：本機能では最大 3 か所の映像を同時に検索することができますが、3 つ以上のカメラでロストした映像 とがあるときに、処理が順番待ちになるとこれが表示されます。
- **Prepare to stop**：検索時に、ユーザーが手動でエッジカメラをオフ([OK]を押す)して取得無効にすると表示されます。このメッセージが表示されると、システムは映像の取得をすぐには停止しません。
- **Disable**：エッジ取得する特定のカメラが無効な場合。

注意:

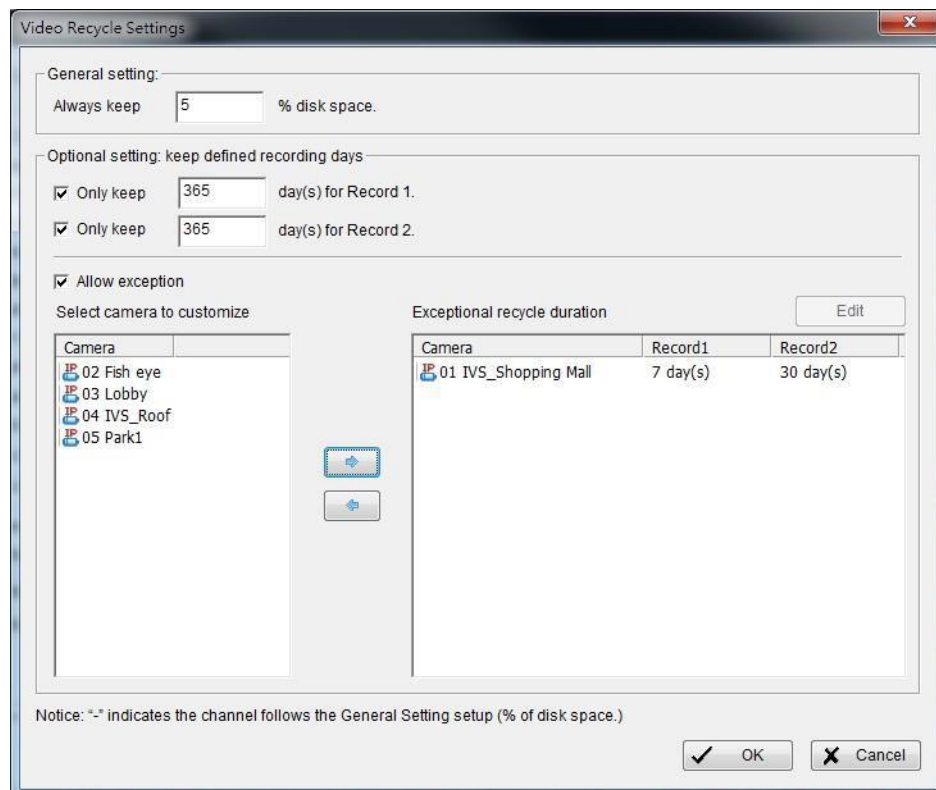
1. 取得した動画が録画1としてみなされ、自動的にシームレスにサーバーに録画したビデオに接合されます。
2. 再接続から 7 日以内の動画のみを検索することができます。
3. Mainconsole がエッジカメラからビデオを取得しない場合の条件は以下のとおりです。:
 - Mainconsole アプリケーションを手動で閉じた場合。
 - Mainconsole サーバーの電源がオフになっている場合。
4. カメラと録画サーバー間の時刻同期を確保するために、カメラの NTP を有効にしてください。

Video Recycling

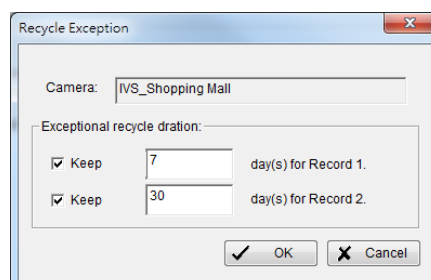
この設定では、ユーザーがカメラ毎や同一カメラ上の別の録画映像に対して、異なるリサイクル基準を設定できます。

一般設定:自動的にシステムが再利用をできるように標準的な制限を設定します。システムはディスク容量が示された割合未満であれば再利用のためにリサイクルを開始します。(デフォルトは 10%であり、最小値は 5%です)

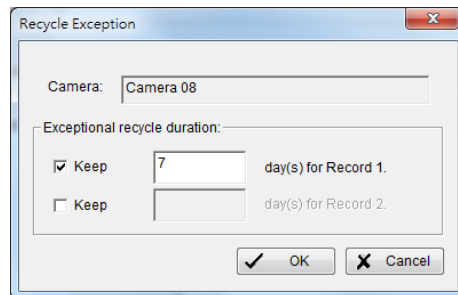
オプション設定: 録画1と録画2とで異なった保存期間を持てますのでそれぞれにリサイクルの日数を設定します。



例外: カメラを選択して→ボタンで右側のパネルに移動すると、下図のリサイクル設定ウィンドウをポップアップ表示します。下図の例では 1 番目のカメラの録画1を 7 日、録画2を 30 日として個別のリサイクル基準に設定しています。



最大容量を用いて録画される場合は、保存のチェックを外し、日数の項目をグレーアウトさせます。これを設定することにより、録画2の項目は“-”になり、保存日数は使用可能な残りのディスク容量に依存します。また、この録画データは優先度としては最も低く設定され、ディスク容量の確保、または録画の設定が不十分である場合には、最初に削除されます。



The dialog box titled "Recycle Exception" contains the following fields and controls:

- Camera: Camera 08
- Exceptional recycle duration:
 - ☒ Keep 7 day(s) for Record 1.
 - ☐ Keep [] day(s) for Record 2.
- Buttons: OK, Cancel

Camera	Record1	Record2
08 Camera 08	10 day(s)	-

注意:

1. デフォルトのストレージスペースを使い切った場合、システムはまずデフォルトの位置の記憶領域を検出し、次のディレクトリに録画していきます。
2. すべての記録状態がストレージの保存規則を超えた場合、システムはリサイクル処理を開始します。
3. リサイクルの優先度: 保存% ディスクスペース(空き容量が%以下) > オプション保存日数 > 例外による個別保存 日数
4. リサイクル処理例:

例1: “保存 10% ディスクスペース”に設定し、現在の空き容量が 10%より大きい(例えば 15%)場合

- a. “全体の録画保存日数”を x 日と設定した場合: x 日以上になったところで Mainconsole は最も古い録画データの削除を始めます。
- b. “カメラごとの個別保存日数”を設定した場合: 利用可能なディスク容量が 10%に達すると、Mainconsole は録画を継続しつつ最も古い録画の削除を開始します。

例2: “保存 10% ディスクスペース”に設定し、現在の空き容量が 10%の場合

- a. “カメラごとの個別保存日数”を設定した場合: Mainconsole は最も古い録画データの削除を始めます。削除によって確保された空き領域は、“録画保存日数を x 日”として設定された録画データを保存するために使用されます。
- b. “全体の録画保存日数”を x 日と設定した場合: Mainconsole は録画データが x 日に達した時点で、古い録画データの削除を開始します。
- c. Mainconsole は残り 1 日になるまで、“カメラごとの保持日数”の最も古い録画データを削除し続け、その後”残り 10%ディスクスペース”設定に従い、“全体の録画保存日数 x 日”の最も古い録画データを削除します。

Log Recycling: 詳細なリサイクル動作を設定する際にこのタブをクリックします。イベントを保持する日数、またはビデオファイル内のすべてのイベントログを保持するかを設定します。

イベントログ: 設定した日数より古いイベントログデータを削除します。

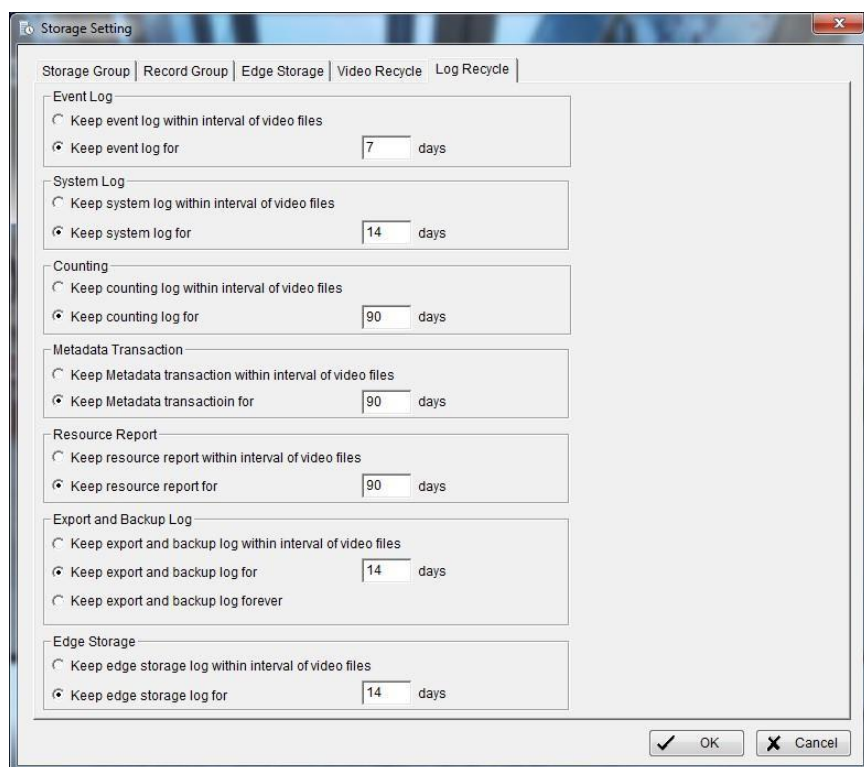
システムログ: 設定した日数よりも古いシステムログデータを削除します。

カウント: 設定した日数より古いカウントアプリケーションデータを削除します。

Metadata トランザクション: 設定した日数より古いメタデータ・トランザクションデータを削除します。

リソースレポート: 設定した日数より古いリソースレポートデータを削除します。

Edge ストレージ: 設定した日数より古いエッジストレージのログを削除します。



5.10 ユーザーアカウント設定

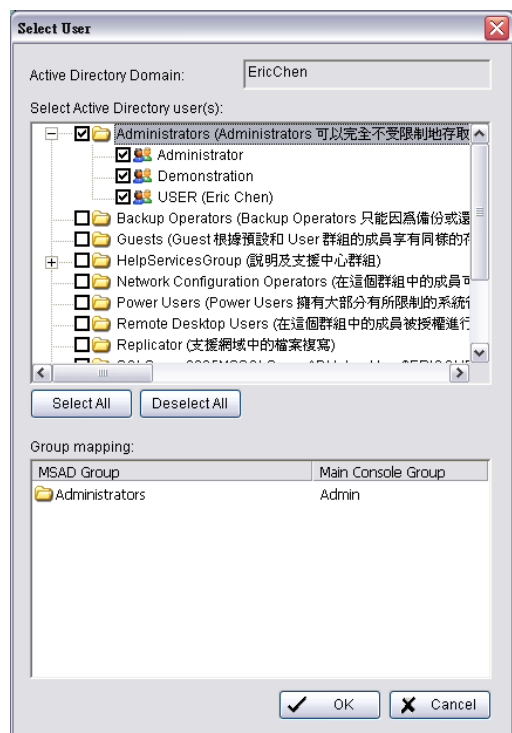
管理者はここでユーザーアカウントを管理します。

この画面は、デフォルトの管理者アカウントによってのみアクセス可能です。

ユーザー

ここでは新しいユーザーを追加したり、変更、既存のユーザーの削除などが可能です。直接ユーザーを設定したり、または、マイクロソフト アクティブ ディレクトリ(MSAD)からインポートしたりすることができます。

***注意:** ローカル PC の管理者ユーザーグループに Windows ログイン AD を追加するのを忘れないでください。メインコンソールは管理者権限のみ起動することができます。



“全てを選択”をクリックすると全てのユーザーとフォルダーがチェックされ、“クリア”をクリックすると全てのチェックが外れます。

グループマッピング:

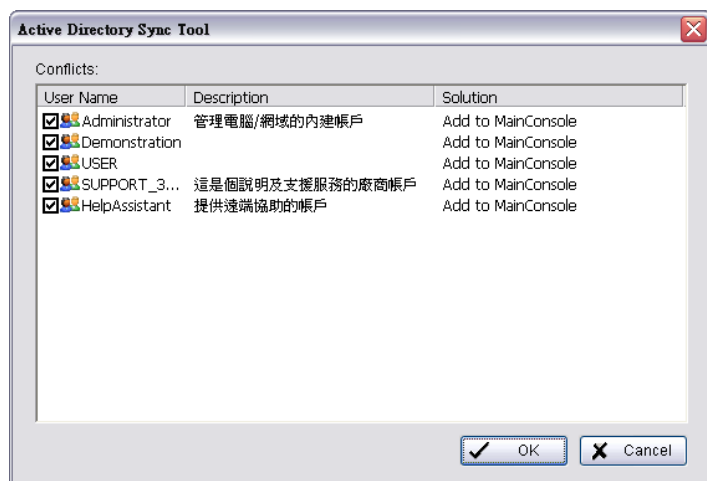
選択した Windows ユーザーは、デフォルトのマッピングに従いグループ化されます。

MSAD グループ	Mainconsole グループ
Administrator	Admin
Guest	User
Other	PowerUser

グループ設定を変更したい場合はユーザーアカウントのページから可能です。

“はい”をクリックすると Windows ユーザーの追加が完了です。

確認のために同期の結果が表示されます。



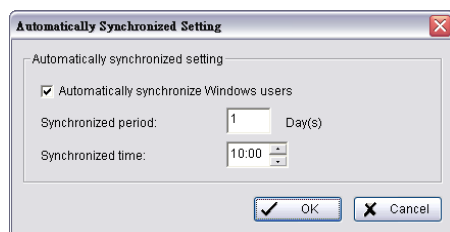
全てのソリューションにて内容を参照してください。

- AD domain から新しいアカウントが追加されました: **メインコンソールに追加**
- AD domain からアカウントが削除されました: **メインコンソールから削除**
- アカウント説明修正: **説明が修正されました**
- 管理者アカウントが発生: **admin アカウントをスキップ**
- 既存のユーザーと追加された AD ドメインが競合しました: **既存ユーザーを変更ください**

チェックを外した項目は設定がスキップされます。

Windows ユーザー自動同期

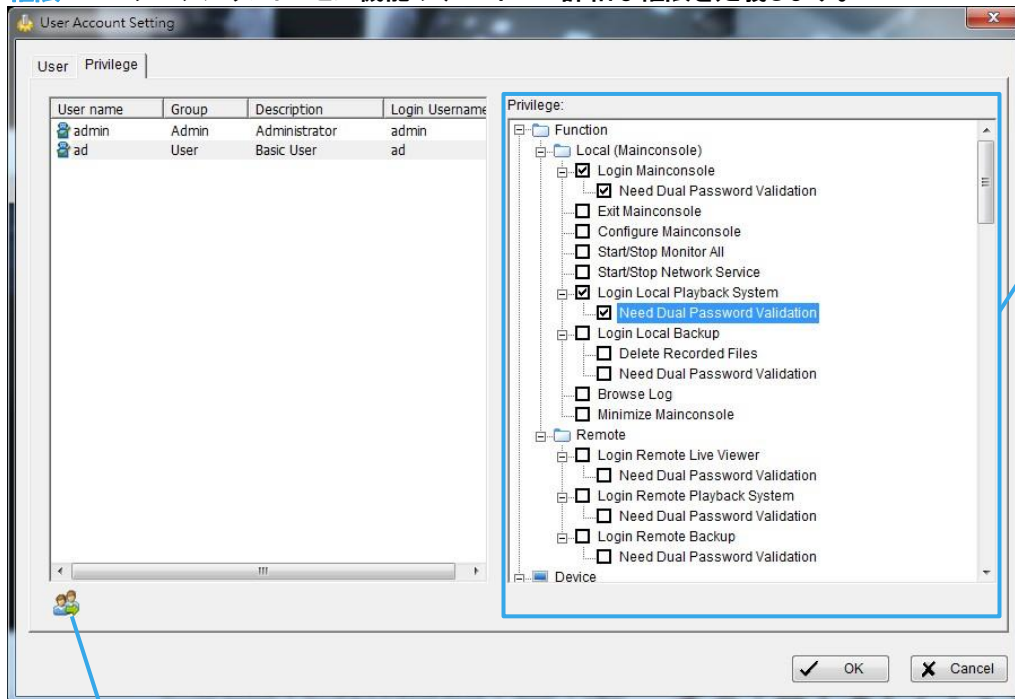
手動による同期ではなく、設定した周期により自動的に Windows ユーザーと同期を取ります。  ボタンをクリックしてください。



- **自動同調 Windows ユーザー:** 自動同期を有効にするにはチェックを入れてください。
- **同期された期間:** 同期をする周期の期間を設定してください。 __ 日。
- **同期された時間:** 同期を開始する時間を設定してください。

注意: 自動同期では全てのユーザーと競合する恐れがあります。

権限: ユーザーアカウントごとに機能やデバイスの詳細な権限を定義します。



権限のコピー

権限

- **機能:** 一般設定の設定とそれに関連する操作、システム全般の設定、およびリモートアクセスの権限
- **デバイス:** メインコンソールとクライアントアプリケーションでのカメラ、デジタル出力、メタデータソースに関連する権限
- **権限のコピー:** クリックすると権限の設定が別のアカウントにコピーできます。

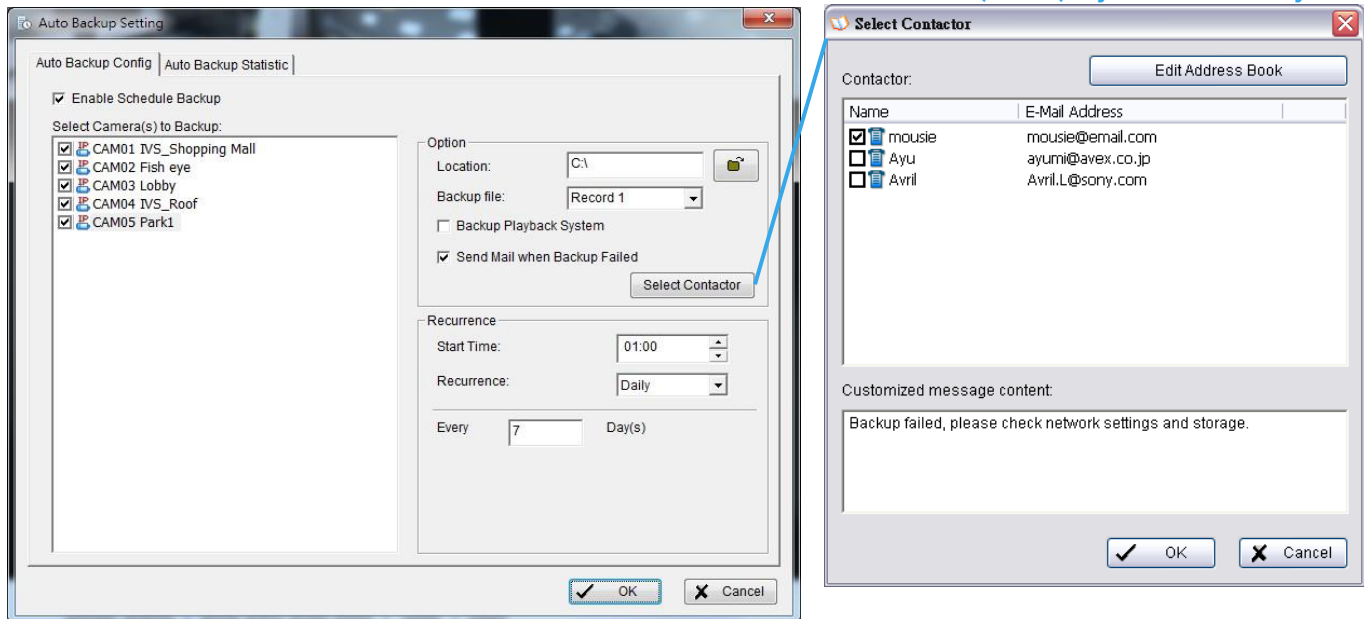
注意: デフォルトの admin アカウントの権限を変更することはできません。DVR カードが搭載されていない場合は、"TV 出力設定"は使用できません。

5.11 自動バックアップ設定

毎日または週単位の自動バックアップをシステムに設定します。

自動バックアップコンフィグ: 自動バックアップの一般設定を行います。

- **スケジュールのバックアップを有効にする:** バックアップを有効にする場合、チェックしてください。
- **バックアップのカメラを選ぶ:** バックアップするカメラを選択してください。
- **オプション**
 - ロケーション:** バックアップ先を指定します。
 - バックアップ再生システム:** チェックするとバックアップ指定先に再生用ソフト"Playback.exe"が配置されます。
 - バックアップが失敗するとメールでお知らせします:** バックアップが失敗した際、メール通知を行う場合はチェックしてください。メール設定は一般設定から行います。アドレス帳から 1 つまたは複数の送信先を設定できます。また、カスタムメッセージの内容を設定します。
 - 回復:** バックアップする時刻と、毎日または毎週実施するか選択します。



自動バックアップ統計: バックアップステータスに関する統計情報を表示します。更新するには、“更新”ボタンをクリックします。



- 今のバックアップの状態:**
 アイドル: 次のバックアップを待っている状態。
 バックアップ中: バックアップ中。
 リトライ中: バックアップ失敗、リトライ中。
- 次のバックアップ開始時間:** 次回のバックアップ日時。
- 次回の再試行時間:** 次のバックアップリトライ日時。N/A はアイドル状態またはバックアップ中。
- 前回のバックアップ**
 前回のバックアップが始まる: 前回のバックアップ開始日時。
 前回のバックアップが終了する: 前回のバックアップが完了した日時と結果。
 バックアップされたビデオの時間: 前回のバックアップビデオの時間。
 バックアップされたファイルのサイズ: 前回のバックアップの合計ファイルサイズ。
バックアップの結果:
 完成: 前回のバックアップ成功。
 失敗: 前回のバックアップ失敗、リトライします。
 タイムアウト: 前回のバックアップ失敗、リトライタイムアウト。

5.12 カウントのレポート設定

定期的にメールや FTP 経由でカウントレポートを送信します。

一般設定:

- **モード:** バックアップしたいカウントソースの選択。
- **頻度:** レポートの頻度設定。
- **最初転送が失敗する際、再送信:** 再試行の間隔と回数設定。
- **レポート提供:** レポートの提供方法選択。

形式設定:

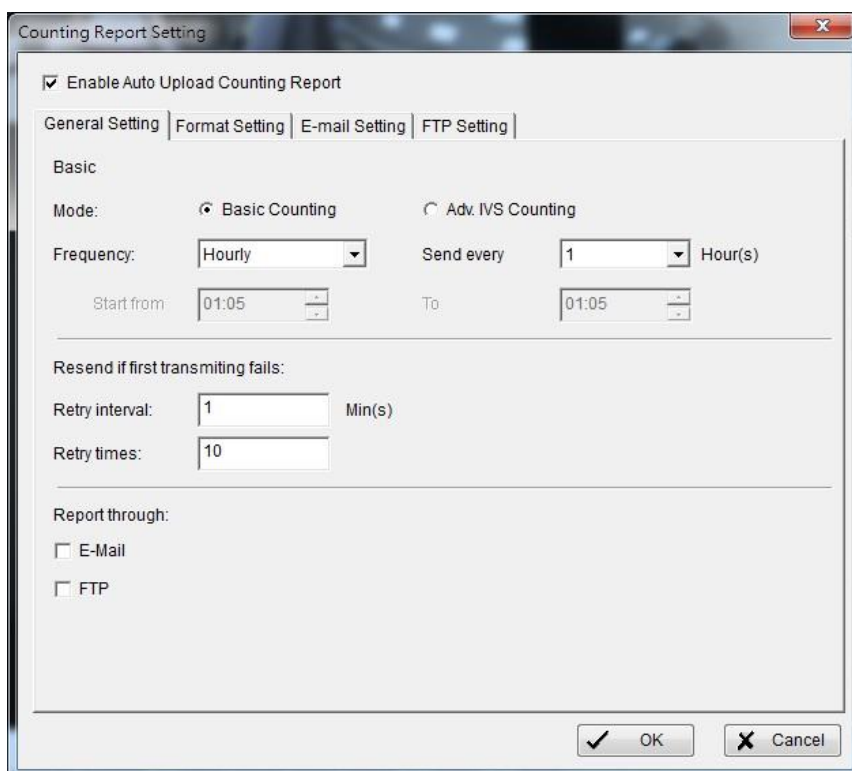
- **レポート形式:** レポートのフォーマット (Diagram / .CSV) 及び、ファイル名のプレフィックスを指定。
- **詳細設定:** CSV ファイルにカスタマイズしたユーザー設定欄を追加。

メール設定:

- **Hotline E-Mail 設定に同期:** 設定 > ホットラインタブの E-Mail 設定を使用する場合はチェックしてください。

FTP Setting:

- **Hotline FTP 設定:** 設定 > ホットラインタブの FTP 設定を使用する場合はチェックしてください。

**5.13 ライセンスマネージャー**

ソフトウェアのライセンスは、インテリジェント監視システムを使用する上で最初に登録する必要があります。

ライセンスを登録(アクティベート)する際は、一般設定 > ライセンスマネージャーを起動してください。ライセンスカードに記載されているライセンス番号を使用し、アクティベートを行うことができます。

注意: 詳細な設定方法については、「11.2 ライセンス管理ツール」を参照してください。



5.14 設定の保存/読み込み

設定の保存/読み込み機能は、ユーザーの特定した設定を cfg(設定)ファイルとして保存する機能です。いくつかの異なる cfg(設定)ファイルを同時に保存することが可能です。

設定の保存: 特定の設定を保存します。システム設定→設定の保存/ロード→保存の順に進み、ポップアップウィンドウで、ファイル名を入力し、cfg ファイルとして保存してください。

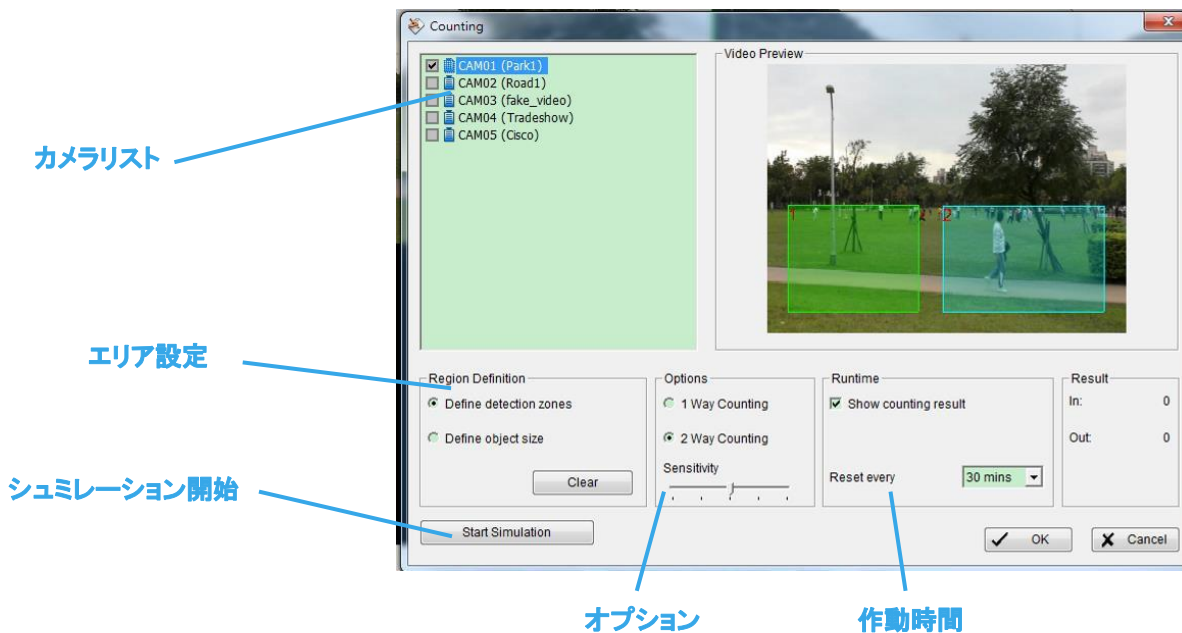
設定のロード: 特定の設定を読み込みます。設定→設定の保存/ロード→ロードの順に進み、ポップアップウィンドウで、cfg ファイルを保存したディレクトリに進んでください。その中の読み込みたいファイルを選び、OK ボタンをクリックし、読み込みます。新しい設定を読み込んだ後、メインコンソールは自動的にシャットダウンされます。手動でメインコンソールを再起動させてください。



5.15 映像分析 - カウントツール

事前に定義された検出ゾーンを通過するオブジェクト、人物や車などをカウントします。

この機能にアクセスするには、管理者の権限を持つユーザーアカウントでログインします。



カメラリスト: カウントに使用するカメラを選択します。

エリア設定:

“検知エリアを定義する”にチェックを入れ、カーソルをドラッグしてエリア1、エリア2をビデオプレビューに表示してください。

“オブジェクトサイズを設定する”にチェックを入れ、カーソルをドラッグし、オブジェクトサイズを設定します。2つのエリアを行き来する際にカウントされるオブジェクトサイズを設定します。

オプション: 一方向カウントでは、オブジェクトがエリア1からエリア2に移動するのを一回として数えます。両方向カウントモードでは、オブジェクトがエリア1からエリア2へ、エリア2からエリア1へのどちらも移動も一回として数えます。

作動時間: “カウント結果を表示する”にチェックを入れます。(赤い正方形でシステムが検知するオブジェクトの形を描くボックス)。ドロップダウンメニューから何時間(分)ごとにカウントをリセットしたいかを選びます。

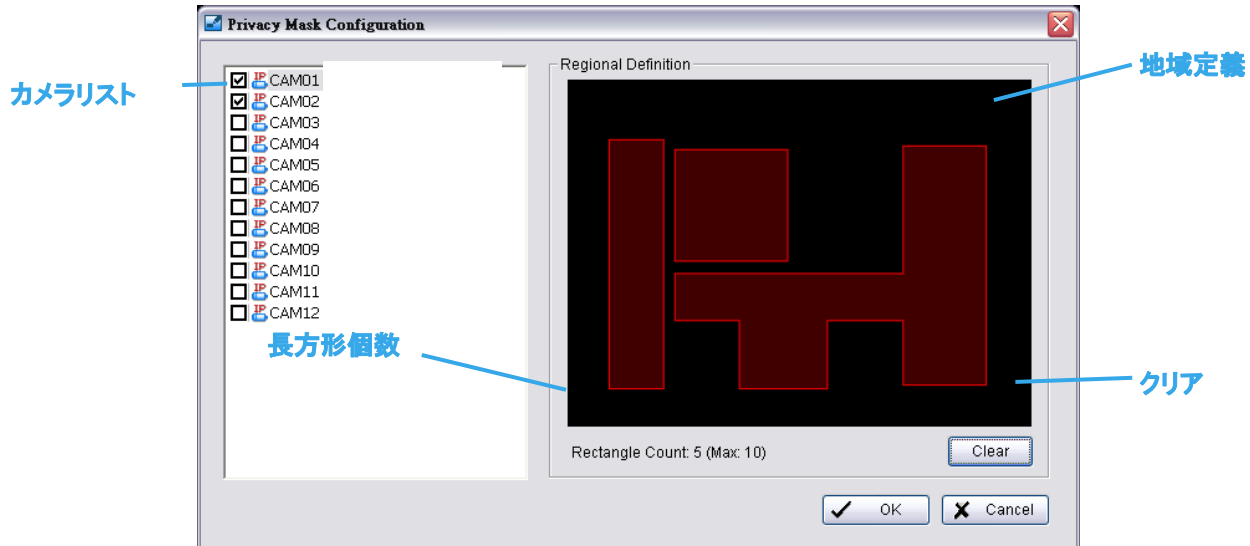
シミュレーション開始: 設定確認の為、動作シミュレーションを行います。

5.16 映像分析 - プライバシーマスク

プライバシー保護の為、表示が隠れる領域を設定します。

この機能にアクセスするには、管理者の権限を持つユーザーアカウントでログインします。

プライバシーマスクの設定は、Mainconsole 上のローカル表示の他、ライブ表示"RemoteLiveViewer"や再生映像表示"PlaybackSystem"にも適用されます。



カメラリスト: プライバシーマスクを使用するカメラを選択します。

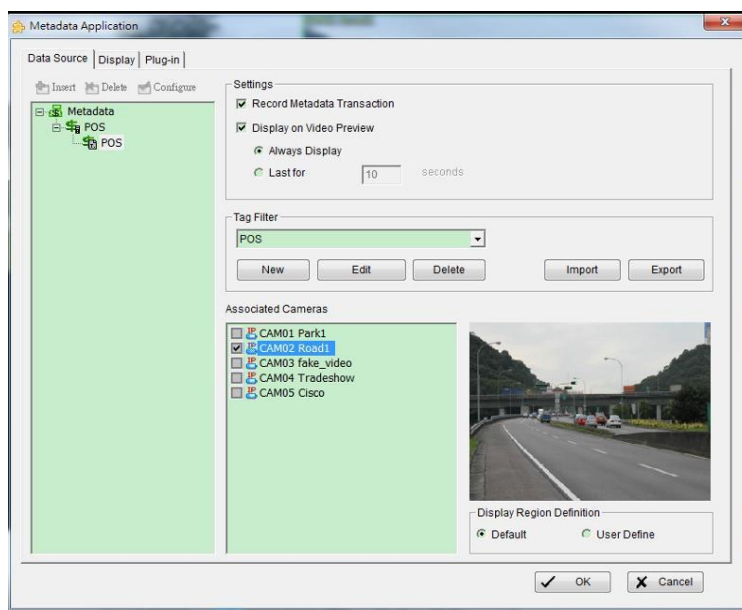
地域定義: ドラッグ操作によりマスクする領域を選択します。

長方形個数: M マスク領域の数を表示します。マスク領域は最大 10 個設定可能です。

クリア: 設定をクリアします。

5.17 メタデータアプリケーション

メタデータアプリケーションは、POS、LPR 及びアクセス制御を含む三つの異なるデータ型をサポートしています。このツールは、これらのデバイスの設定及び使用することができます。これらの機能を使用するには別途ライセンスを取得する必要がありますのでご注意ください。ライセンスアクティベーションに関する詳細については、メタデータのユーザーマニュアルを参照願います。



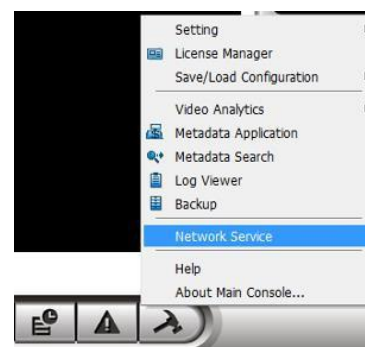
5.18 ネットワークサービス

ネットワークサービスは、5 種類あります。

ライブストリーミングサーバ、リモートプレイバックサーバ、3GPP サービス、リモートデスクトップ、中央管理サービスがあります。メインコンソールからは、一般的な設定 - ネットワークサービスからネットワークサービスパネルへ進みます。

起動時、メインコンソールの情報ウィンドウ内にアイコンが各ネットワークサービスのために表示します。詳細については、1.1.ユーザーインターフェースの概要を参照してください。

	ライブ	再生	3GPP	Desktop	CMS
開始					
停止					

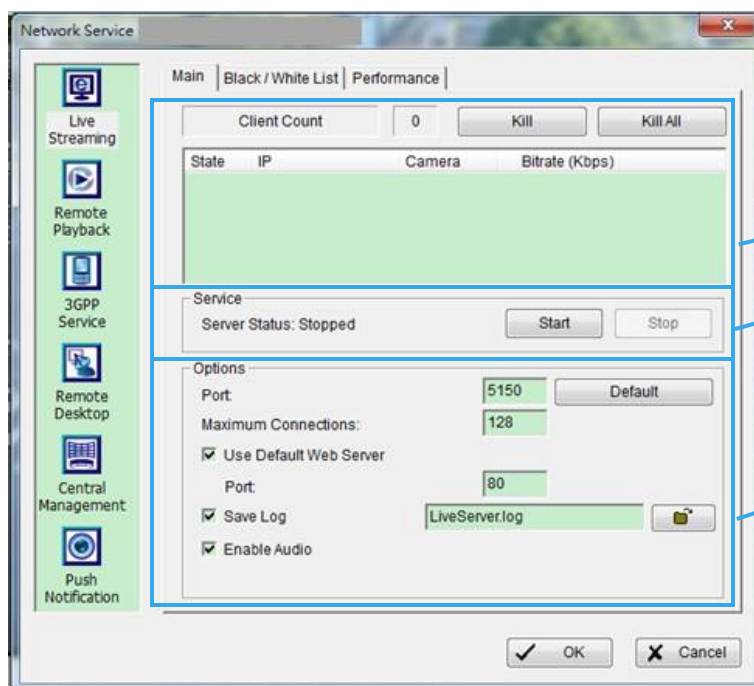


5.18.1 ライブストリーミングサーバ

コンピュータのライブストリーミング機能を起動すると、システムは、リモートユーザーがそれに接続されている特定のコンピュータやカメラ映像にログインできます。システム管理者は、ユーザがシステムの効率を維持するために、これらのアカウントを監視することができます。

メイン

ライブストリーミングサーバパネルで、管理者は、現在コンピュータにログインし、リモート側からのライブビデオを見ているすべてのクライアントを表示することができます。



クライアントリスト

サービス

オプション

クライアントリスト:

- ・ **クライアント数:** システムに接続されているチャンネルの数を表示します。
- ・ **無効化:** IP アドレスをハイライト表示し、クライアントリストからクライアントをブロックする場合、無効化ボタンをクリックします。
- ・ **すべてを無効化:** このボタンをクリックすると、すべてのクライアントは、システムへのログインをブロックします。

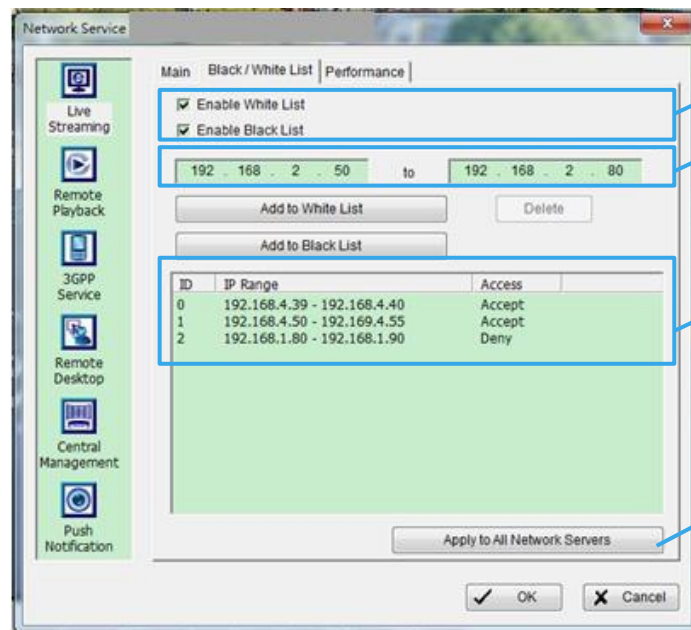
サービス:

- ・ **サーバステータス:** このオプションを ON/OFF するために、開始/停止をクリックします。

オプション: サーバーが停止している時のみ、設定を調整します。

- **ポート:** リモートライブビューアを介してシステムに接続するためのクライアント用のポートを割り当てます。デフォルトのポートは 5150 です。
- **接続可能最大値:** システムへの接続を許可されている接続の数。デフォルトと最大値は 128 で、1 つのカメラ映像はひとつの接続としてカウントします。
- **デフォルト Web サーバを使用:** チェックボックスをオンにして、Web サーバを有効化します。クライアントは、Internet Explorer 経由でライブ映像を見ることができるようになります。ライブストリーミングサーバーのポートは、デフォルトで 80 に設定されています。
メモ: これは、IE*を介してシステムにアクセスするためにチェックする必要があります。
- **ログを保存する:** 指定されたフォルダでのログ情報を保存します。
- **音声有効:** ビデオストリームと一緒に音声伝送を有効にするには、このオプションを選択します。

ブラック/ホワイトリスト



有効リスト

IP アドレス

ブラック/ホワイトリスト

全ネットワークサービスに適用

- **ホワイトリスト:** ホワイトリストフィルタを有効にするには、“ホワイトリストを有効にする”チェックボックスをオンにします。ホワイトリストの IP だけ、ログインすることが許可されています。
- **ブラックリスト:** ブラックリストフィルタを有効にするには、“ブラックリストを有効にする”チェックボックスをオンにします。ブラックリストの IP がブロックされます。
- **IP アドレス:** 左側の IP アドレス項目に IP アドレスを入力します。一連の IP を登録するために、IP アドレスを 2 セットを入力し、システムに IP アドレスの範囲を追加します。
- **追加/削除:** リスト上に IP を追加、またはリストから削除します。
- **全ネットワークサービスに適用:** ライブストリーミングサーバーとリモートプレイバックサーバーの両方に設定を適用します。

個々のカメラのビットレート情報

- 109 -

サービス:

- **サーバステータス:** このオプションを ON/OFF するために、開始/停止をクリックします。

オプション: サーバーが停止している時のみ、設定を調整します。

- **ポート:** リモートプレイバックサーバを経由して、お使いのシステムに接続するクライアント用のポートを割り当てます。デフォルトのポートは 5160 です。
- **最大接続可能ユーザ数:** システムへの接続を許可されている接続の数。デフォルトおよび最大値は 64 です。
メモ: ひとつのユーザーは、サーバーにログインしているひとつのアカウントとしてカウントされます。
- **デフォルト Web サーバを使用:** チェックボックスをオンにして、Web サーバを有効化します。クライアントは、Internet Explorer 経由でライブ映像を見ることができるようになります。ライブストリーミングサーバーのポートは、デフォルトで 80 に設定されています。
メモ: IE*を介してシステムにアクセスするために、この項目をチェックする必要があります。
- **ログを保存する:** 指定されたフォルダでのログ情報を保存します。

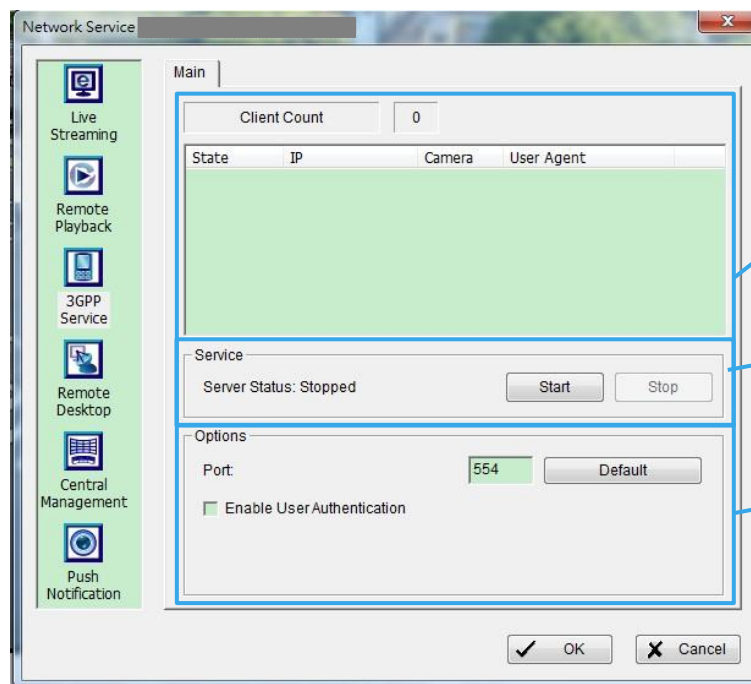
ブラック/ホワイトリスト

パフォーマンス

- ストリーミングサーバのライブのセクションを参照してください

5.18.3 3GPP サービス

お使いのコンピュータの 3GPP サービス機能を開始すると、システムは、リモートユーザーがログインすることができ、3GPP で接続されているカメラ映像は、携帯電話に対応しています。3GPP サービスの詳細については、付録 A を参照してください。



クライアントリスト

サービス

オプション

クライアントリスト:

- **クライアント数:** システムに接続されているチャンネル数を表示します。

サービス:

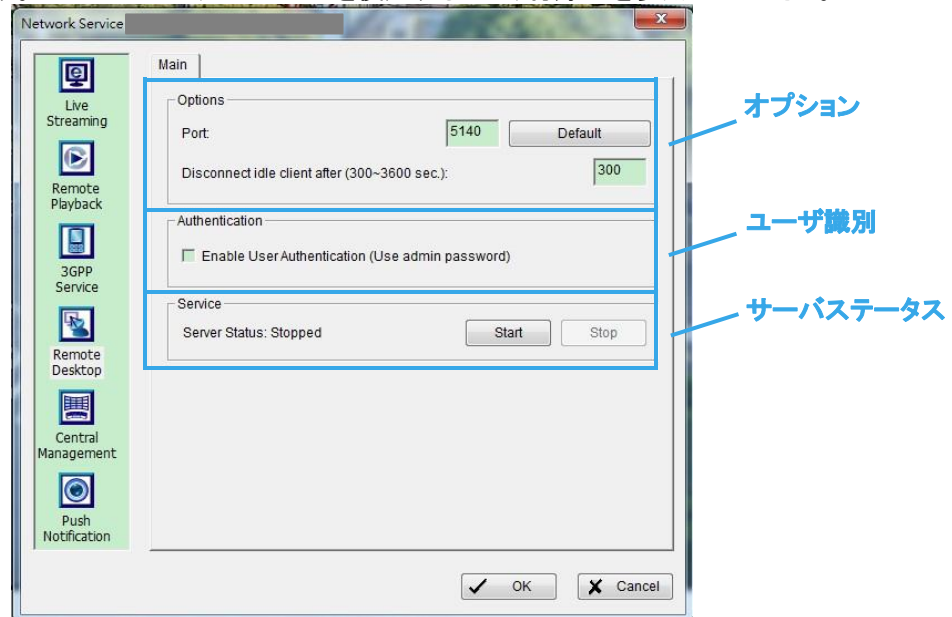
- **サーバステータス:** このオプションを ON/OFF するために、開始/停止をクリックします。

オプション: サーバーが停止している時のみ、設定を調整します。

- **ポート:** 3GPP サービス経由でシステムに接続するクライアント用のポートを割り当てます。デフォルトのポートは 554 です。
- **ユーザ認証有効:** 3GPP サーバにログインし、ビデオストリームを表示するには、ユーザー名とパスワードを入力する必要があります。

5.18.4 リモートデスクトップ

リモートデスクトップを起動すると、システムは、リモートユーザがログインするリモートデスクトップツールと一般的なシステム設定を使用することができます。インストールし、このツールを使用するには、付録 B を参照してください。

**オプション:**

- **ポート:** ログインするデスクトップツールと一般的な設定システムのポートを割り当てます。
- **(300~3600 秒)以後アイドルのクライアントを接続中断させる。:** 設定された期間よりもアイドルを超えたオンラインユーザを自動切断します。

ユーザ識別:

このオプションは、管理者アカウントでシステムにログインするデスクトップツールを使用することが可能となります。

サービス:

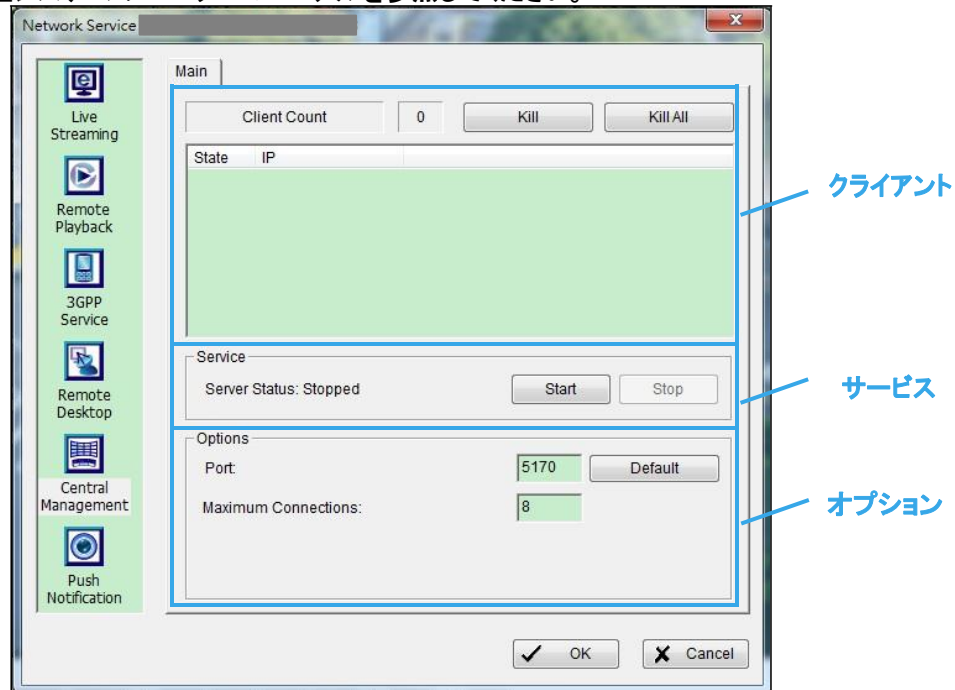
- **サーバステータス:** このオプションを ON/OFF するために、開始/停止をクリックします。

5.18.5 中央管理サービス

このサービスは、中央管理システム(NCS)に対応しています。中央管理サービスを開始し、メインコンソールは、NCS にイベント情報を送信し、NCS システムは、リモートサイトから I/O デバイスをコントロールすることができます。

メモ:

1. このアクションを有効にするには、スマートガード設定 > アクションとイベントによってトリガアクションを有効にするには、“中央サーバーに送信”を選択します。
2. 詳細については、中央管理システムのユーザーマニュアルを参照してください。



クライアントリスト:

- **クライアント数:** システムに接続されている NSC サーバーの数を表示します。
- **無効化:** IP アドレスをハイライト表示し、クライアントリストからクライアントをブロックする場合、無効化ボタンをクリックします。
- **すべてを無効化:** このボタンをクリックすると、すべてのクライアントは、システムへのログインをブロックします。

サービス:

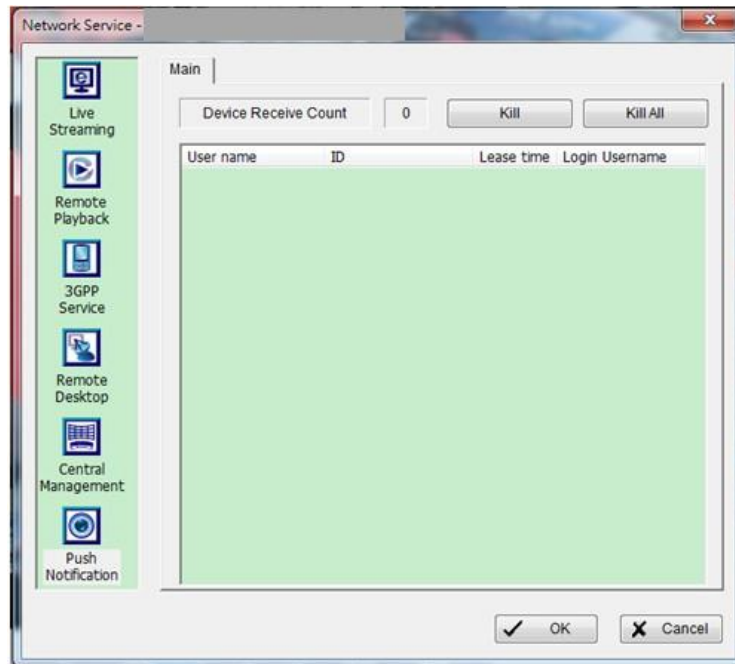
- **サーバステータス:** このオプションを ON/OFF するために、開始/停止をクリックします。

オプション: サーバーが停止している時のみ、設定を調整します。

- **ポート:** メインコンソールシステムを接続するために NCS システム用のポートを割り当てます。デフォルトのポートは 5170 です。
- システムへの接続を許可されている NCS サーバからの接続の数。デフォルトは、8NCS サーバで、最大値は 16 です。

5.18.6 プッシュ通知

お使いのコンピュータのプッシュ通知サービス機能を開始すると、システムは、モバイルデバイスの表示と削除をすることができます。



デバイスリスト:

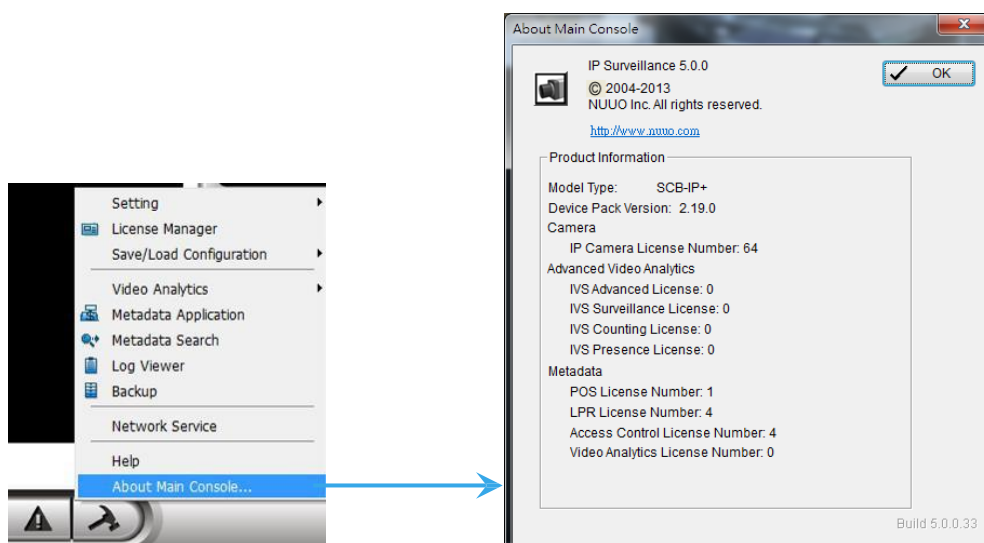
- **デバイスカウントを受け取ります:** システムに接続されているモバイルデバイスをユーザの数を表示します。
- **無効化:** デバイスのリストからユーザーを削除するには、“無効化”ボタンをクリックします。
- **すべてを無効化:** このボタンをクリックし、システムにログインしているすべてのデバイスを削除します。

5.18 ヘルプ

ウェブサイトの FAQ <http://www.nuuo.com/wiki.php#> に接続するには、ヘルプをクリックしてください。

5.19 Mainconsole について

詳細なシステムおよびライセンス情報については、メインコンソールについてを表示します。



5.20 ビデオソース

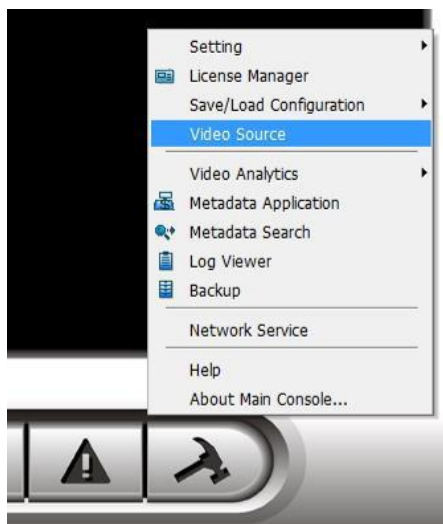
メモ: Lite のライセンスの下で対応していません。

Step 1: NTSC、または PAL にビデオ規格を調整するために、ビデオソースに移動します。

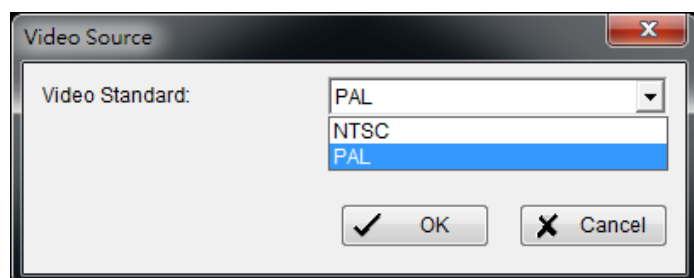
Step 2: すべてのアナログカメラの最大ビデオ解像度を調整します。(MPEG4 のみ)

Step 3: MPEG4 のために、最適化された表示(オートゲインコントロール)への映像信号レベルを同期させるには、OK を押した後に“すべての映像信号レベル同期”をクリックしてください。

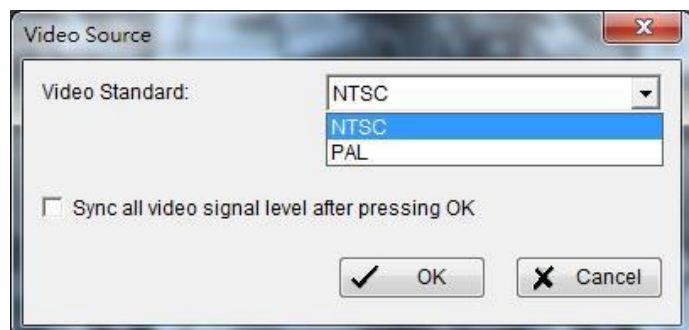
HD については、“すべての映像信号レベル同期”をクリックして、ビデオ解像度を検出します。(1080P/720P)



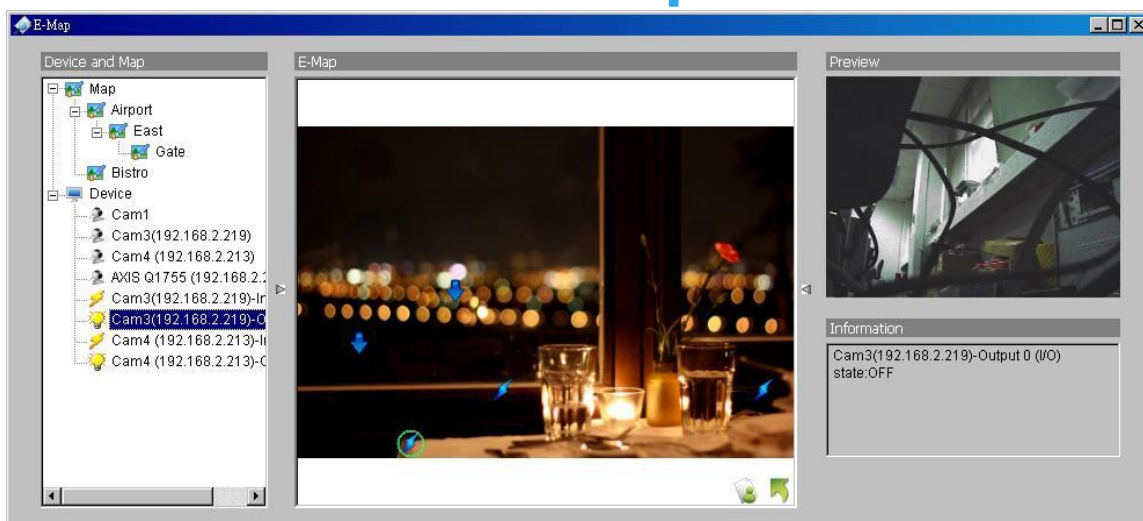
SCB-7000 シリーズでは、以下ようになります。



SCB-8000 シリーズでは、以下ようになります。



6. E-Map



E-Map 機能により、ユーザーはイベントが発生した実際の位置を容易に把握することができます。

E-Map 上の矢印および稲妻アイコンなどは、それぞれカメラと I/O 装置などを示しています。これらのアイコンは、アラームが発生した時に赤色になります。

E-Map アプリケーションを開くには、「メニュー開始」アイコン(二重丸の絵)をクリックし、「E-Map を開く」を選択してください。

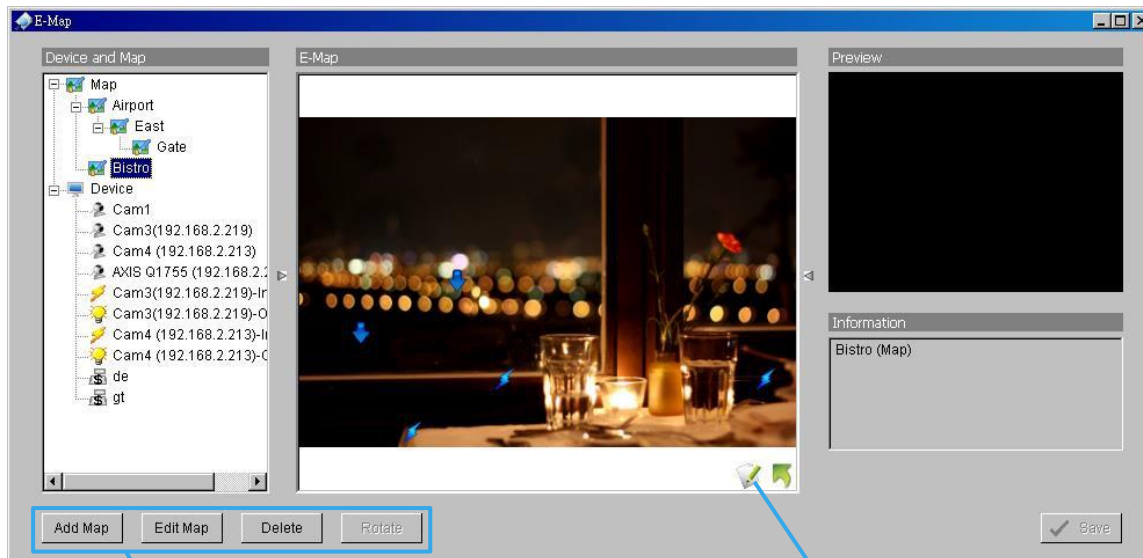
E-Map アプリケーションには 2 種類のモードがあります：

 **編集モード**：このモードでは、ユーザーは地図および装置のインジケータを追加・編集することができます。E-Map を使い始める前に、この編集モードで設定を行ってください。

 **オペレーションモード**：編集モードで設定した内容で、実際に E-Map 機能を使用するモードです。

6.1 編集モード

すべての E-Map の編集作業は、“編集モード”内で行う必要があります。



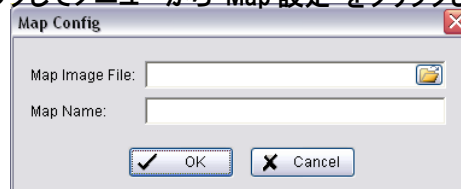
機能ボタン

編集モード/ オペレーションモードの切り替えボタン

6.1.1 E-Map の追加/編集/削除

E-Map の追加:

- Step1:** 切り替えボタンを押して編集モードにしてください。すべてのデバイスが接続され、正しく設定されていることを確認してください。
- Step2:** "Device and Map"リスト内の"マップ" アイコンを右クリックしてメニューから"Map 追加"をクリックしてください。もしくは"Map 追加"ボタンをクリックしてメニューから"Map 設定"をクリックしてください。



- Step 3:** Map として使う画像ファイル名を選択し、"Map Name:"欄に Map 名を入力して"OK"をクリックしてください。そうすると"Device and Map"リストに、いま追加した Map が現れます。
- Step 4:** 追加した Map のインジケータは、親となる一番上位階層の Map 画面の左上に現れます。インジケータをドラッグして、Map 上の希望の位置に移動してください。

E-Map の編集:

- Step 1:** 編集モードにして、すべてのデバイスが接続されていることを確認してください。
- Step 2:** "Device and Map"リスト内の"マップ" アイコンを右クリックしてメニューから"Map 編集"をクリックしてください。もしくは"Map 編集"ボタンをクリックしてメニューから"Map 設定"をクリックしてください。
- Step 3:** 必要な箇所を修正してください。最後に"OK"ボタンを押して設定を保存して下さい。

E-Map の削除:

- Step 1:** 編集モードにして、すべてのデバイスが接続されていることを確認してください。
- Step 2:** "Device and Map"リスト内の"マップ" アイコンを右クリックしてメニューから"Map 削除"をクリックしてください。もしくは"削除"ボタンをクリックして指定した Map を削除してください。
- 注意:** 親となる一番上位階層の Map を削除することはできません。

6.1.2 デバイスインジケータの追加/回転/削除

インジケータの追加:

Step 1: 編集モードにして、すべてのデバイスが接続されていることを確認してください。

Step 2: インジケータを追加したい Map の“マップ”アイコンをクリックしてください。

Step 3: インジケータを追加する前に、Map が表示されていることを確認してください。 ”Device and Map”リスト上のデバイスを Map 上のご希望の位置にドラッグしてください。

注意: 装置によってインジケータは異なります。

 - カメラインジケータ,
  - デジタル入力インジケータ,
  - デジタル出力インジケータ
 - アクセス制御インジケータ,
  - POS インジケータ,
  - LPR(ナンバープレート検知)インジケータ

インジケータの回転:

Step 1: 編集モードにして、回転させたいカメラインジケータをクリックしてください。選択されたカメラインジケータは緑の丸マーク  が付きます。

Step 2: ”回転”ボタンを押してください。押す毎にカメラインジケータが時計回りに 45° 回転します。

注意: 回転できるのはカメラインジケータのみです。

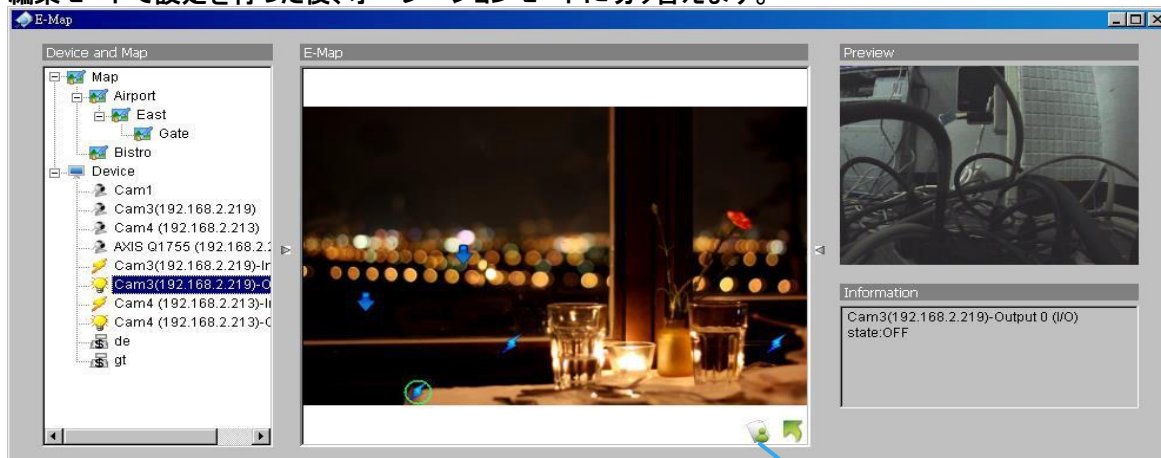
インジケータの削除:

Step 1: 編集モードにして、削除したいインジケータをクリックしてください。選択されたインジケータは緑の丸マーク  が付きます。

Step 2: ”削除”ボタンを押してください。インジケータが削除されます。

6.2 オペレーションモード

編集モードで設定を行った後、オペレーションモードに切り替えます。



オペレーションモード/編集モード切替ボタン

6.2.1 Device and Map 階層リスト

この画面はすべての装置と Map 階層を表示します。E-Map 画面上に関連情報を表示するには、この階層リストから装置もしくは Map インジケータをクリックしてください。

 **Map** - E-Map 画面上に表示したい Map を選択してください。

 **カメラ** - “Preview”画面で見たいカメラを選択してください。もし、E-Map 上にカメラインジケータを作成済みであれば、そのインジケータが強調表示されます。

  **デジタル I/O** - 各デバイスを選択すると Map 上のインジケータに緑に丸印が付きます。そして”Information”画面にステータスが表示されます。もし選択したデジタル I/O が IP カメラのものであれば、”Preview”画面にライブ映像が表示されます。

   **アクセス制御/POS/LPR** - 各デバイスを選択すると Map 上のインジケータに緑に丸印が付きます。そして”Preview”画面には、各デバイスに最初に紐づけられたカメラのライブ映像が表示されます。

6.2.2 E-Map 画像

この画面は Map レイヤとデバイスインジケータを表示します。

デバイスインジケータ:

”Device and Map”リストからデバイスインジケータを選択すると、関連情報とビデオのプレビューを表示します。

Map インジケータ:

Map インジケータを選択すると次の Map レイヤに進みます。上位レイヤの Map に戻りたい場合、Map を右クリックして”UP”を選択するかもしくは””をクリックしてください。

6.2.3 Information および Preview 画面

この画面は各インジケータに関連した情報を表示します。

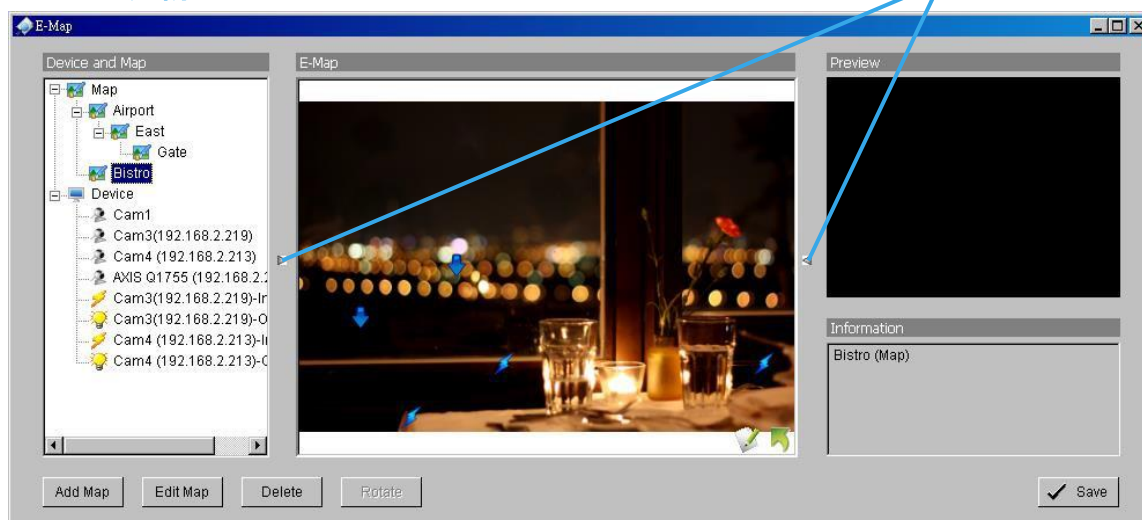
 **Map 情報** - Map 名を表示します。

 **カメラ** - カメラ名と接続状態を表示します。

 **デジタル I/O** - デジタル I/O の名前と状態(0 か 1)を表示します。

 **アクセス制御/POS/LPR** - 各デバイスの名前と接続状態を表示します。各デバイスが複数のカメラと関係する場合は、最初に紐づけされているカメラの情報を表示します。

6.3 レイアウト調整



画面を縮める:

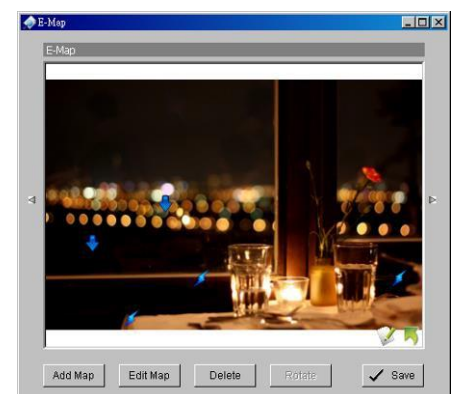
“” 三角インジケータ”ボタンをクリックして、“Device and Map”、“Preview”もしくは“Information”画面を隠します。もう一度三角インジケータボタンをクリックすると標準のレイアウトに戻ります。

全画面表示:

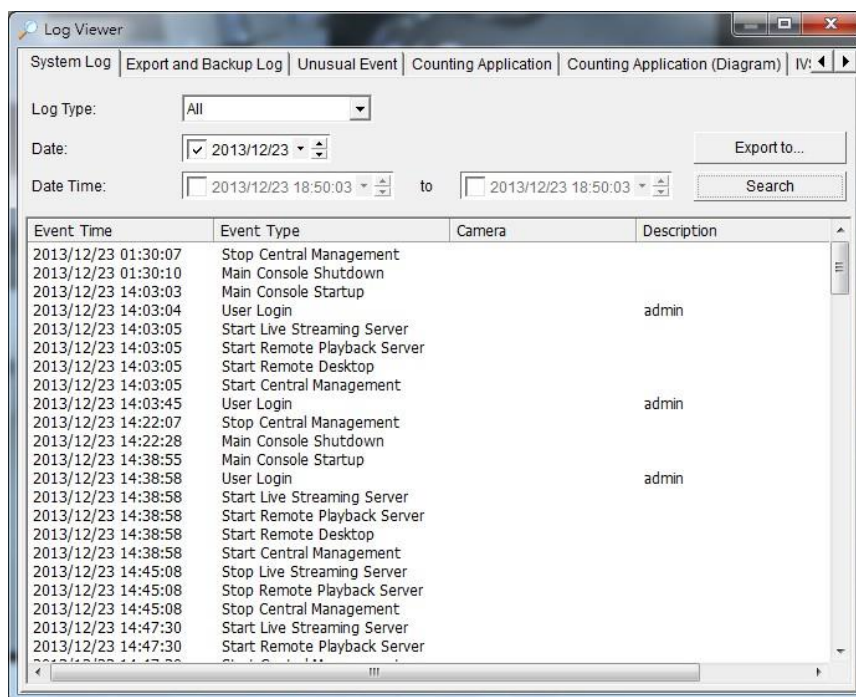
デュアルモニターをお使いの場合、主モニターに Mainconsole 画面を表示させ、副モニターの全画面に E-Map を表示させることができます。

Step 1: “” 三角インジケータ”ボタンをクリックし、“Device and Map”、“Preview”もしくは“Information”画面を隠します。

Step 2: 画面右上にある“”ボタンをクリックすると、E-Map が全画面表示になります。

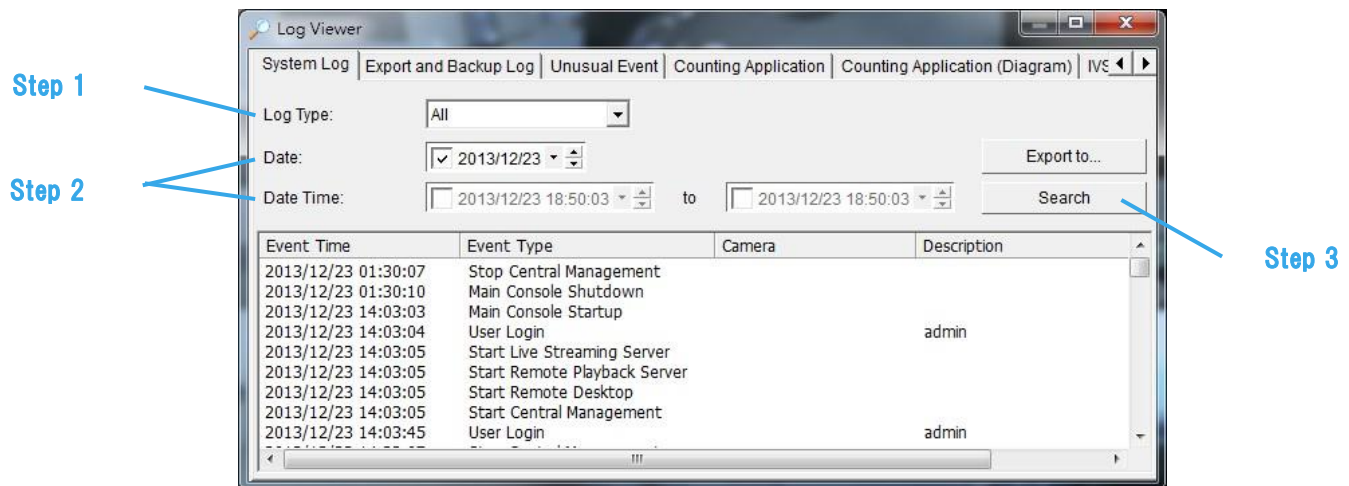


7. ログビューワ



スマートガードシステムで検知された異常イベントの履歴を確認と、エクスポートを行えます。ログビューワを起動するには、”一般設定(金づちマーク)”アイコンをクリックし、メニューから”ログビューワ”をクリックしてください。

7.1 システムログ



Step1: ドロップダウンメニューからログタイプを選ぶことができます。以下の 37 種類のイベントタイプがあります:

- | | |
|----------------------|-------------------------------------|
| ✓ メインコンソール起動 | ✓ リモート再生サーバー設定変更 |
| ✓ メインコンソール終了 | ✓ IP カメラ接続中断 |
| ✓ ユーザーログイン | ✓ Windows 再起動 |
| ✓ ユーザーログイン失敗 | ✓ メタデータ設定の変更 |
| ✓ スケジュール開始 | ✓ メタデータ接続の切断 |
| ✓ スケジュール終了 | ✓ E-Map 設定変更 |
| ✓ 上書き実行 | ✓ リモートデスクトップ開始 |
| ✓ チャンネル有効化 | ✓ リモートデスクトップ停止 |
| ✓ チャンネル無効化 | ✓ リモートデスクトップの設定変更 |
| ✓ スマートガード開始 | ✓ 集中管理サーバー開始 |
| ✓ スマートガード停止 | ✓ 集中管理サーバー停止 |
| ✓ スマートガード設定変更 | ✓ 集中管理サーバーの設定変更 |
| ✓ スケジュール変更 | ✓ カウントツール開始 |
| ✓ 設定変更 | ✓ カウントツール停止 |
| ✓ ライブストリーミングサーバー起動 | ✓ IP カメラ接続の回復 |
| ✓ ライブストリーミングサーバー停止 | ✓ マイクロソフト Active Directory ユーザーとの同期 |
| ✓ ライブストリーミングサーバー設定変更 | ✓ IP カメラ設定値の変更 |
| ✓ リモート再生サーバー起動 | ✓ メタデータプラグインの更新 |
| ✓ リモート生成サーバー停止 | |

Step 2: 特定の日もしくは特定の期間内に起こったイベントを見ることができます。特定の日にあったイベントを検索するためには、「日付」のボックスにチェックを入れて日付を指定してください。特定の期間にあったイベントを検索するためには、「日付」と「時間」のボックスにチェックを入れて日付と時間を指定してください。

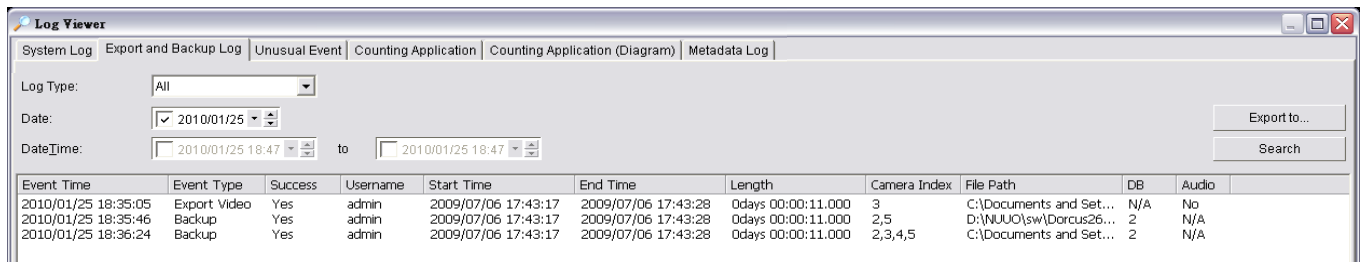
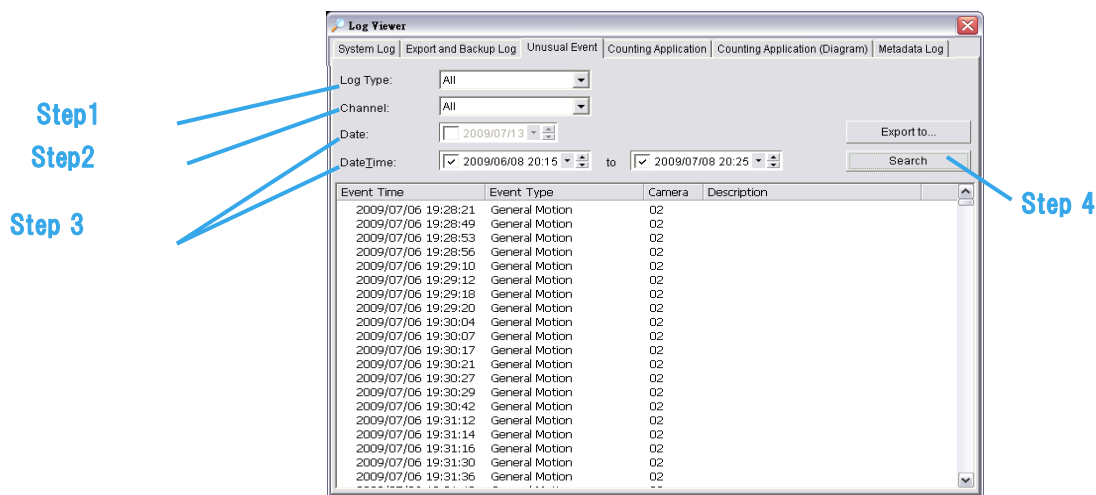
Step 3: 「検索」ボタンをクリックしてください。

7.2 ログのエクスポートとバックアップ

ローカルまたはリモートユーザによって操作された、エクスポートおよびバックアップログの履歴を表示します。

Step 1: チェックしたいイベントか、もしくはすべてのイベントを、ドロップダウンメニューから選択します。

Step 2: 特定の日もしくは特定の期間内に起こったイベントを見ることができます。特定の日にあったイベントを検索するためには、「日付」のボックスにチェックを入れて日付を指定してください。特定の期間にあったイベントを検索するためには、「日付」と「時間」のボックスにチェックを入れて日付と時間を指定してください。

Step 3: "検索"ボタンをクリックしてください。**7.3 異常イベント**

Step 1: チェックしたいイベントのタイプを選ぶか、ドロップダウンメニューから“すべて”を選び、すべてのタイプのイベントを選んでください。異常イベントの種類としては次のものがあります： モーション検知、疑わしい物体の検知、遺失物検知、ピント外れ、カメラ遮断検知、シグナルロスト、HDD 容量不足、システム状態異常、デジタル入力、デバイスによるモーション検知。

Step 2: チェックしたいカメラチャンネルを選択するか、ドロップダウンメニューから“すべて”を選び、有効な全チャンネルを選んでください。

Step 3: 特定の日または、指定された期間内に起こったイベントを見ることができます。
 特定の日: “日付”にチェックを入れ、日付を指定して下さい。
 指定期間: “日付”および“時間”にチェックを入れ、日付と時間を入力して下さい。

Step 4: “検索”をクリックしてください。

注意: 録画中に検索しようとしたとき、ログビューワーは異常イベントの検索を、最後に録画を開始した日時を起点とした“日付”および“時間”モードで検索します。

各イベントが発生した次のイベント時刻に映像が記録されている場合、リンク(🔗)マークが現れます。

リンクマークをクリックすると、簡易再生のためのポップアップウィンドウが表示され、録画映像が表示されます。

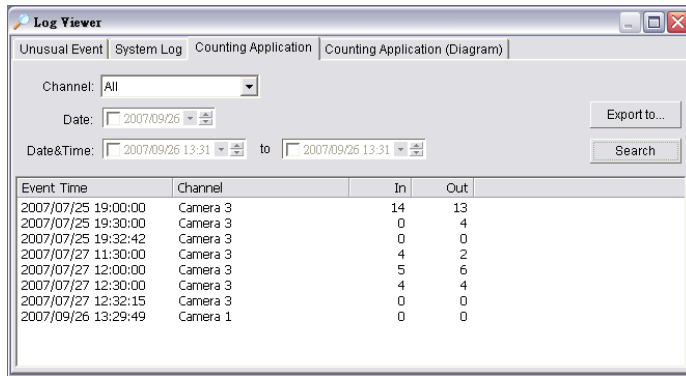
注意: 以下のスマートガードイベントでは、簡易再生が利用できます： モーション検知、疑わしい物体の検知、遺失物検知、ピント外れ、カメラ遮断検知。

7.4 カウンティングツール

指定された期間内のカウンティングツールの履歴を表示します。

Step 1: チェックしたいチャンネルを選択するか、ドロップダウンメニューから“すべて”を選びすべてのチャンネルを選択します。

Step 2: 特定の日にあったイベントまたは、特定期間内に起こったイベントを見ることができます。特定の日にあった異常イベントを検索するためには、“日付”にチェックを入れて日付を指定してください。異なった2つの時間から、特定期間にあった異常イベントを検索することもできます。“日付”および“時間”にチェックを入れ、日付と時間を入力してください。



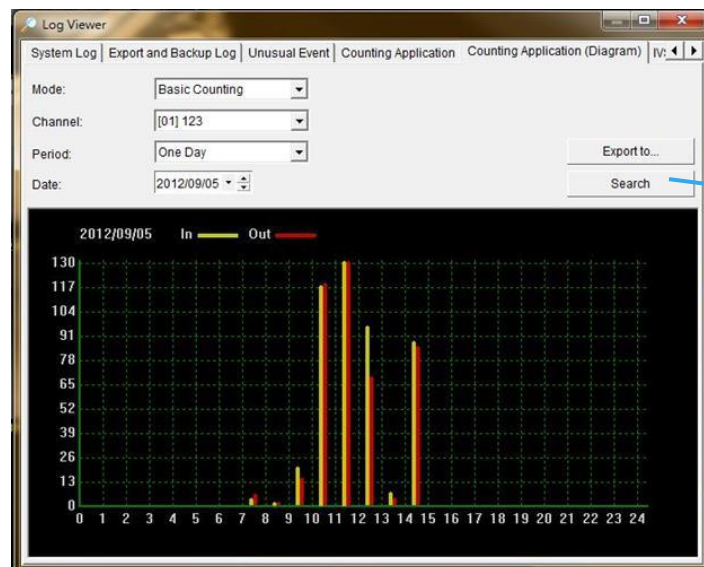
Step 3: "検索"をクリックしてください。

Step 4: "Export to."ボタンをクリックしてください。

Step 5: ファイル名を入力して、ファイルフォーマット(.xls か.txt)を選択して下さい。

7.5 カウンティングツール(ダイアグラム)

カウンティングツールのデータをダイアグラム形式で表示します。



Step 4

Step 1: チェックしたいチャンネルを選択するか、ドロップダウンメニューから“すべて”を選びすべてのチャンネルを選択します。

Step 2: ドロップダウンメニューから、表示させたいダイアグラムの種類を設定します。一日、一ヶ月、一年のオプションを選択してください。

Step 3: 日付を設定し、ダイアグラムのスタート地点を決めてください。

Step 4: "検索"をクリックしてください。

Step 5: "Export to"ボタンをクリックしてください。

Step 6: ファイル名を入力してください。ファイルはビットマップ(BMP)形式で保存されます。

7.6 メタデータログ

スマートガードシステムで検出されたメタデータのログ履歴を表示します。

Step 1: チェックしたいイベントのタイプを選択するか、ドロップダウンメニューから“すべて”を選びすべてのイベントタイプを選択します。メタデータログの種類には次のものがあります: トランザクションの開始、トランザクションの停止、キャッシュレジスタオープン、接続中断、ユーザー定義イベント。詳細はメタデータプラグインのマニュアルを参照してください。

Step 2: チェックしたいカメラチャンネルを選択するか、ドロップダウンメニューから“すべて”を選びすべてのチャンネルを選択します。

Step 3: 特定の日にあったイベントまたは、特定期間内に起こったイベントを見ることができます。特定の日にあった異常イベントを検索するためには、“日付”にチェックを入れて日付を指定してください。異なった2つの時間から、特定期間にあった異常イベントを検索することもできます。“日付”および“時間”のボックスにチェックを入れ、日付と時間を入力してください。

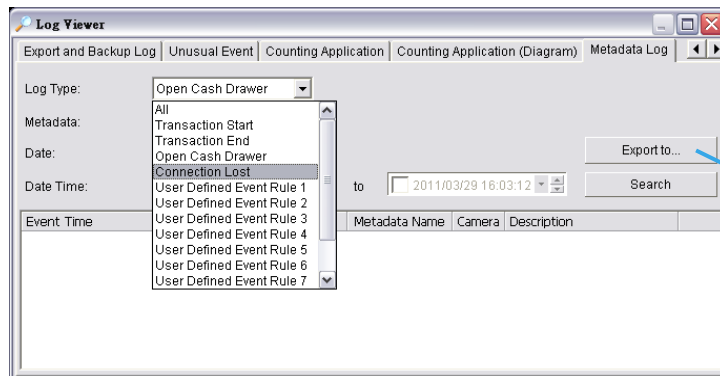
Step 4: "検索"をクリックしてください。各イベントが発生した次のイベント時刻に映像が記録されている場合、リン

The Intelligent Surveillance Solution

ク (🔍) マークが現れます。リンクマークをクリックすると、簡易再生のためのポップアップウィンドウが表示され、録画映像が表示されます。

Step 5: "Export to."ボタンをクリックしてください。

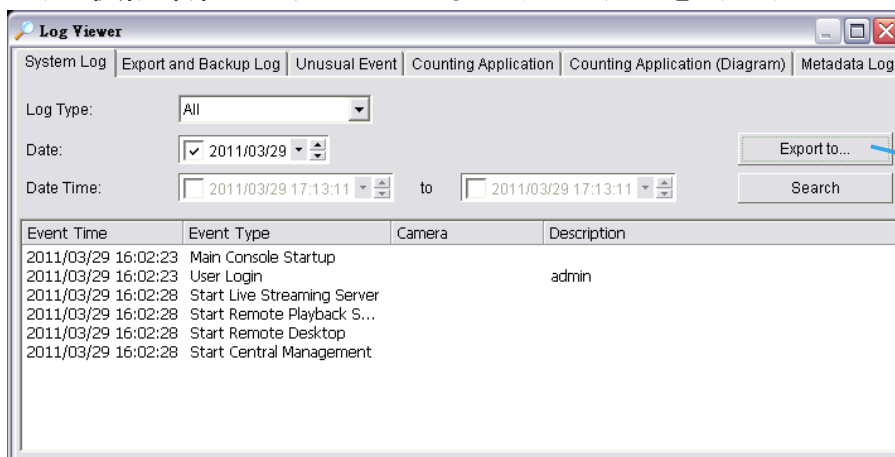
Step 6: ファイル名を入力して、ファイルフォーマット(.xls か.txt)を選択して下さい。



Step 5

7.7 エクスポート

チェックしたいログの検索が終わったら、.xls か.txt フォーマットでファイルをエクスポートできます。



Step 1

Step 1: "Export to."ボタンをクリックしてください。

Step 2: ファイル名を入力して、ファイルフォーマット(.xls か.txt)を選択して下さい。

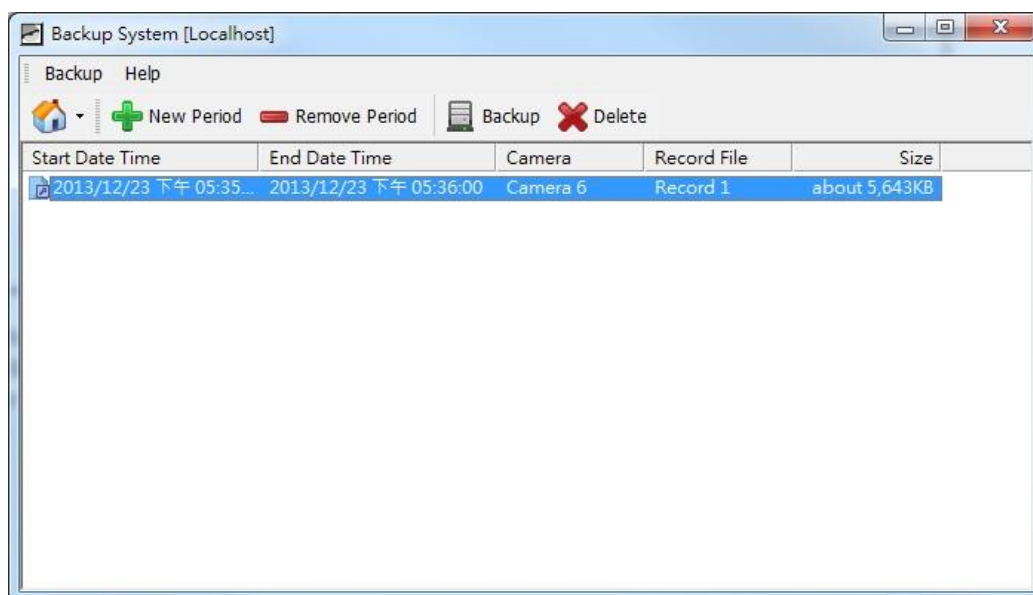
	D1		A	B	C	D	E
1		EventTime	EventTime	Event Type	Description		
2	2007/09/12 00:45:41			Main Console Startup			
3	2007/09/12 00:45:44			User Login	admin		
4	2007/09/12 01:11:10			Main Console Shutdown			
5	2007/09/12 01:27:04			Main Console Startup			
6	2007/09/12 01:27:05			User Login	admin		
7	2007/09/12 01:28:27			Main Console Shutdown			
8	2007/09/12 15:06:51			Main Console Startup			
9	2007/09/12 15:06:52			User Login	admin		
10	2007/09/12 15:07:04			Main Console Shutdown			
11	2007/09/12 15:08:28			Main Console Startup			
12	2007/09/12 15:08:40			Main Console Shutdown			
13	2007/09/12 15:08:54			Main Console Startup			
14	2007/09/12 15:09:01			Main Console Shutdown			
15	2007/09/12 15:14:11			Main Console Startup			
16	2007/09/12 15:14:12			Main Console Shutdown			
17	2007/09/12 15:14:31			Main Console Startup			
18	2007/09/12 15:15:20			Main Console Shutdown			
19	2007/09/12 19:44:15			Main Console Startup			
20	2007/09/12 19:44:58			Main Console Shutdown			
21	2007/09/12 22:51:37			Main Console Startup			
22	2007/09/12 22:51:59			Main Console Shutdown			
23	2007/09/12 22:52:14			Main Console Startup			
24	2007/09/12 22:52:18			User Login	admin		
25	2007/09/12 22:52:24			Main Console Shutdown			
26	2007/09/12 22:53:19			Main Console Startup			

.xls

```
2007/09/12 00:45:41, Main Console Startup,
2007/09/12 00:45:44, User Login, admin
2007/09/12 01:11:10, Main Console Shutdown,
2007/09/12 01:27:04, Main Console Startup,
2007/09/12 01:27:05, User Login, admin
2007/09/12 01:28:27, Main Console Shutdown,
2007/09/12 15:06:51, Main Console Startup,
2007/09/12 15:06:52, User Login, admin
2007/09/12 15:07:04, Main Console Shutdown,
2007/09/12 15:08:28, Main Console Startup,
2007/09/12 15:08:40, Main Console Shutdown,
2007/09/12 15:08:54, Main Console Startup,
2007/09/12 15:09:01, Main Console Shutdown,
2007/09/12 15:14:11, Main Console Startup,
2007/09/12 15:14:12, Main Console Shutdown,
2007/09/12 15:14:31, Main Console Startup,
2007/09/12 15:15:20, Main Console Shutdown,
2007/09/12 19:44:15, Main Console Startup,
2007/09/12 19:44:58, Main Console Shutdown,
2007/09/12 22:51:37, Main Console Startup,
2007/09/12 22:51:59, Main Console Shutdown,
2007/09/12 22:52:14, Main Console Startup,
2007/09/12 22:52:18, User Login, admin
2007/09/12 22:52:24, Main Console Shutdown,
2007/09/12 22:53:19, Main Console Startup,
```

.txt

8. バックアップ



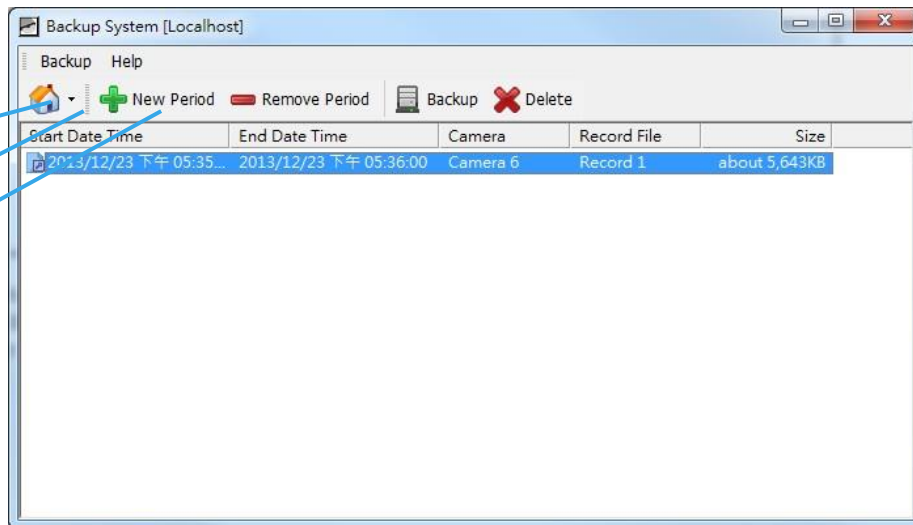
バックアップ機能は、録画した映像やその他の情報を保存します。バックアップしたファイルは、プレイバックシステムをインストールしたほかのパソコンでも読み込むことができます。バックアップファイルを取得するには、以下に示す手順に従ってください。

8.1 録画ファイルのバックアップ

Step 1

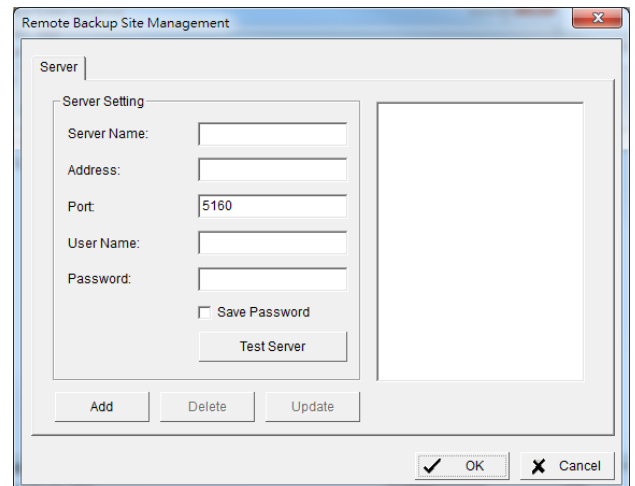
Step 2

Step 3



Step 1: (リモート)バックアップサイトを追加:

- “リモートサーバーサイト” アイコンをクリックして、リモートバックアップ管理 画面を表示します。
- 管理用のサーバー名称、IP アドレスもしくは FQDN(省略しない形式のドメイン名)、ポート番号、ユーザー名とパスワードを入力します。
- “Add”をクリックしてサーバーを追加します。
- “OK”をクリックし管理画面を終了します。



Step 2: (リモート)バックアップサイトにアクセス: “アイコンをクリックし、ユーザー名とパスワードを入力してバックアップサイトにアクセスします。

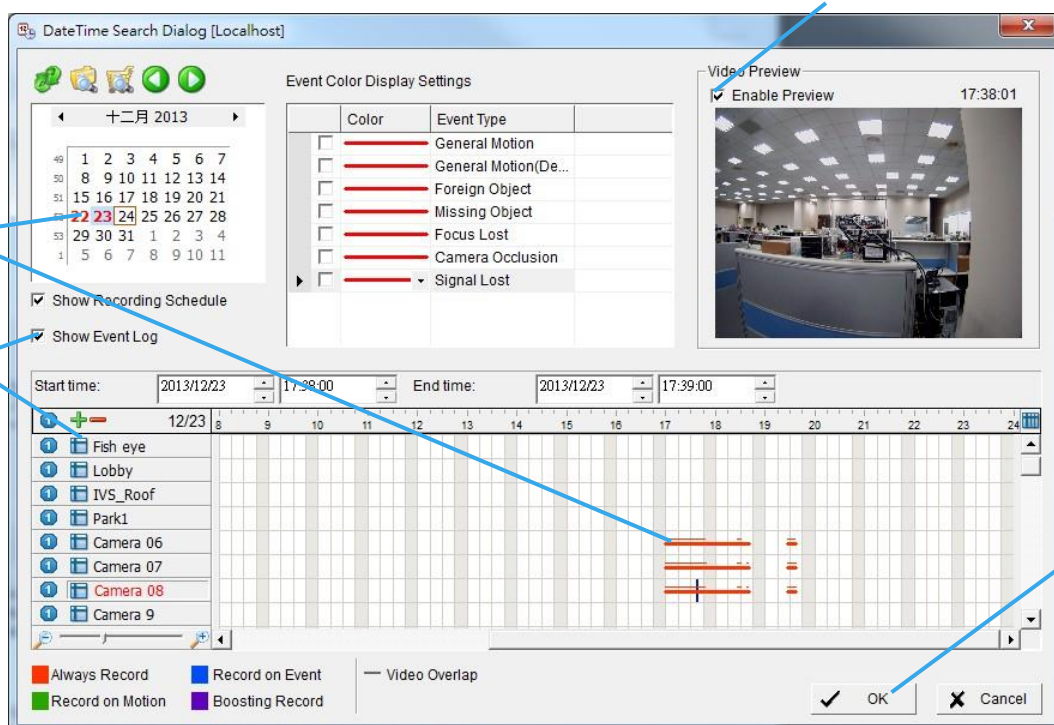
Step 3: “New Period”ボタンをクリックし、時間範囲指定画面を表示します。

Step 4: 赤色の線をハイライトさせバックアップしたいデータを選びます。もしくはタイムテーブルに加え、時間範囲セクションで、開始時刻と終了時刻を設定することもできます。

Step 6

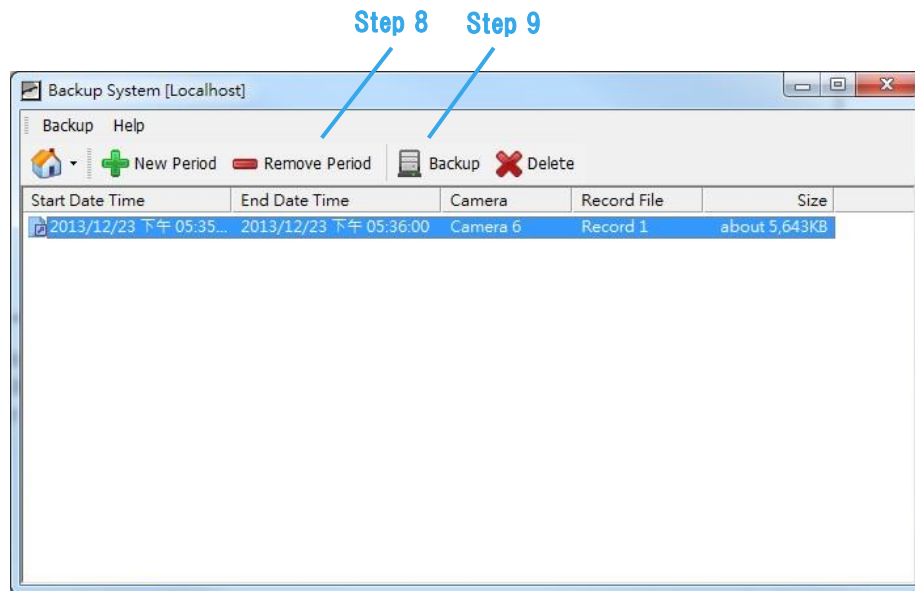
Step 4

Step 5

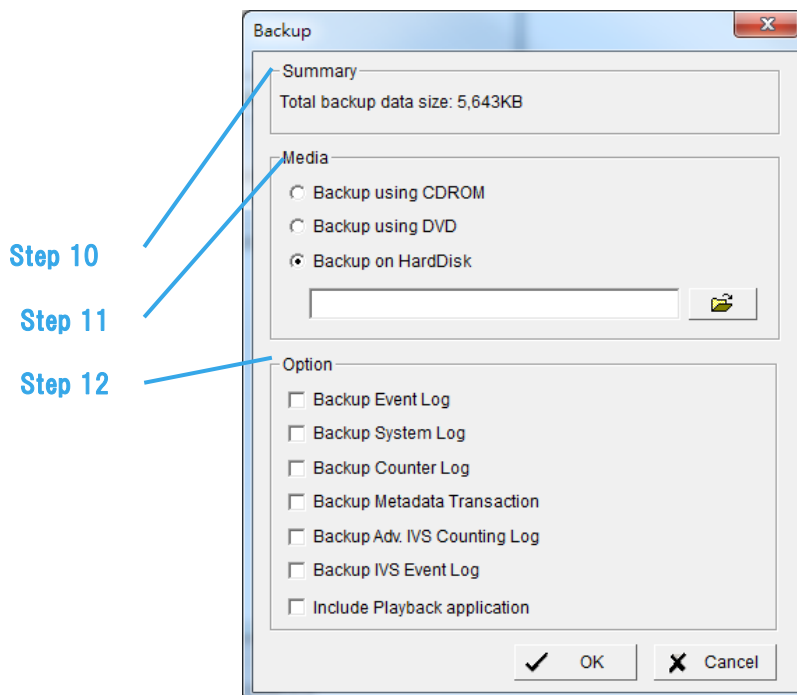


Step 7

- Step 5:** カメラ番号のアイコンをクリックして、カメラを追加します。または   をクリックしてチャンネルを追加/削除します。
- Step 6:** “Enable Preview”にチェックをつけ、選択した録画映像のプレビューが確認できるようにします。
- Step 7:** 設定が完了し”OK”を押すと、Backup System 画面に戻ります。
- Step 8:** もし必要のない期間が含まれていたら、“Remove Period”をクリックするとそのデータはバックアップリストから削除されます。



- Step 9:** “Backup”アイコンをクリックすると”Backup”画面が表示されます。



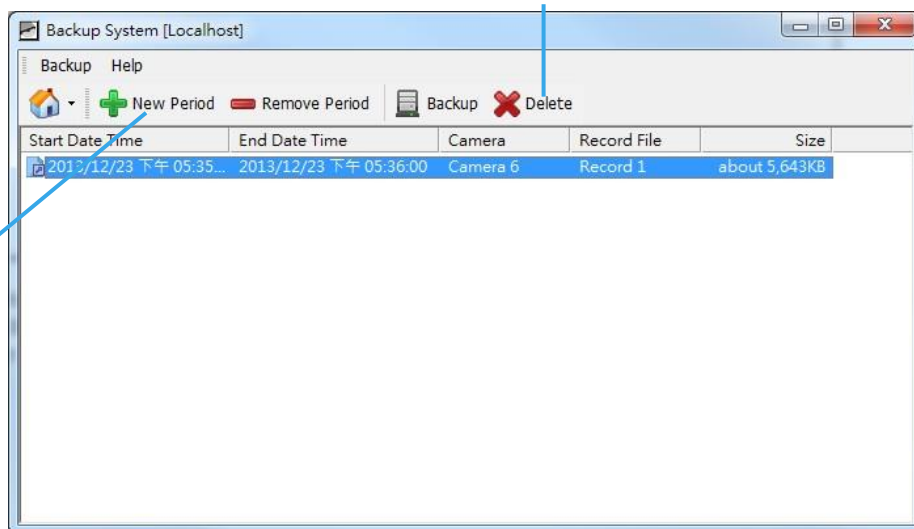
- Step 10:** Summary 項目:バックアップデータのサイズが表示されますので確認してください。
- Step 11:** Media 項目: “Backup on HardDisk”を選択した場合、バックアップデータを書き込みたいハードディスク上のフォルダまでのパス名を指定してください。もしくは、CD(CD への直接書き込みは WindowsXP のみ対応します)か DVD への書き込みを選択します。
- Step 12:** Option 項目: バックアップ対象としたいログ(イベント、システム、カウンティング、メタデータランザクション、インテリジェントビデオ調査システムによるカウンティング、インテリジェントビデオ調査システムのイベント、Playback アプリケーション)にチェックをつけ、“OK”をクリックしてください。

8.2 録画情報の削除

Step 1: “New Period”をクリックし、時間範囲指定画面を表示します。

Step 3

Step 1

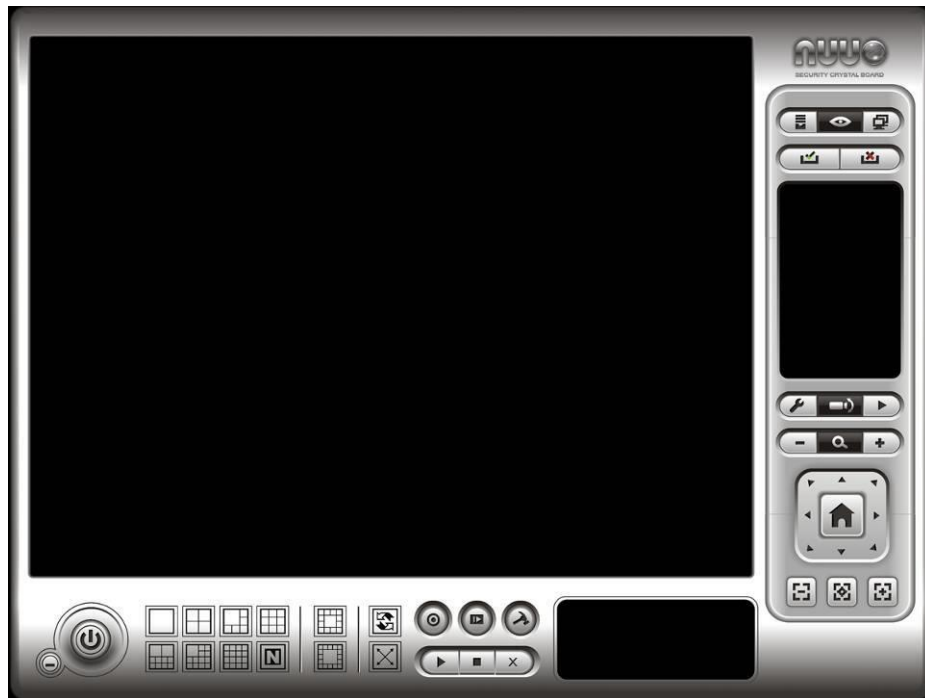


Step 2: 「8.1 録画ファイルのバックアップ」の手順 3 から 7 に従い、削除したい期間を指定してください。

Step 3: “Delete”アイコンをクリックすると、データベースから該当期間のデータが削除されます。

注意: 削除されたデータは復元することはできませんので、ご注意ください。

9. Remote Live Viewer



リモートライブビューワコンソールを使うと、遠隔ユーザーは、ライブストリーミングサーバから最大128チャンネルリアルタイムでビデオを見ることができます。

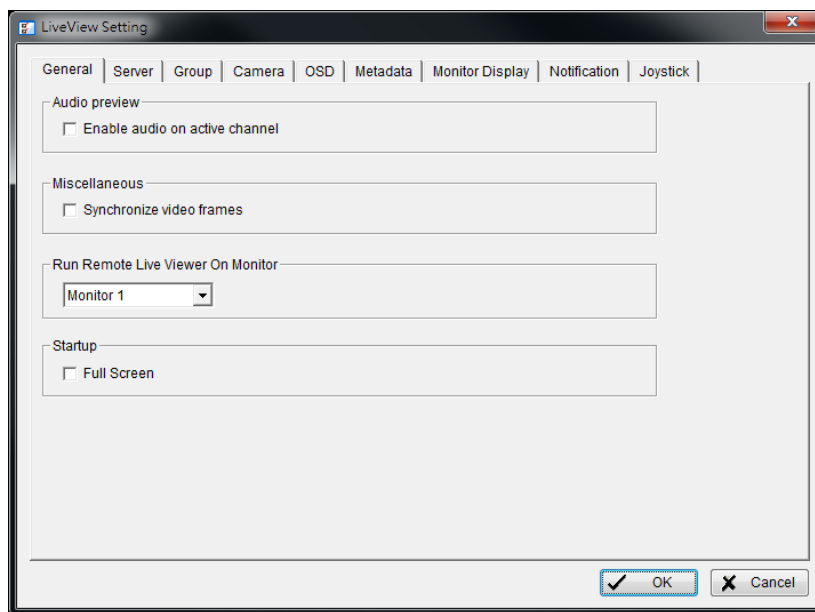
9.1 セットアップパネル

“一般設定”をクリックしてライブビュー設定パネルを開いてください。



一般設定

9.1.1 一般設定



自動プレビュー:

- **アクティブチャネルの音声を有効化:** チェックを入れると、アクティブチャネルの音声ストリーミングが有効になります。

その他:

ビデオフレームを同期: チェックを入れると、ビデオ画像遅れ現象を改善します。

*CPU 負荷が高まる可能性があります。

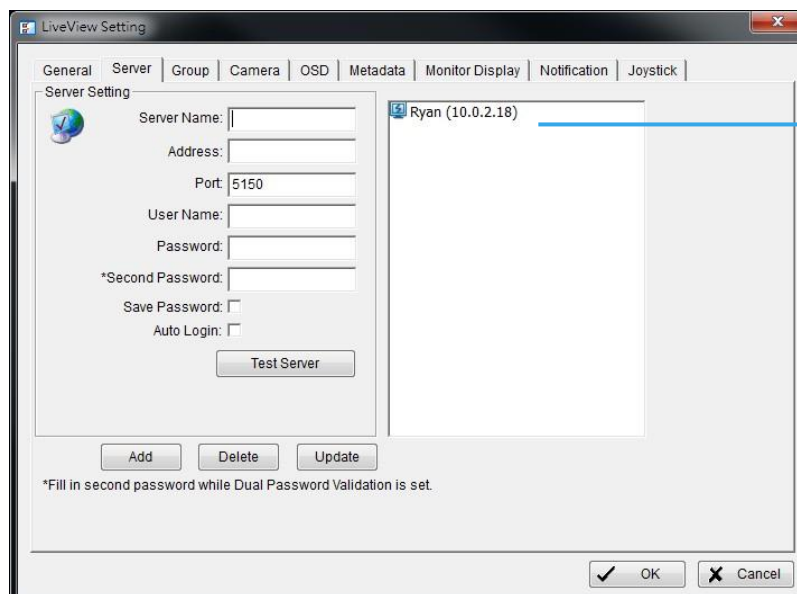
モニターにライブビューを実行します

- リモートライブビューアを表示するモニタを選択します。

起動:

- **全画面:** チェックを入れると、全画面モードで起動します。

9.1.2 サーバ設定



サーバリスト

Step 1: 任意のサーバ名を入力して下さい。

Step 2: アドレス、ポート、ユーザー名、パスワードを入力してサーバにログインして下さい。

Step 3: “パスワード保存”にチェックを入れると、次からログインするときパスワードを入力せずにログインできます。

Step 4: “自動ログイン” ボックスにチェックを入れると、ライブビュー起動時に自動的にサーバにログインします。

Step 5: “サーバテスト”ボタンをクリックし、設定したサーバが利用できるかテストします。

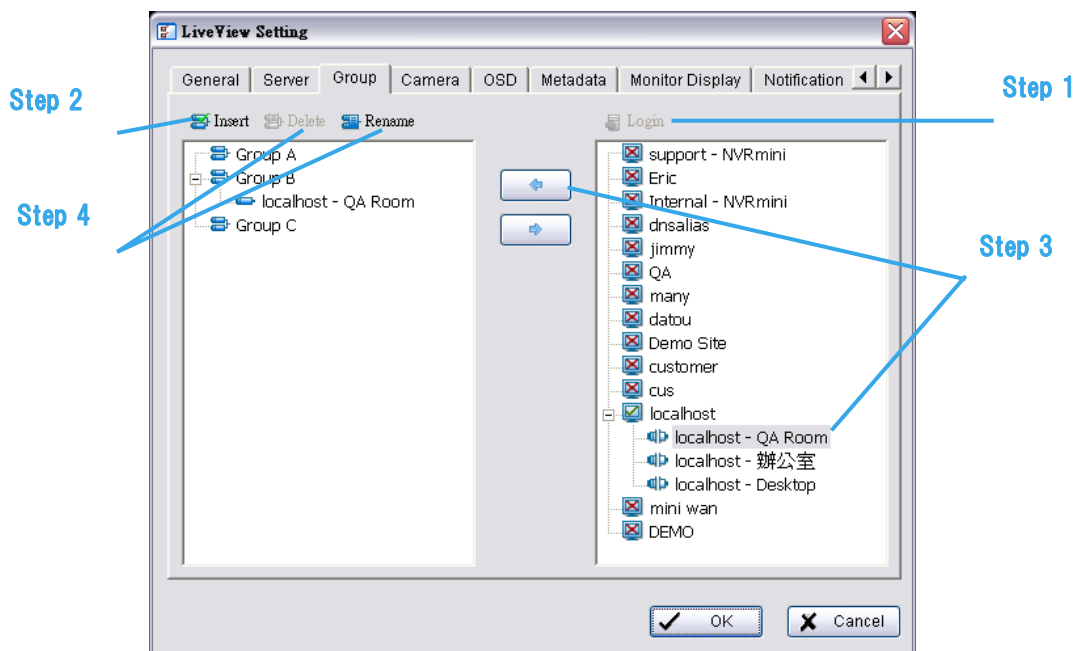
Step 6: “追加”をクリックすると、サーバがリストに追加されます。

注意 設定を変更するには、サーバリストからサーバを選び、設定を変更して、“更新”ボタンをクリックして下さい。

サーバを削除するには、サーバリストからサーバを選び、“削除”ボタンをクリックして下さい。

9.1.3 グループ設定

複数のカメラを同じグループにグループ分けします。



Step 1: グループ分けしたいカメラを含んでいるすべてのサーバにログインしてください。

Step 2: “加える”をクリックし、新しいグループを形成します。グループに名前をつけておくと、参照の際に役立ちます。

Step 3: 右側のエリアから、グループに追加したいカメラを選択しハイライトさせ、“⇄” ボタンをクリックします。グループ設定が完成するまで、この作業を繰り返し行ってください。

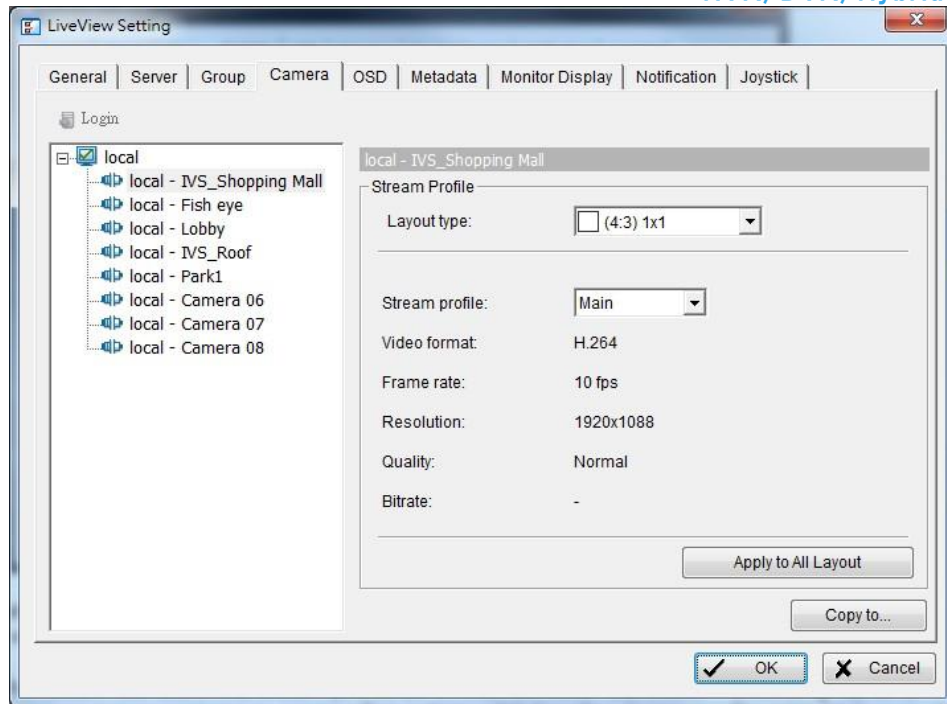
Step 4: “削除”ボタンでグループの削除、“名前の変更”ボタンで名前の変更を行ってください。

Step 5: グループを作り設定するまで、Step2から4までの作業を繰り返し行ってください。

Step 6: OK をクリックします。

9.1.4 カメラ設定

カメラのストリーミングプロファイルを選択します。選択されたストリーミングプロファイルはライブビューデフォルトプロファイルになります。



ストリームプロファイル: レイアウトタイプを選択し、そのレイアウトに対応したストリームプロファイルを選択できます。大小のグリッドをもつレイアウトでは、大小それぞれに別のストリームプロファイルを割り当てる事ができます。

Record 1: Mainconsole > Schedule > Encoding Options で設定されたストリームプロファイルに従います。

Record 2: Mainconsole > Schedule > Encoding Options で設定されたストリームプロファイルに従います。

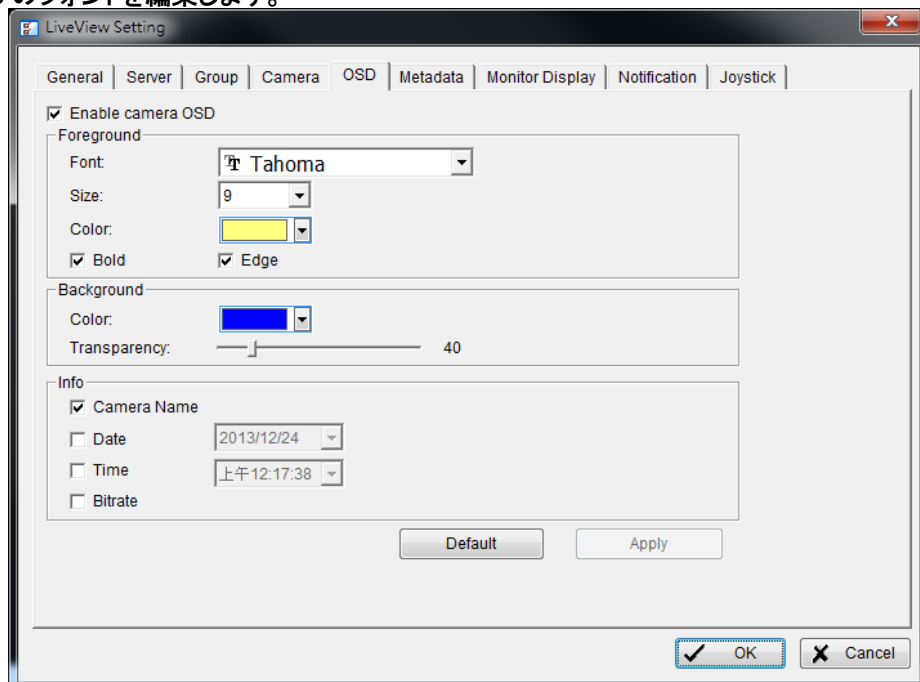
Main / High / Normal / Low / Minimum / H.264: Mainconsole > Setting > Camera > Stream Profile で設定されたストリームプロファイルに従います。

すべてのレイアウトに適用: 他のレイアウトに、現在のレイアウトに設定されているストリームプロファイルを適用します。

コピー先: コピーしたいストリーミングプロファイルを選択し、他のチャンネルにコピーします。

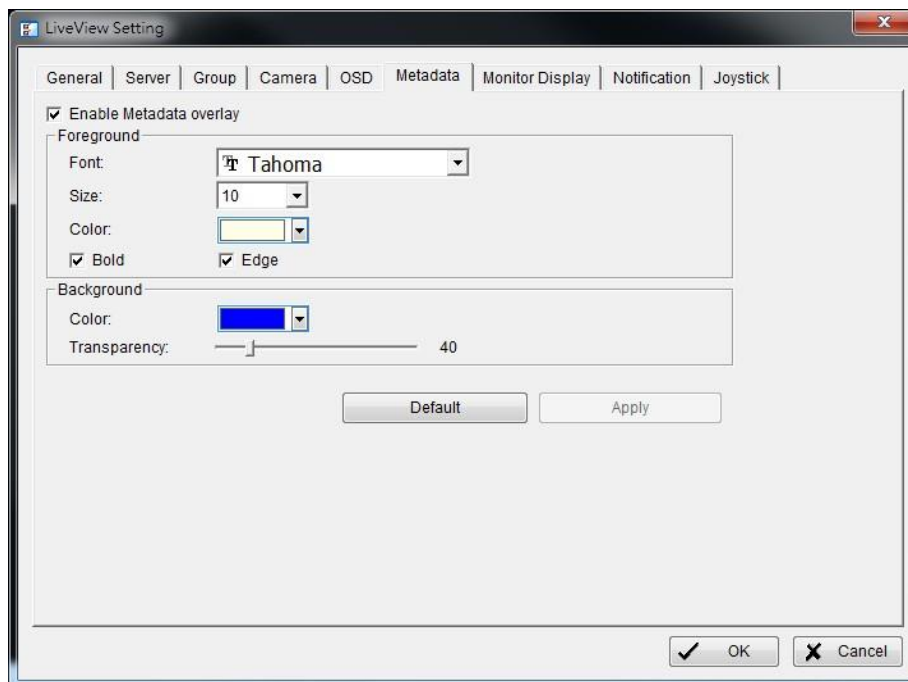
9.1.5 OSD 設定

OSD タブでカメラ OSD のフォントを編集します。



9.1.6 メタデータ設定

メタデータタブでメタデータオーバーレイのフォントを編集します。

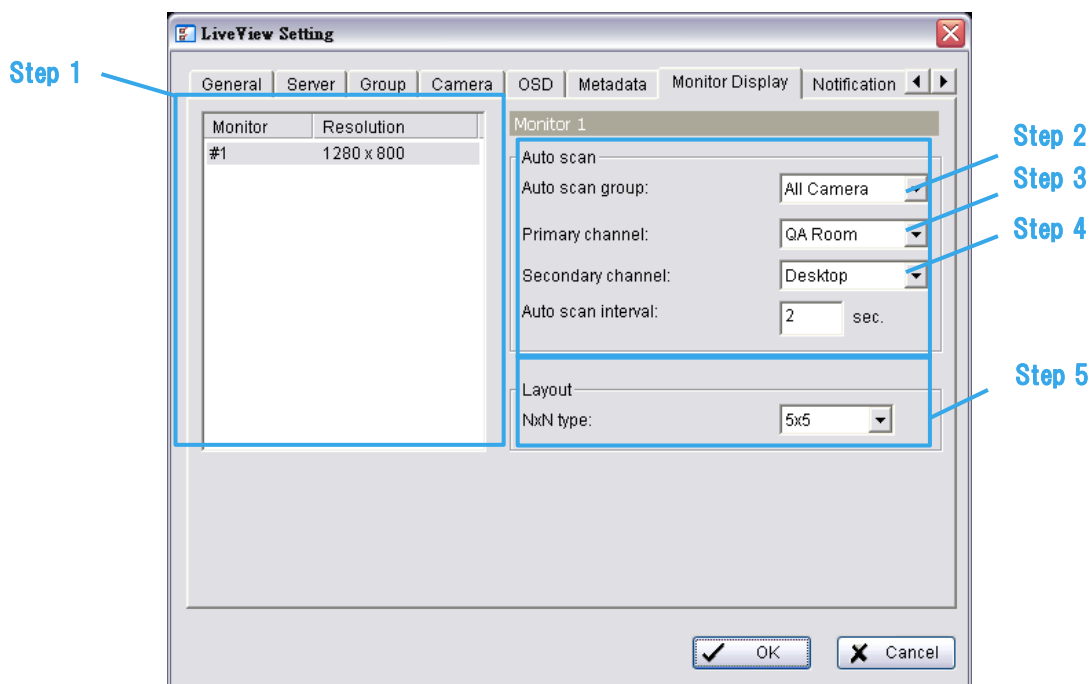


9.1.7 モニタ表示設定

カメラ・チャンネルの自動スキャンを設定します。

注意:

- システムに接続された 16 チャンネルがあり、ライブ視聴者のみに4つのサブ画面を表示するように選択できます。自動スキャンの設定で交互に全 16 チャンネルを見ることができます。
- モニタは 8×8 までのレイアウトに対応しており、自動スキャン機能を使用し 128ch まで表示できます。



Step 1: 接続しているモニターを選択してください。

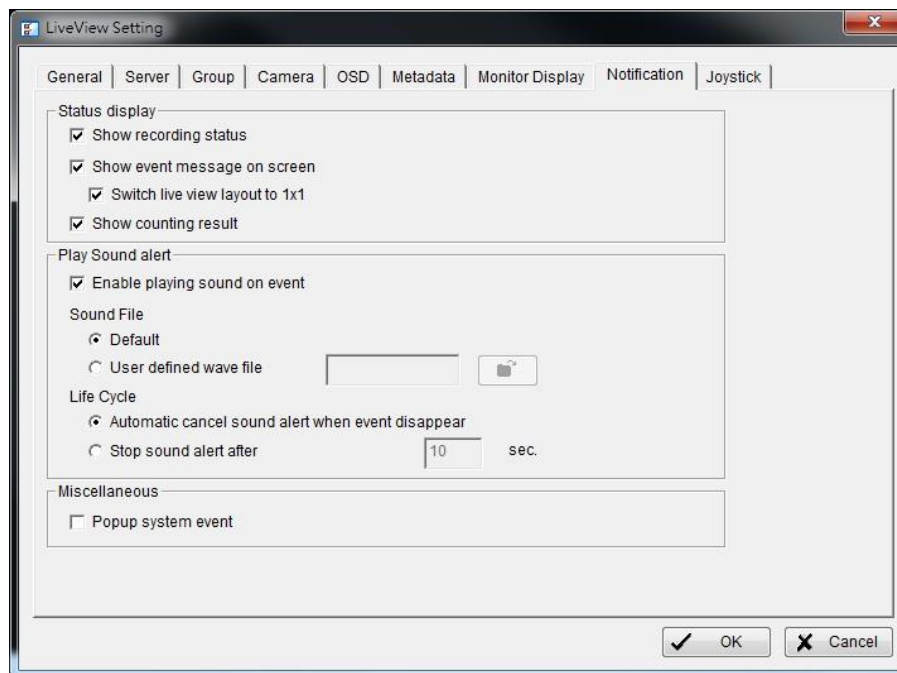
Step 2: 自動スキャングループ: 設定したサーバグループを選択し、自動スキャン設定を有効可します。

Step 3: プライマリチャンネル: プライマリチャンネルを設定します。自動スキャン起動後は常時画面に表示されます。

Step 4: セカンダリチャンネル: セカンダリチャンネルを設定します。自動スキャン起動後はプライマリチャンネルの次の優先順位となります。

Step 5: レイアウト: リモートライブビューアパネルの画面分割“N×N”を設定します。

9.1.8 通告設定



状況表示:

- **録画状態の表示:** チェックを入れるとクリスタルボール(録画状態)がモニター表示されます。
- **イベントメッセージを画面に表示:** チェックを入れるとメインコンソールのスマートガードで検知された各チャンネルのイベント情報が表示されます。
注意: この機能を使用する為には、スマートガードの応答のアクションとして“on screen display”の設定をしてください。
- **ライブビューレイアウト 1x1 に切り替え:** チェックを入れると、スマートガードでイベント検出時にモニター表示を 1×1 レイアウトに切り替えます。
- **カウント結果を表示する:** チェックを入れるとカウントツール(各チャンネル)が表示されます。

音声警報を鳴らす:

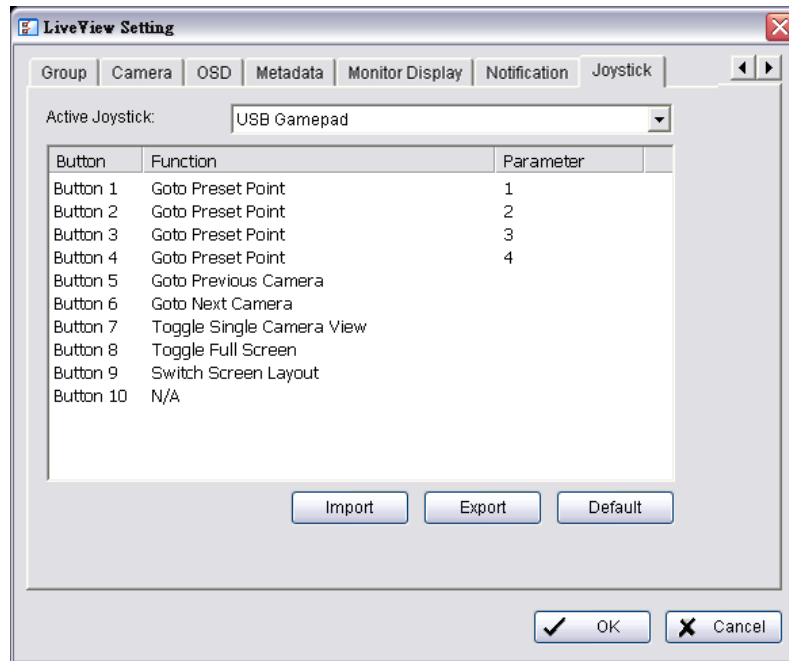
- **イベントによって音を鳴らす機能を有効にする:** チェックを入れると、イベントの警告音が有効となります。
- **音声ファイル:** 再生する音声ファイルを選択します。デフォルトの音声ファイルか別のファイルを選択してください。
- **ライフサイクル:** イベントが終わり警告音を停止するか、特定の時間が経過後自動的に警告音を停止するか選択できます。
注意: この機能を使用する為には、スマートガードの応答のアクションとして“play sound”の設定をしてください。

その他:

- **ポップアップシステムイベント:** チェックを入れると、メインコンソールで設定したシステムイベントのポップアップが許可されます。

9.1.9 ジョイスティック設定

ジョイスティックの設定はメインコンソールと同じです。

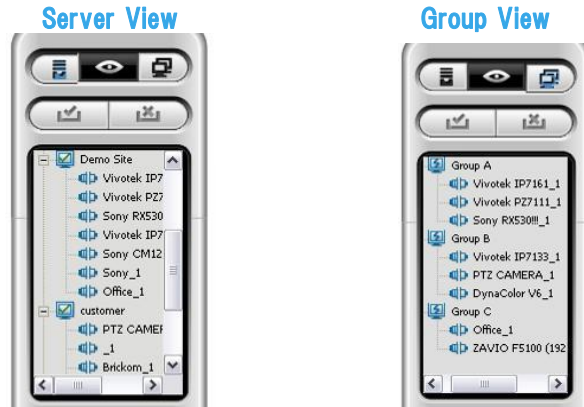


9.2 サーバ/グループ/カメラリスト

システムに追加した複数のサーバ/グループ/カメラのリストを表示します。

Server View: 各サーバのカメラリストを表示

Group View: 各グループのカメラリストを表示

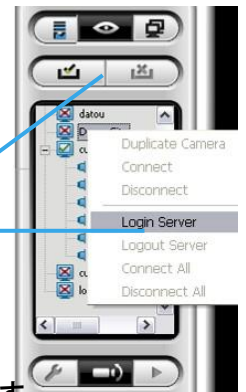


9.2.1 ログイン/ログアウトサーバ

Option1: リスト上のサーバを選択し、ログインサーバアイコンクリックでサーバへ接続、ログアウトサーバのアイコンをクリックでサーバの接続を解除します。

Option2: サーバリストを右クリックして、メニューオプションを表示します。

ログイン/ログアウトサーバ



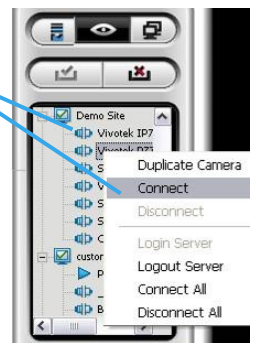
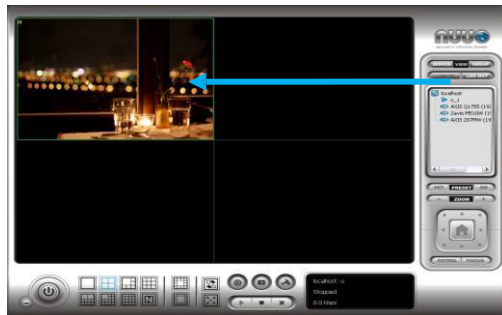
9.2.2 接続/接続中断

Option1: サーバ/カメラリスト上のカメラをダブルクリックする事でカメラに接続できます。

Option2: サーバ/カメラリスト上のカメラを右クリックし、"接続"で接続、"接続中断"でカメラを切断できます。

接続/接続中断

Option3: リストからカメラを選択し、直接画面にドラッグする事ができます。



Option4: Play / Stop/ Drop: カメラ/ビデオを選択し Play ボタンで再生、Stop ボタンで停止、Drop ボタンで切断します。



9.2.3 Multiple Views:

Step1: サーバ/カメラリストから、カメラを選択し右クリックでメニューを表示させます。

Step2: "カメラをコピー"を選択する事でカメラがコピー、コピーされたカメラのインジケータは緑色になります。

Step3: リスト上の複製されたカメラをダブルクリックし、画面にカメラ映像を表示する事ができます。



9.3 PTZ 制御

PTZ カメラの動作を制御します、PTZ 機能付きのカメラに、ズームイン/アウト、フォーカス調整、プリセット点の設定をすることができます。

9.3.1 Preset/ Go

カメラビューを調整し、“設定”アイコンをクリックし、プリセットのポイント 01 として設定します。再びカメラのビューを調整しプリセット 02 として設定します。この手順を繰り返すすべてのプリセットポイントの設定をしてください。名前を入力しプリセットポイント名をカスタマイズできます。“GO”アイコンをクリックすると設定した結果が確認できます。

注意 Mainconsole> General Setting >Setting >PTZ General Setting からPTZカメラの速度設定を行ってください。

9.3.2 ズーム

“+”をクリックしてズームイン “-”をクリックしてズームアウトします。

9.3.3 フォーカス

カメラのフォーカスを近く、もしくは遠くに調整することができます。“フォーカス”アイコンをクリックし、自動フォーカスを選択すると、自動でフォーカスを調整します。

9.3.4 パトロール

PTZカメラは事前に設定したルートとプリセットポイントをパトロールする事ができます。パトロール開始クリックでパトロールが開始され、パトロール停止で停止します。

Note: Mainconsole> Set Preset Point>Set Patrol からパトロールパスを設定してください。

9.4 スクリーンメニュー

カメラ映像画面を右クリックする事でオンスクリーンメニューを呼び出せます。カメラの設定を変更する事ができます。

Enable Move

Enable Talk

Enable Audio

Enable Digital PTZ

Fix Aspect Ratio

Stream Profile ▶

Instant Playback ▶

Snapshot

Toggle Fullscreen

9.4.1 Enable Move / Area Zoom

PT 機能をサポートしているカメラでは、画面上をクリックし、PT 制御有効を選択することにより、この機能を有効にできます。右クリックして PT 制御無効を選択する事でこの機能を解除できます。

Area Zoom 機能をサポートしているカメラでは、Enable Move/Area Zoom をクリックしズーム機能を有効可させる事ができます。モニタに表示される長方形をドラッグする事によりカメラの視野を調整できます。無効可するには、右クリックから Disable Move/Area Zoom を選択してください。

9.4.2 Enable Talk

双方向音声をサポートするカメラは、Enable Talk を選択することで利用できます。

9.4.3 音声有効

オーディオ機能をサポートするカメラでは、音声有効を選択する事で現在のカメラの音声を聞くことができます。右クリックから音声有効の選択を解除する事で無効可できます。

9.4.4 デジタル PTZ を有効

デジタル PTZ 有効を選択することでデジタル PTZ 機能が有効になります。

マウスのホイールを使用するか“+”“-”でのズーム/ズームアウト、もしくは四角形エリアをドラッグしての操作できます。点滅している正方形は、カメラのビューを示しています。

9.4.5 ImmerVision レンズ設定

ImmerVision レンズをサポートするカメラでは右側の表示画面をクリックし、レンズ・オリジナル・PTZモード・クアッドモード・境界モードを選択できます。

レンズをクアッド・PTZ・境界モードとして設定した場合は デジタル PTZ 有効を有効にする事で ImmerVision デジタル PTZ が有効になります。

9.4.6 Generic Dewarp 設定

魚眼レンズをサポートするカメラでは右側の表示画面をクリックし、レンズ・オリジナル・PTZモード・クアッドモード・境界モードを選択できます。

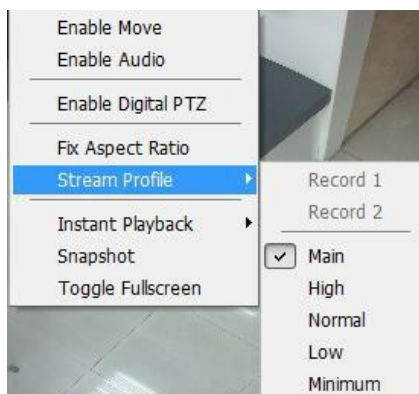
レンズをクアッド・PTZ・境界モードとして設定した場合は デジタル PTZ 有効を有効にする事で Fisheye PTZ が有効になります。

9.4.7 固定アスペクト比

いくつかの特別な解像度のカメラに対しては、Window に合うように 3:4 に引き延ばすオプションを無効にするか、元の比率の映像を表示するための修正アスペクト比を有効にしてください。

9.4.8 ストリームプロファイル

帯域幅への影響を懸念し、ビデオの品質を落とす為に、異なるレベルのストリームプロファイルが選択できます。



9.4.9 インスタント再生

Instant Playback を開くには、インスタント再生オプションを選択し期間を選択します。

Instant Playback では録画したビデオを見る事ができます。

スナップショットを撮れ、メタデータランザクションデータや映像音声を export できます。

9.4.10 カメラコピー

右の任意の空きチャンネルをクリックし、利用可能な任意のサーバからカメラをコピーする事ができます。

To browse recorded video

タイムラインをクリックするとビデオを表示する事ができます。

高度な操作については下記のナビゲーションツールを使用してください



- 再生 / 一時停止 / 停止



- スピードアップ/スピードダウン



- フレーム単位で早送り/フレーム単位で巻き戻り



- 前のビデオ/ 次のビデオ

To keep a snapshot of the video clip

スナップショットを撮りたい場面で一時停止をして、スナップショットボタンをクリックします。⇒  スナップショットが表示されクリップボードにコピー、または保存する事ができます。

To export recorded video

エクスポートしたい期間を選択してエクスポートをクリックします⇒  エクスポート時に追加オプションもあります。

Adjust to original video resolution button  ビデオをオリジナルのビデオ解像度に調整するツールです。

Audio ボタン  オーディオのオン/オフ切り替え

Metadata ボタン  メタデータのトランザクションデータのオーバーレイのオン/オフ

9.4.11 スナップショット

ビデオイメージをキャプチャーしクリップボードにコピーし保存、もしくは bmp ファイルとして保存できます。スナップショットはデジタルズーム、メタデータ情報、OSD あり/なしとカスタムする事ができます。

9.4.12 全画面

全画面でビデオを表示する為に切り替えます。無効にするには選択解除オプションをクリックするか、"ESC"キー押してください。

9.5 メニュー開始

9.5.1 モニタオープン

モニタオープンから追加するモニタを選択します。追加される各モニタはメニュー/再生/設定と、メインモニタと同じリストビューコントロールボタンがあります。

Start Monitor



9.5.2 E-Map

Open E-Map を選択し、E-Map ウィンドウを表示します。この Map ではデバイスを簡単に見つけることができ、各デバイスのステータスを表示する情報ウィンドウがあります。

 **Map Info** - マップ名を表示します。

 **Camera** - カメラ名と接続状態を表示します。

 **Digital Input/Output** - デジタルインプット/アウトプットの名前と状態を表示します。

 **Access Control/POS/LPR** - メタデータデバイス名、接続状態、関連するカメラ名と接続状態を表示します。

9.5.3 I/O Control

I/O control panel を選択して下さい。このパネルで DO 装置のコントロールと DI 装置の状態確認ができます。

注意: I/O 装置の設定を調整するには、Mainconsole>General Setting>Setting>I/O Device の順に進んで設定を行って下さい。

9.6 Playback

再生ボタンをクリックして再生パネルを表示してください。

リモートでビデオを再生する事ができます。

9.6.1 Remote Playback サーバー追加

Remote Sever アイコン⇒  をクリックし、Remote playback site management からリモート再生接続の設定を行います。

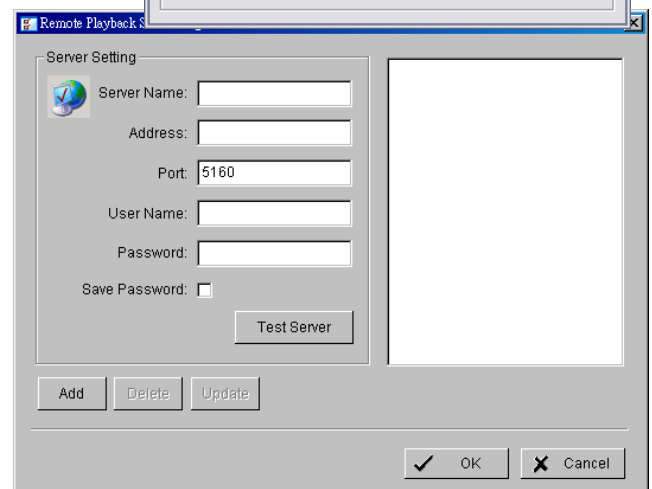
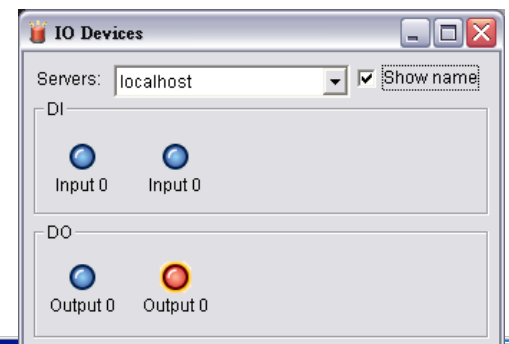
Step 1: IP アドレス or DNS 名・ポート・ユーザー名・パスワードを入力してください

Step 2: Add ボタンをクリックして、サーバを追加してください。

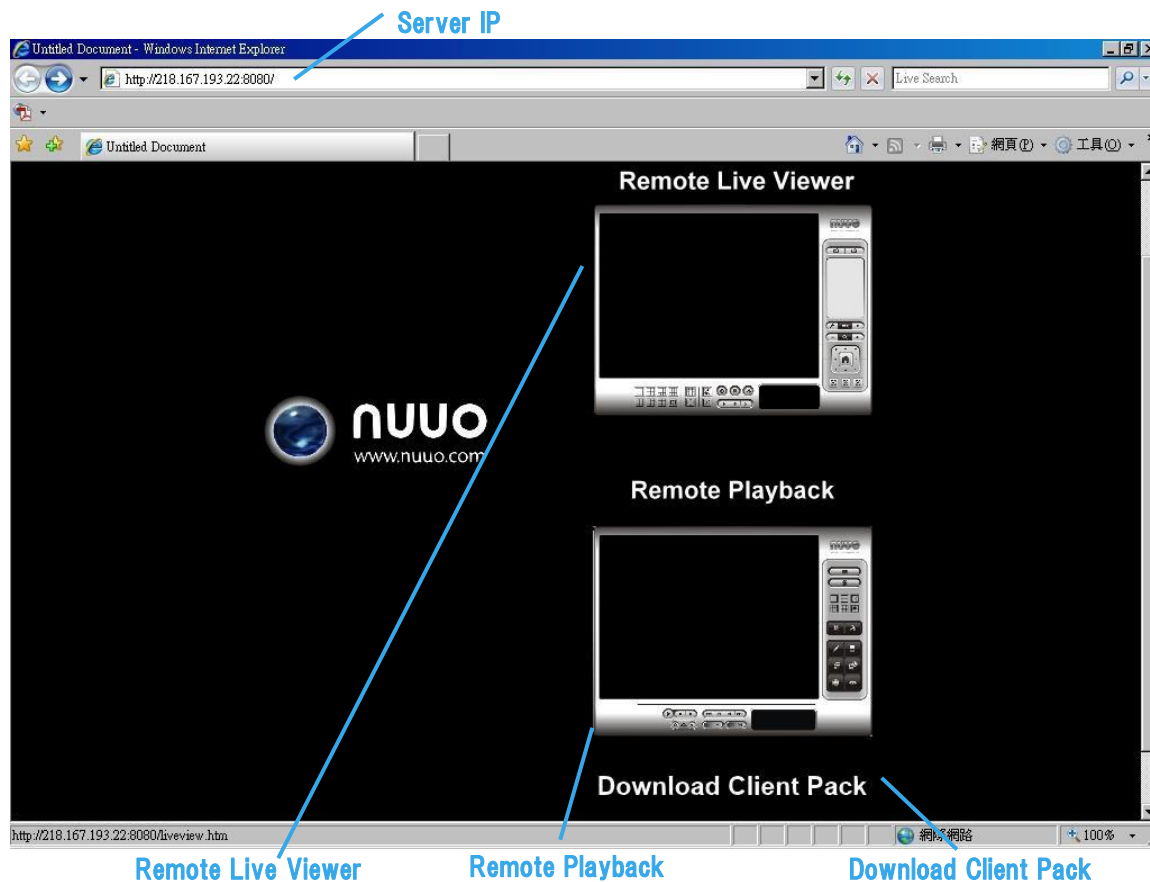
Step 3: OK をクリックして管理パネルを終了します。

9.6.2 Remote Playback サーバーアクセス

日付/時間パネルに進み  アイコンをクリックして、リモートサイトにアクセスします。



10. Web View



注意: ライブストリームサーバが有効であることを必ず確認してください。詳細は 5.14 ネットワークサーバを参照ください。

10.1 Server IP

インターネットエクスプローラーのブラウザを開き、接続しているポートに従いサーバの IP アドレス、または、DDNS“ネーム”を入力してください

例: <http://192.168.1.16:8080/>

Note: [192.168.1.168] はサーバの IP アドレスです。

[8080]は、ネットワークサービスにおける“デフォルト Web サーバを使用”で指定されたポートです。直接リモートライブビューアに接続する為に、URL 内にユーザー名とパスワードを入力する事も可能です。

例: <http://192.168.1.16:8080/liveview-html/LiveView.html?user=admin&password=12345> (この例ではユーザー名が admin、パスワードが 12345)

10.2 Remote Live Viewer

このアイコンをクリックするとリモートライブビューアが使用できます。機能はリモートライブビューアと同じです。詳しくは 124 ページを確認してください。

10.3 Remote Playback

このアイコンをクリックすると Remote Playback が使用できます。機能はリモート再生機能とバックアップ機能があります。詳しくは 38 ページを確認してください。

10.4 Download Client Pack

download client pack をクリックし、Remote Playback と Remote Live Viewer をインストールできます。

11. ユーティリティ

11.1 認証 (Verification Tool)

認証ツールは、システムによって作成されたデータが改ざんされているかどうかを確認します。これは、その真正性を保証するために、電子透かし(デジタル署名)を記録された各ビデオフレームに追加します。



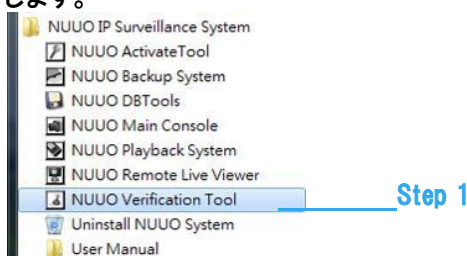
認証ツールによって検証することができるデータは 3 種類あります。

1. ファイルの中の(.DAT)(.264)の形式は次のように表示されます
2. ファイルの中の(.AVI) (.ASF)の形式は次のように表示されます
3. ファイルの中の(.BMP) (.JPG) の形式は次のように表示されます



11.1.1 認証ツール(Verification Tool)の実行

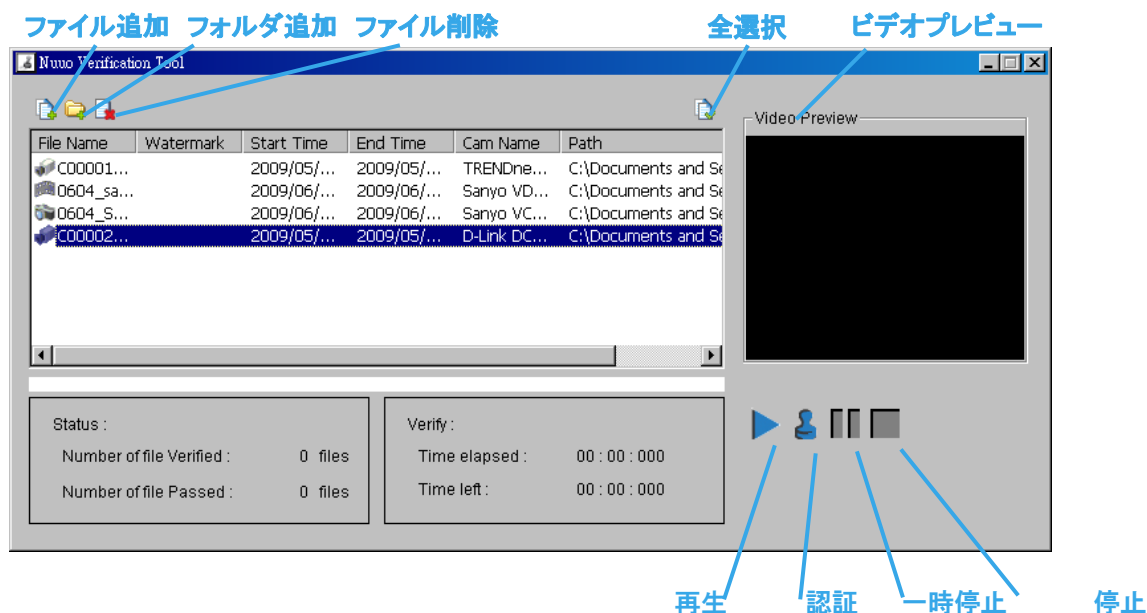
Step 1: プログラムファイルから認証ツールを実行します。



Step 2: ログインするには、管理者のパスワードを入力します。

Step 3: 認証ツールは、ログイン後に表示されます。

11.1.2 認証ツール(Verification Tool)の概要



ファイルの追加: 認証の一覧へ単一のファイルを挿入する場合にクリックします。

フォルダの追加: 認証の一覧へ複数のファイルとフォルダを選択する場合にクリックします。

ファイルの削除: リストから指定したファイルを削除する場合にクリックします。

全選択: 認証のリスト内のすべてのファイルを選択する場合にクリックします。

メモ:

1. ファイルを選択する前に、最初にファイルの種類を選択します。(DAT)(264)(AVI)(asf)(BMP)(JPG)のみが対応しています。

2. 直接認証のリストにファイルをドラッグすることができます。

ビデオプレビュー: 選択したファイルのビデオをプレビューするには、このカラムを確認してください。ファイルを再生▶、一時停止|||、停止■するには、ウィンドウの下ボタンをクリックします。

メモ: (BMP)(JPG)形式はプレビューできません。

11.1.3 認証画像/映像

Step 1: 認証の単一または複数のファイルを選択します。

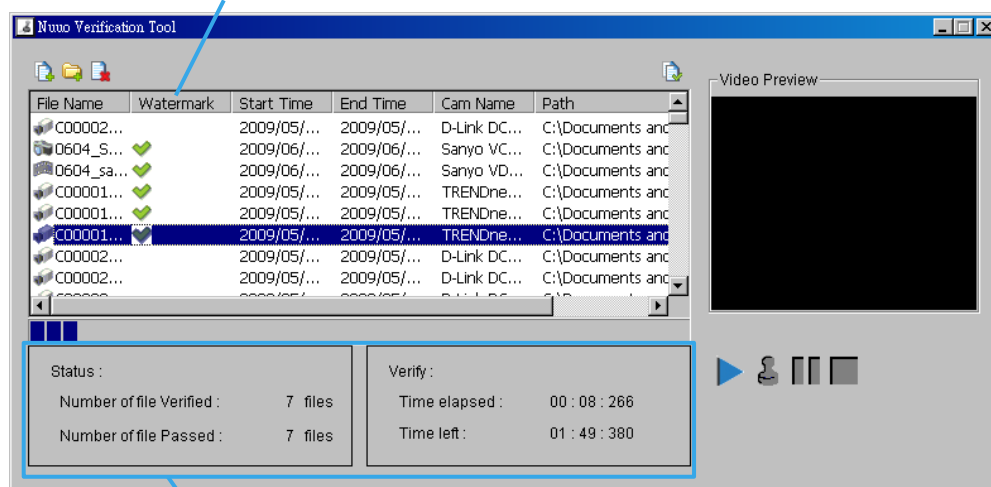
Step 2: “認証”をクリックし、認証を開始します。

Step 3: 認証結果は、透かしマークのカラムに表示されます。

ファイルが改ざんされた場合の表示 

ファイルが認証した場合の表示 

透かしマーク



認証結果

Step 4: 認証報告書は、認証に関連する情報を表示します。

11.2 ライセンス管理ツール(License Management Tool)

カメラのライセンスの追加、POS、LPR およびアクセス制御のためのものを含めて、メタデータアプリケーションのライセンスを購入することができます。

ソフトウェアパッケージに含まれる dongle やシリアル番号からライセンスをアクティベート、または、ライセンスを非アクティブにし、別の PC で再びそれをアクティベートするために、ライセンス管理ツールを実行します。

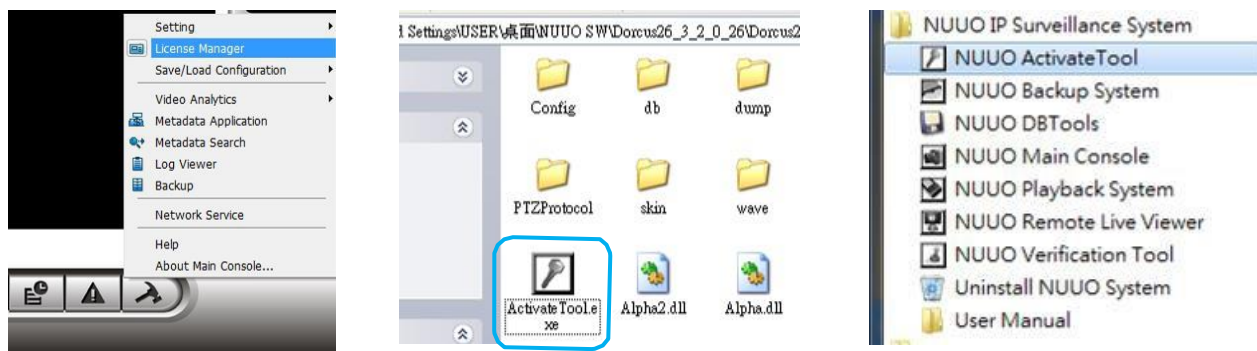
異なるレベルのライセンスをひとつのライセンスサーバの下で共存させることはできませんのでご注意ください。アップグレードライセンスは、より高いレベルのものに低いレベルのライセンスを置き換えます。

“オンライン”と PC 環境の状態が“オフライン”のどちらもツールでライセンスを“アクティベート”または“転送”を実行することが可能です。ライセンス管理は 4 種類あります。

- ネットワーク接続 PC を使用しライセンスをアクティベートするには、アクティベートオンライン手順に従ってください。
- ネットワークに接続されていない PC を使用し、ライセンスをアクティベートするには、アクティベートオフライン手順に従ってください。
- ネットワーク接続した PC を使用しライセンスを転送するには、転送オンライン手順に従ってください。
- ネットワークに接続されていない PC を使用し、ライセンスを転送するには、転送オフライン手順に従ってください。

11.2.1 ライセンス管理ツールの実行

Step 1: 一般設定メニューのライセンス管理ツールを実行、プログラムファイルからライセンス管理ツールを実行します。



Step 2: “ライセンス管理ツール”が表示されます。ツールの概要については以下を参照してください。

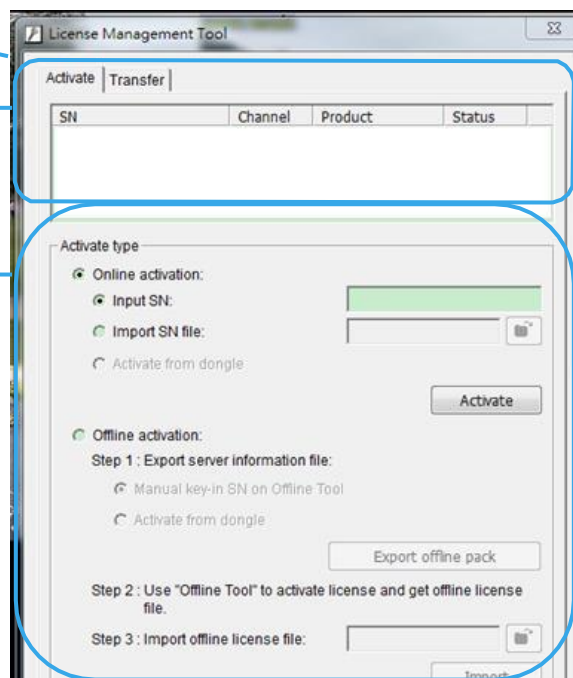
11.2.2 ライセンス管理ツールの概要

アクティベート

アクティベート タブ

シリアル番号ステータス

アクティベートの種類



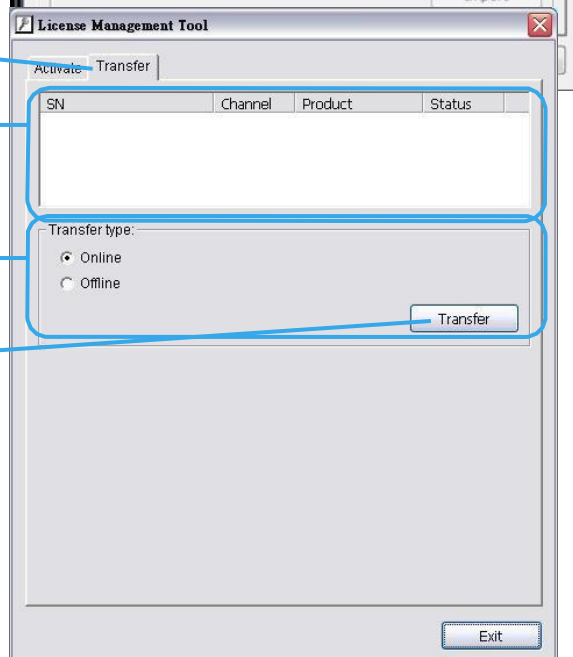
転送

転送タブ

シリアル番号ステータス

転送の種類

転送



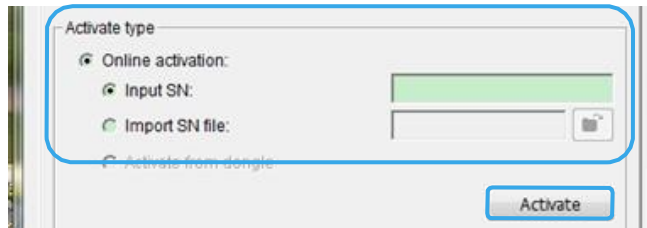
11.2.3 ライセンスのアクティベート

オンラインアクティベート

Step 1: ライセンス管理ツールを開きます。

Step 2: アクティベートの種類をオンラインと選択します。

Step 3: SN (シリアル番号)を入力、または SN ファイルをインポートし、アクティベートボタンをクリックします。



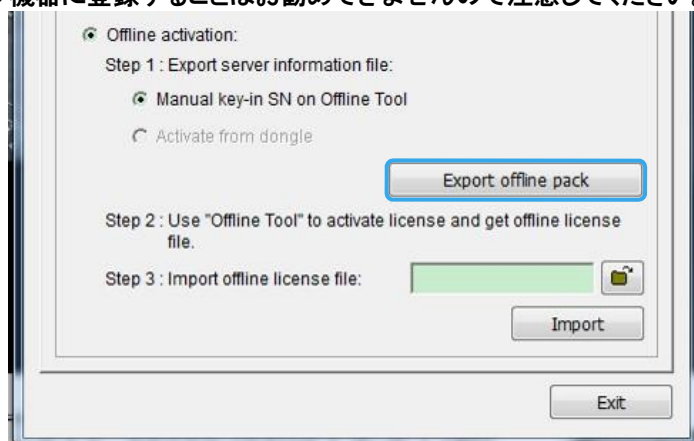
Step 4: アクティベートが成功したらメインコンソールを再起動します。

オフラインアクティベート

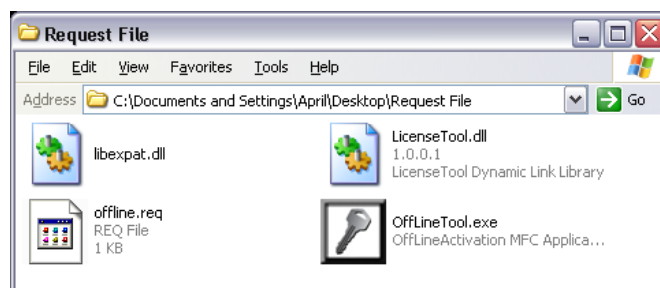
Step 1: ライセンス管理ツールを開きます。

Step 2: アクティベートの種類をオフラインと選択します。

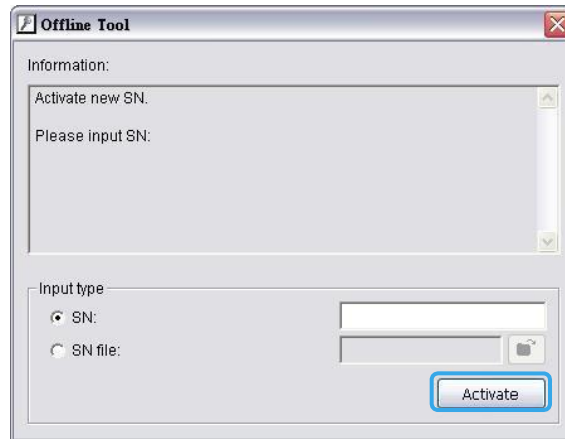
Step 3: エクスポートし、オフラインパックをクリックします。このライセンスはハードウェアの一般設定と結合されるため、取り外し可能なネットワーク機器に登録することはお勧めできませんので注意してください。



Step 4: リクエストファイルを保存し、インターネットに接続されている別の PC にそれを接続します。

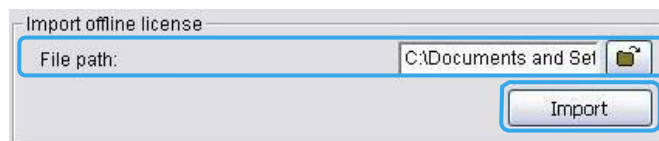


Step 5: 他の PC で OffLineTool.exe  を実行します。SN(シリアル番号)を入力、または SN ファイルをインポートし、その後、アクティベートボタンをクリックします。



Step 6: ライセンスファイルを保存し、元の NVR システムにそれを接続します。

Step 7: 再びライセンス管理ツールを開き、インポートオフラインライセンスを選択し、“インポート”ボタンをクリック、有効にします。



Step 8: アクティベートが成功したらメインコンソールを再起動します。

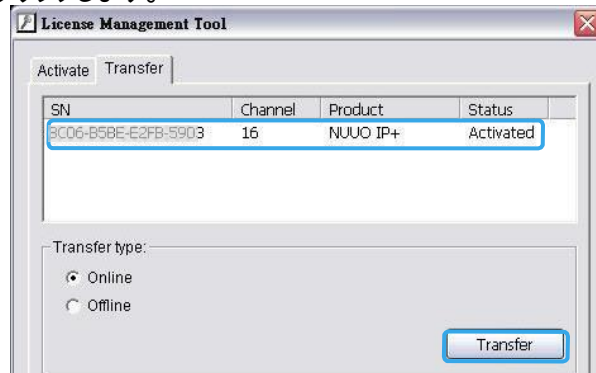
11.2.4 ライセンスの転送

オンライン転送

Step 1: ライセンス管理ツールを開きます。

Step 2: 転送タブを選択し、転送の種類をオンラインと選択します。

Step 3: SN を選択し、転送ボタンをクリックします。



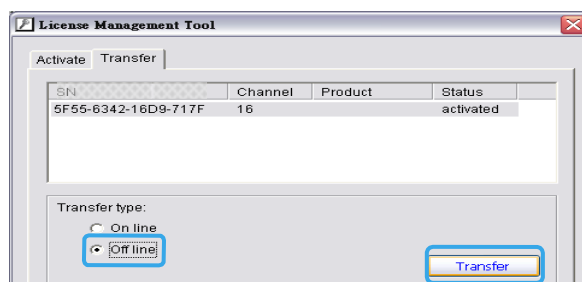
Step 4: 転送が成功したらメインコンソールを再起動します。

オフライン転送

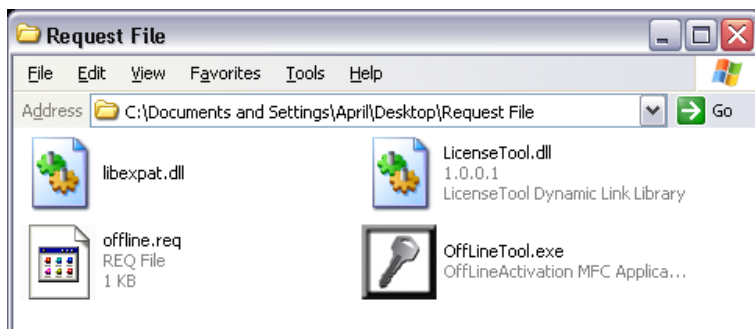
Step 1: ライセンス管理ツールを開きます。

Step 2: 転送タブを選択し、転送の種類をオフラインと選択します。

Step 3: SN を選択し、転送ボタンをクリックします。

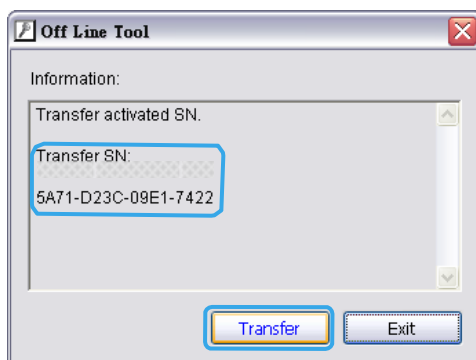


Step 4: リクエストファイルを保存します。転送が成功したらメインコンソールを再起動します。

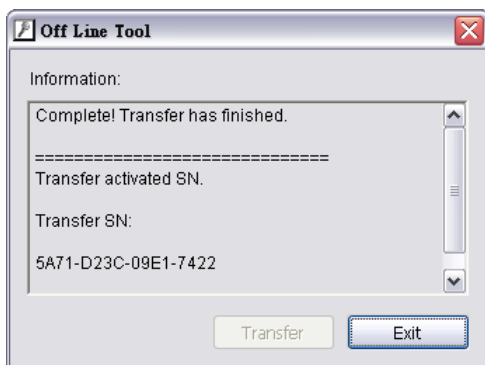


Step 5: インターネットに接続された他の PC にリクエストファイルをコピーします。

Step 6: 別の PC で OffLineTool.exe を実行し、転送する SN をチェックし、ライセンスサーバーにリクエストファイルを送信するため、“転送”をクリックします。



メモ: 別の PC にリクエストファイルをコピーして、ライセンスサーバーに送信する必要があり、そうしなければ、再びアクティベートすることができません！



11.3 リソースレポート(Resource Management Tool)

リソースレポートは、システムが正常に動作しているかどうかを検出します。

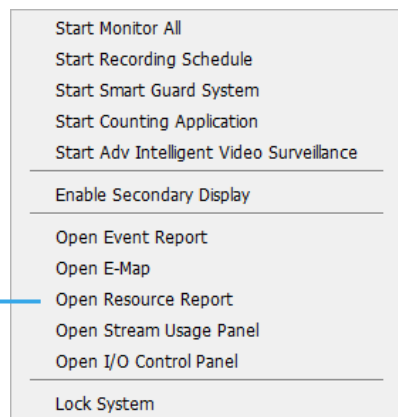
メモ: リソースレポートのさらなる適用のために、“ガード”の章、62 ページを参照してください。

11.3.1 リソースレポートの実行

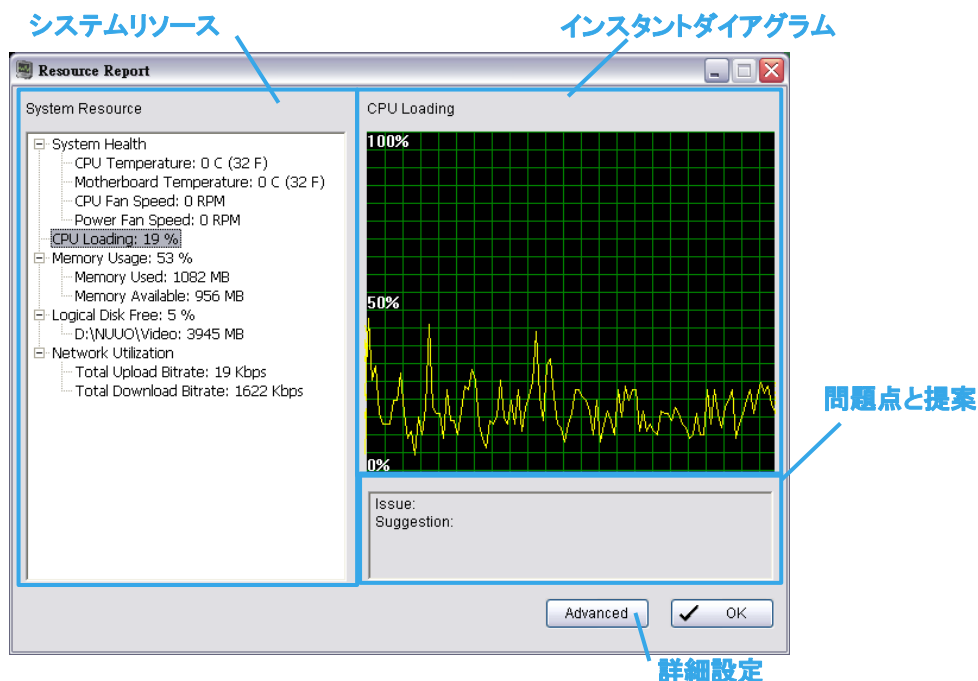
Step 1: スタートメニューからリソースレポートを開きます。

Step 2: リソースレポートが表示されます。

Step 1



11.3.2 リソースレポートの概要



11.3.3 システムリソース

システムヘルス: この項目は“CPU 温度”、“マザーボードの温度”、“CPU ファン速度”と“電源ファン速度”を含むシステム情報を表示しています。

メモ: CPU とマザーボードの温度情報を収集するために、はじめに“SpeedFan”をインストールする必要があります。

CPU 負荷: この項目は、CPU の使用率を表示しています。

メモリ使用量: この項目は、システムのメモリ使用量を表示しています。“使用メモリ”と“使用可能メモリ”が含まれています。

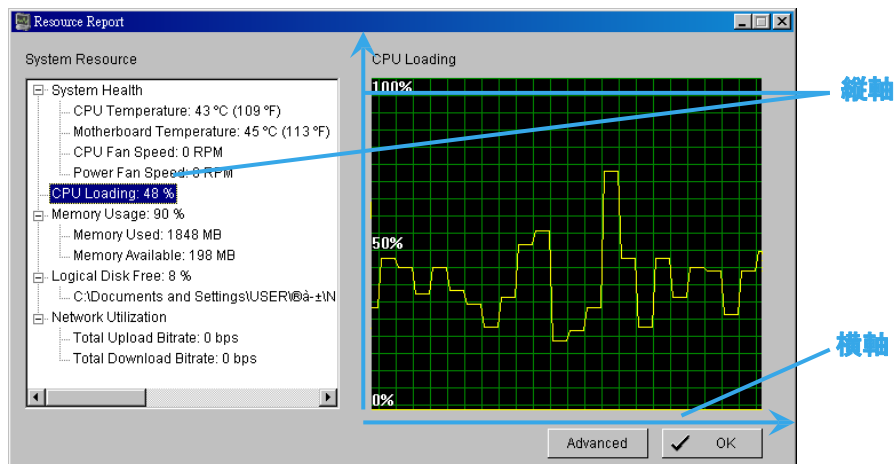
ローカルディスクフリー: この項目は、録画のための利用可能なディスク容量の割合を表示しています。

メモ: ディスクのディレクトリは、メインコンソール内の同じものとなります。一般設定 - 設定 - ストレージ - 場所

ネットワーク使用率: この項目は、コンピュータのアップロードとダウンロードの合計ビットレートの利用率を表示しています。

11.3.4 インスタントダイアグラム

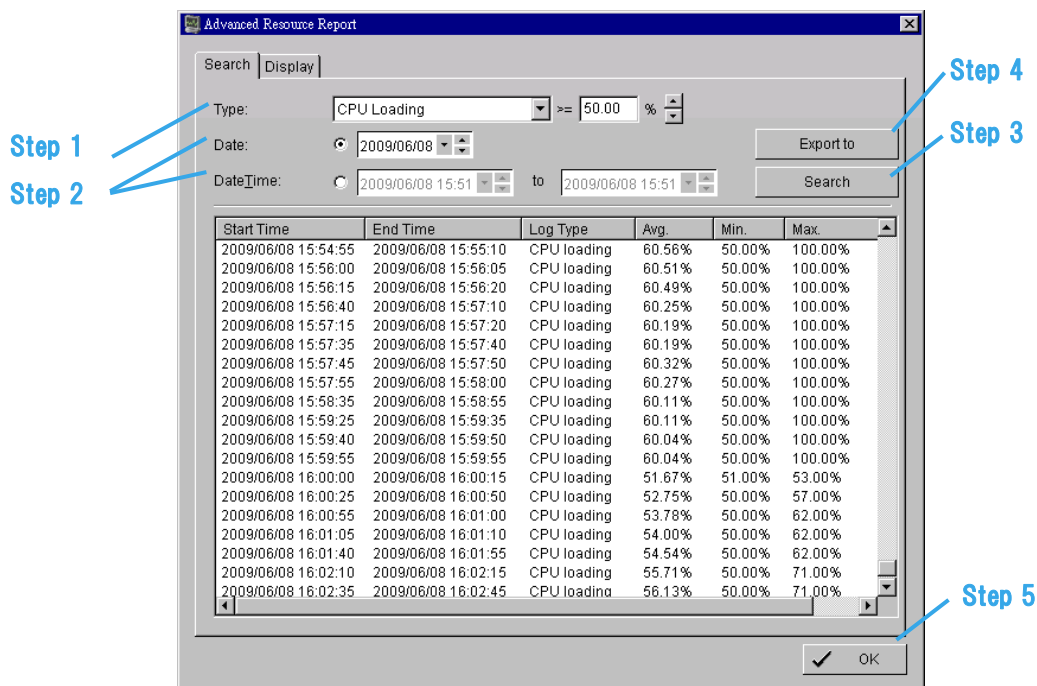
インスタントシステムダイアグラムを得るために、リスト内の各項目をクリックします。“システムリソース”は縦軸の各変数として表示されます。水平軸の単位は、“毎秒”と表示されます。



11.3.5 アドバンスドリソースレポート

詳細設定ボタンをクリックし、検索とエクスポートシステムにログインし、“検索”タブで指定した期間の“ダイアグラム”タブで表示します。

検索



Step 1: システムイベントの種類を選択し、システムログを検索するための標準的なパーセンテージを選択します。

Step 2: システムログを検索する日付/時刻の期間を選択します。

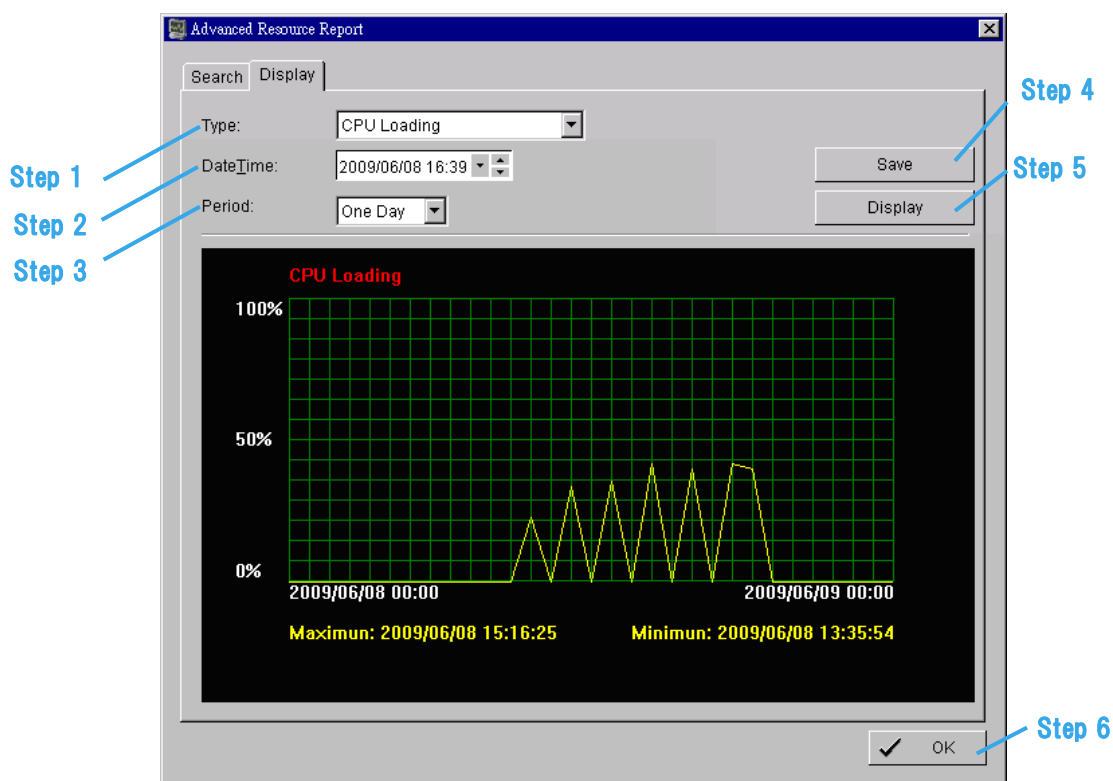
Step 3: 検索を開始するには“検索”をクリックし、システムログを以下に表示します。

Step 4: (*.XLS)、または(*.txt)のファイル形式でシステムログを保存するために“エクスポート”をクリックします。

Step 5: レポートウィンドウを閉じるには、“OK”をクリックします。

	A	B	C	D	E	F
1	StartTime	EndTime	LogType	Avg	Max	Min
2	2009/06/08 12:20:23	2009/06/08 12:20:28	CPU loading	54	54	54
3	2009/06/08 12:20:53	2009/06/08 12:20:58	CPU loading	65.5	54	77
4	2009/06/08 12:21:13	2009/06/08 12:21:18	CPU loading	61.67	54	77
5	2009/06/08 12:21:23	2009/06/08 12:21:28	CPU loading	65.5	54	77
6	2009/06/08 12:21:53	2009/06/08 12:21:58	CPU loading	64.2	54	77
7	2009/06/08 12:22:53	2009/06/08 12:22:58	CPU loading	62.33	53	77
8	2009/06/08 12:23:48	2009/06/08 12:23:53	CPU loading	61.86	53	77
9	2009/06/08 12:24:48	2009/06/08 12:24:58	CPU loading	59.44	51	77

表示



Step 1: システムイベントの種類を選択します。

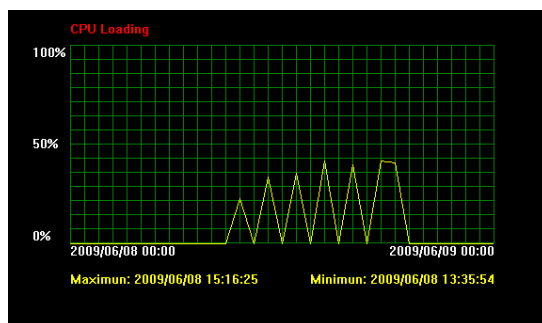
Step 2: ダイアグラムの履歴の日付/時刻を選択します。

Step 3: チャートの開始時刻と期間を設定します。期間として“1 日”、“1 時間”、“1 分”を選択することができます。

Step 4: チャートを開始するには、“表示”をクリックして、ダイアグラムは、カラムの様に表示されます。

Step 5: (*.BMP)形式でダイアグラムを保存するために“保存”をクリックします。

Step 6: レポートウィンドウを閉じるために“OK”をクリックします。



11.4 ストリーム使用量パネル

ストリームの使用パネルは、接続状態、録画状態、ローカルディスプレイストリーム、デコードストリーム/原因、ダウンロードビットレートおよび HDD スループットを含む現在のストリームの状態を表示しています。

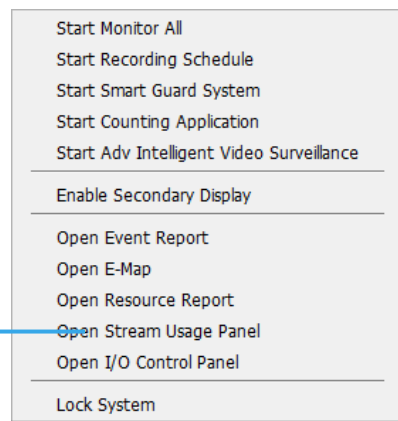
これらの情報は、システムの最適化とトラブルシューティングに役立ちます。

メモ:

アイドル状態: ストリームは、メインコンソールに接続されていることを意味し、または、メインコンソールがデコードや録画、ビデオ解析や録画のために使用していない事を意味します。その場合、灰色のボールが表示されます。

非サポート状態: マルチストリーム機能をサポートしていないチャンネルを意味します。その場合、黒のボールが表示されます。

ストリーム使用量パネル



異なる色のインジケータは、ストリームのビットレート(Mbps)とフレームレート(FPS)と異なる接続状態を表示しています。

“デコード”のカラムには、必要とする CPU 負荷とデコードストリームを示しています。デコードストリームを変更すると、CPU の負荷を軽減することが有効です。

マウスをチェックアイコンの上にのせると、システムはデコード原因が表示されます。考えられるデコード原因は以下のとおりです。

- ・ ローカルディスプレイ
- ・ スマートガード検出
- ・ カウント解析
- ・ IVS 解析
- ・ トランスコード録画
- ・ クライアントのトランスコード
- ・ モーション録画
- ・ ビデオプレビュー

Decoded		
1	2	3
✓		✓
✓		
Decoding reason: Local display Transcode record		
✓		
✓		

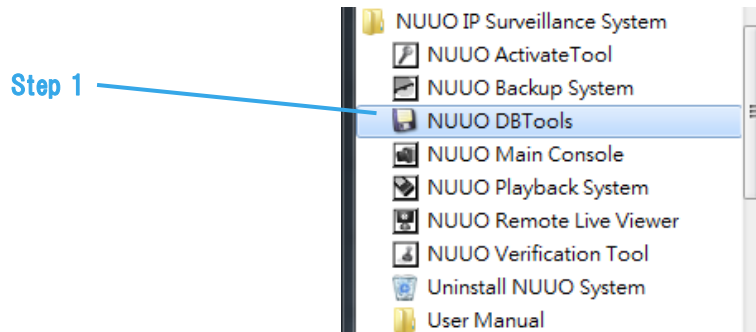
	Connection status						Record			Local display			Decoded		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
CAM 1 IVS_Shopping Ma	27 fps 11.5 Mbps	Idle	26 fps 7.7 Mbps	✓			✓			✓			✓		✓
CAM 2 Fish eye	0 fps 0.2 Mbps	Idle	Idle	✓			✓			✓			✓		
CAM 3 Lobby	30 fps 4.1 Mbps	Idle	Idle	✓			✓			✓			✓		
CAM 4 IVS_Roof	30 fps 0.7 Mbps	Idle	Idle	✓			✓			✓			✓		
CAM 5 Park1	30 fps 9.2 Mbps	Idle	Idle	✓			✓			✓			✓		
CAM 6 Camera 06	Idle	Idle	Idle	✓		✓	✓								
CAM 7 Camera 07	Idle	Idle	Idle	✓			✓			✓					
CAM 8 Camera 08	Idle	Idle	Idle	✓		✓			✓						
Download Bitrate: 33.52 Mbps Hard disk throughput: 13.51 Mbps															
Connected Connecting Disconnected Idle Not Support															
Exit Export															

11.5 DB Tool

TDB ツールは、データベースファイルの修復と一般設定のエクスポートです。

注意: この DB ツールの不適切な使用は、録画したビデオの損失を引き起こす可能性があります。

Step 1: プログラムファイルから DB ツールを実行します。



Step 2: ログインするには、管理者のパスワードを入力します。



11.5.1 データベースの修復

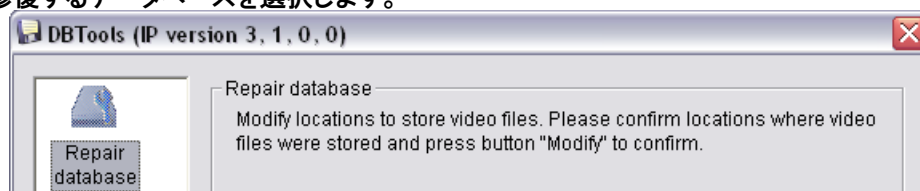
このページでは、3 つの修復方法、場所変更、確認のみ、修復があります。

場所の変更の場合

プレイバックシステムは、メインコンソールに記載されているフォルダ内の全ての記録映像を認識することができます - 一般設定 - 設定 - 一般設定。何らかの理由で、保存場所の設定を超えて録画映像を開くために、再生システムを使用する必要があります。これは、DB ツールによって場所を変更する手順は次のようになります。

メモ: デフォルトの保存場所は、インストールディレクトリにあります。(例: C:\Program Files\¥¥SCB_IP)

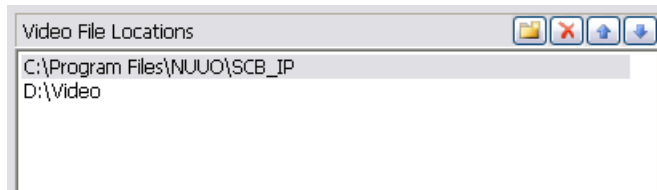
Step 1: 修復するデータベースを選択します。



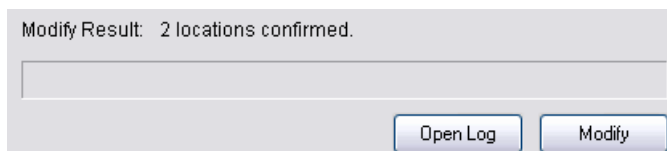
Step 2: 場所変更などの修復方法を選択します。



- Step 3:** 追加のデータベースの場所の場合、ボタン  をクリックして、場所を選択するための URL を使用します。
データベースの場所の削除の場合、リストから場所を選択し、場所を削除するには、ボタン  をクリックします。



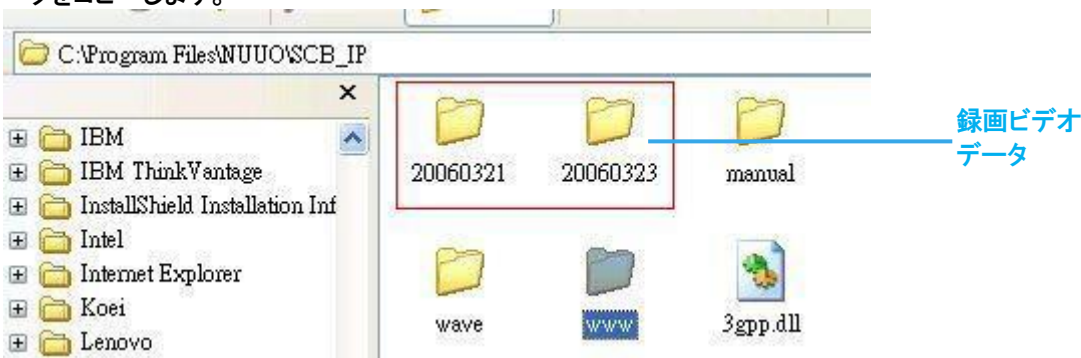
- Step 4:** 場所を変更するには、Modify ボタンをクリックします。変更後、変更結果は、パネルに表示されます。



データベースの変更例

ビデオデータをひとつの PC から別の PC へ転送する必要がある場合には、次の手順を実行する必要があります。

1. 手動でデフォルトのインストールパス、または他の PC のユーザー定義のストレージパスからすべての録画された映像データをコピーします。



2. 手動でデフォルトのインストールパス、または新しい PC の他のユーザー定義のストレージパスにすべて録画された映像データを貼り付けます。
3. 新しい PC に新しい場所を追加する場合は、前ページに従ってください。
4. 古いビデオデータを新しい PC でプレイバックシステムによって見ることができます。

確認と修理の方法

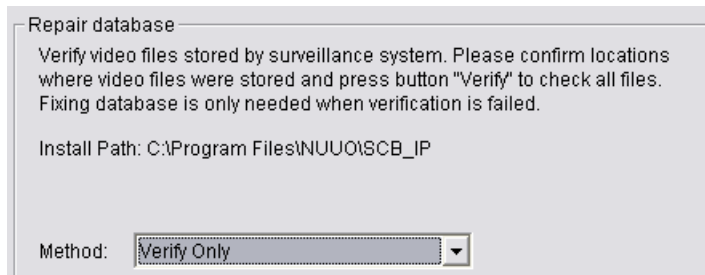
このツールは、チェックと問題のあったデータベースと録画ビデオを修復するために使用されます。

- (1) データベースの記録がある場合、ビデオファイルが無い場合は、この DB ツールを使用し、記録を削除します。
- (2) ビデオファイルがある場合、データベース内の記録が無い場合は、この DB ツールを使用し、データベースを再配置し、これらの記録を見つけます。

- Step 1:** 修復データベースウィンドウに切り替えます。

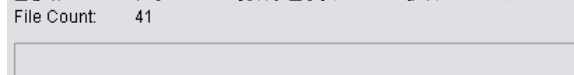


- Step 2:** 確認のみとして、修復方法を選択します。

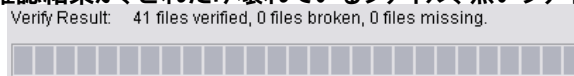


Step 3: ビデオの場所ウィンドウを確認します。

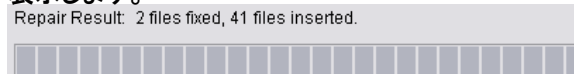
システムは、テーブル内のすべてのビデオの場所を一覧表示しますが、追加がある場合、挿入するために使用します。メモ: 場所を挿入した後、システムはファイルがテーブルの下にカウントが表示されます。



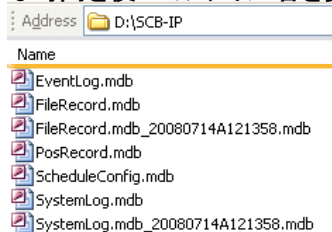
Step 4: “確認のみ”の方法を選択し、“確認する”をクリックします。この方法は、変更せずにファイルをチェックします。確認結果が、どれだけ壊れているファイル、無いファイルがあったかを表示します。



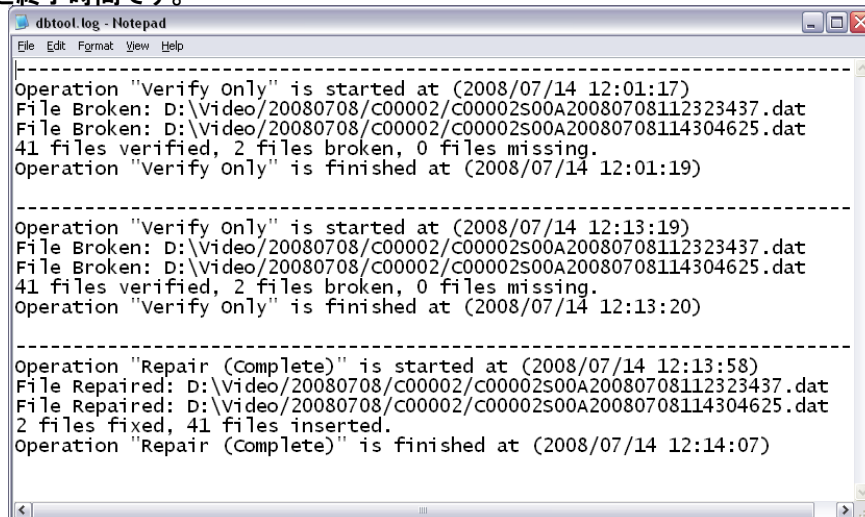
Step 5: “(完全)の修復”の方法を選択し、“修復”をクリックします。修復結果がどれだけ修復、挿入されたかのファイルを表示します。



Step 6: 修復された新しいデータベースは、古いものに置き換えられ、元のデータベースは、拡張修復日付と以下のような時間を使ってファイル名を変更します。



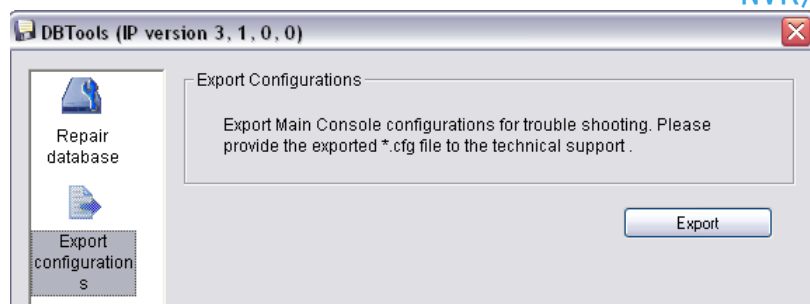
メモ: オープンログは、修復されたデータベースを記録するためのツールです。これは、修復方法、ファイル操作、開始時間と終了時間です。



11.5.2 一般設定のエクスポート

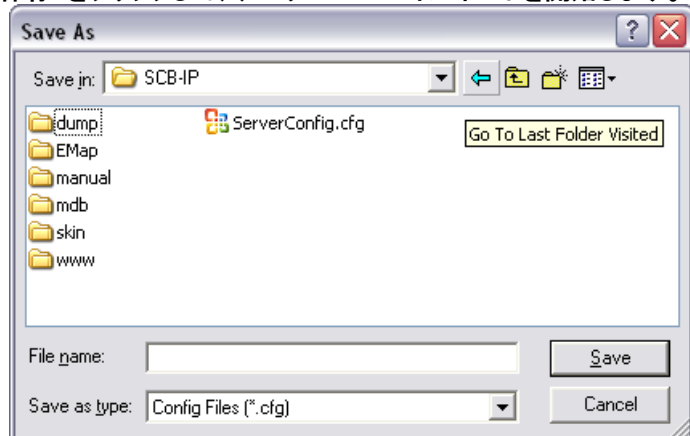
このツールは、すべてのシステムの一般設定をエクスポートし、技術的なトラブルシューティングのためにバックアップし、他の PC で使用する時に使用します。

Step 1: “エクスポート”をクリックします。

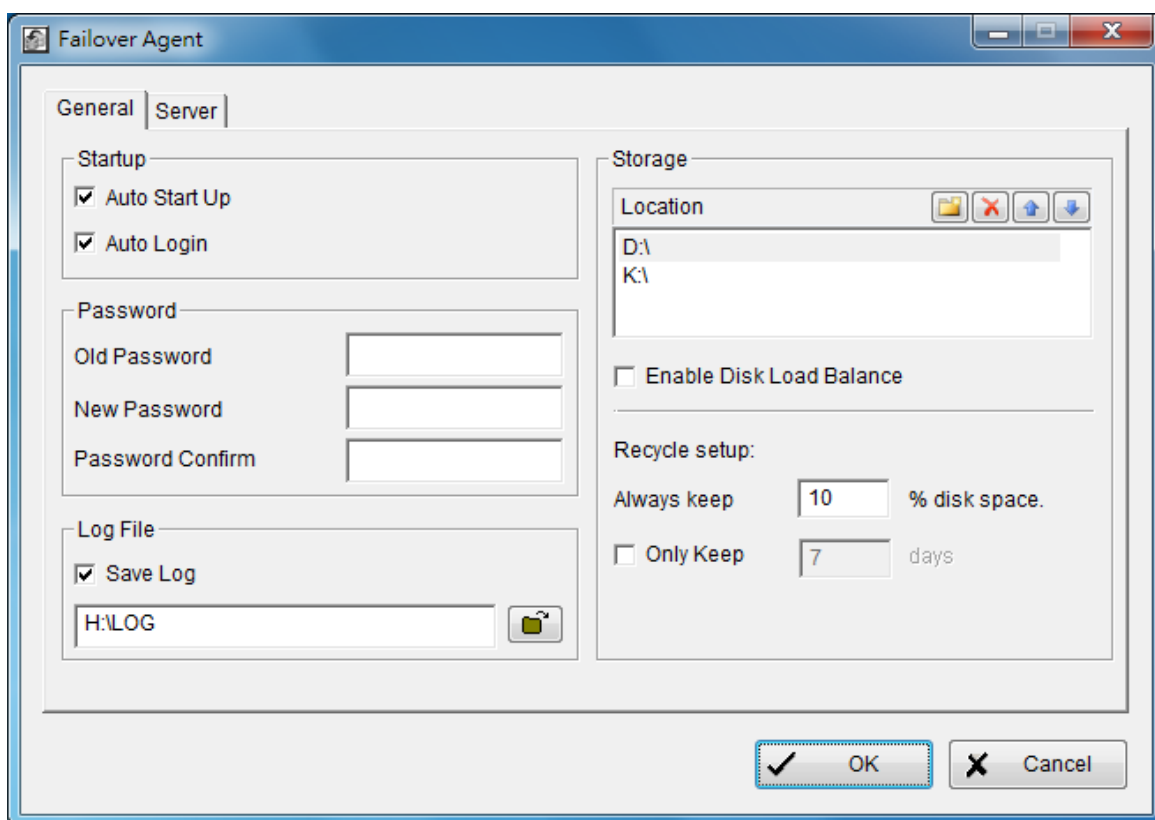


Step 2: エクスポートし、一般設定の名前を入力し、場所を選択します。

Step 3: “保存”をクリックして、データベースのインポートを開始します。



12. フェイルオーバーエージェント (Failover Agent)



フェイルオーバーエージェントは、通常の録画サーバが使用できなくなったら、録画作業を引き継ぐために予備の録画サーバ（フェールオーバーサーバ）を有効にするためのソフトウェアです。したがって、フェールオーバーサーバとフェイルオーバーエージェントは、常に別のコンピュータにインストールする必要があります。

メモ： IP+ とビデオエンコーダー（キャプチャーカード無し）対応

12.1. サービス

フェイルオーバーエージェントは 2 つのサービスを実行します

サービス	説明
フェイルオーバーサービス	このサービスは、常に行実行され、常に関連する録画サーバーの状態をチェックします。このサービスは、任意の必要な乗っ取りを可能にします。
録画サービス	このサービスは、通常の録画サーバーが利用できない場合、録画サーバーとして機能するようにフェールオーバーサーバーを有効にします。必要なときにフェールオーバーサーバーが録画作業を引き継ぐときに、このサービスは、開始します。

メモ: フェイルオーバーエージェントは、映像データのみをフェイルオーバーします。イベント、アラーム、メタデータ、I/O ボックス、高度なインテリジェントビデオ監視は対象外。

12.2. フェイルオーバーライセンスのアクティベート

Step 1: ライセンス管理ツールを開きます。スタート >> フェイルオーバーエージェント

Step 2: アクティベートツールを選択し、オンライン ネットワーク環境 PC で確認します。

Step 3: SN を入力、SN ファイルを入れ、ライセンスをアクティベートします。

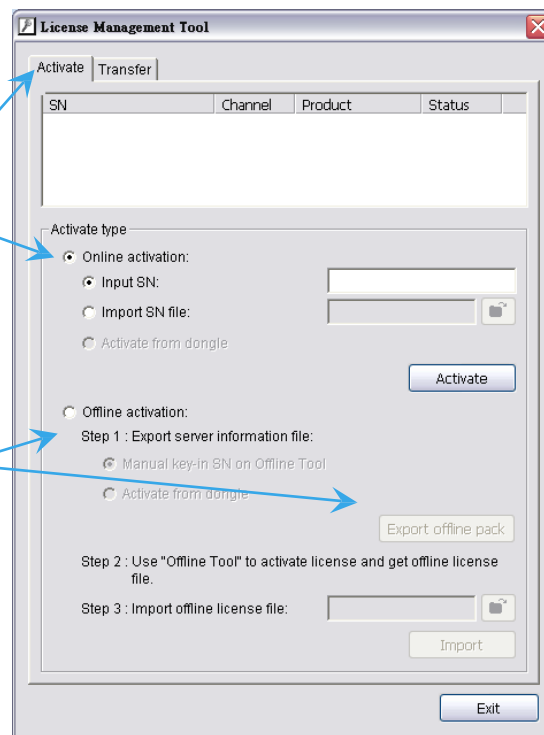
Step 4: ソフトウェアライセンスが正常に起動された後、メインコンソールを再起動してください。

メモ: ユーティリティ(Utility)を参照してください。 >>ライセンス管理ツールの詳細設定



Step 2

Step 3



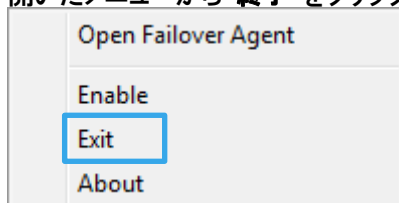
12.3. フェイルオーバーエージェントの開始と停止

フェイルオーバーエージェントの開始

スタートボタンをクリックします。| **すべてのプログラム | フェイルオーバーエージェント**。フェイルオーバーエージェントが起動し、通知領域(“システムトレイ”)内のアイコンが表示されます。

フェイルオーバーエージェントの停止

1. 通知領域のフェイルオーバーエージェントのアイコンを右クリックします。メニューが開きます。
2. 開いたメニューから“終了”をクリックします。



メモ: ひとつの OnGuard<オンガード>(ソフトウェアウォッチドッグ)は、ひとつのフェイルオーバーエージェントのみに

接続することができます。同時にひとつのメインコンソールを監視するために2つのフェイルオーバーエージェントを使用することはできません。

メモ: メインコンソールとフェイルオーバーエージェントを同じサーバー上にインストールすることはできません。

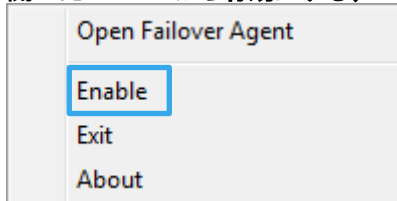
メモ: 2時間で、通常の録画サーバが15分の間、5回使用できなくなった場合、フェイルオーバーエージェントがサービスを開始します。

12.4. フェイルオーバーサービスの有効と無効

フェイルオーバーエージェントの起動後に、そのサービスを有効または無効にする事に対応しています。デフォルトでは、フェイルオーバーエージェントのサービスは起動後、自動有効化です。

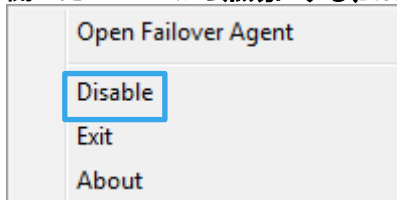
フェイルオーバーエージェントが手動で無効にされている場合は、通知領域のアイコンは、その上に赤い十字  が表示されます。再度フェイルオーバーエージェントを有効にします。

1. 通知領域にフェイルオーバーエージェントのアイコン  を右クリックします。メニューが開きます。
2. 開いたメニューから**有効にする(Enable)**をクリックします。



フェイルオーバーエージェントの無効

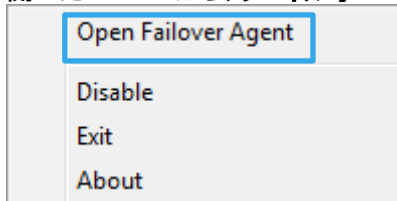
1. 通知領域にフェイルオーバーエージェントのアイコン  を右クリックします。メニューが開きます。
2. 開いたメニューから**無効にする(Disable)**をクリックします。



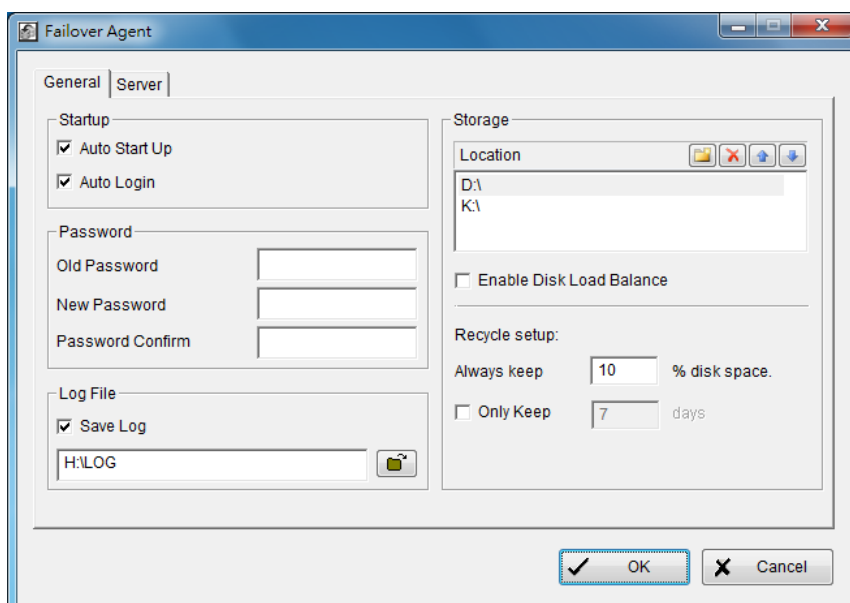
12.5. フェイルオーバーエージェントを開く

バックグラウンドで実行されるフェイルオーバーエージェントを開くには:

1. 通知領域にフェイルオーバーエージェントのアイコンを右クリックします。メニューが開きます。
2. 開いたメニューから、**フェイルオーバーエージェントを開く(Open Failover Agent)**を選択します。



フェイルオーバーエージェントは、画面上の UI で表示されます。



12.6. フェイルオーバーエージェントの状態確認

フェイルオーバーエージェントが起動したら、その状態を通知領域のアイコンで確認することができます。



フェイルオーバーエージェントのサービスが無効になっています。アイコンは赤い十字になります。

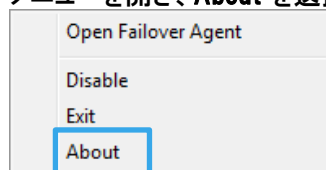


フェイルオーバーエージェントのサービスが有効。

12.7. バージョン情報の表示

サポートに連絡する際、フェイルオーバーエージェントのバージョンを確認する必要があります。お使いのフェイルオーバーエージェントのバージョン情報を知るには：

1. 通知領域にフェイルオーバーエージェントのアイコンを右クリックします。メニューが開きます。
2. メニューを開き、**About** を選択します。



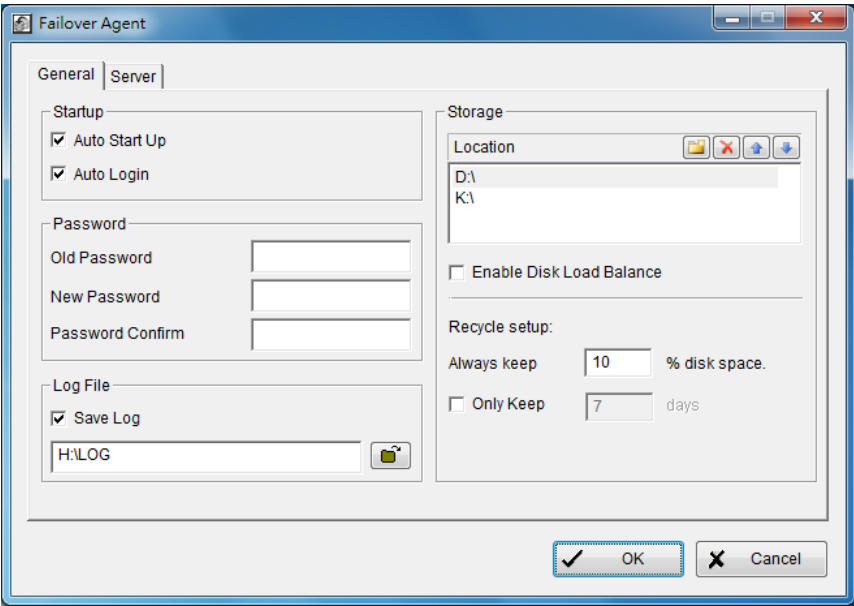
小さなダイアログでフェイルオーバーエージェントの正確なバージョンを表示します。



12.8. 一般設定

F フェイルオーバーエージェントは、フェイルオーバーエージェントを使用して優先順位を設定するための全般タブページがあります。全般タブページにアクセスするには：

[12.4. フェイルオーバーエージェントを開く](#) に記載されているようにフェイルオーバーエージェントを開きます。フェイルオーバーエージェントが開きます。



以下を参照して、要件を満たすための設定を行います。

12.8.1. スタートアップ(Startup)

スタートアップグループボックスは、起動時にフェイルオーバーエージェントが動作する方法を設定します。主要な設定は次のとおりです。

設定	設定	デフォルト
自動スタートアップ	フェイルオーバーサーバが不慮でシャットダウンした後に再起動した時、フェイルオーバーエージェントを自動起動に設定します。	選択済（有効）
自動ログイン	起動時にフェイルオーバーサービスを有効にするには、フェイルオーバーエージェントの自動ログインを設定します。	選択済（有効）

変更を適用し、設定を終了するには、OK ボタンをクリックします。または変更を保存せずに設定を終了するにはキャンセルボタンをクリックします。

12.8.2. パスワード

フェイルオーバーエージェントは、フェイルオーバーサービスを有効にするかどうかをコントロールするためのパスワード認証があります。それらがフェイルオーバーエージェントをインストールしたときに、パスワードを設定する必要があります。パスワードを後で変更する必要がある場合、パスワードグループボックスで、変更する必要があります。

主要な設定

設定	説明	デフォルト
古いパスワード	古いパスワードを入力	--
新しいパスワード	新しいパスワードを入力	--
パスワード確認	新しいパスワードをもう一度入力	--

変更を適用し、設定を終了するには、OK ボタンをクリックします。または変更を保存せずに設定を終了するにはキャンセルボタンをクリックします。

- メモ: メインコンソールとフェイルオーバーサーバ間は管理者のみ。フェイルオーバー操作のユーザーID:管理者のみ
- メモ: ユーザーアカウントを更新する場合、再度、オンガード(OnGuard)からフェイルオーバーエージェントと更新ユーザー情報を接続してください。

12.8.3. ログファイル

フェイルオーバーエージェントは、データ分析のために必要なログファイルに、その操作履歴の記録します。ログファイルは、ファイル名に“Failover Agent”と.txt 形式で作成されます。
ログファイルの設定へアクセス

設定	説明	デフォルト
ログの保存	ログファイルへのフェイルオーバーエージェントの操作履歴を記録できるようにします。	選択済み（有効）
場所	ログファイルの保存場所の設定	例えばフェイルオーバーエージェントがインストールされているストレージ。

C:\program files¥

ログファイルは、.txt 形式で作成されます。このようなログファイル確認してください。

```

[2012-08-06 14:44:49] [INFO] Failover Agent Start
[2012-08-06 14:45:32] [INFO] Failover Agent Update Settings
[2012-08-06 14:45:57] [INFO] Failover Agent Start
[2012-08-06 14:46:06] [INFO] Failover Agent Update Settings
[2012-08-06 14:46:11] [INFO] Failover Agent Update Settings
[2012-08-06 14:46:20] [INFO] Failover Agent Update Settings
[2012-08-06 14:46:24] [INFO] Failover Agent Update Settings
[2012-08-06 14:46:56] [INFO] Run Failover 192.168.2.114 192.168.2.114
[2012-08-06 14:47:35] [INFO] Stop Failover 192.168.2.114 192.168.2.114
[2012-08-06 14:48:38] [INFO] Run Failover 192.168.2.114 192.168.2.114
[2012-08-06 14:49:13] [INFO] Stop Failover 192.168.2.114 192.168.2.114
[2012-08-06 14:50:10] [INFO] Failover Agent Update Settings
[2012-08-06 14:50:10] [INFO] Run Failover 192.168.2.114 192.168.2.114
[2012-08-06 14:50:15] [INFO] Stop Failover 192.168.2.114 192.168.2.114
[2012-08-06 14:51:24] [INFO] Run Failover 192.168.2.114 192.168.2.114
[2012-08-06 14:55:59] [INFO] Failover Agent Update Settings
[2012-08-06 14:57:31] [INFO] Failover Agent Update Settings
[2012-08-06 14:58:15] [INFO] Stop Failover 192.168.2.114 192.168.2.114
[2012-08-06 14:58:23] [INFO] Failover Agent Update Settings
[2012-08-06 14:58:26] [INFO] Failover Agent Update Settings
[2012-08-06 14:59:31] [INFO] Run Failover 192.168.2.114 192.168.2.114
[2012-08-06 15:00:16] [INFO] Failover Agent Update Settings
[2012-08-06 15:00:24] [INFO] Failover Agent Update Settings
[2012-08-06 15:00:29] [INFO] Failover Agent Update Settings
[2012-08-06 15:01:03] [INFO] Failover Agent Update Settings

```

- ① フェイルオーバーエージェントが起動します。
- ② 1つ、または複数の変更は、フェイルオーバーエージェントの設定に書き込まれます。
- ③ フェイルオーバーサーバーは、IP アドレス 192.168.2.114 で“192.168.2.114”という名前の録画サーバを引き継ぎます。
- ④ フェイルオーバーサーバーは 192.168.2.114 で、“192.168.2.114”という名前の元の録画サーバを引き継ぐことを停止し、それに録画作業を引渡します。

12.8.4. ストレージ

ストレージグループボックスは、録画したビデオを保存するためのストレージを割り当て、ストレージ関連の設定を管理します。主要な設定は次のとおりです。

設定	説明	デフォルト
場所	 新しいストレージの追加	—
	 選択したストレージの削除	—
	 選択したストレージを優先度の高い設定にします。	—
	 選択したストレージを優先度の低い設定にします。	—
ディスクロードバランスを有効	システムの効率を上げる為、均等に複数のドライブに録画を分散します。	非選択（無効）

メモ: フェイルオーバーサーバーでビデオを保持してください、録画サーバに戻って集約できません。

12.8.5. 自動リサイクル

自動リサイクルグループボックスは、ストレージスペースを節約するために、更新されたデータを削除する設定します。主要な設定は次のとおりです。

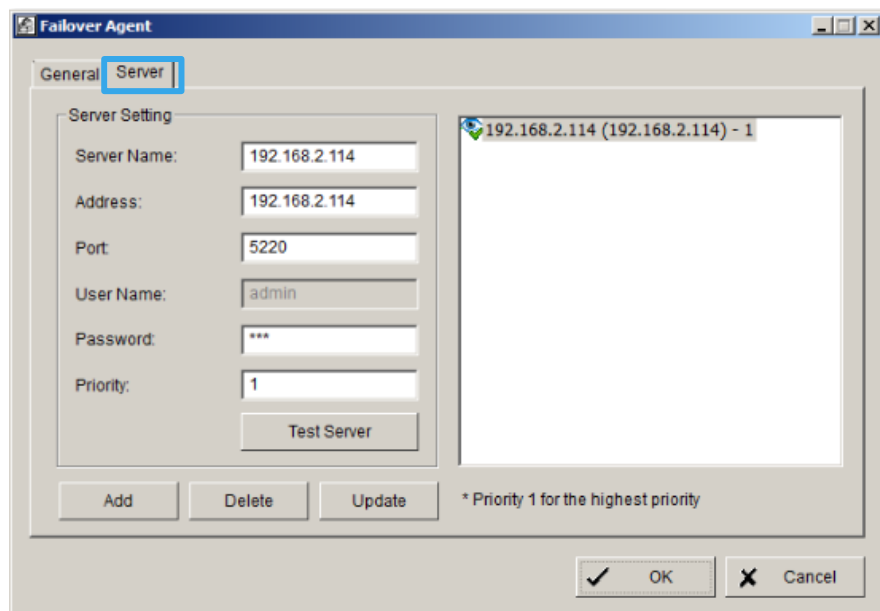
設定	項目	説明	デフォルト
----	----	----	-------

ディスク容量が未満である場合にリサイクル	ラジオボタン	リサイクルシステムを有効	選択済み(有効)
	入力	システムはリサイクルを開始するための最低の残りのディスク容量を設定します。	10%
ビデオを保持します	ラジオボタン	古いビデオを削除するシステムを有効	非選択 (無効)
	入力	日数は、録画したビデオを保持するために割り当てます。	7 (1 日単位)

12.9. サーバの設定

サーバ設定にアクセスします。

1. [12.4. フェイルオーバーエージェントを開く](#)に記載されているようにフェイルオーバーエージェントを開きます。一般タブページ表示が開きます。
2. **サーバ** タブをクリックします。サーバ タブページが開きます。

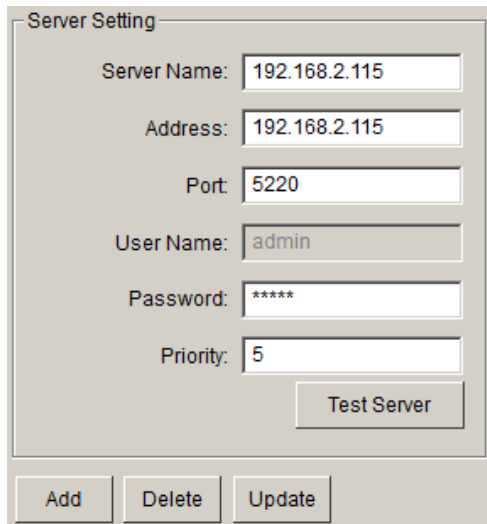


以下を参照して、要件を満たすための設定を行います。

メモ: 1 フェイルオーバーサーバへ 8 メインコンソールサーバまで対応しておりますが、1 フェイルオーバーサーバへ 3 メインコンソールサーバを使用することを推奨致します。

12.9.1. サーバの設定

必要なときに通常の録画サーバを引き継ぐための設定をするには：



Server Setting

Server Name: 192.168.2.115

Address: 192.168.2.115

Port: 5220

User Name: admin

Password: *****

Priority: 5

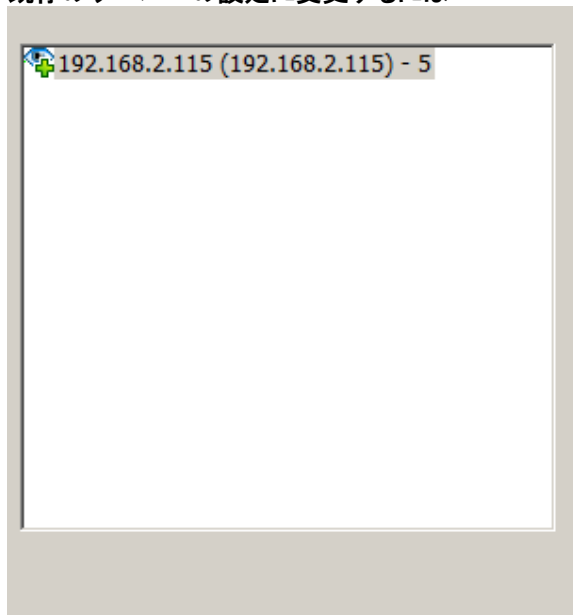
Test Server

Add Delete Update

1. **サーバ名、アドレス、ポート** の項目に、通常の録画サーバから引き継ぐ、名前、アドレス、ポート番号を入力します。
 2. **ユーザー名、パスワード** の項目に、通常の録画サーバから引き継ぐ、ユーザー名、パスワードを入力します。
 3. **優先順位**の項目で、録画サーバの優先順位の番号(1-8)を入力します。最高の優先順位は 1 です。
 4. サーバーが利用可能な場合を押して**テストサーバ**ボタンをチェックします。
 5. **追加**ボタンを押し、設定を適用します。録画サーバは、サーバに追加されます。
- メモ:** 同じポート(NUSP/ NUFP)を共有し、LAN にのみ対応しています。

12.9.2. サーバ設定の変更

既存のサーバーの設定に変更するには:



192.168.2.115 (192.168.2.115) - 5

1. サーバーリストで、サーバーを選択し変更します。
2. [12.8.1. 設定](#) に記載されているように設定を変更します。
3. **更新**ボタンを押し、変更を適用します。

メモ: この状態では、オンガード(OnGuard)、およびフェイルオーバーエージェントは、メインコンソールサーバの情報を取得するために再度接続する必要があります。

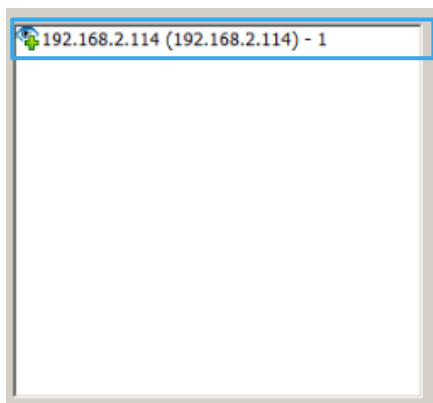
12.9.3. 録画サーバの削除

サーバを削除するには:

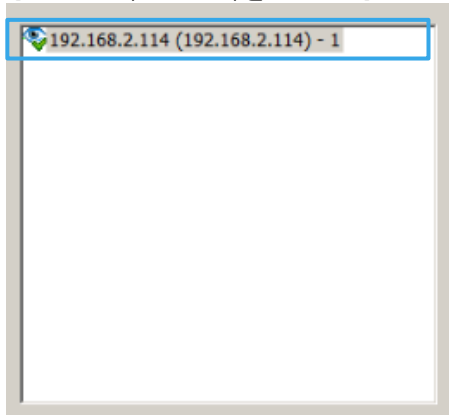
1. サーバーリストで、サーバーを選択し削除します。
2. **削除** ボタンを押し、選択されたサーバを削除します。

12.9.4. サーバリスト

1. オンガード(OnGuard)は、フェイルオーバーエージェントにリンクされているが、まだ接続していません。



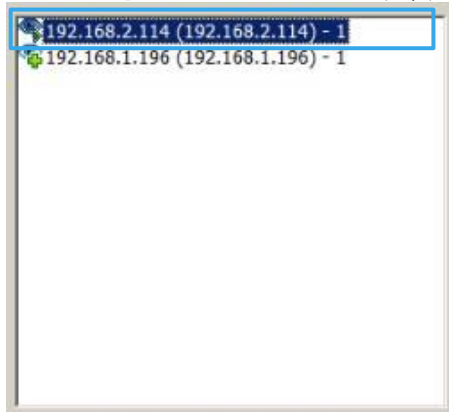
2. オンガード(OnGuard)をフェイルオーバーエージェントに接続します。



3. フェイルオーバーエージェントをメインコンソールから切断します。



4. フェイルオーバーエージェントは、今、メインコンソールに引き継ぎます。



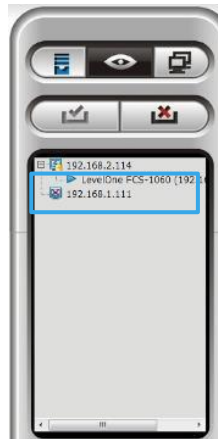
メモ: フェイルオーバーエージェントは、Web クライアント、MSAD、DDNS に対応していません。

12.10 リモートライブビューワーとリモートプレイバック

12.10.1 リモートライブビューワー

システムに追加されているサーバー、グループ、カメラの完全なリストを表示します。

サーバ表示: カメラは録画サーバに応じてリスト表示されます。そして、フェイルオーバーとポップアップメッセージが実行されています。

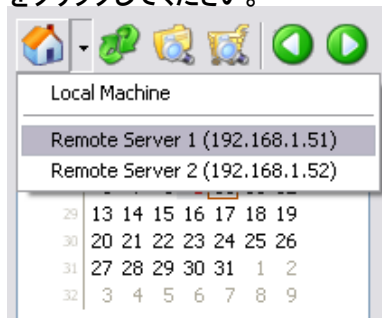


メモ: フェイルオーバーエージェントは、まずフェイルオーバーエージェントが自動的にライブビューア/プレイバックとフェイルオーバー録画を取得するために接続し、リモートライブビューアやプレイバックを接続する必要があります。

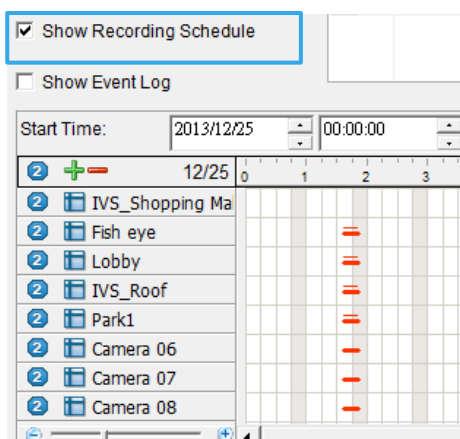
メモ: フェイルオーバーエージェントの録画のために、元のメインコンソールサーバーにログインし、自動的にフェイルオーバーエージェントに転送します。

12.10.2 リモートプレイバック

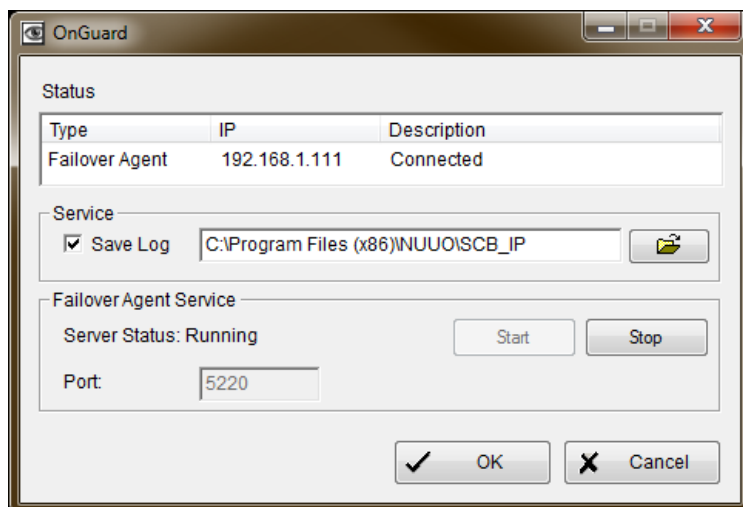
G 日付/時刻パネルに移動し、リモートプレイバック画面にアクセスするには、表示ウィンドウの上部にあるアイコンをクリックしてください。



ビデオ録画がタイムテーブル上の細い線として表示されます。予約録画のために定義された期間を表示するには、録画スケジュールを表示し確認してください。これは、フェイルオーバーの録画モード用のライトブルー色の太線で表示されています。



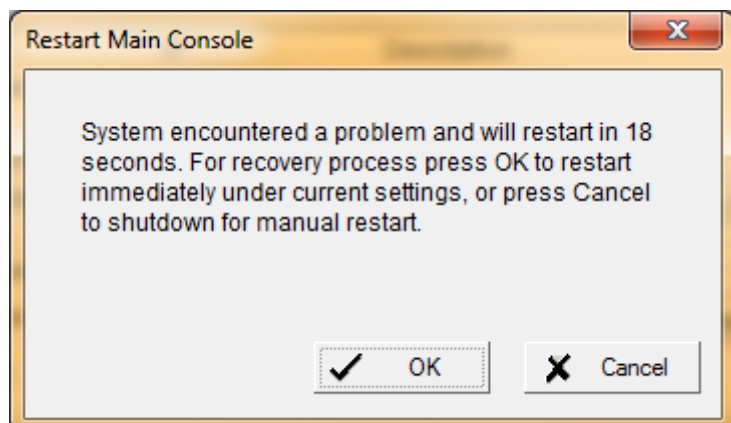
13. オンガード(OnGuard)



オンガード(OnGuard)は、通常の録画サーバ上でメインコンソールのサービスを見守るためにメインコンソールに接続されているソフトウェアウォッチドッグです。オンガード(OnGuard)は、メインコンソールの起動時に起動し、メインコンソールの終了時に停止します。

13.1. オンガード OnGuard)の使い方

メインコンソール(通常録画サーバ)が応答を停止すると、オンガード(OnGuard は)、ダイアログを表示し、録画サーバを再起動するよう指示します。OK をクリックし再起動するか、キャンセルをクリックし後で手動で再起動するをします。

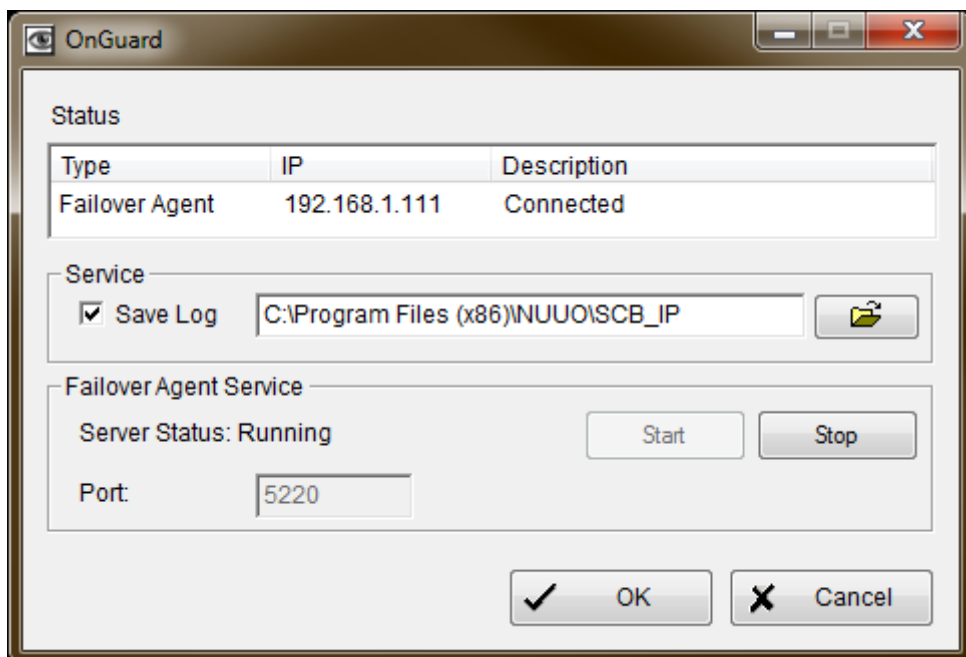
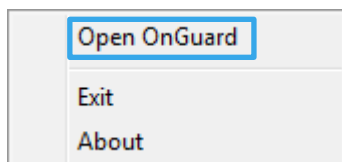


録画サーバが1時間以内に5回の応答を停止しない限り、録画サーバ(メインコンソール)を引き継ぎをしないので、フェールオーバーサーバ(フェールオーバーエージェント)に注意してください。

13.2. オンガード(OnGuard)を開く

画面上でオンガード(OnGuard)を表示させるために、メインコンソール画面を最小化するために左下のボタン  をクリックします。

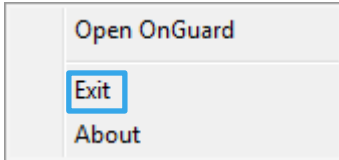
1. 通知領域にあるアイコン  を右クリックします。メニューが開きます。
2. 開いたメニューから、オンガードを開くを選択します。



13.3. オンガード(OnGuard)の終了

オンガード(OnGuard)を終了する必要がある場合は、以下の通りです。

1. 通知領域にあるアイコン  を右クリックします。メニューが開きます。
2. 開いたメニューで、**終了**を選択します。

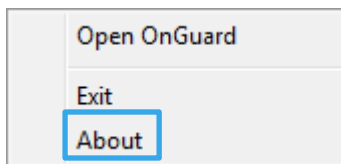


オンガード(OnGuard)が終了します。

13.4. バージョン情報

サポートに連絡する際、オンガード(OnGuard)のバージョンを確認してください。オンガードのバージョン情報を知るには：

1. 通知領域にあるアイコン  を右クリックします。メニューが開きます。
2. 開いたメニューで、**About** を選択します。



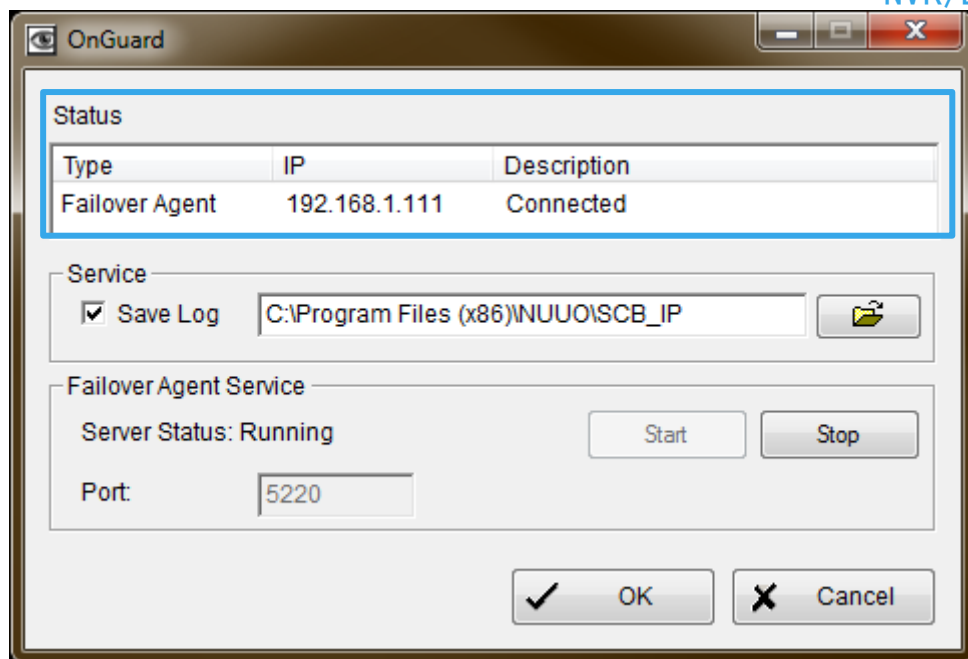
小さなダイアログでオンガードの正確なバージョンを表示します。



13.5. 接続状態の確認

リモートフェールオーバーエージェントとオンガード(OnGuard)の接続状態を確認するには：

1. [13.2. オンガード\(OnGuard\)を開く](#) に記載されているように、オンガード(OnGuard)が画面上に開きます。
2. ステータスボックス内の接続状態を確認してください。



表示される情報は以下のとおりです。

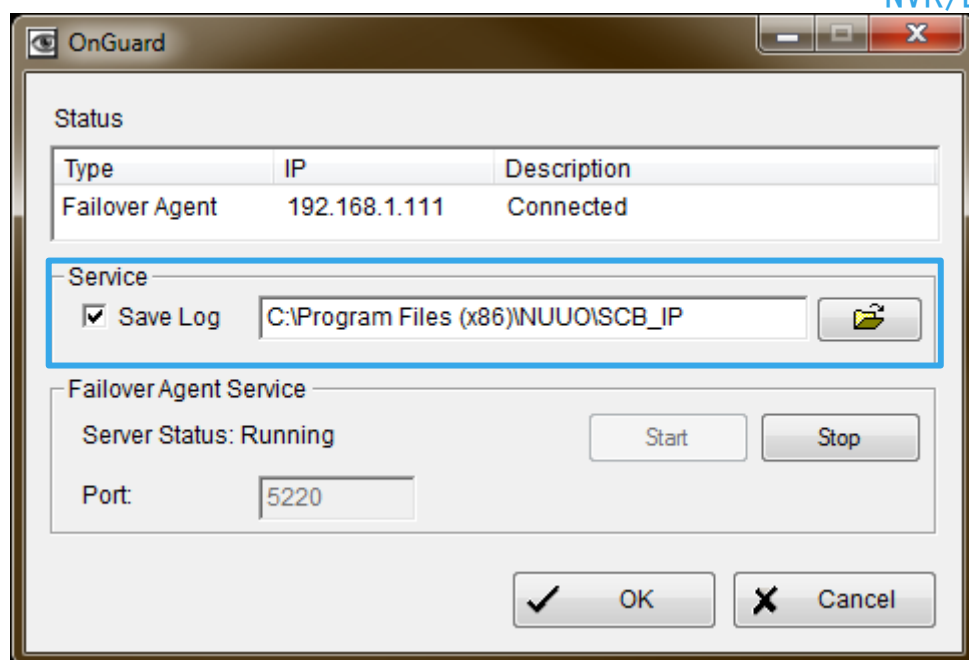
項目	説明
種類	フェイルオーバーエージェントに接続されているサービスの種類。
IP	接続されたフェイルオーバーエージェントの IP アドレスを表示
説明	フェイルオーバーエージェントとの接続状態

13.6. ログファイル

オンガード(OnGuard)は、必要なデータ分析のためのログファイルにその操作履歴の記録をします。

ログファイル設定の一般設定：

1. [13.2. オンガード\(OnGuard\)を開く](#) に記載されているように、オンガード(OnGuard)が画面上に開きます。
2. **サービス** ボックスを見つけます。
3. ログファイルを有効にし、ログファイルを保存したいフォルダを参照するために**ログの保存**を選択します。ログファイルがない場合や**ログの保存**を解除します。



ログファイルは、ファイル名“OnGuard”と.txt 形式で作成されます。ログファイルには録画サーバーが応答を停止したとき、正確な時刻を知るのに役立ちます。

このようなログファイルを確認してください。


```

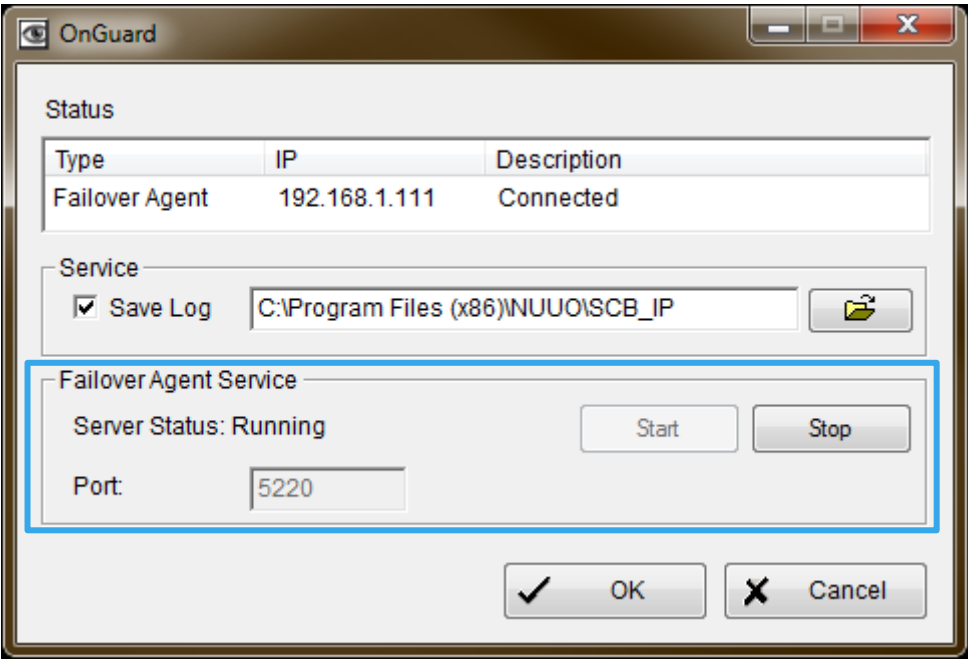
OnGuard.log - Notepad
File Edit Format View Help
[2012-07-05 14:47:38] OnGuard Start ①
[2012-07-05 14:47:38] OnGuard Service Run ②
[2012-07-05 16:23:03] OnGuard Exit
[2012-07-05 16:23:31] OnGuard Start
[2012-07-05 16:23:31] OnGuard Service Run
[2012-07-05 16:25:16] OnGuard Exit
[2012-07-05 16:25:29] OnGuard Start
[2012-07-05 16:25:29] OnGuard Service Run
[2012-07-05 17:21:26] OnGuard Exit
[2012-07-05 17:21:33] OnGuard Start
[2012-07-05 17:21:33] OnGuard Service Run
[2012-07-05 17:35:56] OnGuard Exit
[2012-07-05 17:36:07] OnGuard Start
[2012-07-05 17:36:07] OnGuard Service Run
[2012-07-05 17:54:21] OnGuard Exit
[2012-07-05 17:54:51] OnGuard Start
[2012-07-05 17:54:51] OnGuard Service Run
[2012-07-05 18:28:51] OnGuard Exit
[2012-07-05 18:37:48] OnGuard Start
[2012-07-05 18:37:49] OnGuard Service Run
[2012-07-05 18:54:12] MainConsole Exit
[2012-07-05 18:54:12] MainConsole Start ③
[2012-07-05 18:54:21] OnGuard Exit ④
[2012-07-05 18:57:28] OnGuard Start
[2012-07-05 18:57:28] OnGuard Service Run
[2012-07-05 18:57:40] Failover Agent Test 192.168.1.111 is connected ⑤
[2012-07-05 18:57:41] Failover Agent Test 192.168.1.111 is disconnected
[2012-07-05 18:57:41] Failover Agent 192.168.1.111 is connected ⑥
[2012-07-05 18:58:13] MainConsole Exit
[2012-07-05 18:58:13] MainConsole Start
[2012-07-05 18:59:13] MainConsole Exit
[2012-07-05 18:59:13] MainConsole Start
[2012-07-05 18:59:15] Failover Agent 192.168.1.111 is disconnected
[2012-07-05 18:59:16] OnGuard Exit
[2012-07-05 19:14:33] OnGuard Start
[2012-07-05 19:14:33] OnGuard Service Run
[2012-07-05 19:14:52] Failover Agent 192.168.1.111 is connected
[2012-07-06 10:40:08] Failover Agent 192.168.1.111 is disconnected
[2012-07-06 10:40:11] OnGuard Exit

```

- ① オンガード(OnGuard)の開始
 - ② オンガード(OnGuard)のフェイルオーバーエージェントサービスを開始。[13.7. フェイルオーバーエージェントサービス](#) を参照し、開始方法があります。
 - ③ メインコンソールの終了。
- メモ:** メインコンソールの異常終了の時のログ。
- ④ メインコンソールの起動。
 - ⑤ オンガード(OnGuard)は、リモートフェイルオーバーエージェントに接続します。接続は、フェイルオーバーエージェントによって開始されます。
 - ⑥ オンガード(OnGuard)は、リモートフェイルオーバーエージェントから切断されています。

13.7. フェイルオーバーエージェントサービス

フェイルオーバーエージェントサービスボックスがオンガード(OnGuard)のフェイルオーバーエージェントサービスのステータスを表示します。このボックスには、フェイルオーバーエージェントのポート番号を管理するための設定があります。



主要な設定：

項目	説明	デフォルト
サーバステータス	フェイルオーバーエージェントのオンガード (OnGuard)のサービスのステータスを表示します。サービスがそれをして実行されている場合、“実行”。それ以外の場合は“停止”と表示されます。	--
開始ボタン	オンガードフェイルオーバーエージェントサービスで起動するには、このボタンを押してください。	--
停止ボタン	オンガードフェイルオーバーエージェントサービスで停止するには、このボタンを押してください。	--
ポート設定	通信のためのリモートフェイルオーバーサーバー(フェイルオーバーエージェント)のポート番号を設定。	5220 (メモ)

メモ: 5220 は、録画サーバとフェイルオーバーサーバが相互に通信デフォルトのポート番号です。フェイルオーバーサーバは引き継ぐ録画サーバの一般的な設定を取得するには、このポートに依存しています。

13.8. フェイルオーバーエージェントとオンガードのシナリオ

シナリオ	オンガードのメカニズム	フェイルオーバーエージェントのメカニズム	メインコンソールの手動再起動
ダンプファイルを生成	自動回復とメインコンソール自動的にログイン	メインコンソールは、1 時間以内に 5 つダンプファイルを生成すると、フェイルオーバーエージェントは、メインコンソールを引き継ぐために開始されます。	再起動前の設定と同じ
電氣的なオフライン	再起動と起動時の設定	フェイルオーバーエージェントは、メインコンソールを引き継ぐために開始します。	スタートアップ設定と同じ
ネットワーク接続断	-	フェイルオーバーエージェントは、メインコンソールを引き継ぐために開始します。	-
OS でアプリケーションを閉じるメッセージ表示	自動回復とメインコンソール自動的にログイン。	メインコンソールは 1 時間以内に 5 度閉じた場合、フェイルオーバーエージェントは、メインコンソールを引き継ぐために開始されます。	再起動前の設定と同じ
仮想メモリの制限を超過	自動回復とメインコンソール自動的にログイン	メインコンソールは 5 度仮想メモリが 1 時間以内に制限を超えた場合、フェイルオーバーエージェントは、メインコンソールを引き継ぐために開始されます。	再起動前の設定と同じ
プロセスの削除	自動回復とメインコンソール自動的にログイン	メインコンソールは、1 時間以内に 5 度プロセスをキャンセルした場合、フェイルオーバーエージェントは、メインコンソールを引き継ぐために開始されます。	再起動前の設定と同じ
ブルースクリーン(BSOD)	再起動と起動時の設定	フェイルオーバーエージェントは、メインコンソールを引き継ぐために開始します。	スタートアップ設定と同じ
プロセスが 15 分以上ハング	自動回復とメインコンソール自動的にログイン	メインコンソールは 2 時間位以内に 5 度 15 分以上ハングした場合、フェイルオーバーエージェントは、メインコンソールを引き継ぐために開始されます。	再起動前の設定と同じ

付録 A – Smart Phone Client

インストールとスマートフォンクライアントの実行方法は次の章を参照して下さい。

メモ:

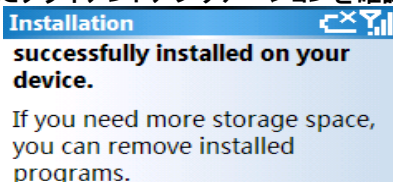
- 異なるスマートフォンクライアントの操作の案内は、スマートフォンのボタンを使用してクライアントをコントロールすることができます。
- スマートフォンクライアントの解像度は 240*320 (QVGA)に制限されています。

1.1 スマートフォンクライアントのインストール

Step 1: PC にモバイルデバイスを接続します。

Step 2: インストール CD を挿入し、デバイスにアプリケーションをインストールするには、スマートフォンクライアントのインストールをクリックします。

Step 3: モバイルデバイスにインストールされたクライアントアプリケーションを確認してください。

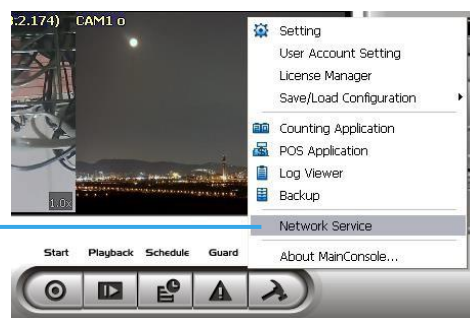


1.2 スマートフォンのクライアントの実行

1.2.1 メインコンソールの設定

Step 1: 一般設定へ進み、ネットワークサービスを選択します。

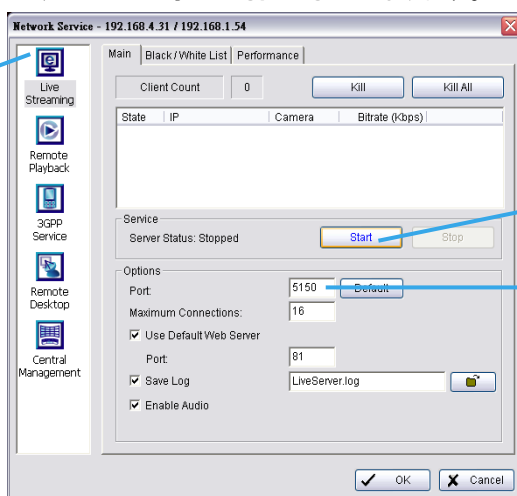
ネットワークサービス



Step 2: ライブストリーミング”を選択し、“開始”をクリックします。

メモ: ここで選択した“ポート”は、スマートフォンでも同じものになります。

ライブストリーミング

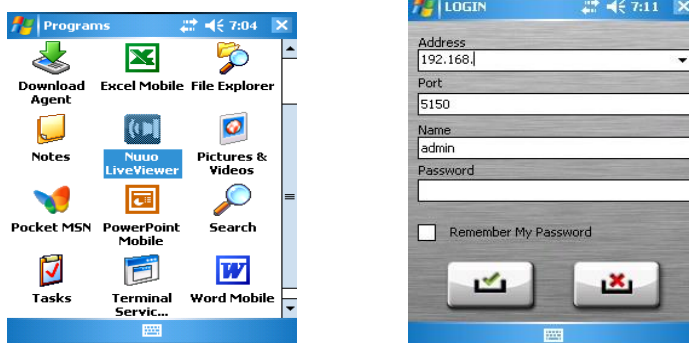


開始

ポート

1.2.2 実行とログイン

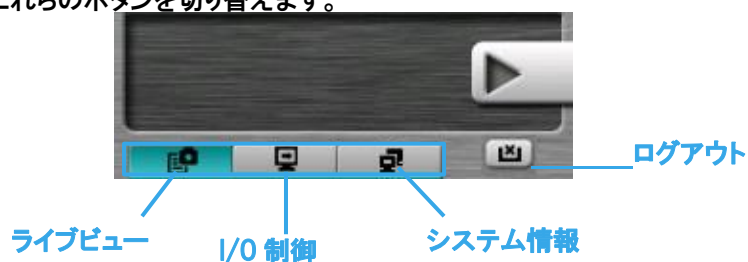
Step 1: お使いのスマートフォンのデバイスがネットワークに接続されていることを確認してから、スタート - プログラム - スマートフォンクライアントのアプリケーションを実行します。



Step 2: アドレス、ポート、名前、サーバのパスワードを入力、ログイン  をクリックします。

1.3 スマートフォンクライアントの概要

クライアントアプリケーションの 3 つの主要なページがあります: モニタープレビュー、I/O 制御、およびシステム情報。全体の一般的な設定を調整するために、これらのボタンを切り替えます。



1.3.1 ライブビュー

カメラリスト



ライブビデオ表示

ライブビデオ表示



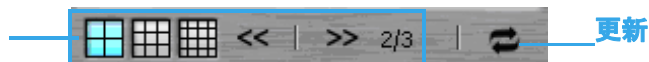
カメラリストに戻る

カメラリスト:

カメラリストとしてサーバーに接続されたチャンネルのすべての“スナップショット”を表示します。チャンネル情報を取得するために表示されたスナップショット  をクリックして、ライブ映像を表示します。

メモ: 画面分割と更新オプションは、すぐにチャンネルを見つけるのに役立つ可能性があります。

画面分割



更新

ライブビデオ表示:

ライブビューパネルには、“ライブビデオ”、PTZ コントロール、およびスナップショットがあります。  をクリックするとカメラリストを戻ります。

PTZ コントロール: 物理的に PTZ カメラをコントロールしたり、デジタル PTZ モードでデジタル PTZ を調整するには、PT コントロールパネルとズームアウト/インをクリックします。

メモ: “デジタル PTZ”と“物理 PTZ”を切り替えるには、  ボタンをクリックします。

ズームアウト/
イン

PT コントロール

プリセット移動:  プリセットポイントをクリックして選択します。



スナップショット:  をクリックして、スナップショットをデフォルトフォルダに保存します。

フルスクリーン:  “フルスクリーンモード”に切り替えるをクリックし、PT コントロールパネルを表示させ、無効にするには、画面で右クリックして、フルスクリーンを無効にします。



フルスクリーン無効

音声有効:

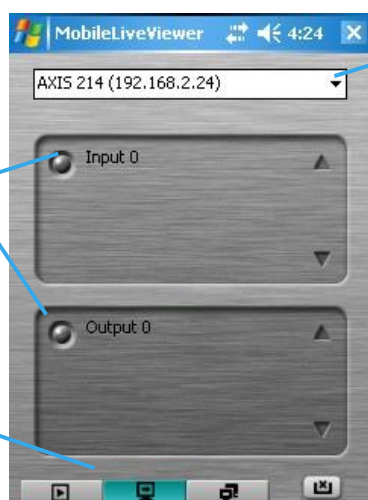
現在のチャンネルで音声を有効にするをクリックします。

1.3.2 I/O コントロール

DI/DO デバイスのモニター状態と DO デバイスのコントロールの為に、“I/O のコントロール”ボタンをクリックします。

DI/DO ステータス

I/O コントロール



I/O デバイスリスト

I/O デバイスリスト:

サーバーに接続している機器を選択し、監視します。

DI/DO ステータス:

サーバーと DI/DO 状態を同期、監視し、DO のアクションをトリガーするため外部入力ボタンをクリックします。



グレーのアイコンは、DI/DO デバイスの正常な状態を表示します。



赤のアイコンは、DI/DO デバイスのアラーム状態を表示します。



緑のアイコンは、同期プロセスを表示しています。

1.3.3 システム情報

サーバーとクライアントの情報を表示します。サーバー情報はアドレス、ポート、およびバージョンが含まれています。クライアント情報は、ログインユーザー、カメラの数、アクセス権限やバージョンで I/O 装置を含みます。



Android アプリケーションベースのクライアントビューアの最新のリリースについては、
<http://www..com/ProductNode.php?node=11> にアクセスし、詳細や製品デモビデオを参照してください。

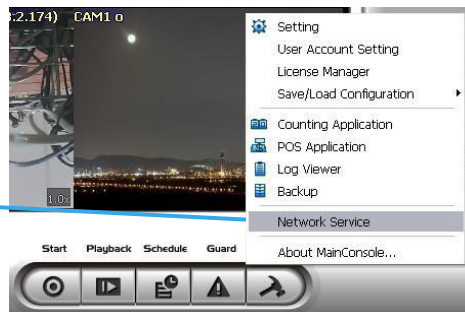
付録 B – iPhone Browser

ライブストリーミングサービスは、iPhone の Safari ブラウザからの要求を処理することができます。このセクションでは、どのように iPhone のデバイスでこの機能を使用するかを紹介します。

1.1 サーバの一般設定

Step 1: “一般設定”の“ネットワークサービス”へ移動

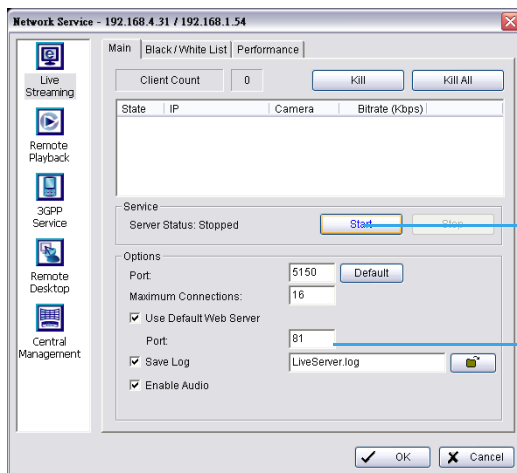
ネットワークサービス



Step 2: “ライブストリーミング”を選択し、“スタート”をクリックします。

メモ: 選択した“ポート”は、ウェブライブビューや Web 再生と同じになります。

ライブストリーミング



スタート

ポート

1.2 サーバへ接続

Step 1: iPhone がインターネットに接続されていることを確認します。Safari ブラウザを開き、IP アドレス、または、サーバの DDNS の“名前”と接続ポートを入力します。

例: <http://192.168.1.16:8080/>

メモ: 192.168.1.16 は、サーバの IP アドレスです。8080 は、ネットワークサービスの“既定の Web サーバーで使用”で指定されたポートです。

Step 2: メインコンソールサーバにログインするため、ユーザー名とパスワードを入力し、ライブビデオをみるカメラを選択します。

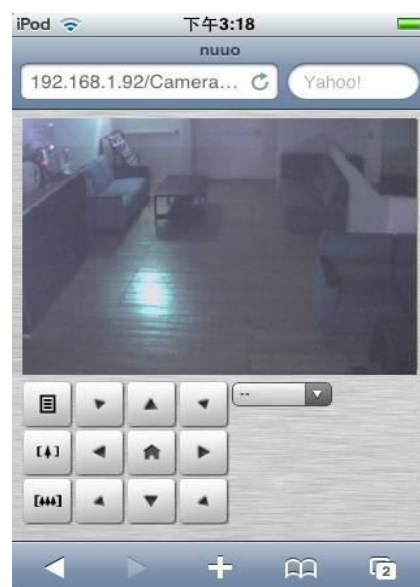
1.3 ライブ表示

ライブビデオを表示し、リストから選択したカメラを表示、ビデオのズームはパネルにタッチします。

ビデオを切り替えるには、 をクリックしてリストを表示し、ビデオをみる他のカメラを選択します。

1.4 PTZ のコントロール

パン、チルト、手動でズームイン/ズームアウト、またはドロップダウンリストから PTZ プリセットポイントを選択し、予め設定された場所へ移動するなど、カメラをコントロールすることができます。



iPhone/ iPad のアプリケーションベースのクライアントビューアの最新のリリースについては、<http://www.com/ProductNode.php?node=11> にアクセスし、詳細や製品デモビデオを参照してください。

付録 C - Remote Desktop Tool

リモートデスクトップツールのインストール方法。

Step 1: インストール CD を入れます。

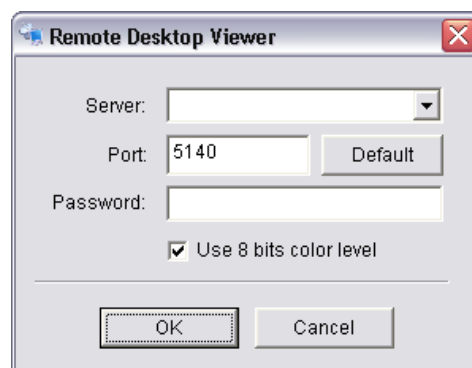
Step 2: リモートデスクトップビューアへ直接進み、Setup.exe ファイルを実行します。

リモートデスクトップツールを起動します。

Step 1: スタート - すべてのプログラム - Remote Desktop Viewer - Remote Desktop Viewer

Step 2: サーバのアドレス、ポート、パスワードを入力します。安定した画面を表示するために 8 ビット色レベルを使用するオプションを有効にします。

Step 3: OK をクリックし、リモートデスクトップを開始します。



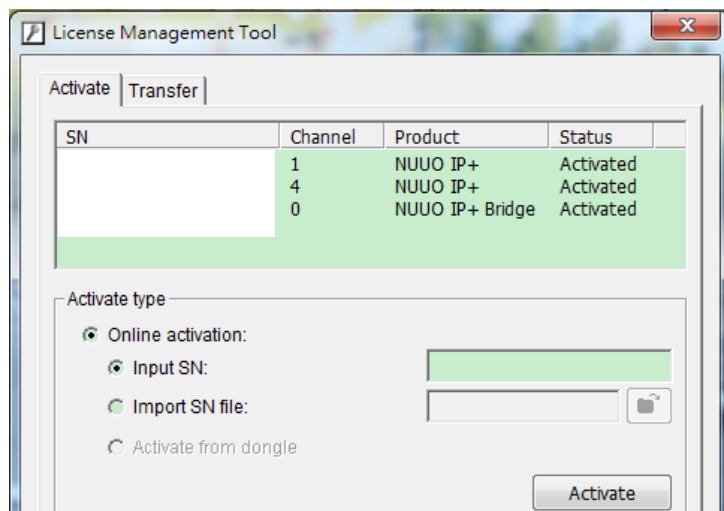
付録 D – IP ブリッジ

IP ブリッジのアクティベート方法

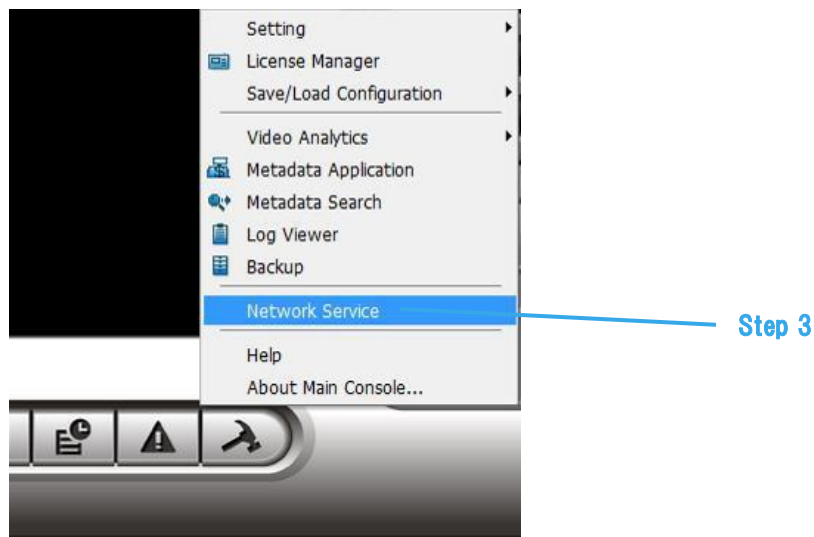
Step1. IP ブリッジサーバの IP+ブリッジのライセンスをアクティベートします。

Step2. IP ブリッジサーバの IP+のライセンスをアクティベートします。

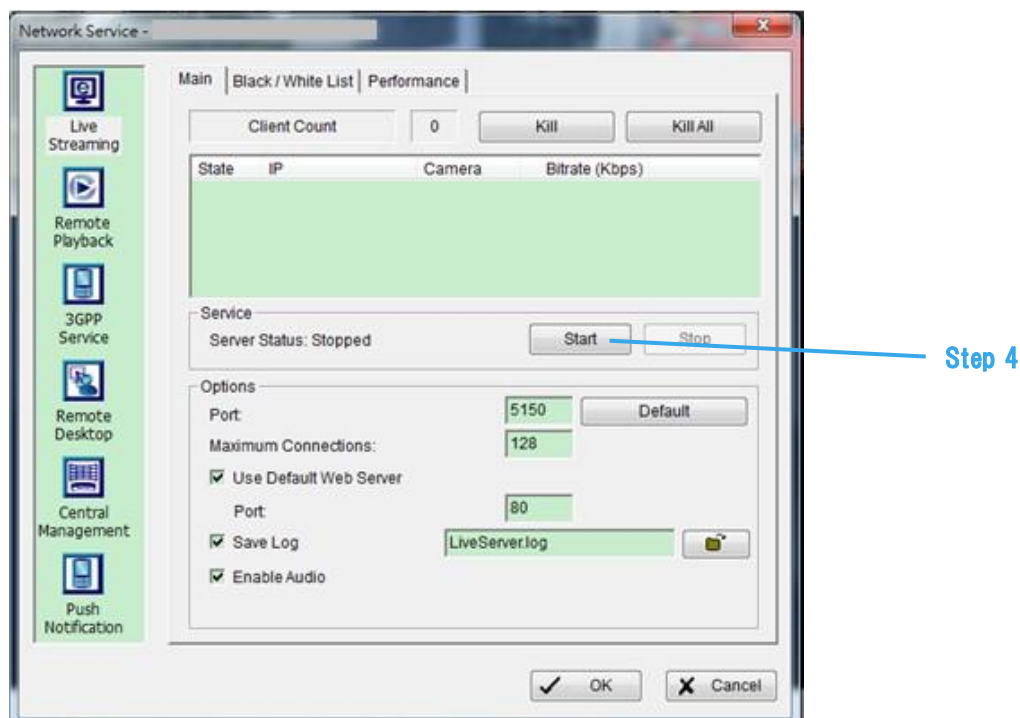
メモ: 最初に、1 IP+ライセンスをメインコンソールサーバー上に追加する必要があります。



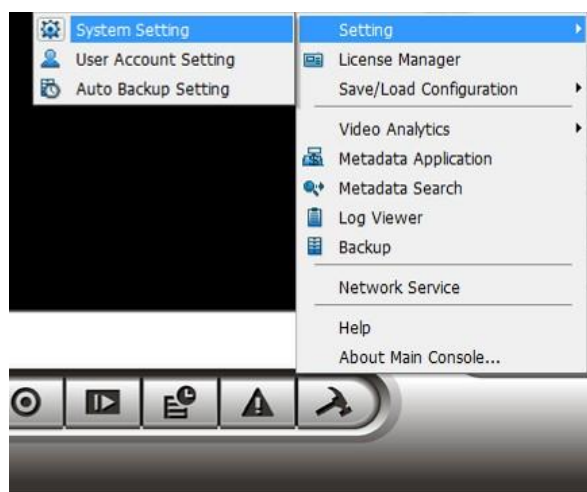
Step3. メインコンソールサーバへ移動し、“一般設定”ボタンをクリックし、その後、“ネットワークサービス”を選択します。



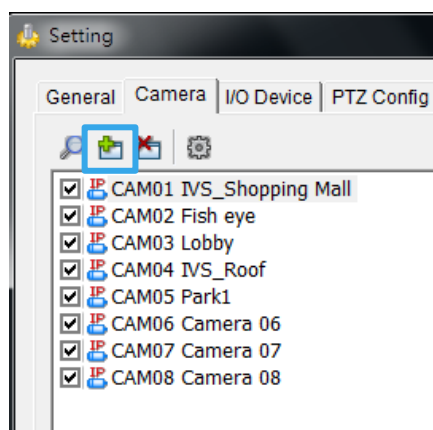
Step4. “ライブストリーミング”ページを選択、“ポート”(デフォルトのライブストリーミングポートは 5150)を設定し、“スタート”ボタンをクリックし、ライブストリーミングサービスを有効にします。



Step5. IP ブリッジサーバに戻り、“一般設定”ボタンをクリックして、一般設定 - 設定 - システム設定を選択します。



Step6. “カメラ”ページに移動し、“追加”ボタンをクリックします。



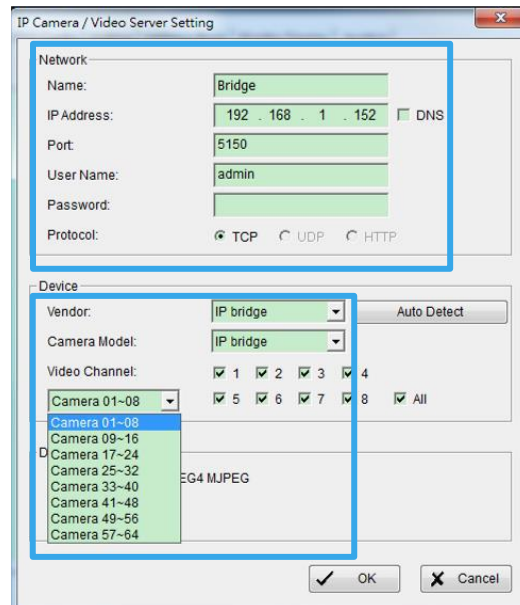
Step7. “名前、IP アドレス、ポート、ユーザー名、パスワード”を入力、デバイスベンダーは、“IP ブリッジ”を選択し、モデルは、“IP ブリッジ”を選択します。

Step8. S IP ブリッジサーバに追加したいメインサーバーのチャンネルを選択します。

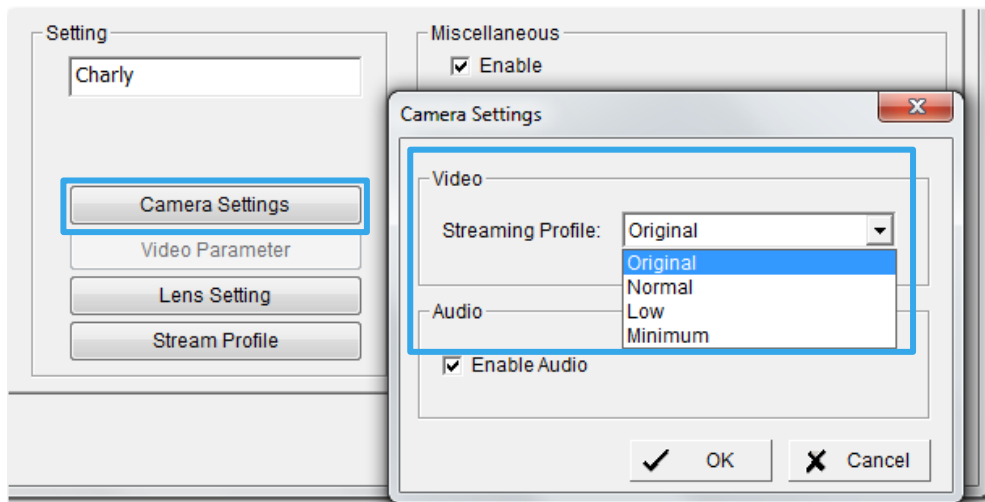
IP アドレス:メインサーバの IP アドレス

ポート:メインサーバのライブストリーミングポート(デフォルト 5150)

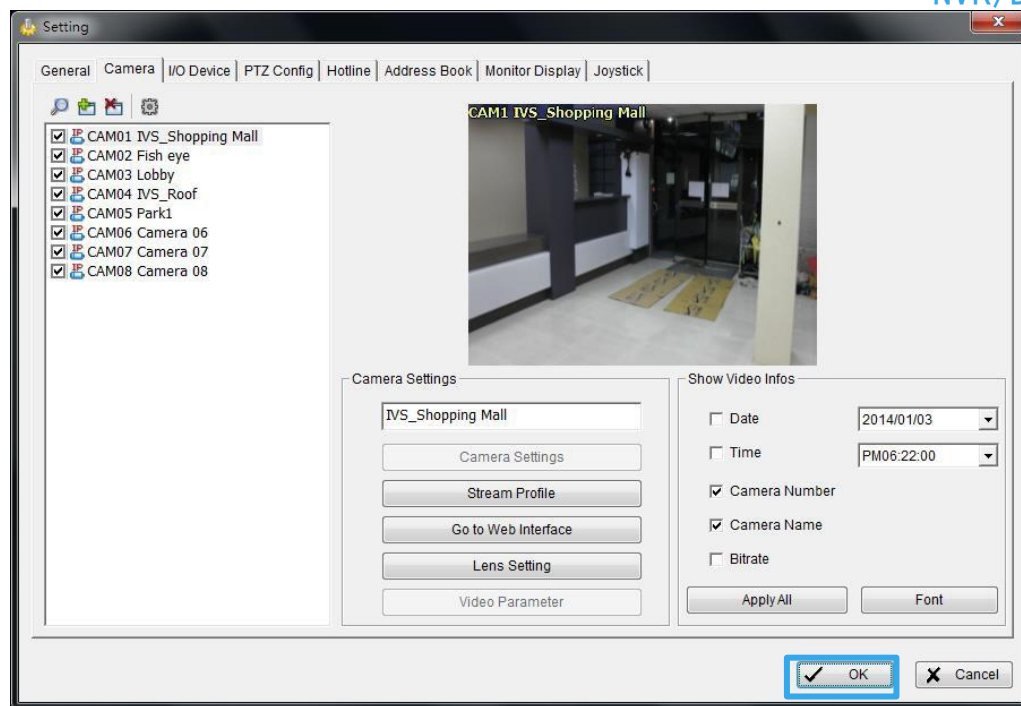
ユーザー名:admin、パスワード:メインサーバの admin アカウントのパスワード



Step9. メインサーバーからカメラを選択し、“カメラの設定”ボタンをクリックし、メインサーバーから受信したいストリーミングプロファイルを選択します。



Step10. “設定”へ戻り、OK をクリックして設定を保存します。



Step11. 上記手順の後、IP ブリッジサーバのメインサーバーのビデオを見ることができます。

